

Canon

EOS M200



詳細ガイド

はじめに

はじめに必ずお読みください

撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、はじめに『安全上のご注意』（㊦30）、および『取り扱い上のご注意』（㊦33）をお読みください。また、本書をよく読んで正しくお使いください。

操作しながら本書を参照すると理解が深まります

本書を読みながら実際に撮影し、その結果を確認しながら理解を深め、操作に慣れてください。また、必要なときに確認できるように本書を大切に保管してください。

試し撮りと撮影内容の補償について

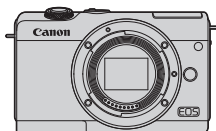
撮影後は画像を再生して、画像が正常に記録されていることを確認してください。万一、カメラ（本機）やメモリーカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの画像の取り込みができなかった場合の、記録内容の補償についてはご容赦ください。

著作権について

あなたがカメラ（本機）で記録した画像やメモリーカードに取り込んだ音楽および音楽付き画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

カメラと主な付属品

ご使用前に、以下のものがすべてそろっているかご確認ください。万一、足りないものがあるときは、お買い求めの販売店にご連絡ください。



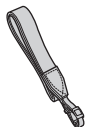
カメラ
(ボディキャップ付き)



バッテリーパック
LP-E12
(保護カバー付き)



充電器
バッテリー
チャージャー
LC-E12



ストラップ

- メモリーカード (㊦ 11)、インターフェースケーブル、HDMIケーブルは付属していません。
- 詳細ガイド／使用説明書については、『使用説明書について』 (㊦ 4) を参照してください。
- レンズキットをお買い上げのときは、レンズが付属しているか確認してください。
- 付属品は、なくさないように注意してください。



- レンズの使用説明書が必要なときは、キヤノンのホームページからダウンロードしてください (㊦ 4)。
- なお、レンズの使用説明書 (PDF ファイル) は、レンズ単体販売用ですので、レンズキットをご購入いただいた場合、レンズに付属するアクセサリが、レンズ使用説明書の記載と一部異なることがあります。ご了承ください。

使用説明書について



製品に付属している冊子は、カメラとWi-Fi機能の基本的な使い方をまとめた「使用説明書」です。

すべての使い方をまとめた「詳細ガイド」（本書／PDFファイル）は、キヤノンのホームページからパソコンなどにダウンロードすることができます。

詳細ガイド／各使用説明書のダウンロードについて

詳細ガイドや、レンズ／ソフトウェアの使用説明書（PDFファイル）は、キヤノンのホームページからパソコンなどにダウンロードすることができます。

ダウンロードサイト

- 詳細ガイド／補足情報
canon.jp/eos-manual
- レンズ使用説明書
canon.jp/lens-acc-manual
- ソフトウェア使用説明書
canon.jp/eos-sw-manual



- PDFファイルを見るためには、Adobe Acrobat Reader DCなどのAdobe社製PDF閲覧用ソフトウェア（最新版推奨）が必要です。
- Adobe Acrobat Reader DCはインターネット上から無料でダウンロードすることができます。
- ダウンロードしたPDFファイルをダブルクリックすると、ファイルが開きます。
- PDF閲覧用ソフトウェアの使い方については、そのソフトウェアのヘルプなどを参照してください。

QRコードから詳細ガイド／各使用説明書をダウンロード

スマートフォン、タブレット使用時は、QRコードから詳細ガイドや、レンズ／ソフトウェアの使用説明書（PDFファイル）をダウンロードすることができます。

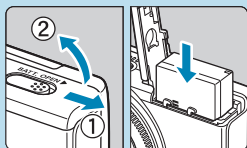
www.canon.com/icpd



- QRコード読み取りには、アプリケーションが必要です。
- お住まいの国または地域を選択し、詳細ガイド／各使用説明書をダウンロードします。
- [📄：使用説明書・ソフトウェアURL] を選ぶと、カメラのモニターにQRコードを表示することができます。

すぐ撮影するには

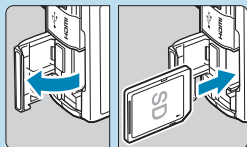
1



バッテリーを入れる (📖 46)

- 購入時はバッテリーを充電してからお使いください (📖 44)。

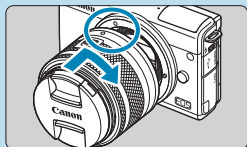
2



カードを入れる (📖 48)

- カードの表をカメラの背面側にして差し込みます。

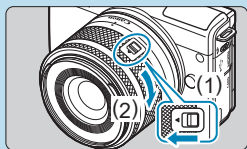
3



レンズを取り付ける (📖 54)

- レンズとカメラの白いレンズ取り付け指標を合わせて取り付けます。
- レンズキャップを外します。

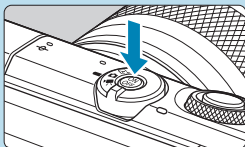
4



撮影の準備をする

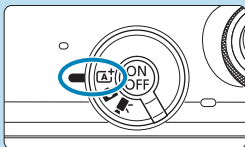
- (1) を押したまま、(2) を少し回し、(1) を離します。
- 「カチッ」と音がするまで、さらに(2) を回します。

5



電源を入れる (📖 52)

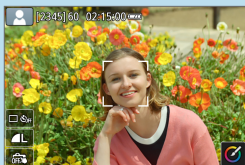
6



撮影モードスイッチを「A+」にする (📖 74)

- 撮影に必要な設定がすべて自動設定されます。

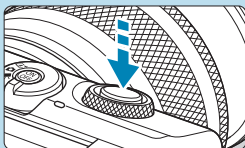
7



ピントを合わせる (📖 59)

- 顔を検知すると、ピント合わせを行うAFフレーム【A+】が顔の部分に表示されます。
- シャッターボタンを軽く押すと、ピントが合います。

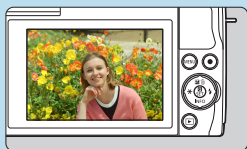
8



撮影する (📖 59)

- さらにシャッターボタンを押して撮影します。

9



画像を確認する

- 撮影した画像がモニターに約2秒間表示されます。
- 〈▶〉 ボタンを押すと、もう一度画像が表示されます (📖 258)。

- 今までに撮影した画像を確認したいときは、『画像の再生』 (📖 258) を参照してください。
- 撮影した画像を消去したいときは、『画像消去』 (📖 279) を参照してください。

本書について

本文中の絵文字について

- ☀️ : 電子ダイヤルを示しています。
- ⬆️ ⬇️ ⬅️ ➡️ : <⬆️> 十字キーの上下左右ボタンを示しています。
- Ⓚ️ <SET> : クイック設定ボタン／設定ボタンを示しています。
- ⌚* : 操作ボタンから指を離したあと、タイマー機能により、ボタンを押した状態が*秒間保持されることを示しています。

• その他、本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンやモニターの表示など、カメラで使われている絵文字を使用しています。

応用 : ページタイトル右の**応用**は、応用撮影モード（**[P]** **[Tv]** **[Av]** **[M]**）および**[P]** 動画モード（**[P]** **[M]**）限定の機能であることを示しています。

📖*** : 参照ページを示しています。

⚠️ : 撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項を記載しています。

📄 : 補足説明や補足事項を記載しています。

💡 : 上手に使うためのヒントや撮影のポイントを記載しています。

❓ : 困ったときの手助けになる内容を記載しています。

操作説明の前提と作例写真について

- 電源が入っていることを前提に説明しています（52）。
- メニュー機能やカスタム機能などが初期状態になっていることを前提に説明しています。
- **[：表示レベル設定]** の **[メニュー表示]** が **[やさしい]** に設定されているときの画面で説明しています。
- 本文中のイラストは、EF-M15-45mm F3.5-6.3 IS STMレンズを取り付けた状態で説明しています。
- カメラに表示される作例写真や、本書で使用している作例写真は、効果を分かりやすく伝えるためのイメージです。
- 「EFレンズ／EF-Sレンズ使用時」の記載は、マウントアダプターを併用して、EFレンズまたはEF-Sレンズを使用する（装着する）という意味です。

使用できるカードについて

カードの容量に関わらず下記のカードが使用できます。なお、新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）してください（ 435）。

- SD/SDHC/SDXCメモリーカード

UHS-I対応

動画が記録できるカードについて

動画を撮影するときは、動画記録サイズに適應する性能（書き込み/読み取り速度）を備えた、大容量のカードを使用してください。詳しくは  500を参照してください。



本書では、SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカードのことを「カード」と表記しています。

※画像を記録するカードは付属していません。別途ご購入ください。

章目次

はじめに	2
準備と基本操作	43
かんたん撮影モード	73
応用撮影モード	105
撮影設定	117
ストロボ撮影	245
再生設定	255
無線通信設定	319
機能設定	425
カスタム機能 (C.Fn)	459
マイメニュー	465
資料	473

目 次

はじめに 2

カメラと主な付属品	3
使用説明書について	4
すぐ撮影するには	6
本書について	9
使用できるカードについて	11
章目次	12
目 次	13
やりたいこと目次	23
機能目次	26
安全上のご注意	30
取り扱い上のご注意	33
各部の名称	36

準備と基本操作 43

バッテリーを充電する	44
バッテリーを入れる／取り出す	46
カードを入れる／取り出す	48
モニターを使う	51
電源を入れる	52
レンズを取り付ける／取り外す	54
EFレンズ、EF-Sレンズを取り付ける／取り外す	56
基本操作	58
画面の表示レベルを設定する	62
メニュー機能の操作と設定	65

画面にタッチして操作する	70
クイック設定	71

かんたん撮影モード 73

シーンインテリジェントオートモード／ プラスムービーオートモード（全自動）	74
スペシャルシーンモード	82
自分撮りモード	84
ポートレートモード	85
美肌モード	86
風景モード	87
スポーツモード	88
クローズアップモード	89
料理モード	90
夜景ポートレートモード	91
手持ち夜景モード	92
HDR逆光補正モード	93
サイレントモード	94
スペシャルシーンモードの注意事項	95
クリエイティブフィルターモード	98

応用撮影モード 105

プログラムAEモード（P）	106
シャッター優先AEモード（Tv）	108
絞り優先AEモード（Av）	110

マニュアル露出モード (M).....	112
---------------------	-----

撮影設定 117

静止画撮影 118

メニュー目次：静止画撮影	119
記録画質	124
静止画アスペクト比	127
撮影画像の確認時間	129
レンズ光学補正	130
ドライブモード	135
セルフタイマー撮影	137
露出補正	139
静止画ISO感度に関する設定	140
オートライティングオブティマイザ	143
高輝度側・階調優先	144
測光モード	145
測光タイマー	147
露出Simulation	148
ホワイトバランス	149
ホワイトバランス補正	154
色空間	155
ピクチャースタイル選択	156
ピクチャースタイル調整	159
ピクチャースタイル登録	162

長秒時露光のノイズ低減	164
高感度撮影時のノイズ低減	165
タッチシャッター	167
AF動作	169
AF方式	172
瞳AF	182
コンティニュアスAF	183
フォーカスモード	184
レンズの電子式手動フォーカス	185
AF補助光の投光	186
手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）	187
MFピーキング設定	189
手ブレ補正設定	190
露出の固定（AEロック）	191
ダイジェスト形式	192
リモコン撮影	193
静止画撮影全般の注意事項	194

動画撮影 197

メニュー目次：動画撮影	198
動画モード	200
動画記録画質	207
動画セルフタイマー	214
録音	215
タイムラプス動画	217

ビデオスナップ.....	226
ジオラマ風動画.....	231
動画サーボAF.....	233
動画電子IS.....	235
その他のメニュー機能.....	237
動画撮影全般の注意事項.....	242

ストロボ撮影 245

ストロボ撮影.....	246
ストロボ調光補正.....	248
FEロック.....	249
ストロボ制御.....	250

再生設定 255

メニュー目次：再生設定タブ.....	256
画像の再生.....	258
画像の拡大表示.....	261
インデックス表示（複数画像表示）.....	262
動画の再生.....	263
動画の前後部分のカット.....	266
フレームの切り出し.....	268
ダイジェスト動画の編集.....	270
テレビで見る.....	272
画像プロテクト.....	274
静止画の回転.....	277

動画の回転情報の変更	278
画像消去	279
印刷の準備をする	283
印刷する	285
印刷指定	286
フォトブック指定	290
クリエイティブフィルター	293
クリエイティブアシスト	296
赤目補正	298
アルバム編集	299
トリミング	302
リサイズ	304
レーティング	305
スライドショー	308
画像検索の条件設定	310
2本指ドラッグでの画像送り	312
再生情報表示設定	314
AFフレーム表示	316
前回の画像から再生	317

無線通信設定 319

メニュー目次：無線通信設定タブ	320
Wi-Fi/Bluetooth接続の選択	321
スマートフォンと通信	323
パソコンとWi-Fi接続	351

プリンターとWi-Fi接続	359
Webサービスへ画像を送信	369
アクセスポイントを使用したWi-Fi接続	384
ワイヤレスリモコンと接続	389
2回目以降のWi-Fi接続	392
複数の接続設定の登録	394
Wi-Fi機能の設定	395
Bluetooth機能の設定	396
ニックネームの変更	397
スマートフォンを使用した位置情報の付加	398
接続設定の変更／削除	401
機内モード	403
無線通信の設定初期化	404
情報表示画面	405
仮想キーボードの操作方法	406
エラー表示の対応	407
無線通信機能での注意事項	418
セキュリティについて	420
ネットワークの設定を確認する	421
無線通信機能の接続状態	422

機能設定 425

メニュー目次：機能設定タブ	426
フォルダ選択	428
画像番号	430

縦位置画像回転表示	433
動画縦位置情報の付加	434
カード初期化	435
エコモード	437
節電	438
画面の明るさ	439
日付／時刻／エリア	440
言語	443
動画撮影時シャッターボタンの機能	444
ビデオ方式	445
タッチ操作	446
タッチロック設定	447
電子音	448
HDMI出力解像度	449
HDMI HDR出力	450
撮影情報表示設定	451
鏡像表示	453
撮影画面表示設定	454
カメラの初期化	455
著作権情報	456
使用説明書・ソフトウェアURL	458
認証マーク表示	458
ファームウェア	458

カスタム機能 (C.Fn) 459

カスタム機能の設定方法	460
カスタム機能で変更できる内容	461

マイメニュー 465

メニュー目次：マイメニュータブ	466
マイメニューの登録	467

資料 473

ソフトウェア	474
パソコンへの画像の取り込み	476
家庭用電源アクセサリ	478
故障かな？と思ったら	479
エラー表示	495
データシート	496
情報表示	503
索 引	515

やりたいこと目次

撮影

-
- カメラまかせで簡単に撮影したい → 73~103 (かんたん撮影モード)
-
- 連続して写真を撮りたい → 135 (連続撮影)
-
- 自分も写真に写りたい (記念写真) → 137 (セルフタイマー)
-
- 動きを止めた写真を撮りたい → 108 (Tv シャッター優先AE)
 - 流動感のある写真を撮りたい
-
- 自分好みに効果をつけて撮りたい → 80 (クリエイティブアシスト)
-
- 背景をぼかした写真を撮りたい → 110 (Av 絞り優先AE)
 - 背景まで鮮明な写真を撮りたい
-
- 写真の明るさ (露出) を調整したい → 139 (露出補正)
-
- 暗いところで撮影したい → 246 (ストロボ撮影)
→ 140 (ISO感度設定)
-
- ストロボ禁止の場所で撮影したい → 251 (ストロボ発光禁止)
-
- 花火を撮影したい → 114 (バルブ撮影)
-
- 写真に効果をつけて撮りたい → 98 (クリエイティブフィルター)
-
- 自分の写真を撮りたい → 84 (自分撮り)
-
- 動画を撮りたい → 197 (動画撮影)

画質

- 撮るものに合った仕上がりにした
い → 156 (ピクチャースタイル
選択)
- 写真をあとで大きく印刷したい → 124 (L, L, RAW, CRAW)
- たくさん写真を撮りたい → 124 (S1, S1, S2)

AF (ピント合わせ)

- 自動でピントを合わせる方法を変
更したい → 174 (AF方式)
- 動いている被写体を撮影したい → 170 (サーボAF)
→ 88 (スポーツ)

再生

- 写真や動画をカメラで見たい → 258 (再生)
- 写真や動画を素早く探したい → 262 (インデックス表示)
312 (での画像送り)
310 (画像検索の条件設定)
- お気に入り度を設定したい → 305 (レーティング)
- 大事な写真や動画を誤って消さな
いようにしたい → 274 (画像プロテクト)
- 不要な写真や動画を消したい → 279 (画像消去)
- 写真や動画を自動再生したい → 308 (スライドショー)
- 写真や動画をテレビで見たい → 272 (テレビで見る)
- モニターの明るさを調整したい → 439 (モニターの明るさ)
- 写真に効果をつけたい → 293 (クリエイティブフィ
ルター)

無線通信機能

- スマートフォンに画像を送りたい →  323 (スマートフォンと通信)

- パソコンに自動で画像を送りたい →  351 (パソコンとWi-Fi接続)

- 写真を印刷したい →  359 (プリンターとWi-Fi接続)

- Web サービスで画像を共有したい →  369 (Webサービスへ画像を送信)

機能目次

電源

- バッテリー充電 (📖 44)
- バッテリー残量 (📖 53)
- エコモード (📖 437)
- 節電機能 (📖 438)

カード

- カード初期化 (📖 435)
- 動画記録可能カード (📖 499)

レンズ

- 取り付け (📖 54、📖 56)
- 取り外し (📖 55、📖 57)
- レンズなしシリーズ (📖 463)

基本設定

- 日付／時刻／エリア (📖 440)
- 言語 (📖 443)
- ビデオ方式 (📖 445)
- 電子音 (📖 448)
- カメラ設定初期化 (📖 455)
- 著作権情報 (📖 456)

モニター

- チルト (📖 51)
- タッチ操作 (📖 70)
- 明るさ (📖 439)
- タッチロック設定 (📖 447)
- 撮影画面表示設定 (📖 454)

AF

- AF動作 (📖 169)
- AF方式 (📖 172)
- AFフレーム選択 (📖 177)
- 瞳AF (📖 182)
- コンティニュアスAF (📖 183)
- 電子式手動フォーカス (📖 185)
- AF補助光 (📖 186)
- 手動ピント合わせ (📖 187)
- MFピーキング設定 (📖 189)

測光

- 測光モード (📖 145)

ドライブ

- 連続撮影可能枚数 (📖 126)
- ドライブモード (📖 135)
- セルフタイマー (📖 137)

画像記録

- フォルダ作成／選択 (📖 428)
- 画像番号 (📖 430)

画質

- 記録画質 (📖 124)
- 静止画アスペクト比 (📖 127)
- レンズ光学補正 (📖 130)
- ISO感度 (静止画) (📖 140)
- オートライティングオブティマイザ (📖 143)
- 高輝度側・階調優先 (📖 144)
- ホワイトバランス (📖 149)
- 色空間 (📖 155)
- ピクチャースタイル (📖 156)
- 長秒時露光ノイズ低減 (📖 164)
- 高感度時ノイズ低減 (📖 165)

撮影

- 撮影モード (📖 38)
- クイック設定 (📖 71)
- クリエイティブアシスト (📖 80)
- クリエイティブフィルター (📖 98)
- 被写界深度確認 (📖 111)
- タッチシャッター (📖 167)
- 拡大表示 (📖 179)
- リモコン (📖 193)
- 撮影情報表示設定 (📖 451)
- グリッド (📖 451)
- 鏡像表示 (📖 453)
- エラー表示 (📖 495)

露出

- 露出補正 (M+ISOオート) (📖 113)
- 露出補正 (📖 139)
- 露出Simulation (📖 148)
- AEロック (📖 191)
- セイフティシフト (📖 461)

ストロボ

- ストロボ (📖 246)
- ストロボ調光補正 (📖 248)
- FEロック (📖 249)
- 内蔵ストロボ機能設定 (📖 253)

動画撮影

- 自動露出撮影 (📖200)
- マニュアル露出撮影 (📖202)
- 動画記録サイズ (📖207)
- 録音 (📖215)
- ウィンドカット (📖215)
- アッテネーター (📖216)
- タイムラプス動画 (📖217)
- ビデオスナップ (📖226)
- 動画サーボAF (📖233)
- リモコン撮影 (📖237)
- ISO感度(動画) (📖238)
- HDMI出力 (📖240)
- オートスローシャッター (📖241)
- 縦位置情報の付加 (📖434)
- 動画撮影時シャッターボタンの機能 (📖444)

再生

- 撮影画像の確認時間 (📖129)
- 1枚表示 (📖258)
- タッチ再生 (📖260)
- 拡大 (📖261)
- インデックス表示 (📖262)
- 動画再生 (📖263)
- 動画前後カット (📖266)
- フレーム切り出し (4K)
(📖268)
- テレビで見る (📖272)
- プロテクト(保護) (📖274)
- 回転 (📖277)
- 消去 (📖279)
- レーティング (📖305)
- スライドショー (📖308)
- 画像検索の条件設定 (📖310)
- 画像送り(ジャンプ表示)
(📖312)
- 再生画像情報設定 (📖314)
- AFフレーム表示 (📖316)
- 縦位置画像回転表示 (📖433)
- HDMI出力解像度 (📖449)
- HDR出力 (📖450)
- 撮影情報表示 (📖508)

画像加工

- クリエイティブフィルター (📖 293)
- 赤目補正 (📖 298)
- ビデオスナップアルバム (📖 299)
- JPEGトリミング (📖 302)
- JPEGリサイズ (📖 304)

印刷指定

- 印刷指定 (DPOF) (📖 286)
- フォトブック指定 (📖 290)

カスタマイズ

- 表示レベル設定 (📖 62)
- カスタム機能 (C.Fn) (📖 460)
- マイメニュー (📖 467)

ソフトウェア

- ダウンロード／インストール (📖 474)
- ソフトウェア使用説明書 (📖 475)

無線通信機能

- スマートフォンと通信 (📖 323)
- スマートフォンに画像を自動送信 (📖 337)
- EOS Utilityでカメラを操作 (📖 351)
- パソコンに画像を自動送信 (📖 356)
- Wi-Fi対応プリンターで印刷 (📖 359)
- Webサービスへ画像を送信 (📖 369)
- ワイヤレスリモコンと接続 (📖 389)
- 位置情報を画像に付加 (📖 398)
- 無線通信設定初期化 (📖 404)

安全上のご注意

安全に使っていただくための注意事項です。必ずお読みください。
お使いになる方だけでなく、他人への危害や損害を防ぐためにお守りください。



警告 死亡や重傷を負う恐れがある内容です。

- 乳幼児の手の届くところに置かない。

ストラップを首に巻き付けると、窒息することがあります。

カメラ、アクセサリーの部品や付属品を飲み込むと危険です。飲み込んだ場合は、すぐ医師に相談してください。

電池を飲み込むと危険です。飲み込んだときは、すぐ医師に相談してください。

- 指定外の電源は使わない。
- 分解や改造をしない。
- 強い衝撃や振動を与えない。
- 破損したときは、内部に触れない。
- 煙が出ている、異臭がするなどの異常が発生したときは使わない。
- アルコール、ベンジン、シンナーなどの有機溶剤で手入れしない。
- 液体でぬらしたり、内部に液体や異物を入れない。
- 可燃性ガスを含んだ空気中では使用しない。

感電、破裂、火災の原因となります。

- レンズやレンズを付けたカメラは、レンズキャップを外した状態で放置しない。

光がレンズを通して焦点を結び、火災の原因となります。

- 雷が鳴り出したら、コンセントにつながれた製品に触れない。

感電の原因となります。

- バッテリーや電池を使うときは、次のことに注意する。
 - ・ 指定外の製品で使わない。
 - ・ 熱したり、火中投入しない。
 - ・ 指定外の製品で充電しない。
 - ・ 端子に他の金属や金属製のピンやゴミに触れさせない。
 - ・ 液漏れしたものは使わない。
 - ・ 廃却するときは、接点にテープを貼るなどして絶縁する。

感電、破裂、火災の原因となります。

液漏れして身体や衣服についたときは、水でよく洗い流す。目に入ったときは、きれいな水で十分洗った後、すぐ医師に相談してください。

- バッテリーチャージャーやACアダプターを使うときは、次のことに注意する。
 - 電源プラグやコンセントのほこりを、定期的に乾いた布で拭き取る。
 - めれた手で電源プラグを抜き差ししない。
 - 電源プラグの差し込みが不十分なまま使わない。
 - 電源プラグや端子に金属製のピンやゴミを触れさせない。
- 雷が鳴り出したら、コンセントにつながれたバッテリーチャージャーやACアダプターに触れない。
- 電源コードに重いものをのせたり、傷つけたり、破損させたり、加工したりしない。
- 使用中および使用後すぐに、製品に布などをかけない。
- コードを引っ張って電源プラグを抜かない。
- 電源に長時間つないだままにしない。
- 5℃～40℃の範囲外で充電しない。

感電、破裂、火災の原因となります。

- 長時間、身体と同じ部位に触れさせたまま使わない。

熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因となることがあります。気温の高い場所で使うときや、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使うときは、三脚などを使ってください。

- 使用が禁止されている場所では、電源を切るなどの指示に従う。

電波の影響で機器類が誤動作し、事故の原因となる恐れがあります。

 注意 傷害を負う可能性がある内容です。

- ストロボを目に近付けて発光しない。

目をいためる恐れがあります。

- 長い時間、ファインダーや画面を見続けず。

乗り物酔いのような症状をおこすことがあります。すぐに製品の使用を中止して休息をとってください。

- ストロボを指や布などで覆ったまま、発光させない。

やけどや故障の原因となります。

- 製品を高温や低温となる場所に放置しない。

製品自体が高温や低温になり、触れるとやけどやけがの原因となります。

- ストラップ使用時は、他のものに引っ掛けたり、強い衝撃や振動を与えない。

- レンズを強く押したり、ぶつけたりしない。

けがやカメラの故障の原因となります。

- 三脚を使うときは、十分に強度があるものを使う。

- カメラを三脚につけたまま移動しない。

けがや事故の原因となります。

- 製品の内部には手を入れない。

けがの原因となります。

- 使用中や使用後に肌に異常を感じた場合は、使用を中止し医師にご相談ください。

取り扱い上のご注意

カメラについて

- カメラは精密機器です。落としたり衝撃を与えたりしないでください。
- このカメラは防水構造になっていませんので、水中では使用できません。万一水に濡れてしまったときは、早めに修理受付窓口にご相談ください。また、水滴が付いたときは乾いたきれいな布で、潮風に当たったときは固くしぼったきれいな布でよくふきとってください。
- ゴミやほこりが多い場所で使用すると、故障の原因になります。
- 使用後はカメラの清掃をおすすめします。ゴミやほこり、水、塩分などをカメラに付着したままにすると、故障の原因になります。
- カメラを磁石やモーターなどの強力な磁気が発生する装置の近くに、絶対に置かないでください。また、電波塔などの強い電波が発生しているところで使用したり、放置したりしないでください。電磁波により、カメラが誤動作したり、記録した画像データが破壊されることがあります。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因になることがありますので、このような場所にカメラを放置しないでください。
- カメラには精密な回路が内蔵されていますので、絶対に自分で分解しないでください。
- 指などで内蔵ストロボやシャッター幕の動作を阻害しないでください。故障の原因になります。
- レンズなどにゴミが付いているときは、市販のブロアーで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズは、有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、修理受付窓口にご相談ください。
- カメラの電気接点は手で触らないでください。腐食の原因になることがあります。腐食が生じるとカメラが作動不良を起こすことがあります。
- カメラを寒いところから、急に暑いところに移すと、カメラの外部や内部に結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから、急に暑いところに移すときは、結露の発生を防ぐために、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから、袋から取り出してください。

- 結露が発生したときは、故障の原因になりますので、カメラを使用したり、レンズ、カード、バッテリーをカメラから取り外さないでください。カメラの電源をOFFにして、水滴が完全に消えるまで待ってから、カメラを使用してください。
なお、水滴が完全に消えても、カメラ内部が低温になっているときは、周囲の温度になじむまで、レンズ、カード、バッテリーをカメラから取り外さないでください。
- カメラを長期間使用しないときは、カメラからバッテリーを取り出し、風通しが良く、涼しい乾燥した場所に保管してください。保管期間中でも、ときどきシャッターを切るようにして作動することを確認してください。
- カメラの保管場所として、実験室などのような薬品を扱う場所は、さび・腐食などの原因になるため避けてください。
- 長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。長期間使用しなかったあとや、海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を修理受付窓口、またはご自身でチェックしてからご使用ください。
- 連続撮影を長時間繰り返したり、静止画撮影や動画撮影を長時間行くと、カメラの温度が高くなることがあります。これは故障ではありません。
- 明るい光源が撮影画面の内側や外側近くにあると、ゴーストが写り込むことがあります。

モニターについて

- モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤などの点が残れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録されている画像には影響ありません。
- モニターを長時間点灯したままにすると、表示していた内容の像が残ることがあります。この残像は一時的なもので、カメラを数日間使用しないでおくと自然に消えます。
- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

カードについて

カードとその中に記録されているデータを保護するために、次の点に注意してください。

- 「落とさない」、「曲げない」、「強い力や衝撃、振動を加えない」、「濡らさない」。
- カードの接点に指や金属が触れないようにする。
- カード表面にシールなどを貼らない。
- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものや、静電気の発生しやすいところで保管、使用しない。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しない。
- ケースなどに入れて保管する。
- 温度の高いところ、ほこりや湿気の多いところに保管しない。

撮像素子の前面に付着する汚れについて

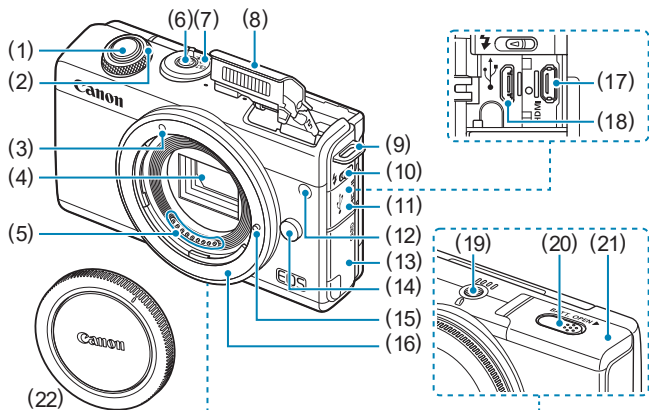
- 撮像素子の前面には、外部から入り込むゴミのほかに、ごくまれにカメラ内部の潤滑剤などが付着することがあります。汚れが画像に写り込むときは、できるだけ修理受付窓口に撮像素子の清掃をお申し付けください。

レンズについて

- レンズを取り外したときは、接点(1)やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。

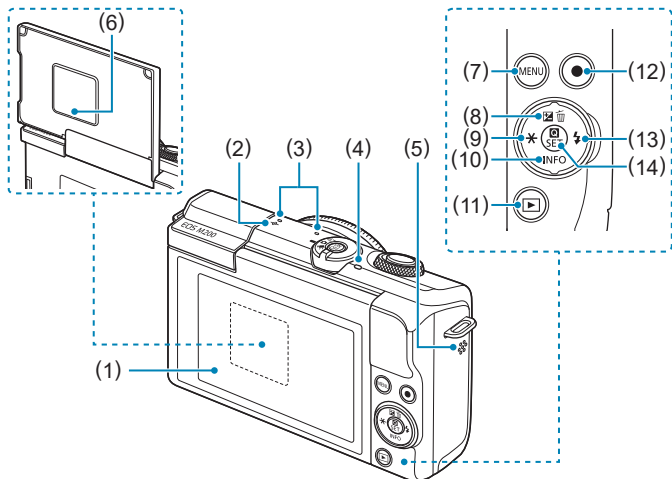


各部の名称



- (1) シャッターボタン
- (2) 〈〉 電子ダイヤル
- (3) EF-Mレンズ取り付け指標
- (4) 撮像素子
- (5) 接点
- (6) 電源ボタン
- (7) 撮影モードスイッチ
- (8) ストロボ
- (9) ストラップ取り付け部
- (10) 〈〉 ストロボアップレバー
- (11) 端子カバー
- (12) AF補助光／赤目緩和／
セルフタイマー／リモコンランプ

- (13) カードスロットカバー
- (14) レンズロック解除ボタン
- (15) レンズロックピン
- (16) レンズマウント
- (17) 〈HDMI〉 HDMI出力端子
- (18) 〈〉 デジタル端子
- (19) 三脚ねじ穴
- (20) DCカプラーコード通し部
- (21) バッテリー収納部ふた
- (22) ボディキャップ



(1) モニター

(2) 〈〉 撮像面マーク

(3) マイク

(4) アクセスランプ

(5) スピーカー

(6) シリアル番号（機番）

(7) 〈MENU〉メニューボタン

(8) 〈//〉 上／露出補正／
消去ボタン

(9) 〈/＊〉 左／AEロック／
FEロックボタン

(10) 〈/INFO〉 下／インフォボタン

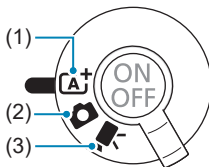
(11) 〈〉 再生ボタン

(12) 動画撮影ボタン

(13) 〈/⚡〉 右／ストロボボタン

(14) 〈/SET〉 クイック設定／
設定ボタン

撮影モードスイッチ／撮影モード



(1) **A⁺**：シーンインテリジェントオートモード (📖 74)

基本操作はシャッターボタンを押すだけです。カメラまかせの全自動撮影ができます。

(2) **📷**：静止画モード

静止画撮影を行うときに選びます。被写体やシーンに応じてカメラまかせの撮影をしたり、思いどおりのさまざまな撮影ができます。撮影画面の左上に表示される撮影モードのマークにタッチすると、撮影モードを選ぶことができます。〈◀〉〈▶〉を押して撮影モードを選び、〈SET〉を押すと設定されます。

応用撮影モード

P	プログラムAE (📖 106)
Tv	シャッター優先AE (📖 108)
Av	絞り優先AE (📖 110)
M	マニュアル露出 (📖 112)

📹：プラスムービーオートモード (📖 74)

スペシャルシーンモード

	自分撮り (1184)		料理 (1190)
	ポートレート (1185)		夜景ポートレート (1191)
	美肌 (1186)		手持ち夜景 (1192)
	風景 (1187)		HDR逆光補正 (1193)
	スポーツ (1188)		サイレントモード (1194)
	クローズアップ (1189)		

クリエイティブフィルターモード (1198)

	ラフモノクロ (11100)		ジオラマ風 (11101)
	ソフトフォーカス (11100)		HDR絵画調標準 (11101)
	魚眼風 (11100)		HDRグラフィック調 (11101)
	水彩風 (11100)		HDR油彩調 (11101)
	トイカメラ風 (11100)		HDRビンテージ調 (11101)

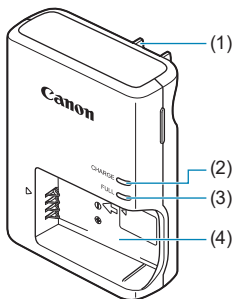
(3) 動画モード

動画撮影を行うときに選びます。撮影画面の左上に表示される撮影モードのマークにタッチすると、撮影モードを選ぶことができます。〈◀〉〈▶〉を押して撮影モードを選び、〈SET〉を押すと設定されます。

	動画自動露出 (1200)
	動画マニュアル露出 (1202)

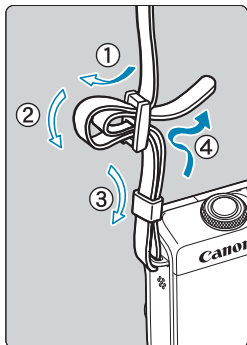
バッテリーチャージャー LC-E12

バッテリーパックLP-E12の充電器です (44)。



- (1) 電源プラグ
- (2) 充電ランプ
- (3) 充電完了ランプ
- (4) バッテリー取り付け部

ストラップ（吊りひも）の取り付け方

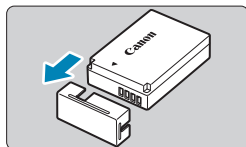


ストラップの先端をストラップ取り付け部の下から通し、さらにストラップに付いている留め具の内側を通します。留め具の部分のたるみを取り、引っばっても留め具の部分がゆるまないことを確認してください。

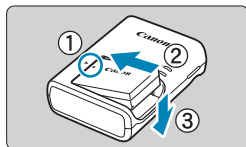
準備と基本操作

この章では、撮影に入る前にあらかじめ準備しておくことと、基本の操作について説明しています。

バッテリーを充電する

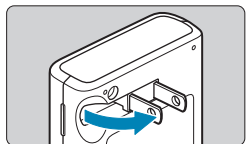


1 付属の保護カバーを外す

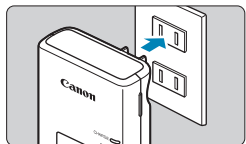


2 バッテリーを充電器にしっかりと取り付ける

- 取り外しは逆の手順で行います。

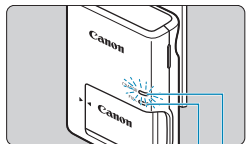


3 電源プラグを起こす



4 電源プラグをコンセントに差し込む

- 自動的に充電が始まり、充電ランプ (1) がオレンジ色に点灯します。
- 充電が完了すると、充電完了ランプ (2) が緑色に点灯します。
- 使い切ったバッテリーの充電に要する時間は、常温 (+23℃) で約2時間です。なお、充電時間は周囲の温度や残量によって大きく異なります。
- 安全に充電を行うため、低温下 (+5℃ ~ +10℃) では充電時間が長くなります (最長約4時間)。



(2)(1)

- **購入時、バッテリーはフル充電されていません**

充電してからお使いください。

- **充電は使用する当日か前日にする**

充電して保管していても、自然放電により少しずつバッテリーの容量が少なくなっていくます。

- **充電が終わったら、バッテリーを取り外し、プラグをコンセントから抜く**

- **カメラを使わないときはバッテリーを取り出しておく**

バッテリーを長期間カメラに入れたままにしておくと、微少の電流が流れて過放電状態になり、バッテリー寿命短縮の原因となります。バッテリーの保護カバーを取り付けて保管してください。なお、フル充電して保管すると、性能低下の原因になることがあります。

- **充電器は海外でも使うことができる**

充電器は、家庭用電源のAC100～240V 50/60Hzに対応しています。お使いになる国や地域に対応した、市販の電源プラグ変換アダプターを使用してください。なお、充電器が故障する恐れがありますので、海外旅行用の電子変圧器などに接続しないでください。

- **フル充電したのにすぐ使えなくなるときは、バッテリーの寿命です
新しいバッテリーをお買い求めください。**



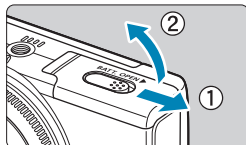
- 充電器をコンセントから取り外したときは、約5秒間、充電器のプラグに触れないようにしてください。

- 付属の充電器は、バッテリーパックLP-E12以外は充電できません。

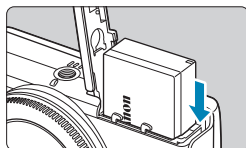
バッテリーを入れる／取り出す

充電したバッテリーパック LP-E12をカメラに入れます。

入れ方

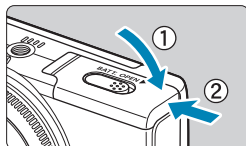


1 バッテリー収納部ふたをスライドして開ける



2 バッテリーを入れる

- バッテリー接点の方から入れます。
- ロック位置までしっかりと入れてください。

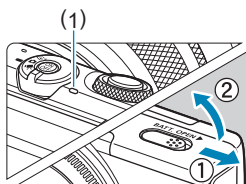


3 ふたを閉める

- 「カチッ」と音がするまで、ふたをスライドさせます。

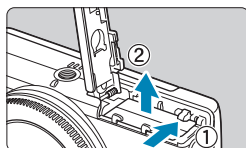
- !**
- バッテリーパック LP-E12以外は使用できません。
 - バッテリー収納部ふたは、開いた状態から無理に押し開かないでください。ヒンジ部分が壊れる恐れがあります。

取り出し方



1 バッテリー収納部ふたを開ける

- 電源を切ります。
- アクセスランプ (1) が消えていることを確認して、ふたを開きます。



2 バッテリーを取り出す

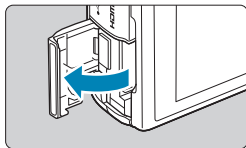
- バッテリーロックレバーを矢印の方向に押してロックを外し、バッテリーを取り出します。
- ショート防止のため、必ずバッテリーに付属の保護カバー (📖 44) を取り付けてください。

カードを入れる／取り出す

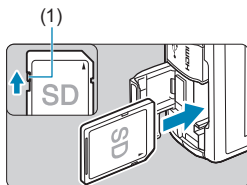
撮影した画像は、カードに記録されます。

-  ● カードの書き込み禁止スイッチ (1) が上側 (書き込み／消去可能位置) にセットされていることを確認してください。

入れ方

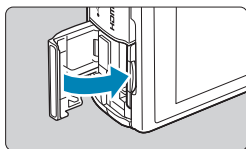


1 カードスロットカバーを開ける



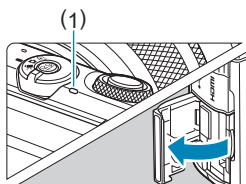
2 カードを入れる

- カードの表をカメラの背面側にして、「カチッ」と音がするまで差し込みます。



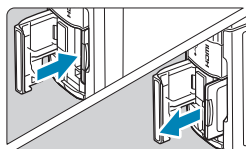
3 カバーを閉める

取り出し方



1 カバーを開ける

- 電源を切ります。
- アクセスランプ (1) が消えていることを確認して、カバーを開きます。
- モニターに【書き込み中...】と表示されたときは、カバーを閉じてください。



2 カードを取り出す

- カードを軽く押し込んで離すと出てきます。
- カードをまっすぐ取り出して、カバーを閉じます。

カードを初期化する

新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）してください（[p.435](#)）。



- 撮影可能枚数は、使用するカードの空き容量や、記録画質、ISO感度などの設定により変わります。



- アクセスランプが点灯／点滅しているときは、カードへの記録／読み出し中や、消去中、データ転送中です。カードスロットカバーを開けたり、バッテリーを取り出したりしないでください。また、アクセスランプが点灯／点滅しているときに次のことを行くと、画像データが壊れたり、カードやカメラ本体が損傷する原因になるため、絶対に行わないでください。

- カードを取り出す
- バッテリーを取り出す
- カメラ本体に振動や衝撃を与える
- 電源コードの抜き差しを行う

（家庭用電源アクセサリ（別売）使用時）

- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が0001から始まらないことがあります（[図430](#)）。
- モニターにカードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、カードの抜き差しを行ってください。それでも改善しないときは、別のカードに交換してください。

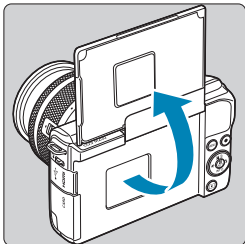
なお、パソコンでカードの内容が読み取れるときは、カード内のデータをすべてパソコンに保存したあと、カメラでカードを初期化してください（[図435](#)）。正常な状態に戻ることがあります。

- カードの端子部分に指や金属が触れないようにしてください。また、ゴミや水などを付着させないでください。端子部分に汚れが付着すると、接触不良の原因になります。
- マルチメディアカード（MMC）は使用できません（カードエラー表示）。

モニターを使う

モニターは、向きと角度を変えて使用することができます。

上向きに開く

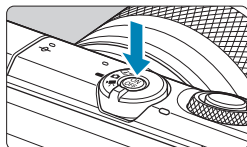


- 画面を持ち上げ、約180°まで開くことができます。
- 撮影モードで画面を開いてレンズ側に向けると、画像が鏡像（左右反転）で表示されます。



- カメラを使わないときは、閉じた状態で保管してください。
- 画面は、故障の原因となるため無理に広げないでください。

電源を入れる



電源ボタンを押すと、電源が入ります。
もう一度押すと、電源が切れます。

日付／時刻／エリアの設定

電源を入れたときに、日付/時刻/エリアの設定画面が表示されたときは、
📖 440を参照して日付/時刻/エリアを設定してください。

表示言語の変更

表示言語を変更するときは、📖 443を参照してください。



- カードへの画像記録中に電源を切ると、【書き込み中...】が表示され、画像記録が終了してから電源が切れます。

バッテリー残量表示



- : バッテリーの残量は十分です。
- : バッテリーの残量が少なくなってきましたが、まだ使用できます。
- : まもなくバッテリー切れになります。
(点滅表示)
- : バッテリーを充電してください。

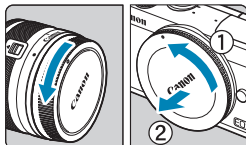


- 下記の操作を行うとバッテリーが早く消耗します。
 - シャッターボタン半押し状態を長く続ける
 - AF動作だけを行って撮影しない操作を頻繁に行う
 - レンズの手ブレ補正機能を使用する
 - Wi-Fi機能、Bluetooth機能を使用する
- 実際の撮影条件により、撮影可能枚数が少なくなることがあります。
- レンズの動作にはカメラ本体の電源を使用します。使用するレンズにより、バッテリーが早く消耗することがあります。
- 低温下ではバッテリーの残量があっても撮影できないことがあります。

レンズを取り付ける／取り外す

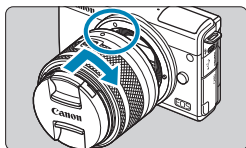
このカメラでは、EF-Mレンズを使用できます。

取り付け方



1 キャップを外す

- レンズのダストキャップとボディキャップを矢印の方向に回して外します。

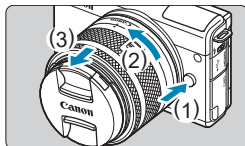


2 レンズを取り付ける

- レンズとカメラの白いレンズ取り付け指標を合わせ、レンズを矢印方向に「カチッ」と音がするまで回します。

3 レンズキャップを外す

取り外し方



レンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に回す

- 回転が止まるまで回してから、取り外します。
- 取り外したレンズにダストキャップを取り付けます。



- レンズで太陽を直接見ないでください。失明の原因になります。
- レンズの取り付け／取り外しを行うときは、カメラの電源を切ってください。
- 自動ピント合わせのときに、レンズの先端（フォーカスリング）が動くレンズは、動いている部分に触れないでください。



● 撮影画角について

－撮影画面は、35mm判カメラの撮影画面より小さいため、装着したレンズの有効撮影画角は、「表記焦点距離×約1.6倍」相当になります。



撮影画面（約）(22.3×14.9mm)

35mm判フィルム撮影画面（36×24mm）

- レンズの使用方法については、レンズの使用説明書を参照してください（[図4](#)）。

ゴミやほこりについて、普段から以下のことに注意してください

レンズの交換は、ほこりの少ない場所で素早く行う

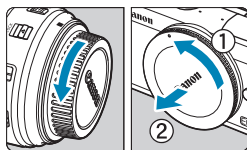
レンズを取り外してカメラを保管するときは、ボディキャップを必ずカメラに取り付ける

ボディキャップは、ゴミやほこりを落としてからカメラに取り付ける

EFレンズ、EF-Sレンズを取り付ける／ 取り外す

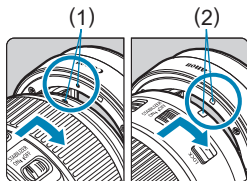
別売のマウントアダプター EF-EOS Mを使用すると、EFレンズ、EF-Sレンズを使用することができます。

取り付け方



1 キャップを外す

- レンズとアダプターとボディのキャップを外します。

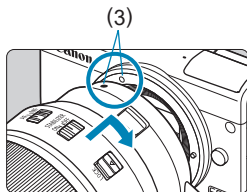


2 アダプターにレンズを取り付ける

- アダプターの取り付け指標（赤または白）とレンズ側の取り付け指標の色を合わせ、レンズを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。

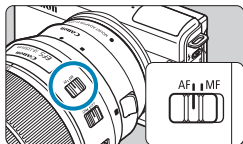
(1) 赤い指標

(2) 白い指標



3 カメラにアダプターを取り付ける

- アダプターとカメラの白いレンズ取り付け指標 (3) を合わせ、レンズを矢印方向に「カチッ」と音がするまで回します。

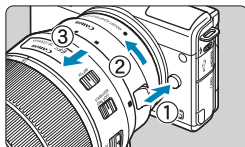


4 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする

- 〈AF〉はAuto Focus：自動ピント合わせのことです。
- 〈MF〉はManual Focus：手動ピント合わせのことです。自動ピント合わせはできません。

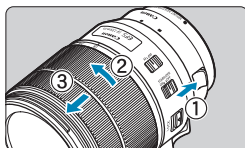
5 レンズキャップを外す

取り外し方



1 レンズロック解除ボタンを押しながら、アダプターを矢印の方向に回す

- 回転が止まるまで回してから、取り外します。



2 レンズをアダプターから取り外す

- アダプターのレンズ取り外しレバーをスライドしながら、レンズを反時計方向に回します。
- 回転が止まるまで回してから、レンズを取り外します。
- 取り外したレンズにダストキャップを取り付けます。



- レンズに関する注意事項は、[p.55](#)をご確認ください。
- カメラより重いレンズを使うときは、レンズ側を支えて、持ち運んだり、撮影してください。
- 超望遠レンズなど、三脚座が付いたEFレンズを使うときは、レンズの三脚座に三脚を取り付けてください。三脚座がないレンズは、マウントアダプターの三脚座に三脚を取り付けてください。

基本操作

カメラの構え方

モニター向きを変えて撮影することができます。詳しくは📖51を参照してください。



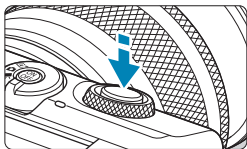
通常のアングル



ローアングル

シャッターボタン

シャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを一段目まで浅く押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに二段目まで深く押すことを「全押し」といいます。

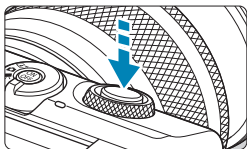


半押し

自動ピント合わせと、自動露出機構によるシャッタースピードと絞り数値の設定が行われます。

露出値（シャッタースピードと絞り数値）が、モニターに8秒間（測光タイマー）*表示されます。

* 測光タイマーの初期値は8秒です。



全押し

撮影されます。

● 手ブレしにくい撮影のしかた

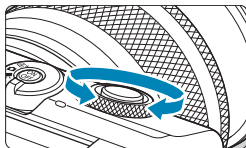
手にしたカメラが撮影の瞬間に動くことを「手ブレ」といい、全体がぼやけたような写真になります。鮮明な写真を撮るため、次の点に注意してください。

- カメラが動かないようしっかり構える。
- シャッターボタンを半押ししてピントを合わせたあと、ゆっくりシャッターボタンを全押する。



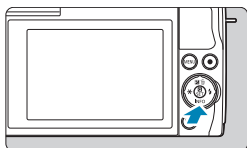
- シャッターボタンを一気に全押ししたり、半押し後すぐに全押しすると、一瞬の間を置いてから撮影されます。
- メニュー画面表示中、画像再生中でも、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

〈☀〉 電子ダイヤル



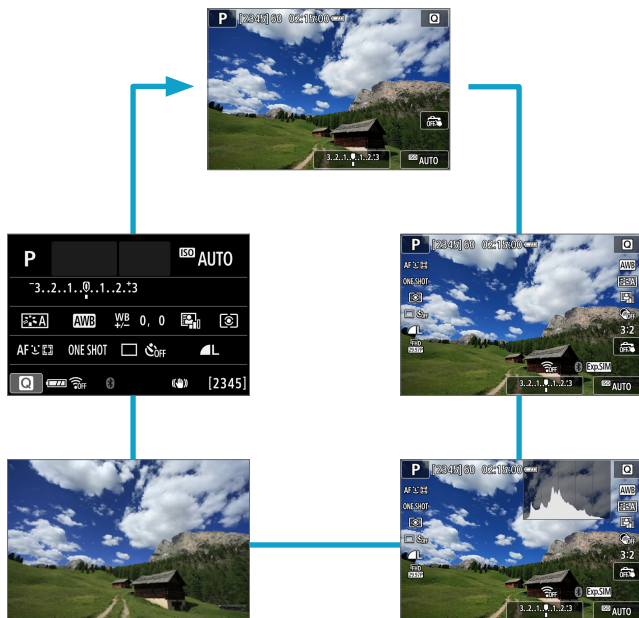
モニターを見ながら 〈☀〉 を回します。
シャッタースピードや絞り数値の設定など
に使用します。

INFOボタン



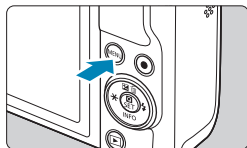
〈INFO〉ボタンを押すたびに情報表示内容が切り換わります。

下記は、静止画撮影時の画面例です。



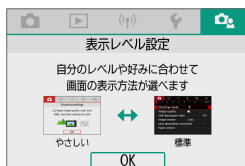
画面の表示レベルを設定する

自分の好みに合わせて、画面の表示方法を設定することができます。必要に応じて設定を変更してください。



1 メインタブを表示する

- 〈MENU〉 ボタンを押すと表示されます。

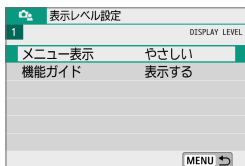


2 [🔍] タブを選ぶ

- 十字キーの 〈◀〉 〈▶〉 を押して [🔍] タブを選びます。

メニュー表示

メニューの表示方法を【やさしい】【標準】から選ぶことができます。【やさしい】設定時は〈MENU〉ボタンを押すと、メニューのメインタブの説明が表示されます。【標準】設定時は〈MENU〉ボタンを押すと、そのままメニュー画面に進みます。初期状態では、【やさしい】に設定されています。



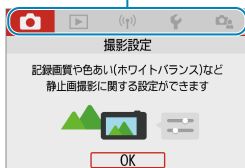
1 【メニュー表示】を選ぶ



2 表示方法を選ぶ

(1)

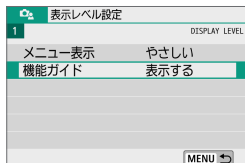
(1) メインタブ



- 【やさしい】に設定しているときは、【★(マイメニュー)】タブは表示されません。マイメニュー (P.467) の設定をするときは、【標準】に変更してください。

機能ガイド

クイック設定時やメニュー設定時に、機能・項目の簡単な説明（機能ガイド）を表示することができます。初期状態では、**[表示する]** に設定されています。



1 [機能ガイド] を選ぶ



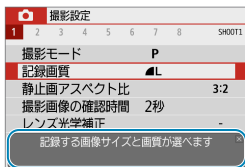
2 [表示する] を選ぶ

● 画面例

クイック設定画面



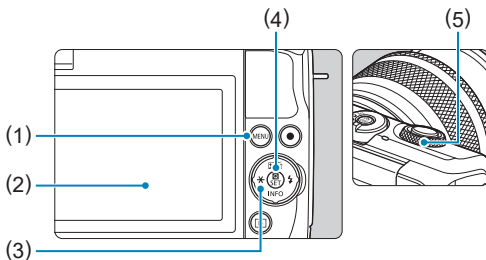
メニュー画面



(1) 機能ガイド

- 説明の表示中に、説明にタッチしたり、操作を続けると説明は消えます。

メニュー機能の操作と設定



(1) 〈MENU〉ボタン

(2) モニター

(3) 〈◇〉十字キー

(4) 〈SET〉ボタン

(5) 電子ダイヤル

メニュー画面

〈A+〉モード



撮影設定					
1	2	3	4	5	SHOOT1
撮影モード					
記録画質					
静止画アスペクト比					
撮影画像の確認時間					
ストロボ制御					
ドライブモード					
MENU					

動画モード



撮影設定					
1	2	3	4	5	SHOOT1
撮影モード					
動画記録画質					
動画セルフタイマー					
録音					
レンズ光学補正					
MENU					

静止画モード（応用撮影モード時）

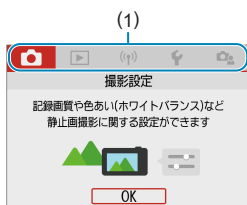
撮影設定								
1	2	3	4	5	6	7	8	SHOOT1
撮影モード								
記録画質								
静止画アスペクト比								
撮影画像の確認時間								
レンズ光学補正								
ストロボ制御								
MENU								



● 撮影モードによって、表示されるタブやメニュー項目は異なります。

メニュー機能の設定操作

- [MENU:メニュー表示] [やさしい] 設定時



1 メインタブを表示する

- 〈MENU〉 ボタンを押すとメインタブ(1)の説明が表示されます。

2 メインタブを選ぶ

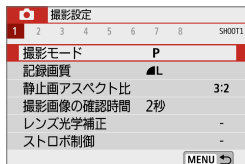
- 十字キーの〈◀〉〈▶〉を押すと、メインタブ(系統)が切り換わります。
- 〈☀〉を回して選ぶこともできます。

3 メニューを表示する

- 〈SET〉を押すと表示されます。
- メインタブの画面に戻るときは〈MENU〉ボタンを押します。

4 サブタブを選ぶ

- 十字キーの〈◀〉〈▶〉を押してサブタブを選びます。
- 〈☀〉を回して選ぶこともできます。



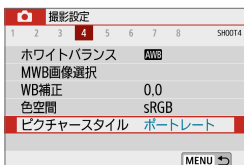
5 項目を選ぶ

- 十字キーの〈▲〉〈▼〉を押して項目を選び、〈SET〉を押します。



6 内容を選ぶ

- 十字キーの〈▲〉〈▼〉または〈◀〉〈▶〉で内容を選びます (〈▲〉〈▼〉で選ぶ内容と、〈◀〉〈▶〉で選ぶ内容があります)。
- 現在設定されている内容は青色で表示されます。



7 内容を設定する

- 〈SET〉を押すと設定されます。
- 初期状態から設定を変更すると、青色で表示されます ([カメラ] タブのメニューのみ)。

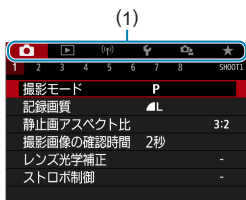
8 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを2回押すと表示が消え、撮影準備状態に戻ります。



- 手順2～8は、モニターにタッチして操作することもできます (P.70)。
- これ以降のメニュー機能の説明は、メニュー画面が表示されていることを前提に説明しています。
- 操作の途中でキャンセルするときは、〈MENU〉ボタンを押します。

● [MENU:メニュー表示] [標準] 設定時



1 メニューを表示する

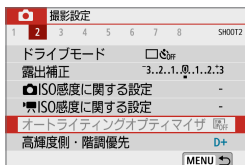
- 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。

2 タブを選ぶ

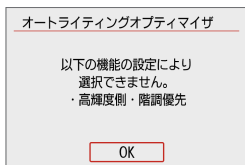
- 十字キーの〈◀〉〈▶〉を押してメインタブ(1)とサブタブを選びます。
- 〈☀〉を回して選ぶこともできます。
- これ以降の操作は [MENU:メニュー表示] [やさしい] と同じです。「メニュー機能の設定操作」(p.66)の手順5から参照してください。
- 設定を終了するときには〈MENU〉ボタンを押します。

メニュー項目の灰色表示

例：高輝度側・階調優先設定時



灰色で表示されている項目は設定できません。すでに設定されている他の機能が優先されるためです。



灰色で表示されている項目を選び〈SET〉を押すと、優先されている機能を確認することができます。

優先されている機能の設定を解除すると、灰色で表示されていた項目が設定できるようになります。



- 項目によっては、優先されている機能を確認できないことがあります。



- [🔧：カメラの初期化] の [基本設定] でメニュー機能の設定を初期状態に戻すことができます (📖 455)。

画面にタッチして操作する

カメラのモニター（タッチパネル）は、指で触れて操作することができます。

タッチ

画面例（クイック設定）



- モニターに指を触れて、指を離します。
- 例えば【Q】にタッチすると、クイック設定の状態になります。【⏮】にタッチすると、元の画面に戻ります。

ドラッグ

画面例（メニュー画面）



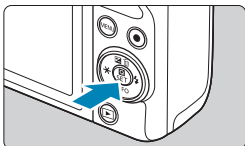
- モニターに指を触れたまま動かします。



- 【🔊：電子音】を【タッチ音切】に設定すると、タッチ操作時に電子音が鳴らないようになります（📖448）。
- タッチしたときの反応を設定することができます（📖446）。

クイック設定

モニターに表示されている項目を直接選択して、直感的な操作で設定することができます。この操作を「クイック設定」といいます（[A+]モードを除く）。



1 <Q> ボタンを押す (P.10)

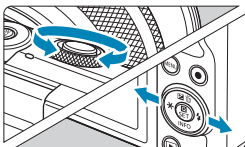


2 項目を選ぶ

- <▲> <▼> を押して選びます。



- 左の画面が表示されているときは、<▲> <▼> <◀> <▶> を押して選びます。



3 内容を選ぶ

- <☀> を回すか、<◀> <▶> を押して設定を変更します。さらにボタンを押して設定する項目もあります。
- <SET> を押すと設定され、元の画面に戻ります。

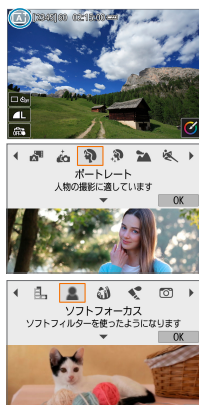


- 画面にタッチしてクイック設定を行うこともできます (P.70)。

かんたん撮影モード

この章では、**[A+]** モード、**[A+]** モード、スペシャルシーンモード (82)、クリエイティブフィルターモード (98) を使って上手に撮影する方法を説明しています。

シャッターボタンを押すだけで、カメラまかせの撮影ができるように、各種機能が自動設定されます。



シーンインテリジェントオートモード／ プラスムービーオートモード(全自動)

【A+】【A+M】はカメラまかせの全自動撮影ができるモードです。カメラが撮影シーンを解析し、シーンに適した設定を自動的に行います。被写体の動きを検知して、止まっている被写体や動いている被写体に、自動でピントを合わせることができます。

また、【A+M】モードでは、静止画を撮影するだけで、静止画が記録されると同時に撮影直前の約2～4秒のシーンも動画として記録され、1日をまとめた短編動画（ダイジェスト動画）ができます（📖 192、📖 270）。



1 撮影モードスイッチを〈A+〉にする

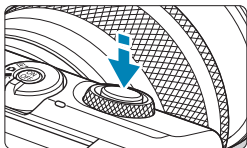


- 【A+M】モードにするときは、撮影モードスイッチを〈📷〉の位置にしたあと、画面の左上にタッチし、〈◀〉〈▶〉を押して【A+M】モードを選び、〈SET〉を押します。



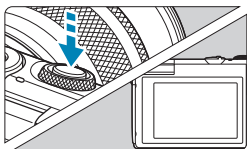
2 カメラを被写体（写したいもの）に向ける

- 撮影条件により、被写体に枠が表示されることがあります。
- 人の顔を検知したときは、顔にAFフレームが表示されます。



3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが行われます。
- [⚡] が点滅するときは、〈⚡〉レバーを操作してストロボを上げてください。
- 画面に表示された人物の顔や被写体にタッチして、ピントを合わせることもできます（＝タッチAF）。
- 暗い場所では、必要に応じてAF補助光（ 186）が自動投光されます。
- 止まっている被写体のときは、ピントが合うと、AFフレームが緑色で表示されます。また同時に「ピピッ」と電子音が鳴ります（〈+〉モードのみ）。（＝ワンショットAF）
- 動いている被写体のときは、AFフレームが青色で表示され（〈+〉モードのみ）、AFフレームが被写体の動きに追従して動きます。電子音は鳴りません。（＝サーボAF）



4 撮影する

- シャッターボタンを全押しすると撮影されます。
- 画面に撮影した画像が約2秒間表示されます。
- ストロボを収納するときは、手で押し下げます。



- 撮影する被写体や撮影状況などにより、被写体の動き（止まっている／動いている）を適切に検知できないことがあります。



- AF動作（ワンショットAF／サーボAF）は、シャッターボタンを半押しした際に自動設定されます。ワンショットAFに自動設定されても、シャッターボタン半押し中に、被写体が動いたと判断したときは、サーボAFに切り換わります（〈〉モードのみ）。
- [] モードで、自然や屋外シーン、または夕景シーンを撮影すると、より印象的な色あいの写真になります。なお、好みの色あいにならなかったときは、撮影モードを応用撮影モード（ 38）にして、[-A] 以外のピクチャースタイルを選んで撮影してください（ 156）。

：プラスムービーオート

- 静止画を撮影する約4秒前からカメラを被写体に向けておくと、ダイジェスト動画もきれいに撮影できます。
- 静止画と一緒にダイジェスト動画が撮影されるため、〈〉モードよりバッテリーの消耗が早くなります。
- 電源を入れたり 〈〉 モードを選ぶなど、カメラを操作した直後に静止画を撮影したときは、ダイジェスト動画が記録されないことがあります。
- ダイジェスト動画には、カメラやレンズを操作したときの音と振動が記録されます。
- ダイジェスト動画の画質は、 （NTSC時）または  （PAL時）です。ビデオ方式の設定によって異なります。
- シャッターボタンを半押ししたときやセルフタイマーなどの電子音は鳴りません。
- 次のときは、同じ日に 〈〉 モードで作成されたダイジェスト動画でも、別ファイルとして保存されます。
 - ・ダイジェスト動画の記録時間が約29分59秒になったとき（ダイジェスト動画の容量が約4GBを超えたときも、別ファイルとして保存されることがあります）
 - ・ダイジェスト動画を保護したとき
 - ・サマータイムの設定、ビデオ方式、エリア設定を変えたとき
- 記録されるシャッター音は、変えたり消すことはできません。

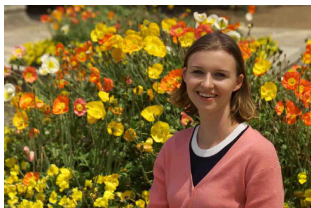
ブレの少ない画像を撮影するには

- （撮影機材の重さに耐えられる）しっかりした三脚を使用してください。また、カメラを三脚にしっかり固定してください。
- ワイヤレスリモートコントローラー（別売／📖193）などの使用をおすすめします。

こんなときは

- **ピントが合わない（AFフレームがオレンジ色に点灯する）**
明暗差（コントラスト）のある部分にカメラを向けてシャッターボタンを半押ししてください（📖59）。また、被写体に近づきすぎているときは、離れて撮影してください。
- **複数のAFフレームが同時に表示される**
複数のAFフレームが同時に表示されたときは、表示されているすべての位置にピントが合っています。被写体にAFフレームが表示されているときは、そのまま撮影してください。
- **シャッターボタンを半押ししてもピント合わせが行われない**
レンズのフォーカスモードスイッチが〈MF〉になっているときは、〈AF〉にしてください。
- **シャッタースピード（数字）が点滅している**
光が不足している（暗い）ため、そのまま撮影すると手ブレによって被写体が鮮明に写らないことがあります。三脚を使用することをおすすめします。

構図を変えて撮影する



シーンによっては、被写体を左右どちらかに配置して、背景もバランス良く入れた方が、奥行きのある写真に仕上がります。

止まっている被写体にピントを合わせると、シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定されます。そのまま構図を変え、シャッターボタンを全押しして撮影します。これを「フォーカスロック撮影」といいます。

動いているものを撮影する 〈AF-L〉モードのみ



シャッターボタンを半押しし、青いAFフレームが表示されたときは、カメラが被写体の動きを認識し、サーボAFでピント合わせが行われます。シャッターボタンを半押ししたまま被写体を画面内に捉え続け、シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。

シーン判別アイコンについて



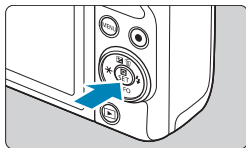
カメラがシーンを判別して、シーンに合った全自動撮影が行われます。判別したシーンは、画面の左上に表示されます。アイコンについては、[📖507](#)を参照してください。

画面にタッチして設定を変更する



画面のアイコンにタッチして、設定を変更することができます。

効果を付けて撮影する（クリエイティブアシスト）



1 〈Q〉 ボタンを押す

- メッセージを確認して [OK] を選びます。



2 効果を選ぶ

- 〈◀〉 〈▶〉 で効果を選び、〈SET〉 を押します。



3 効果の度合い・内容を選ぶ

- 〈◀〉 〈▶〉 で設定し、〈SET〉 を押します。
- 設定をリセットしたいときは、〈✱〉 ボタンを押して [OK] を選びます。

クリエイティブアシストの効果

● [📷] プリセット

用意された効果の中から選ぶことができます。

[B&W] を設定したときは【鮮やかさ】【色あい1】【色あい2】は選べません。

● [👤] 背景ぼかし

背景のボケ具合を設定することができます。設定値が大きいほど背景がくっきりした画像になります。設定値が小さいほど背景がぼけた画像になります。【オート】に設定したときは、明るさに応じて背景のボケ具合が変わります。レンズの明るさ（F値）によっては、設定できない位置があります。

● **[☀] 明るさ**

画像の明るさを設定することができます。

● **[☉] コントラスト**

コントラスト（明暗差）の強さを設定することができます。

● **[目] 鮮やかさ**

色の鮮やかさを設定することができます。

● **[∞] 色あい1**

アンバーとブルーの色あいを設定することができます。

● **[∞] 色あい2**

グリーンとマゼンタの色あいを設定することができます。

● **[☐] モノクロ**

モノクロで撮影するときの色調を設定することができます。**[切]**を設定したときはカラーで撮影されます。**[切]**以外を設定したときは**【鮮やかさ】****【色あい1】****【色あい2】**は選べません。



- ストロボ撮影時、**【背景ぼかし】**は設定できません。
- 撮影モードを変更したり電源を切ると、設定した内容は初期設定に戻ります。なお、**【📷：クリエイティブアシスト設定記憶】**を**【する】**に設定しておくと、設定が保持されます。

効果の登録

現在の効果をカメラに登録したいときは、クリエイティブアシストの設定画面で**【登録】**にタッチします。最大3つまで**【プリセット】**の**【USER*】**に登録することができます。すでに3つ登録されているときは、**【USER*】**のいずれかを上書きする必要があります。

スペシャルシーンモード

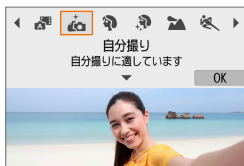
被写体やシーンに合わせて撮影モードを選ぶだけで、撮影に適した機能が自動設定され、カメラまかせで撮影することができます。



1 撮影モードスイッチを〈カメラ〉にする



2 撮影モードのマークにタッチする



3 撮影モードを選ぶ

- [カメラ] [人] [車] [山] [鳥] [花] [料理] [ペット] [風景] [夜景] [ポートレート] [ビデオ] の中から選びます。
- 〈◀〉 〈▶〉 を押して撮影モードを選び、〈SET〉を押します。
- 〈🌀〉 を回して選ぶこともできます。



- 各撮影モードの注意事項は、まとめて記載しています (P.95)。注意事項を読んでから撮影してください。



- 撮影モードは、[カメラ : 撮影モード] で設定することもできます。
- 思い通りの効果が得られないことがあるため、事前に試し撮りをおすすめします。

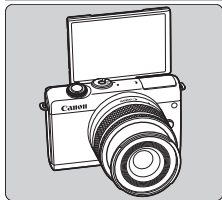
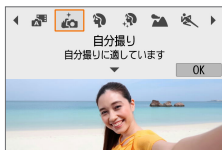
スペシャルシーンモード

撮影モード		参照頁
	自分撮り	 84
	ポートレート	 85
	美肌	 86
	風景	 87
	スポーツ	 88
	クローズアップ	 89

撮影モード		参照頁
	料理	 90
	夜景ポートレート	 91
	手持ち夜景	 92
	HDR逆光補正	 93
	サイレントモード	 94

自分撮りモード

自分撮りをするときは、**[自分撮り]**（自分撮り）を使用します。モニターをレンズ側に向けます。画像処理によって肌がなめらかに見えるよう美肌の効果をつけるほか、明るさや背景を自分好みに設定し、自分が浮き立つような画像にすることができます。



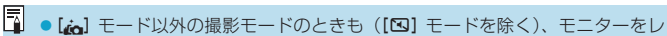
💡 撮影のポイント

● 明るさや美肌効果を設定する

[明るさ] や **[美肌効果]** を5段階から選ぶことができます。**[背景]** で背景のぼかし具合も設定できます。

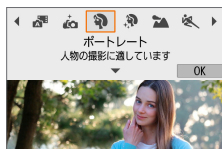
● 画面にタッチして撮影する

シャッターボタン全押しだけでなく、**[タッチ]** にタッチして **[タッチシャッター：する]** に設定すると、画面にタッチして撮影することができます。

-  ● **[自分撮り]** モード以外の撮影モードのときも（**[動画]** モードを除く）、モニターをレンズ側に向け、画面左下の **[自分撮り]** にタッチすると、自分撮りを行うことができます。

ポートレートモード

背景をぼかして人物を浮き立たせた写真を撮りたいときは、**[📷]**（ポートレート）を使用します。肌や髪の毛の感じが柔らかな写真になります。



撮影のポイント

- **人物と背景ができるだけ離れている場所を選ぶ**

人物と背景が離れているほど、背景のボケ方が大きくなります。また、背景がはっきりしていて暗いほど人物が浮き立ちます。

- **望遠レンズを使用する**

ズームレンズのときは、レンズを望遠側にして、人物の上半身が画面いっぱいに入るよう人物に近づきます。

- **顔にピントを合わせる**

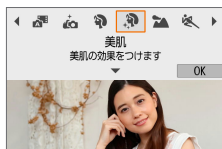
ピント合わせのときに、顔の位置にあるAFフレームが緑色になったことを確認して撮影します。なお、顔をアップで写すときは、**[📷: 瞳AF]**を**[する]**に設定すると、目にピントが合うように撮影することができます。

- **連続撮影する**

初期状態では、**[📷]**（連続撮影）に設定されています。シャッターボタンを押し続けると、連続して撮影が行われ、被写体の表情やポーズの変化を写すことができます。

美肌モード

人物の肌をきれいに写したいときは、**[美肌]**（美肌）を使用します。画像処理によって肌がなめらかに見えるような効果を加えることができます。



💡 撮影のポイント

● 顔が検出されるようにする

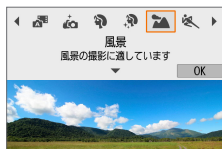
美肌効果をかける主被写体が検出されたときに顔に枠が表示されます。被写体の顔に枠が表示されるよう被写体との距離を調整すると、効果的に美肌効果をかけることができます。

● 顔にピントを合わせる

ピント合わせのときに、顔の位置にあるAFフレームが緑色になったことを確認して撮影します。なお、顔をアップで写すときは、**[カメラアイコン：瞳AF]**を**[する]**に設定すると、目にピントが合うように撮影することができます。

風景モード

広がりのある風景など、近くから遠くまでピントの合った写真を撮りたいときは、【】（風景）を使用します。空や緑が鮮やかで、とてもくっきりした写真になります。



撮影のポイント

- **ズームレンズは広角側にする**

ズームレンズのときは、レンズを広角側にするると、近くから遠くまでピントの合った写真を撮ることができます。また、風景の広がりも表現することができます。

- **夜景を撮影するときは**

【】でカメラを手に持って撮影すると、手ブレしますので、三脚を使用してください。

スポーツモード

人の走っている姿や乗り物などを撮りたいときは、**[スポーツ]**（スポーツ）を使用します。



(1)



💡 撮影のポイント

● 望遠レンズを使用する

遠くからでも撮影できるように、望遠レンズの使用をおすすめします。

● エリアAFフレームで被写体を捉え続ける

初期状態では、**[AF方式]**は**[追尾優先AF]**に設定されています。シャッターボタンを半押しすると、エリアAFフレーム（1）が表示されます。ピントが合うと、AFフレームが青色で表示されます。

● 連続撮影する

初期状態では、**[連続撮影]**に設定されています。シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。そのままシャッターボタンを押し続けると、ピントを合わせ続けながら連続して撮影が行われ、被写体の動きの変化を写すことができます。

クローズアップモード

花や小物などに近づいて大きく写したいときは、**[🌸]** (クローズアップ) を使用します。別売のマクロレンズを使用すると、小さなものをより大きく写すことができます。



撮影のポイント

- **すっきりした背景を選ぶ**

背景がすっきりしているほど、花や小物が浮き立ちます。

- **写したいものにできるだけ近づく**

最も近づくことができる距離（最短撮影距離）は、使用しているレンズで確認してください。なお、最短撮影距離は、カメラの上面の〈〉（撮像面マーク）から被写体までの距離です。近づきすぎるとピントが合いません。

- **ズームレンズは望遠側にする**

ズームレンズのときは、望遠側にとすると大きく写すことができます。

料理モード

料理を撮りたいときは、**[🍴]**（料理）を使用します。明るく、おいしそうな色あいの写真になります。また、白熱電球下などで撮影するときは、光源による赤みを抑えた写真になります。



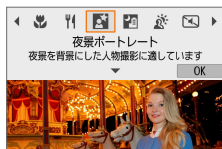
💡 撮影のポイント

● 色あいを変える

[色あい]を変えることができます。料理の赤みを強めにしたいときは**[暖色]**側に、赤みが強すぎるときは**[寒色]**側に設定を変更して撮影してください。

夜景ポートレートモード

人物と、その背景にある美しい夜の街並みや夜景を明るくきれいに写したいときは、**[A]**（夜景ポートレート）を使用します。なお、**撮影にはストロボが必要です**。三脚の使用をおすすめします。



撮影のポイント

● 広角レンズと三脚を使用する

ズームレンズのときは、レンズを広角側にすると、広い範囲の夜景を写すことができます。また、手持ち撮影では手ブレしますので、三脚を使用して撮影します。

● 画像の明るさを確認する

撮影した画像はその場で再生し、画像の明るさを確認することをおすすめします。人物が暗いときは、近づいて撮影してください。

● 他の撮影モードでも撮影しておく

ブレた写真になりやすいので、**[A+]**でも撮影しておくことをおすすめします。



- セルフタイマー併用時に、ストロボが発光するときは、撮影終了時にセルフタイマーランプが一瞬光ります。

手持ち夜景モード

【📷】（手持ち夜景）を使用すると、カメラを手に持ったまま夜景を撮影することができます。この撮影モードでは、1回の撮影で4枚連続撮影し、手ブレを抑えた画像が1枚記録されます。



💡 撮影のポイント

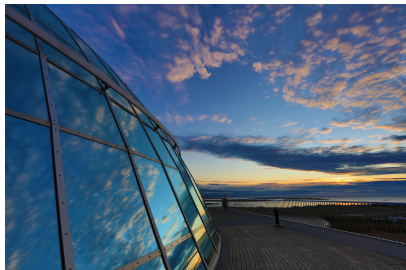
● カメラをしっかり構える

撮影中、カメラが動かないようにしっかり構えます。この撮影モードは、4枚の画像の位置を合わせながら合成して、1枚の画像を作成しますが、手ブレなどにより、画像のズレ量が大きいと、画像の位置合わせが正常に行われなかったことがあります。

HDR逆光補正モード

明るいところと暗いところが混在する逆光シーンなどを写すときは、**[逆]** (HDR逆光補正) を使用します。1回の撮影で明るさの異なる3枚の画像を連続撮影し、特に逆光による黒つぶれを抑えた広い階調の画像が1枚記録されます。

* 「HDR」はHigh Dynamic Range (ハイダイナミックレンジ) の略です。



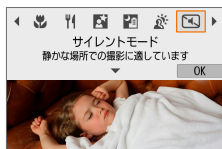
撮影のポイント

● カメラをしっかり構える

撮影中、カメラが動かないようにしっかり構えます。この撮影モードは、3枚の画像の位置を合わせながら合成して、1枚の画像を作成しますが、手ブレなどにより、画像のズレ量が大きいと、画像の位置合わせが正常に行われなかったことがあります。

サイレントモード

静かな場所で、シャッター音や電子音を鳴らさずに写真を撮ることができます。撮影を行うと、画面の外側に白い枠が一瞬表示されます。



撮影のポイント

● 試し撮りをする

撮影条件によっては、レンズの絞りの駆動音や、ピント合わせのためのフォーカス駆動音がすることがありますので、事前にテスト撮影をおすすめします。

スペシャルシーンモードの注意事項



📷：自分撮り

- 撮影シーンによっては、人の肌以外も補正されることがあります。
- [📷] モードで設定した【美肌効果】は、[👤] モードには反映されません。
- ストロボモードを[📷]にしてストロボを上げているときは、【背景ぼかし:オート】に固定されます。

👤：美肌

- 撮影シーンによっては、人の肌以外も補正されることがあります。
- [👤] モードで設定した内容は、[📷] モードの設定には反映されません。

🏞️：風景

- ストロボ撮影はできません。

🏊：スポーツ

- 手ブレしやすい暗い場所では、左下の数値（シャッタースピード）が点滅します。カメラが動かないようにしっかり構えて撮影してください。
- ストロボ撮影はできません。

🍴：料理

- 赤みのある被写体の色が薄くなることがあります。
- 画面内に複数の光源が含まれるときは、赤みの少ない写真にならないことがあります。
- ストロボを使用したときは、【色あい】が標準設定に切り換わります。
- 人物を入れて撮影すると、人物が適切な色あいにならないことがあります。

🌃：夜景ポートレート

- ストロボが発光してもすぐに動かないように、写される人に声をかけてください。
- 人物の顔が暗いときは、ピントが合いにくいことがあります。このようなときは、[📷:フォーカスモード]を[MF]に設定する、またはレンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にして手動でピントを合わせてください（📖57、📖184）。
- 夜景などを撮影したときに、AFフレーム内に点状の光源が含まれているときは、AFでピントが合いにくいことがあります。このようなときは、[📷:フォーカスモード]を[MF]に設定する、またはレンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にして手動でピントを合わせてください（📖57、📖184）。
- 画面に表示される映像は、撮影した画像と完全には同じになりません。

夜景ポートレート（続き）

- ストロボ発光時に、露出オーバーで標準露出が得られないときは、自動的にシャッタースピードやISO感度が変わって白トビの軽減が行われ、標準露出で撮影されます。ストロボ撮影時は、使用するレンズにより、シャッターボタンを半押ししたときに、表示されたシャッタースピード、ISO感度とは異なる設定で撮影されることがあります。このときは、ストロボ光の届かない背景部分の明るさが変化することがあります。

手持ち夜景

- 他の撮影モードより、撮影される範囲が狭くなります。
- RAW画質は選択できません。
- ストロボ撮影はできません。
- 夜景などを撮影したときに、AFフレーム内に点状の光源が含まれているときは、AFでピントが合いにくいことがあります。このようなときは、**【📷:フォーカスモード】**を**【MF】**に設定する、またはレンズのフォーカスモードスイッチを**〈MF〉**にして手動でピントを合わせてください（ 57、 184）。
- 画面に表示される映像は、撮影した画像と完全には同じになりません。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ったり、被写体の周辺が暗めに写ることがあります。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なとき、また手ブレなどにより画像のズレ量が大きいときは、画像の位置合わせが正常に行われなことがあります。
- 撮影後に画像を合成してからカードに記録するため時間がかかります。画像処理中は**【BUSY】**が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。



※：HDR逆光補正

- 他の撮影モードより、撮影される範囲が狭くなります。
- RAW画質は選択できません。
- ストロボ撮影はできません。
- グラデーションが滑らかに再現されなかったり、ムラやノイズが発生することがあります。
- 極端に強い逆光シーンや、明暗差が大きいシーンでは、補正効果が十分に得られないことがあります。
- 順光シーンなど、被写体がもともと明るいシーンでは、HDR効果で不自然な画像になることがあります。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ったり、被写体の周辺が暗めに写ることがあります。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なとき、また手ブレなどにより画像のズレ量が大きいときは、画像の位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 撮影後に画像を合成してからカードに記録するため時間がかかります。画像処理中は【BUSY】が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。

☒：サイレントモード

- サイレントシャッター機能は、被写体の肖像権やプライバシーなどに十分配慮した上で、お客様の責任において使用してください。
- 動きの速い被写体を撮影すると、被写体が歪んで写ることがあります。
- 連続撮影、ストロボ撮影はできません。

クリエイティブフィルターモード

フィルター効果を付けた画像を撮影することができます。撮影前にフィルター効果を確認することができます。



1 撮影モードスイッチを〈カメラ〉にする



2 撮影モードのマークにタッチする



3 フィルター効果（撮影モード）を選ぶ

- [モノクロ] [人物] [風景] [夜景] [カメラ] [魚眼] [HDR] [HDR] [HDR] [HDR] の中から選びます。
- 〈左〉 〈右〉 を押して撮影モードを選び、〈SET〉を押します。
- 〈回転〉 を回して選ぶこともできます。
- フィルター効果が反映された映像が表示されます。



4 効果を調整して撮影する

- 〈Q〉 ボタンを押し、画面左上の項目を選びます ([魚眼] [HDR] [HDR] [HDR] [HDR] を除く)。
- 〈左〉 〈右〉 で効果を調整し、〈SET〉を押します。



- RAW、RAW+JPEGは選択できません。RAW画質が設定されているときは、**L**の画質で記録されます。また、RAW+JPEG画質が設定されているときは、設定されているJPEG画質で記録されます。
- **[L]** **[P]** **[S]** **[A]** **[M]** **[B]** 設定時は、連続撮影は設定できません。



- **[L]** のときは、モニターに表示される映像と撮影画像のざらつき感が異なります。
- **[P]** **[B]** のときは、モニターに表示される映像と撮影画像でぼかし具合が異なることがあります。
- ヒストグラムは表示されません。
- 拡大表示はできません。
- 応用撮影モードのときは、クイック設定で **[L]** **[P]** **[S]** **[A]** **[M]** **[B]** を設定することができます。
- 思いどおりの効果が得られないことがあるため、事前に試し撮りすることをおすすめします。

各クリエイティブフィルターの特徴

● ラフモノクロ

ざらついた感じの白黒写真になります。コントラストを調整することで、白黒の感じを変えることができます。

● ソフトフォーカス

やわらかい感じの写真になります。ぼかし具合を調整することで、やわらかさの感じを変えることができます。

● 魚眼風

魚眼レンズで撮影したような効果が得られます。タル型にゆがんだ写真になります。

なお、フィルター効果のレベルによって、画像周辺のカットされる領域が変わります。また、フィルター効果により画面中央が拡大されるため、記録画素数によっては、画面中央の解像感が低下することがありますので、映像を確認しながら設定してください。AFフレームは、中央1点固定になります。

● 水彩風

水彩画のような写真で、やわらかい感じの色になります。効果を調整することで、色の濃度を変えることができます。なお、夜景や暗い撮影シーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、ムラやノイズが発生することがあります。

● トイカメラ風

トイカメラ（おもちゃのカメラ）で撮影したような独特の色調で、画面の四隅が暗い写真になります。色調によって、色の感じを変えることができます。

● ジオラマ風

ジオラマ（ミニチュア模型）風の写真になります。

画面の中央をはっきり見せたい場合は、そのまま撮影します。

はっきり見せたい部分（ジオラマ枠）を移動する場合は『ジオラマ風の操作』（ 103）を参照してください。AF方式は1点AFになります。AFフレームとジオラマ枠の位置を合わせて撮影することをおすすめします。

● HDR 絵画調標準

白とびや黒つぶれが緩和された写真になります。コントラストを抑えたフラットな階調のため、絵画のような仕上がりになります。被写体の輪郭部分に明るい（または暗い）縁取りが付きます。

● HDR グラフィック調

[HDR 絵画調標準] よりも鮮やかでありながら、コントラストを抑えたフラットな階調で、グラフィックアートのような仕上がりになります

● HDR 油彩調

最も鮮やかで被写体の立体感を強調した、油絵のような仕上がりになります。

● HDR ビンテージ調

鮮やかさと明るさを抑えながら、コントラストをさらに抑えたフラットな階調で、色あせた古めかしい感じの仕上がりになります。被写体の輪郭部分に明るい（または暗い）縁取りが強めに付きます。



-     は、明暗差の大きいシーンで、白とびや黒つぶれが緩和された階調の広い（ハイダイナミックレンジな）写真を撮影することができます。1回の撮影で明るさの異なる3枚の画像を連続撮影し、1枚の画像を作成します。 102の注意事項を参照してください。



【HDR】【HDR】【HDR】【HDR】の注意事項

- 他の撮影モードより、撮影される範囲が狭くなります。
- フィルター効果の仕上がりイメージは、撮影画像と完全には同じになりません。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ったり、被写体の周辺が暗めに写ることがあります。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なとき、また手ブレなどにより画像のズレ量が大きいときは、画像の位置合わせが正常に行われなことがあることがあります。
- 手持ち撮影のときは手ブレに注意して撮影してください。
- 空や白壁のようなシーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、露出ムラや色ムラ、ノイズが発生することがあります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で撮影を行うと、照明されている部分が適切な色で再現されないことがあります。
- 撮影後に画像を合成してからカードに記録するため時間がかかります。画像処理中は【BUSY】が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。
- ストロボ撮影はできません。

ジオラマ風の操作



1 ジオラマ枠を移動する

- はっきり見せたい部分（ジオラマ枠）を設定します。
- 〈INFO〉ボタンを押すか、画面右下の【】にタッチすると、ジオラマ枠がオレンジ色に代わり、移動させることができます。
- 画面左下の【】にタッチすると、ジオラマ枠の縦／横を切り換えることができます。
- ジオラマ枠が横長のときは〈▲〉〈▼〉、ジオラマ枠が縦長のときは〈◀〉〈▶〉を押すと、ジオラマ枠が移動します。
- 画面左下の【】にタッチすると、ジオラマ枠が画面中央に戻ります。
- 〈SET〉を押すと、ジオラマ枠の位置が確定します。続けてAFフレームの設定になります。



2 AFフレームを移動する

- AFフレームがオレンジ色に変わり、移動させることができます。
- 〈◇〉十字キーを押して、ピントを合わせたい位置にAFフレームを移動します。
- ジオラマ枠とAFフレームの位置を合わせることをおすすめします。
- 画面左下の【】にタッチすると、AFフレームが画面中央に戻ります。
- 〈SET〉を押すと、AFフレームの位置が確定します。

3 撮影する



- 手順1のときに、ジオラマ枠が横長のときは〈◀〉〈▶〉、ジオラマ枠が縦長のときは〈▲〉〈▼〉で、ジオラマ枠の縦／横を切り換えることもできます。

応用撮影モード



応用撮影モード（**[P]** **[Tv]** **[Av]** **[M]**）では、シャッタースピードや絞り数値を選択したり、露出を自分の好みに変えるなど、カメラの設定を思いどおりに変えることで、さまざまな撮影ができます。

- 撮影モードを選んだあと、〈SET〉を押すと画面が消えます（38）。

プログラムAEモード(P)

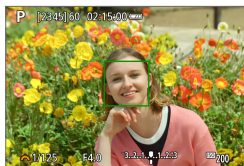
被写体の明るさに応じて、カメラがシャッタースピードと絞り数値を自動的に設定します。

* 「P」はProgram（プログラム）の略です。

* 「AE」はAuto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。



1 撮影モードを[P]にする



2 ピントを合わせる

- AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。

3 表示を確認して撮影する

- 露出値の表示が点滅していなければ、標準露出です。

- シャッタースピードの「30"」と小さな絞り数値が点滅するときは、被写体が暗すぎます。
ISO感度を上げるか、ストロボを使用してください。
- シャッタースピードの「1/4000」と大きな絞り数値が点滅するときは、被写体が明るすぎます。
ISO感度を下げるか、減光用のNDフィルター（別売）を使用してください。



【P】と【A+】モードの違いについて

- 【A+】モードのときは失敗を防ぐために、AF方式や測光モードなど、多くの機能が自動的に設定され、変更できる機能が限定されています。それに対して【P】モードのときは、自動的に設定されるのはシャッタースピードと絞り数値だけで、AF方式や測光モードなどの機能を自由に設定することができます。

プログラムシフトについて

- シャッターボタンを半押ししてから  を回すと、同じ露出のままでシャッタースピードと絞り数値の組み合わせを変えることができます。これを「プログラムシフト」といいます。
- プログラムシフトは、測光タイマーが終了したとき（露出表示が消えたとき）に自動的に解除されます。
- ストロボを使用したときは、プログラムシフトはできません。

シャッター優先AEモード(Tv)

シャッタースピードを設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが標準露出に必要な絞り数値を自動的に設定します。シャッタースピードを速くすると、動きの速い被写体の瞬間をとらえることができます。逆にシャッタースピードを遅くすると、流動感を表現することができます。

*「Tv」はTime value（タイムバリュー）の略で時間量のことです。



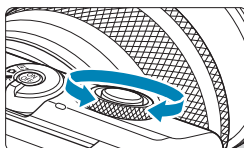
流動感のある写真
(遅いスピード：1/30秒)



動きを止めた写真
(速いスピード：1/2000秒)



1 撮影モードを[Tv]にする

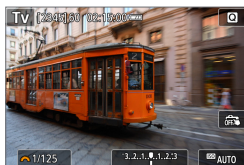


2 シャッタースピードを設定する

- 〈〉を回して設定します。

3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。



4 表示を確認して撮影する

- 絞り数値が点滅していなければ標準露出です。



- 小さな絞り数値が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。絞り数値の点滅が止まるまで<☀>を回してシャッタースピードを遅くするか、ISO感度を上げます。
- 大きな絞り数値が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。絞り数値の点滅が止まるまで<☀>を回してシャッタースピードを速くするか、ISO感度を下げます。



シャッタースピードの表示について

- 例えば「0"5」は0.5秒を、「15"」は15秒を表しています。

絞り優先AEモード(Av)

絞り数値を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが標準露出に必要なシャッタースピードを自動的に設定します。絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）と、ピントの合う範囲が前後に広がります。逆に絞り数値を小さくする（絞りを開く）と、ピントの合う範囲が狭くなります。

*「Av」はAperture value（アパーチャーバリュー）の略で開口量のことです。



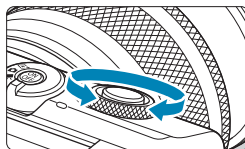
背景をぼかした写真
(小さい絞り数値：F5.6)



背景にもピントが合った写真
(大きい絞り数値：F32)



1 撮影モードを「Av」にする

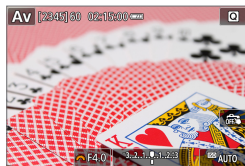


2 絞り数値を設定する

- 〈〉を回して設定します。

3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。



4 表示を確認して撮影する

- シャッタースピードが点滅していなければ標準露出です。



- シャッタースピードの「30"」が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。シャッタースピードの点滅が止まるまで〈〉を回して絞り数値を小さくする（絞りを開く）か、ISO感度を上げます。
- シャッタースピードの「1/4000」が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。シャッタースピードの点滅が止まるまで〈〉を回して絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）か、ISO感度を下げます。



絞り数値の表示について

- 数値が大きくなるほど、レンズの絞り径は小さくなります。表示される絞り数値はレンズによって異なります。カメラにレンズが付いていないときは、表示が「F00」になります。

ピントの合う範囲を確認する 応用

【：カスタム機能 (C.Fn)】の【動画撮影ボタンの機能】(p.462) で、動画撮影ボタンに【1:絞り込み】機能を割り当てたときは、動画撮影ボタンを押すと、そのとき設定されている絞り数値でレンズの絞り込みが行われ、実際にピントの合う範囲（被写界深度）を確認することができます。



- 絞り数値が大きいほど、ピントの合う範囲が前後に広がります。
- 絞り込みボタンを押しながら絞り数値を変えると、被写界深度の効果が分かります。
- 絞り込み機能を割り当てたボタンを押している間は、露出が固定された（AE ロック）状態になります。

マニュアル露出モード(M)

自分でシャッタースピードや絞り数値を決めて撮影するときに設定します。露出は露出レベル表示を参考にしたり、市販の露出計を利用して自分で任意に決めます。

*「M」はManual（マニュアル）の略です。



1 撮影モードを「M」にする

2 ISO感度を設定する (140)

- ISOオート設定時は、露出補正を行うことができます (113)。



3 シャッタースピードを設定する

- <☀> を回して設定します。



4 絞り数値を設定する

- <▲> を押して絞り数値を選び、<☀> を回して設定します。



(2) (1)

5 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- 露出レベルマーク [■] で、標準露出からどのくらいずれているか、確認することができます。

(1) 標準露出指標

(2) 露出レベルマーク

6 露出を決めて撮影する

- 露出レベル表示を確認し、任意のシャッタースピード、絞り数値を設定します。

ISOオート設定時の露出補正について

マニュアル露出撮影時にISO感度を [AUTO] に設定したときは、以下の方法で露出補正 (📖 139) を行うことができます。

- 露出レベル表示にタッチする
- [📷 : 露出補正]



- ISOオート設定時は、設定したシャッタースピードと絞り数値に対して標準露出になるようにISO感度の変動するため、意図した露出で撮影できないことがあります。そのときは露出補正を行ってください。



- シャッターボタンを半押しして、ワンショットAFでピントが合うと、半押ししている間、ISO感度が固定 (ロック) されます (評価測光設定時)。
- ISOオート設定時に〈✳〉ボタンを押すと、ISO感度を固定 (ロック) することができます。
- ISO感度手動設定時に〈✳〉ボタンを押して構図を変えると、〈✳〉ボタンを押したときとの露出差を露出レベル表示で確認することができます。

長時間露光 (バルブ) 撮影 (BULB)

シャッターボタンを押している間、シャッターが開いたままになり、シャッターボタンから指を離すと閉じます。夜景や打上げ花火、天体撮影など長時間の露光が必要なときに設定します。

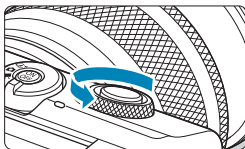


1 撮影モードを [M] にする



2 シャッタースピードを [BULB] に設定する

- 〈☀〉 を左に回して行くと、[BULB] に設定することができます。



3 絞り数値を設定する

- 〈▲〉 を押して絞り数値を選び、〈☀〉 を回して設定します。

4 撮影する

- シャッターボタンを全押ししている間、露光が行われます。
- モニターに露光経過時間が表示されます。



- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けしないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- 長時間のバルブ撮影を行うと、画像に含まれるノイズが多くなります。
- ISOオート設定時はISO400に設定されます（ 496）。



- **【：長秒時露光のノイズ低減**】で長秒露光時に発生するノイズを低減することができます（ 164）。
- カメラブレを低減させるため、三脚と別売のワイヤレスリモートコントローラー BR-E1の使用をおすすめします。

撮影設定

この章では、撮影に関する内容や、メニュー機能の「📷：撮影設定タブ」に含まれる項目などについて説明しています。

静止画撮影

- ページタイトル右の  は、応用撮影モード（[P] [Tv] [Av] [M]）限定の機能であることを示しています。

メニュー目次: 静止画撮影

● 撮影設定1

撮影設定									
1	2	3	4	5	6	7	8	SHOOT1	
撮影モード		P							📖 105
記録画質		L							📖 124
静止画アスペクト比				3:2					📖 127
撮影画像の確認時間		2秒							📖 129
レンズ光学補正				-					📖 130
ストロボ制御				-					📖 250
MENU									

● 撮影設定2

撮影設定									
1	2	3	4	5	6	7	8	SHOOT2	
ドライブモード		☐ OFF							📖 135
露出補正		-3..2..1..0..1..2..3							📖 139
📷 ISO感度に関する設定		-							📖 140
📷 ISO感度に関する設定		-							📖 238
オートライティングオブティマイザ		☒							📖 143
高輝度側・階調優先		OFF							📖 144
MENU 									

● 撮影設定3

撮影設定								
1	2	3	4	5	6	7	8	SHOOT3
測光モード*						 145		
測光タイマー			8秒			 147		
露出Simulation			する			 148		
MENU 								

● 撮影設定4

撮影設定								
1	2	3	4	5	6	7	8	SHOOT4
ホワイトバランス				AWB		149		
MWB画像選択						152		
WB補正				0.0		154		
色空間				sRGB		155		
ピクチャスタイル				オート		156, 159, 162		
MENU								

● 撮影設定5

撮影設定							
1	2	3	4	5	6	7	8 SHOOT5
長秒時露光のノイズ低減					OFF		164
高感度撮影時のノイズ低減							165
タッチシャッター					しない		167
MENU							

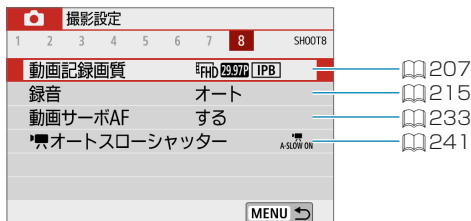
● 撮影設定6

撮影設定							
1	2	3	4	5	6	7	8 SHOOT6
AF動作		ONE SHOT AF				169	
AF方式		AF				172	
瞳AF		しない				182	
コンティニュアスAF		する				183	
フォーカスモード		AF				184	
MENU							

● 撮影設定7

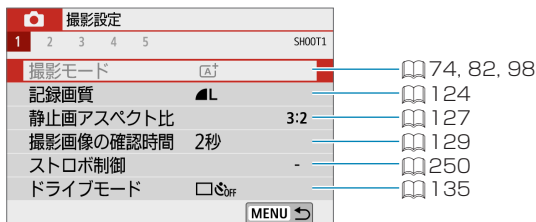


● 撮影設定8

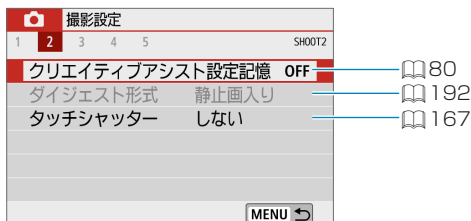


〔A+〕モード、〔A+M〕モード、スペシャルシーンモード、クリエイティブフィルターモードのときは、以下の画面が表示されます。

● 撮影設定1



● 撮影設定2



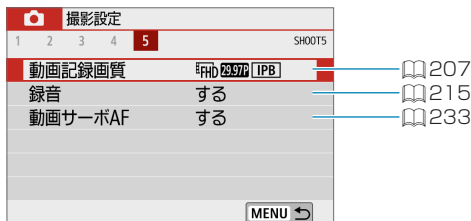
● 撮影設定3



● 撮影設定4



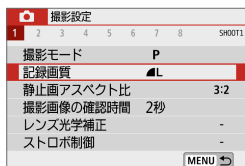
● 撮影設定5



- 設定できる項目は、撮影モードによって異なります。
- [クリエイティブアシスト設定記憶] は、[A+]モードのときに設定できます。
- [ダイジェスト形式] は、[A+]モードのときに設定できます。

記録画質

記録する画素数と画質を選ぶことができます。



1 [📷 : 記録画質] を選ぶ



2 記録画質を設定する

- RAW画質は〈🌅〉を回して、JPEG画質は〈◀〉〈▶〉で選びます。
- 〈SET〉を押すと設定されます。

● 記録画質の設定画面に表示される撮影可能枚数【****】は、アスペクトの設定（📖 127）に関わらず、常に【3:2】設定時の値が表示されます。

- RAW画像とJPEG画像の設定を両方【-】にしたときは、📷Lに設定されます。
- RAWとJPEGの両方を選んだときは、1回の撮影で設定した記録画質の画像がカードに記録されます。2つの画像は同じ画像番号（拡張子はJPEG : .JPG、RAW : .CR3）で記録されます。
- S2は📷（ファイン）の画質です。
- 記録画質の読み方は、RAW（ロウ）、CRAW（コンパクトロウ）、JPEG（ジェイペグ）、📷（ファイン）、📷（ノーマル）、L（ラージ）、M（ミドル）、S（スモール）です。

RAW画像

カードに記録されるRAW画像は、撮像素子から出力されたデータをデジタル変換して記録した「生（ロウ）データ」で、**RAW**または**RAW**よりもファイルサイズが小さい**CRRAW**から選ぶことができます。

RAW画像は、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで現像処理を行うことができます。使用目的に応じてさまざまな画像調整を行い、その調整結果を反映したJPEG画像などを生成することができます。



RAW画像処理用のソフトウェアについて

- パソコンでRAW画像を表示するときは、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（以下DPP）の使用をおすすめします。
- 古いバージョンのDPP Ver.4.xでは、このカメラで撮影したRAW画像の処理はできません。パソコンに古いバージョンのDPP Ver.4.xがインストールされているときは、キヤノンのホームページから最新のDPPを入手して、アップデート（上書きインストール）してください（[P.474](#)）。なお、Ver.3.x以前のDPPでは、このカメラで撮影したRAW画像の処理はできません。
- 市販のソフトウェアでは、このカメラで撮影したRAW画像を表示できないことがあります。対応状況については、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

記録画質を選ぶときの目安

ファイルサイズ、撮影可能枚数、連続撮影可能枚数などについては、[P.497](#)を参照してください。

連続撮影可能枚数（バースト枚数）



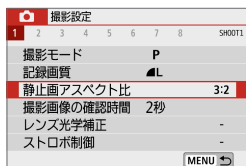
撮影画面の上の数値で、連続撮影できる枚数の目安を確認することができます。



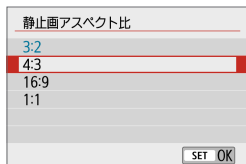
- 連続撮影可能枚数が、「99」と表示されているときは、99枚以上の連続撮影ができます。98枚以下になると、数値が減っていきます。内蔵メモリーがいっぱいになると、モニターに【BUSY】が表示され、一時的に撮影ができなくなります。撮影を中断すると数値が増えていきます。撮影した画像がすべてカードに書き込まれると、497の表に示した枚数の連続撮影ができるようになります。

静止画アスペクト比

画像のアスペクト（縦横）比を変えて撮影することができます。



1 [📷：静止画アスペクト比] を選ぶ



2 アスペクト比を設定する

- アスペクト比を選び、〈SET〉を押します。

● JPEG画像

設定したアスペクト比で記録されます。

● RAW画像

常に [3:2] のアスペクト比で記録されます。RAW画像には設定したアスペクト比情報が付加され、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで現像する際に、撮影時に設定したアスペクト比で画像を生成することができます。

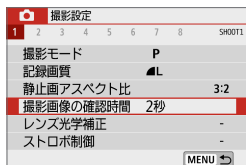
アスペクト比		
4 : 3	16 : 9	1 : 1
		



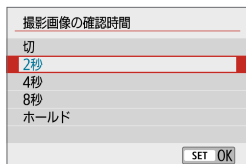
- [4 : 3] [16 : 9] [1 : 1] の設定で撮影したRAW画像を再生したときは、撮影範囲を示すアスペクト比の線が表示されます（この線は画像には記録されません）。

撮影画像の確認時間

撮影直後にモニターに表示される画像の表示時間を変更することができます。撮影直後に表示される画像を表示したままにするときは【ホールド】、撮影画像を表示しないようにするときは【切】に設定します。



1 【📷：撮影画像の確認時間】を選ぶ



2 時間を設定する



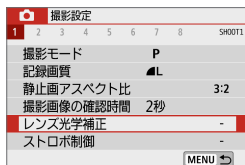
- 【ホールド】に設定すると、【🔋：節電】で設定した時間まで画像が表示されます。

レンズ光学補正

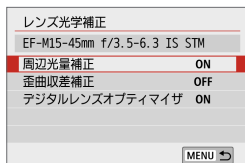
応用

レンズの光学特性によって、画像の四隅が暗くなったり、画像にゆがみが生じたりするなどの現象が発生します。[レンズ光学補正] の機能を使用することで、これらの現象を補正することができます。

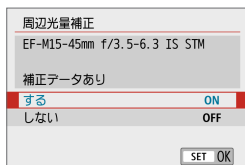
1 [📷：レンズ光学補正] を選ぶ



2 項目を選ぶ



3 [する] を選ぶ



- 装着しているレンズの名称と、[補正データあり] が表示されていることを確認します（ただし、[回折補正] 設定時は、表示されません）。
- [補正データなし] や [L] マークが表示されたときは、『デジタルレンズオプティマイザ』（p132）を参照してください。

周辺光量補正

画像の四隅が暗くなる「周辺光量の低下」を補正することができます。



- 撮影条件により、画像の周辺部分にノイズが発生することがあります。
- ISO感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。



- EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで最大補正を行ったときよりも、控えめに補正されます。
- 補正用データがカメラに登録されている場合は、**[A+]** モード、**[A-]** モード、スペシャルシーンモード、クリエイティブフィルターモードでは自動的に周辺光量補正が行われます。

歪曲収差補正

画像にゆがみが生じる「歪曲収差」を補正することができます。



- ゆがみの補正が行われるため、撮影時に見えていた範囲よりも狭い範囲が記録されます（画像の周辺部分が少しトリミングされ、解像感が若干低下します）。
- 歪曲収差補正の設定により、画角がわずかに変化することがあります。
- 拡大表示を行ったときは、ゆがみが補正されていない映像が表示されます。
- 動画撮影では、歪曲収差補正は行われません。
- 歪曲収差補正が行われた画像を再生したときは、撮影時と異なる位置にAFフレームが表示されることがあります。

デジタルレンズオブティマイザ

レンズの光学特性により生じる諸収差や、回折現象、ローパスフィルターに起因した解像劣化を補正することができます。

なお、**【デジタルレンズオブティマイザ】**で**【補正データなし】**や**【無】**が表示されたときは、EOS Utilityを使用して、レンズの補正用データをカメラに登録することができます。詳しくは、EOS Utility使用説明書を参照してください。



- 撮影条件により、補正効果とともにノイズが強調されることがあります。また、画像に輪郭強調が強くなる場合があります。必要に応じてピクチャースタイルのシャープネスの調整を行ったり、**【デジタルレンズオブティマイザ】**を**【しない】**に設定して撮影してください。
- ISO感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。
- 動画撮影時は、**【デジタルレンズオブティマイザ】**は表示されません（補正できません）。



- **【デジタルレンズオブティマイザ】**を**【する】**に設定したときは、**【色収差補正】****【回折補正】**は表示されませんが、ともに**【する】**の設定で撮影されます。
- 補正用データがカメラに登録されている状態で、**【AF+】**モード、**【AF-ON】**モード、スペシャルシーンモード、クリエイティブフィルターモード撮影を行ったときは、自動的にデジタルレンズオブティマイザによる補正が行われます。

色収差補正

被写体の輪郭部分に色のにじみが生じる「色収差」を補正することができます。



- [デジタルレンズオプティマイザ] を [する] に設定したときは、[色収差補正] は表示されません。

回折補正

絞りの影響により画像の鮮鋭さが低下する「回折現象」を補正することができます。



- 撮影条件により、補正効果とともにノイズが強調されることがあります。
- ISO感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。
- 動画撮影時は、[回折補正] は表示されません。



- 「回折補正」では回折現象だけでなく、ローパスフィルターなどの影響による解像劣化も補正されます。そのため、開放絞り付近でも補正効果があります。
- [デジタルレンズオプティマイザ] を [する] に設定したときは、[回折補正] は表示されません。



各補正共通注意事項

- 撮影したJPEG画像の周辺光量低下、色収差、歪曲収差、回折現象を、後から補正することはできません。
- 他社製レンズ使用時は、**【補正データあり】**と表示されていても、**【しない】**に設定することをおすすめします。
- 画面の端のほうを拡大表示したときは、記録されない範囲が表示されることがあります。
- 距離情報を持たないレンズを使用したときは、補正量が少なくなります（回折補正を除く）。

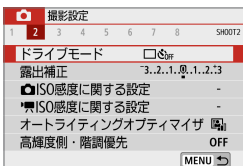


各補正共通事項

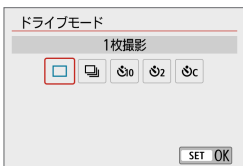
- レンズ光学補正の効果は、使用レンズや撮影条件などにより異なります。また、使用レンズや撮影条件などにより、効果が分かりにくい場合があります。
- 補正の効果が分かりにくいときは、撮影後に画像を拡大して確認することをおすすめします。
- エクステンダーやライフサイズコンバーター装着時にも補正が行われます。
- 補正データがカメラに登録されていないレンズで撮影したときは、補正 **【しない】**と同じ撮影結果になります（回折補正を除く）。
- 必要に応じて、EOS Utility使用説明書をあわせて参照してください。

ドライブモード

ドライブモードには1枚撮影と連続撮影があります。撮影シーンや被写体に応じてドライブモードを選びます。



1 [📷：ドライブモード] を選ぶ



2 ドライブモードを設定する

● [📷] 1枚撮影

シャッターボタンを全押しすると、1枚だけ撮影します。

● [📷] 連続撮影

シャッターボタンを全押しすると、押している間、ワンショットAF時：最高約6.1コマ/秒、サーボAF時：最高約4.0コマ/秒の連続撮影を行うことができます。

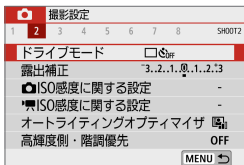
- [📷10 / 📷i📷] セルフタイマー：10秒／リモコン撮影
- [📷2] セルフタイマー：2秒
- [📷c] セルフタイマー：連続撮影

セルフタイマー撮影については📖137、リモコン撮影については📖193を参照してください。

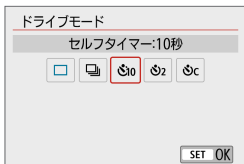
- ❗ ● 最高連続撮影速度は (📖135)、バッテリーパック：フル充電、シャッタースピード：1/1000秒以上、絞り開放（レンズの種類により異なる）、常温（+23℃）の条件で連続撮影を行ったときの最高速度です。
- 最高連続撮影速度はバッテリー残量、温度、シャッタースピード、絞り数値、被写体条件、明るさ、AF動作、レンズの種類、ストロボ使用、撮影機能の設定などの条件により低下することがあります。
- サーボAF時は、被写体条件や使用レンズにより、最高連続撮影速度が低下することがあります。
- 連続撮影中に内蔵メモリーがいっぱいになると、一時的に撮影ができなくなるため (📖126)、連続撮影速度が途中から遅くなる場合があります。

セルフタイマー撮影

セルフタイマーは記念撮影などに使用します。



1 [📷 : ドライブモード] を選ぶ

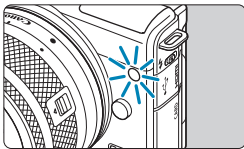


2 セルフタイマーを選ぶ

- 📷10 (📷10) : 10秒後に撮影
- 📷2 : 2秒後に撮影
- 📷c : 10秒後に設定枚数を連続撮影*

* 連続撮影枚数 (2~10) は、<▲> <▼> を押して設定します。

- カメラとワイヤレスリモートコントローラー (別売/📖 193) がペアリングされているときは、[📷10] が表示されます。



3 撮影する

- ピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。
- セルフタイマーランプと電子音、モニターに表示される秒数の減算表示で作動を確認することができます。
- 撮影の約2秒前にセルフタイマーランプの点滅が速くなり、電子音が速く鳴ります。



- 【**⓪c**】のときは、記録画質やストロボ使用などの撮影条件により、連続撮影の間隔が長くなることがあります。



- 【**⓪2**】は、三脚を使用した静物撮影や長秒時露光などで、撮影を開始する際、カメラから手を離しておきたいとき（カメラブレ防止）などに使用します。
- セルフタイマー撮影した画像は、その場で再生して（**Ⓜ**258）、プリントや露出を確認することをおすすめします。
- 自分一人だけをセルフタイマーで写すときは、自分が入る位置とほぼ同じ距離にあるものにフォーカスロックして撮影します（**Ⓜ**78）。
- セルフタイマー撮影を開始したあと、途中で中止するときは、モニターにタッチするか、〈**SET**〉を押します。
- リモコン撮影ができる状態に設定されているときは、オートパワーオフまでの時間が長くなることがあります。

露出補正

カメラが決めた標準的な露出に対して、明るめ（プラス補正）にしたり、暗め（マイナス補正）にして撮影することを「露出補正」といいます。

【P】【Tv】【Av】【M】モードのときに露出補正を行うことができます。補正できる範囲は、1/3段ステップ±3段です。

なお、【M】モード+ISOオート設定時の露出補正については、[113](#)を参照してください。

1 露出レベル表示を選ぶ

- 〈▲〉を押して露出レベル表示を選びます。

明るく（プラス）補正



暗く（マイナス）補正



2 補正量を設定する

- 画面を見ながら〈☀〉を回して設定します。
- 露出補正を行うと、[113](#)が表示されます。

3 撮影する

- 露出補正を解除するときは、露出レベル [113](#) を標準露出指標（[113](#)）の位置に戻します。

● [113](#)：オートライティングオプティマイザ（[113](#)）が、[113](#)以外に設定されているときは、暗めにする露出補正（マイナス補正）を行っても、明るく撮影されることがあります。



- 設定した補正量は、電源を切っても記憶されています。
- [113](#)：露出補正で設定することもできます。

静止画ISO感度に関する設定

応用

ISO感度(撮像素子の感度)は、撮影場所の明るさに応じて設定します。[A+]モード、[A/M]モード、スペシャルシーンモード、クリエイティブフィルターモードのときは、ISO感度が自動設定されます。

なお、動画撮影時のISO感度については、[501](#)を参照してください。

ISO感度



1 ISO感度の枠にタッチする



2 ISO感度を設定する

- <◀> <▶> を押して設定します。
- ISO100～25600の範囲で、1/3段ステップで設定することができます。
- [AUTO] を選んだときは、ISO感度が自動設定されます。

ISO感度を選ぶ時の目安

- ISO感度の数値が小さい（感度が低い）ほど、ノイズが少ない画像が撮影できますが、撮影シーンによっては、手ブレや被写体ブレが起きやすくなったり、ピントの合う範囲が狭く（被写界深度が浅く）なることがあります。
- ISO感度の数値が大きい（感度が高い）ほど、暗い場所で撮影できるようになったり、ピントの合う範囲を広く（被写界深度を深く）したり、ストロボ撮影時に遠くの被写体が撮影できるようになりますが、ノイズが多くなります。



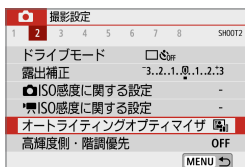
- **【ISO感度に関する設定】**の**【ISO感度】**で設定することもできます。
- **【P:カスタム機能(C.Fn)】**の**【ISO感度拡張】**を**【1:する】**に設定すると、「H」(ISO51200相当)も選択できるようになります (P461)。



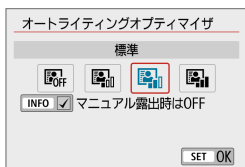
- H (ISO51200相当) は拡張ISO感度のため、通常よりもノイズ（輝点、縞）や色ムラが多くなり、解像感も低下します。
- **【P:高輝度側・階調優先】**を**【する】****【強】**に設定すると (P144)、ISO100/125/160、H (ISO51200相当) は選択できなくなります。
- 高ISO感度、高温、長秒時露光などの条件で撮影すると、画像のノイズ（ザラツキ感、輝点、縞など）や色ムラ、色味の変化が目立つことがあります。
- 高ISO感度、高温、長秒時露光の組み合わせなど、ノイズが非常に多くなる条件で撮影したときは、正常な画像が記録できないことがあります。
- 高ISO感度で近距離の被写体をストロボ撮影すると、露出オーバーになることがあります。

オートライティングオプティマイザ

撮影結果が暗いときや、コントラストが低いときまたは高いときに、明るさ・コントラストを自動的に補正することができます。



1 [📷]：オートライティングオプティマイザを選ぶ



2 補正内容を設定する



- 撮影条件により、ノイズが増えたり、解像感が変化することがあります。
- オートライティングオプティマイザの効果が強すぎて、好みの明るさにならないときは、**[弱め]** または **[しない]** に設定して撮影してください。
- **[しない]** 以外に設定したときは、露出補正、ストロボ調光補正で露出を暗めに設定しても、明るく撮影されることがあります。設定した通りの明るさで撮影したいときは、**[しない]** に設定してください。
- **[強め]** 設定時は、連続撮影可能枚数が少なくなります。また、カードに画像を記録する時間が長くなります。

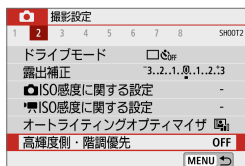


- 手順2で〈INFO〉ボタンを押して**[マニュアル露出時はOFF]**の**[✓]**を外すと、**[M]**モードでも**[📷]：オートライティングオプティマイザ**が設定できるようになります。

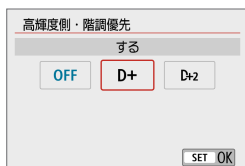
高輝度側・階調優先

応用

画像のハイライト部分の白とびを緩和することができます。



1 [カメラアイコン]：高輝度側・階調優先] を選ぶ



2 内容を設定して撮影する

- [する] を選んだときは、高輝度（ハイライト）側の階調表現性が向上します。グレーからハイライトまでの階調がより滑らかになります。
- [強] 設定時は、撮影シーンによって [する] 設定時よりもさらに白とびを緩和することができます。



- ノイズが若干増えることがあります。
- ISO感度の設定範囲がISO200～になります。また、拡張ISO感度は設定できません。
- 動画撮影時は、[強] は選択できません。
- [強] に設定しても、撮影シーンによっては、思い通りの効果が得られないことがあります。

測光モード

被写体の明るさを測る機能の特性を、4種類の中から選ぶことができます。
 [A+] モード、[A-] モード、スペシャルシーンモード、クリエイティブフィルターモード ([A]) を除く) のときは、評価測光に自動設定されます。



1 [A] : 測光モード] を選ぶ



2 測光モードを設定する

● [A] 評価測光

逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。撮影シーンに応じてカメラが露出を自動補正します。

● [A] 部分測光

逆光などで被写体の周辺に強い光があるときに有効です。画面中央部の約5.8%の範囲を測光します。画面に部分測光範囲が表示されます。

● [A] スポット測光

被写体の特定の部分を測光するときに有効です。画面中央部の約2.9%の範囲を測光します。画面にスポット測光範囲が表示されます。

● [A] 中央部重点平均測光

画面の中央部に重点を置いて、画面全体を平均的に測光します。



- カメラが初期状態のときは、以下のタイミングで露出が決まります。
【】は、シャッターボタン半押しでピントが合うと、半押ししている間、露出値が固定（AEロック）されます（ワンショットAF時）。【】／【】／【】は、撮影する瞬間に露出が決まります（半押しによる露出値の固定なし）。

測光タイマー

シャッターボタンを半押ししたときなどに自動的に作動する「測光タイマー」の作動時間（露出値の表示時間）を設定することができます。



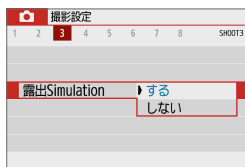
1 [📷：測光タイマー] を選ぶ

2 時間を設定する

露出Simulation

応用

露出Simulation（シミュレーション）は、実際の撮影結果（露出）に近い明るさをシミュレートして映像を表示する機能です。



1 [📷：露出Simulation] を選ぶ

2 内容を設定する

● する（Exp.SIM）

実際の撮影結果（露出）に近い明るさで表示されます。露出補正を行うと、補正量に応じて映像の明るさが変わります。

● しない（📷DISP）

映像が見やすいように、標準的な明るさで表示されます。露出補正を行っても、標準的な明るさで表示されます。

ホワイトバランス

ホワイトバランス（WB）は、白いものを白く写すための機能です。通常はオート【AWB】（雰囲気優先）、または【AWBw】（ホワイト優先）で適切なホワイトバランスが得られます。オートで自然な色あいにならないときは、光源別にホワイトバランスを選択したり、白い被写体を撮影して手動で設定します。



1 【カメラアイコン】：ホワイトバランス】を選ぶ



2 項目を選ぶ

(約)

表示	モード	色温度 (K : ケルビン)
AWB	オート (雰囲気優先 / 151)	3000~7000
AWBw	オート (ホワイト優先 / 151)	
☀	太陽光	5200
☁	日陰	7000
☁	くもり、薄暮、夕やけ空	6000
💡	白熱電球	3200
💡	白色蛍光灯	4000
⚡	ストロボ	自動設定*
📖	マニュアル (152)	2000~10000
K	色温度 (153)	2500~10000

* 色温度情報通信機能を備えたストロボ使用時。それ以外は約6000K固定

ホワイトバランスについて

人間の目には、照明する光が変化しても、白い被写体は白に見えるという順応性があります。デジタルカメラでは、照明光の色温度に応じて色の基準となる白を決め、ソフトウェア的に色あいを調整することで、自然な色あいで撮影することができます。

【AWB】オートホワイトバランスの設定

【AWB】では、白熱電球（タングステン光）下などで撮影したときに、その場の雰囲気重視してやや赤みがかった写真になります。【AWBw】を選べば、赤みの少ない写真にすることができます。

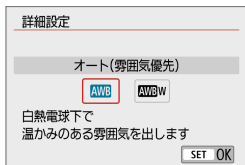


1 【📷：ホワイトバランス】を選ぶ



2 【AWB】を選ぶ

- 【AWB】を選んだ状態で〈INFO〉ボタンを押します。



3 項目を選ぶ

！ 【AWBw】設定時の注意事項

- 赤みのある被写体の色が薄くなることがあります。
- 画面内に複数の光源が含まれるときは、赤みの少ない写真にならないことがあります。
- ストロボ使用時は【AWB】と同じ色あいにになります。

[白] マニュアルホワイトバランス

マニュアルホワイトバランス (MWB) は、撮影場所の光源にあわせてホワイトバランスを設定するときに使用します。必ず撮影する場所の光源下で一連の操作を行ってください。



1 白い被写体を撮影する

- 画面全体に白い無地の被写体がくるようにします。
- 手動でピントを合わせ、白い被写体が標準露出になるように撮影します。
- ホワイトバランスはどの設定でも構いません。



2 [白 : MWB画像選択] を選ぶ



3 ホワイトバランスデータを取り込む

- 手順1で撮影した画像を〈◀〉〈▶〉で選び、〈SET〉を押します。
- [OK] を選ぶとデータが取り込まれます。



4 [白 : ホワイトバランス] を選ぶ

5 マニュアルWBを選ぶ

- [白] を選びます。



- 手順1で撮影した画像の露出が、標準露出から大きく外れていると、正確なホワイトバランスが設定されないことがあります。
- ピクチャースタイルを【モノクロ】に設定して撮影した画像、クリエイティブフィルターで撮影した画像、撮影後にクリエイティブフィルター処理した画像、トリミングした画像、他のカメラで撮影した画像は、選択できません。
- 設定に使用できない画像が表示されることがあります。



- 白い被写体の代わりに、市販のグレーチャートや18%標準反射板を撮影する方法もあります。

【K】 色温度



1 【📷：ホワイトバランス】を選ぶ



2 色温度を設定する

- 【K】を選びます。
- 〈🌅〉で色温度を設定し、〈SET〉を押します。
- 設定できる色温度範囲は、約2500～10000K（100Kステップ）です。



- 人工光源の色温度を設定するときは、必要に応じてWB補正（マゼンタ／グリーン寄りの補正）を行ってください。
- 市販のカラーメーターで測定した色温度を【K】に設定するときは、事前にテスト撮影を行い、カメラとカラーメーター間の誤差を補正した数値を設定してください。

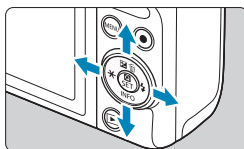
ホワイトバランス補正

応用

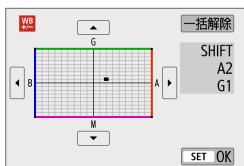
ホワイトバランスを補正して、市販の色温度変換フィルターや、色補正用フィルターと同じような効果を得ることができます。



1 [📷 : WB補正] を選ぶ



設定例：A2, G1



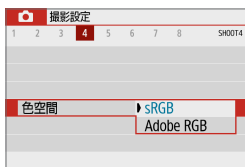
2 ホワイトバランスを補正する

- 〈◇〉 十字キーを操作して、画面上の [■] を希望する位置に移動します。
- Bはブルー、Aはアンバー、Mはマゼンタ、Gはグリーンの意味です。移動方向寄りの色に補正されます。画面右の [SHIFT] に補正方向と、補正量が表示されます。
- [一括解除] にタッチすると、[WB補正] の設定を一括解除することができます。
- 〈SET〉 を押すと設定が終了します。

- ブルー／アンバー方向の1段は、色温度変換フィルターの約5ミレッドに相当します（ミレッド：色温度変換フィルターの濃度を表すときなどに使用される色温度の単位）。

色空間

再現できる色の範囲（色域特性）のことを「色空間」といいます。一般的な撮影のときはsRGBをおすすめします。



1 [📷 : 色空間] を選ぶ

2 色空間を設定する

Adobe RGB

主に商用印刷などの業務用途で使います。Adobe RGB対応モニターや、DCF 2.0 (Exif 2.21以上) 対応プリンターなどの使用をおすすめします。



- 色空間をAdobe RGBに設定して撮影した静止画は、ファイル名の先頭文字が「_」（アンダーバー）になります。
- ICCプロファイルは付加されません。ICCプロファイルについては、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional使用説明書を参照してください。
- [A+]モード、[S+]モード、スペシャルシーンモード、クリエイティブフィルターモードのときは、[sRGB] に自動設定されます。

ピクチャースタイル選択

応用

ピクチャースタイルは、写真表現や被写体にあわせて、用意された項目を選ぶだけで効果的な画像特性が得られる機能です。



1 [📷：ピクチャースタイル] を選ぶ



2 スタイルを選ぶ

各スタイルの画像特性

● [📷:A] オート

撮影シーンに応じて、色あいが自動調整されます。特に自然や屋外シーン、夕景シーンでは、青空、緑、夕景が色鮮やかな写真になります。

● [📷:A] で好みの色あいにならなかったときは、他のスタイルに変更して撮影してください。

● [📷:S] スタンダード

鮮やかで、くっきりした写真になります。通常はこの設定でほとんどのシーンに対応できます。

● [📷:P] ポートレート

肌がきれいで、ややくっきりした写真になります。人物をアップで写すときに効果的です。

📖 160の【色あい】を変えると、肌色を調整することができます。

- **風景**

青空や緑の色が鮮やかで、とてもくっきりした写真になります。印象的な風景を写すときに効果的です。

- **ディテール重視**

被写体の細部の輪郭や繊細な質感の描写に適しています。やや鮮やかな写真になります。

- **ニュートラル**

パソコンでの画像処理に適した設定です。自然な色あいで、メリハリの少ない控えめな写真になります。

- **忠実設定**

パソコンでの画像処理に適した設定です。5200K（色温度）程度の太陽光下で撮影した写真が、測色的に被写体の色とほぼ同じになるように色調整されます。メリハリの少ない控えめな写真になります。

- **モノクロ**

白黒写真になります。



- **【モノクロ】** の設定で撮影したJPEG画像を、カラー写真に戻すことはできません。

- **ユーザー設定1〜3**

【ポートレート】や【風景】、ピクチャースタイルファイルなどの基本スタイルを登録し、好みにあわせて調整することができます（ 162）。登録されていないときは、【オート】の初期設定と同じ特性で撮影されます。

記号の意味

スタイル選択画面の記号は、[シャープネス] の [強さ] [細かさ] [しきい値] や、[コントラスト] などを表しています。数値は、各スタイルに設定されている各項目の設定値を示しています。

ピクチャースタイル     	
 オート	4, 2, 4, 0, 0, 0
 スタンダード	4, 2, 4, 0, 0, 0
 ポートレート	3, 2, 4, 0, 0, 0
 風景	5, 2, 4, 0, 0, 0
 ティテール重視	4, 1, 1, 0, 0, 0
 ニュートラル	0, 2, 2, 0, 0, 0
詳細設定 SET OK	

ピクチャースタイル     	
 ティテール重視	4, 1, 1, 0, 0, 0
 ニュートラル	0, 2, 2, 0, 0, 0
 忠実設定	0, 2, 2, 0, 0, 0
 モノクロ	4, 2, 4, 0, N, N
 ユーザー設定1	オート
 ユーザー設定2	オート
詳細設定 SET OK	

	シャープネス	
		強さ
		細かさ
		しきい値
	コントラスト	
	色の濃さ	
	色あい	
	フィルター効果 (モノクロ)	
	調色 (モノクロ)	

- 動画撮影時、[シャープネス] の [細かさ] [しきい値] は、ともに「*」と表示されます。また、[細かさ] [しきい値] は動画には反映されません。

ピクチャースタイル調整

応用

各ピクチャースタイルを初期設定から変更（調整）することができます。【メニュー】の調整については、161を参照してください。

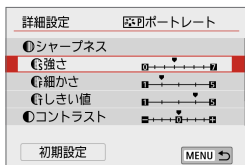


1 [カメラアイコン]：ピクチャースタイル] を選ぶ



2 スタイルを選ぶ

- 調整するスタイルを選び、【詳細設定】にタッチします。



3 項目を選ぶ

- 設定内容と効果については、『設定内容と効果』(160)を参照してください。



4 効果の度合いを設定する

- 値を設定し〈SET〉を押します。



- 〈MENU〉ボタンを押すと、調整した内容が保存され、スタイル選択画面に戻ります。
- 初期設定から変更した数値が青色で表示されます。

設定内容と効果

	シャープネス		
	 強さ	0：輪郭強調・控えめ	7：輪郭強調・強め
	 細かさ* ¹	1：細かい	5：粗い
	しきい値* ²	1：小さい	5：大きい
	コントラスト	-4：明暗差・弱	+4：明暗差・強
	色の濃さ	-4：薄い	+4：濃い
	色あい	-4：肌色が赤め	+4：肌色が黄色め

*1：強調する輪郭線の細かさを示しています。値が小さいほど、より細部が強調されやすくなります。

*2：「周囲に比べ、どの程度のコントラスト差があれば輪郭線を強調するか」の設定です。値が小さいほど、コントラスト差が少ない輪郭線が強調されやすくなります。なお、値を小さくするとノイズも強調されやすくなります。

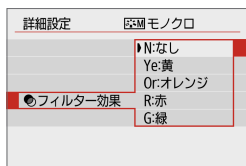


- 動画撮影時は【シャープネス】の【細かさ】【しきい値】の設定はできません（項目が表示されません）。
- 手順3で【初期設定】を選ぶと、スタイルごとに設定した内容を初期状態に戻すことができます。
- 調整したスタイルで撮影するときは、調整したスタイルを選択してから撮影します。

【】モノクロの調整

前ページで説明した【シャープネス】の【強さ】【細かさ】【しきい値】と【コントラスト】の他に、【フィルター効果】【調色】を設定することができます。

【】フィルター効果



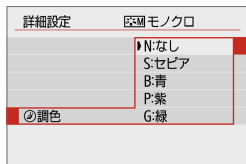
フィルター効果を使うと、同じモノクロ画像でも、白い雲や木々の緑を強調した画像にすることができます。

フィルター	効果例
N：なし	フィルター効果なしの通常の白黒画像になります。
Ye：黄	青空がより自然に再現され、白い雲がはっきりと浮かび上がります。
Or：オレンジ	青空が少し暗くなります。夕日の輝きがいっそう増します。
R：赤	青空がかなり暗くなります。紅葉の葉がはっきりと明るくなります。
G：緑	人物の肌色や唇が落ち着いた感じになります。木々の緑の葉がはっきりと明るくなります。



- 【コントラスト】をプラス側に設定して撮影すると、フィルター効果がより強調されます。

【】調色



調色を設定して撮影すると、色のついたモノクロ画像にすることができます。より印象的な画像を撮影したいときに有効です。

ピクチャースタイル登録

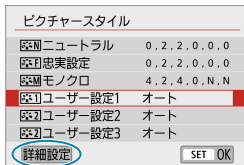
応用

【ポートレート】や【風景】などの基本スタイルを選択し、好みにあわせて調整して、【ユーザー設定1】から【ユーザー設定3】に登録することができます。設定が異なる複数のスタイルを用意しておきたいときに使用します。

また、EOS用ソフトウェアのEOS Utilityからカメラに登録したスタイルをここで調整することもできます。

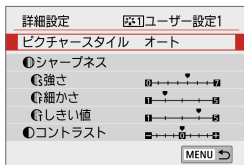


1 [📷:ピクチャースタイル] を選ぶ



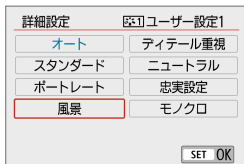
2 [ユーザー設定] を選ぶ

- 【ユーザー設定*】を選び、【詳細設定】にタッチします。



3 〈SET〉を押す

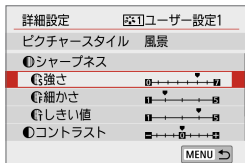
- 【ピクチャースタイル】が選ばれた状態で〈SET〉を押します。



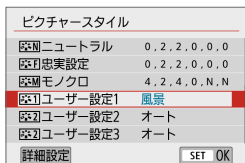
4 基本にするスタイルを選ぶ

- 基本にするスタイルを選びます。
- EOS用ソフトウェアのEOS Utilityから登録したスタイルを調整するときは、この操作で選択します。

5 項目を選ぶ



6 効果の度合いを設定する



- 詳しくは、『ピクチャースタイル調整』（ 159）を参照してください。

- 〈MENU〉ボタンを押すと内容が登録され、スタイル選択画面に戻ります。
[ユーザー設定*]の右に、基本にしたスタイルが表示されます。
登録したスタイルの設定内容が、初期設定から変更されているときは、スタイル名が青色で表示されます。



- [ユーザー設定*] にスタイルがすでに登録されているときは、基本にするスタイルを変更すると、登録されているスタイルの設定内容が無効になります。
- [📷: カメラの初期化] の [基本設定] (455) を選ぶと、[ユーザー設定*] に設定した内容が初期化されます。

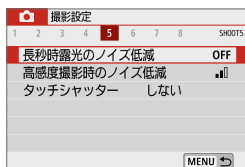


- 登録したスタイルで撮影するときは、登録した [ユーザー設定*] を選択してから撮影します。
- ピクチャースタイルファイルのカメラへの登録方法については、EOS Utility 使用説明書を参照してください。

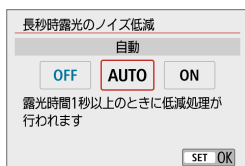
長秒時露光のノイズ低減

応用

露光時間1秒以上で撮影した画像に対して、長秒時露光特有のノイズ（輝点、縞）を低減することができます。



1 [📷：長秒時露光のノイズ低減] を選ぶ



2 低減内容を設定する

● [AUTO] 自動

露光時間1秒以上で撮影した画像に対し、長秒時露光特有のノイズが検出された場合に自動低減処理が行われます。通常はこの設定で十分な効果が得られます。

● [ON] する

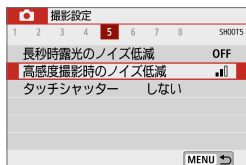
露光時間1秒以上で撮影した画像に対し、常に低減処理が行われます。【自動】で検出できないノイズがあったときに【する】で撮影すると、ノイズを低減できることがあります。



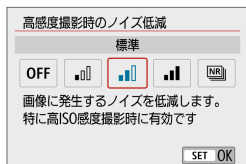
- 【自動】【する】設定時は、撮影後、ノイズ低減処理のために露光時間と同じ時間が必要となることがあります。
- 【しない】【自動】設定時よりも【する】設定時の方が、画像のザラつきが多くなることがあります。
- ノイズ低減処理中は【BUSY】が表示され、処理が終了するまで撮影画面は表示されません（次の撮影はできません）。

高感度撮影時のノイズ低減

画像に発生するノイズを低減することができます。特に高ISO感度撮影時に有効です。低ISO感度撮影時は、低輝度部（暗部）のノイズをさらに低減することができます。



1 [📷]：高感度撮影時のノイズ低減 を選ぶ



2 レベルを設定する

● [NR] マルチショットノイズ低減機能

【強め】よりも高画質なノイズ低減処理が行われます。1回の撮影で4枚連続撮影し、自動的に画像の位置を合わせながら合成を行い、1枚のJPEG画像が記録されます。

なお、記録画質がRAW、RAW+JPEGに設定されているときは、【マルチショットノイズ低減機能】は設定できません。



マルチショットノイズ低減機能設定時の注意事項

- 手ブレなどにより画像のズレ量が大きいときは、ノイズ低減効果が小さくなる場合があります。
- 手持ち撮影のときは手ブレに注意してください。三脚の使用をおすすめします。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ることがあります。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なときは、自動位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 4枚連続撮影中に被写体の明るさが変化したときは、画像に露出ムラが発生することがあります。
- 撮影後にノイズ低減処理と画像合成を行ってからカードに記録するため、時間がかかります。画像処理中は【BUSY】が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。
- バルブ撮影、RAW、RAW+JPEG、長秒時露光のノイズ低減、クリエイティブフィルターなどが設定されているときは、【マルチショットノイズ低減機能】は設定できません。
- ストロボ撮影はできません。
- 動画撮影時は、【マルチショットノイズ低減機能】は設定できません（表示されません）。
- 電源を切る、バッテリー交換、カード交換、【A+】モード、【A-】モード、スペシャルシーンモード、クリエイティブフィルターモードに変更、動画撮影への切り換えを行うと、自動的に【標準】に切り換わります。

タッチシャッター

画面にタッチするだけで、ピント合わせから撮影まで自動で行うことができます。



1 タッチシャッター機能を設定する

- 画面右下の【】にタッチします。
- タッチするたびに、【】と【】が切り換わります。
- 【】（タッチシャッター：する）
タッチした位置にピントを合わせてから撮影が行われます。
- 【】（タッチシャッター：しない）
タッチした位置にピントを合わせることができます。シャッターボタンを全押しして撮影します。



2 画面にタッチして撮影する

- 画面上の顔や被写体にタッチします。
- 設定されているAF方式（ 172）で、タッチした位置でピント合わせが行われます（タッチAF）。
- 【】に設定したときは、ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、自動的に撮影されます。
- ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色に変わり、撮影できません。もう一度、画面上の顔や被写体にタッチします。



- ドライブモードを【】に設定していても、1枚撮影になります。
- [AF動作] が【サーボAF】に設定されていても、画面にタッチしたときは【ワンショットAF】でピント合わせが行われます。
- 拡大表示中に画面にタッチしても、ピント合わせや撮影は行われません。
- [:撮影画像の確認時間] を【ホールド】に設定して、タッチで撮影を行ったときは、シャッターボタンを半押しすると、次の撮影を行うことができます。



- バルブ撮影時は2回タッチします。1回目のタッチで露光を開始し、2回目のタッチでバルブ撮影が終了します。タッチするときにカメラが動かないように注意してください。

AF動作

撮影状況や被写体にあわせて、AFの作動特性を選ぶことができます。



1 [カメラアイコン] : AF動作] を選ぶ



2 項目を選ぶ



- ピントが合わないとAFフレームがオレンジ色になります。このときはシャッターボタンを全押ししても撮影できません。構図を変えて再度ピント合わせを行うか、『ピントが合いにくい撮影条件』（P.181）を参照してください。

止まっている被写体を撮る：ワンショットAF (ONE SHOT)

止まっている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると、1回だけピント合わせを行います。

- 被写体にピントが合うと、AFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定され、構図を変えて撮影することができます。
- 連続撮影時の連続撮影速度は、📖 135でご確認ください。



- [F: 電子音] を [切] に設定すると、ピントが合ったときに電子音が鳴らないようになります。

動いている被写体を撮る：サーボAF (SERVO)

動いている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押ししている間、被写体にピントを合わせ続けます。

- 被写体にピントが合うと、AFフレームが青色に変わります。
- 露出は撮影の瞬間に決まります。
- 連続撮影時の連続撮影速度は、📖 135でご確認ください。



- 使用するレンズや被写体との距離、被写体の動く速さによっては、適切なピント合わせができないことがあります。
- 連続撮影中にズーム操作を行うと、ピントがズレることがあります。ズーム操作を行い構図を決めてから撮影してください。



- ピントが合っても電子音は鳴りません。

AF補助光について

暗い場所などでシャッターボタンを半押しすると、AFでピントを合わせやすくするために、AF補助光（ 36）が光ることがあります。



- [📷 : AF動作] が [サーボAF] のときは、AF補助光は投光されません。
- タッチAFを行ったとき ([📷 : タッチシャッター] が [しない] に設定されているとき) は、AF補助光は投光されません。

AF方式

撮影状況や被写体にあわせて、AF方式を選ぶことができます。AFフレームまたはゾーンAFフレーム内に、人物がいる場合は顔を優先してピント合わせを行います。[AF+] [AF] [AF] モードのときは、[AF+]追尾優先AF に自動設定されます。

AF方式の選択方法は 174 を参照してください。



顔+追尾優先AF

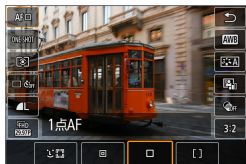
人の顔を検知してピント合わせを行います。顔を検知すると、ピント合わせを行うAFフレーム [] が顔の部分に表示され、顔を追尾します。

顔を検知しないときは、AF領域全体で自動選択AFを行います。サーボAFのときは、撮影中はエリアAFフレームで被写体を捉えていれば、継続してピント合わせが行われます。



回：スポット1点AF

1点AFよりも狭い範囲でピント合わせを行います。



□：1点AF

1つのAFフレーム [] でピント合わせを行います。



【 】：ゾーンAF

AF範囲が広い「ゾーンAFフレーム」で自動選択AFを行うため、1点AFよりも被写体を捉えやすくなります。

最も近距離の被写体を優先してピントを合わせます。また、ゾーンAFフレーム内に人物がいる場合は、顔を優先してピントを合わせます。ピントが合ったAFフレームは【□】で表示されます。

AF方式を選ぶ

撮影状況や被写体にあわせて、AF方式を選ぶことができます。

なお、手動でピント合わせを行いたいときは、 187を参照してください。



1 [📷 : AF方式] を選ぶ

2 項目を選ぶ



-  175～ 177では、[📷 : AF動作] が [ワンショットAF] ( 170) に設定されていることを前提に説明しています。[サーボAF] ( 170) に設定しているときは、被写体にピントが合うとAFフレームが青色に変わります。
- タッチシャッター（タッチ操作によるAFと撮影）については、 167を参照してください。

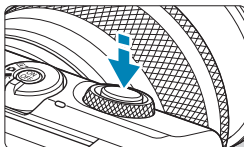
● ② (顔) + 追尾優先AF :

人の顔を検知してピント合わせを行います。顔が動くとAFフレーム[]も動いて顔を追尾します。



1 AFフレームを確認する

- 顔を検知すると、AFフレーム [] が表示されます。



2 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しして、ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色で表示されます。



3 撮影する

顔にタッチしてピントを合わせるとき

ピントを合わせたい顔や被写体にタッチすると、AFフレームが【F 2】に変わりピント合わせが行われます。

画面内で顔や被写体が動いても、被写体を追尾してAFフレーム【F 2】も動きます。



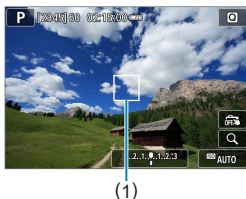
- ピントが大きく外れていると顔を検知できません。顔が検知できる位置まで手でピントを動かしてから（ 187）、AFを行ってください。
- 顔以外の被写体を顔として検知することがあります。
- 「顔が画面に対して極端に小さい／大きい」「顔が明るすぎる／暗すぎる」「顔の一部が隠れている」ときは、顔を検知できません。
- 画面の端のほうにある顔や被写体に対してはAFができません。被写体が中央または中央寄りになるように構図を変えて撮影してください。



- ピント合わせを行う【F 2】が、顔全体ではなく、顔の一部分にだけ表示されることがあります。
- AFフレームは被写体により大きさが変化します。

● スポット1点AF/1点AF/ゾーンAF

AFフレーム、またはゾーンAFフレームを任意設定することができます。
ここでは、1点AF時の画面を例に説明します。



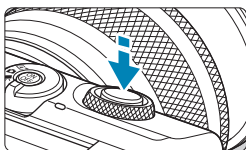
1 AFフレームを確認する

- AFフレーム（1）が表示されます。
ゾーンAFのときは、ゾーンAFフレームが表示されます。



2 AFフレームを移動する

- ピントを合わせたい位置にタッチして、AFフレームを移動します。
- [AF] にタッチすると、AFフレームまたはゾーンAFフレームが画面中央に戻ります。
- [Q] にタッチすると、拡大表示することができます。[Q] にタッチするたびに、拡大倍率が切り換わります。



3 ピントを合わせる

- AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色に変わります。



4 撮影する



- ゾーンAFで、サーボAFに設定したときは、ピント合わせを行うAFフレーム【□】が被写体に追従して移動しますが、被写体が小さいときなど、撮影条件によっては追従しないことがあります。
- AFフレームが画面内の外側寄りにあるときは、AF補助光でピントが合いにくいことがあります。そのときは、AFフレームを画面の中央に移動してください。

拡大表示について

【Q】にタッチして、映像を約5倍、約10倍に拡大してピントを確認することができます。【**J**+追尾優先AF】のときは拡大表示できません。

- 【スポット1点AF】【1点AF】設定時はAFフレームの位置、【ゾーンAF】設定時はゾーンAFフレームの中央部が拡大表示されます。
- シャッターボタンを半押しすると、【スポット1点AF】【1点AF】設定時は拡大表示のままAFが行われます。【ゾーンAF】設定時は、通常表示に戻って、AFが行われます。
- サーボAF時に、拡大表示を行った状態でシャッターボタンを半押しすると、通常表示に戻ってピント合わせが行われます。



- 拡大表示の状態でピントが合いにくいときは、通常表示に戻してAFを行ってください。
- 通常表示の状態でAFを行ったあと拡大表示を行うと、正確にピントが合っていないことがあります。
- AFの速度は通常表示と拡大表示の状態で異なります。
- 拡大表示中、コンティニュアスAF、動画サーボAFは行われません。
- 拡大表示のときは、手ブレによりピントが合いにくくなります。三脚の使用をおすすめします。

AF撮影のヒント

- ピントが合った状態でも、シャッターボタンを半押しすると、もう一度ピント合わせが行われます。
- AFの前後で、映像の明るさが変わることがあります。
- 被写体や撮影条件により、ピント合わせに時間がかかったり、連続撮影速度が低下することがあります。
- 撮影中に光源（照明光）が変化すると、画面がちらついてピントが合いにくいことがあります。そのときは、電源を入れ直し、撮影する光源下でAFを行ってください。
- AFでピントが合わないときは、手動でピント合わせを行ってください（ 187）。
- 画面の端のほうにある被写体を撮影したときに、わずかにピントがズレているときは、被写体（またはAFフレーム／ゾーンAFフレーム）を画面の中央寄りにして、再度ピント合わせを行ってから撮影してください。
- 使用するレンズによっては、AFでピントが合うまでに時間がかかったり、適切なピント合わせができないことがあります。

ピントが合いにくい撮影条件

- 青空、単色の平面、画面上で被写体が白とびや黒つぶれしているときなど、明暗差（コントラスト）のない被写体
- 暗い場所にある被写体
- 縞模様など、水平方向のコントラストしかない被写体
- 繰り返し模様の被写体（例：ビルの窓やパソコンのキーボードなど）
- 細い線、被写体の輪郭部分
- 明るさや色、パターンが変化する光源
- 夜景など、点状の光源
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で、映像がちらついている場合（フリッカー）
- 被写体が極端に小さい場合
- 画面の端のほうにある被写体
- 強い逆光状態、または光の反射が強い被写体（例：反射光の強い車のボディなど）
- 近くと遠くにある被写体が、AFフレームの中に入っている場合（例：おりの中の動物など）
- 手ブレや被写体ブレで、AFフレーム内の被写体が揺れ動いて、静止しない場合
- 大きくピントがぼけた状態からAFを行った場合
- ソフトフォーカスレンズで、ソフトフォーカス撮影する場合
- 特殊効果フィルターを使用している場合
- AF中に画面にノイズ（輝点、縞など）が表示されている場合

AF範囲について

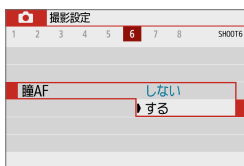
使用するレンズやアスペクト比、動画記録画質、動画電子ISなどの設定によって、AF可能な範囲は変わります。

瞳AF

AF方式が【**Ⓜ**+追尾優先AF】のとき、人物の目にピントを合わせることができます。



1 【📷: 瞳AF】を選ぶ



2 [する] を選ぶ



3 被写体にカメラを向ける

- 目の周囲にAFフレームが表示されます。
- 画面にタッチして、ピントを合わせたい目を選ぶことができます。
- 鼻や口などにタッチしたときは、顔が選ばれます。ピントを合わせる目はカメラが自動的に選びます。

4 撮影する

● 撮影シーンや被写体によっては、被写体の目が正しく検出されないことがあります。

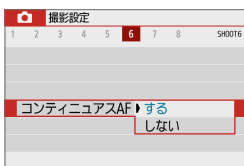
● <SET> を押したあと、クイック設定画面で【AF方式】の【**Ⓜ**+追尾優先AF】を選択しているときに、<MENU> ボタンを押すと、【瞳AF】の設定を行うことができます。

コンティニュアスAF

常に被写体に対しておおまかにピントを合わせ続ける機能です。シャッターボタンを半押ししたときに素早くピントが合います。



1 [📷 : コンティニュアスAF] を選ぶ



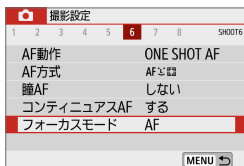
2 [する] を選ぶ



- [する] 設定時は、常にレンズが動作してバッテリーを消耗するため、撮影可能枚数が少なくなります。

フォーカスモード

EF-Mレンズ使用時のピント合わせの方法（フォーカスモード）を設定することができます。



1 [📷：フォーカスモード] を選ぶ



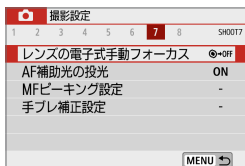
2 項目を選ぶ

- [AF] を選ぶと、オートフォーカス（自動ピント合わせ）になります。
- [MF] を選ぶと、マニュアルフォーカス（手動ピント合わせ）になります。

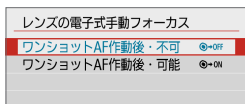
レンズの電子式手動フォーカス

応用

電子式の手動フォーカス機能を備えたEF-M/EF/EF-Sレンズを使用して、ワンショットAFを行ったときの手動ピント調整の設定ができます。



1 [カメラアイコン]：レンズの電子式手動フォーカスを選ぶ



2 項目を選ぶ

● [OFF] ワンショットAF作動後・不可

AF動作を行ったあとの、手動ピント調整を禁止します。

● [ON] ワンショットAF作動後・可能

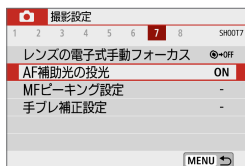
AF動作を行ったあと、シャッターボタン半押しを続けていれば、手動でピント調整ができます。



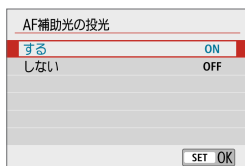
- お使いのレンズの手動フォーカス機能の仕様は、レンズの使用説明書でご確認ください。

AF補助光の投光

カメラからAF補助光を投光することができます。



1 [📷 : AF補助光の投光] を選ぶ



2 項目を選ぶ

● [ON] する

必要に応じてAF補助光が投光されます。

● [OFF] しない

AF補助光は投光されません。AF補助光を投光したくないときに設定します。

手動ピント合わせ(マニュアルフォーカス)

AFでピント合わせができないときは、映像を拡大表示して、手動でピントを合わせることができます。



1 【📷：フォーカスモード】を【MF】にする

- レンズのフォーカスリングを回して、おまかにピントを合わせておきます。



2 映像を拡大する

- 【Q】にタッチするたびに、次のように画面が切り換わります。

→ 1倍 → 5倍 → 10倍 →



(1) (2) (3)

3 拡大位置を決める

- 画面にタッチしたあと指でスクロールすると、拡大位置を変えることができます。
- 【📷】にタッチすると、拡大位置が画面中央に戻ります。

4 手動でピントを合わせる

- 拡大された映像を見ながら、レンズのフォーカスリングを回してピントを合わせます。
- ピント合わせが終わったら、[Q] にタッチして通常表示にします。

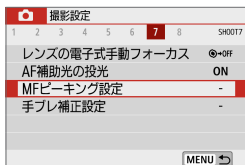
5 撮影する



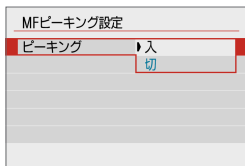
- EF-Mレンズ以外のレンズ装着時は、手順1でレンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にしてください。
- 手動ピント合わせのときも、タッチシャッターで撮影することができます。

MFピーキング設定

手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）のときに、ピントが合った被写体の輪郭を色つきの強調表示にすることで、ピント合わせをやすくすることができます。また、輪郭の検出感度（レベル）や輪郭の色を変えることもできます。

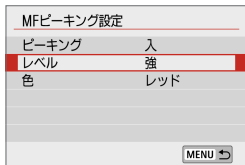


1 [📷 : MFピーキング設定] を選ぶ



2 [ピーキング] を選ぶ

- [入] を選びます。



3 レベル、色を設定する

- 必要に応じて設定します。



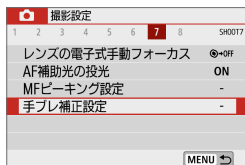
- 拡大表示中、ピーキング表示は行われません。
- 高ISO感度設定時（特に拡張ISO感度設定時など）は、MFピーキングが分かりにくい場合があります。必要に応じてISO感度を下げるか、[ピーキング] を [切] に設定してください。



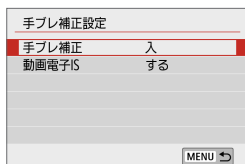
- モニターに表示される輪郭は、撮影画像には記録されません。

手ブレ補正設定

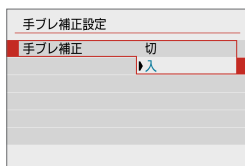
手ブレ補正（IS）機能が内蔵されたEF-Mレンズ使用時は、手ブレ補正の設定を変えることができます。[動画電子IS] については、 235を参照してください。



1 [📷：手ブレ補正設定] を選ぶ



2 [手ブレ補正] を選ぶ



3 内容を設定する

- [切]
手ブレ補正は行われません。
- [入]
手ブレ補正が行われます。

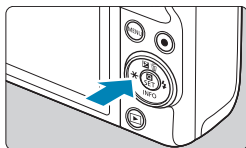
-  ● (手ブレ補正（IS）機能が内蔵された) EFレンズ／EF-Sレンズ使用時は、[手ブレ補正] の項目は表示されません。
- 手ブレを補正しきれないときは、三脚などでカメラを固定してください。また、三脚などでカメラを固定するときは、[手ブレ補正] を [切] にすることをおすすめします。

露出の固定(AEロック)

ピントと露出を別々に決めたいときや、同じ露出で何枚も撮影するときに使用します。〈＊〉ボタンを押して露出を固定したあと、構図を変えて撮影します。逆光下の撮影などで有効です。

1 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。



2 〈＊〉ボタンを押す

- 画面左下に【＊】が表示され、露出が固定(AEロック)されます。
- もう一度〈＊〉ボタンを押すと、AEロックが解除されます。

3 構図を決めて撮影する



AEロックの効果

測光モード	AFフレーム選択	
	自動選択	任意選択
	ピントを合わせたAFフレームを中心にした露出値でAEロック	選択されているAFフレームを中心にした露出値でAEロック
	画面中央を中心にした露出値でAEロック	

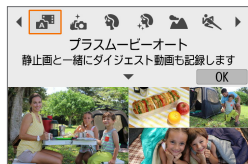
* 【】設定時に、【 : フォーカスマード】が【MF】のときは、画面中央を中心にした露出値でAEロックされます。



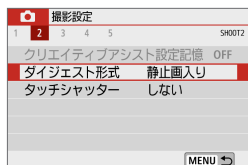
- バルブ撮影時はAEロックできません。

ダイジェスト形式

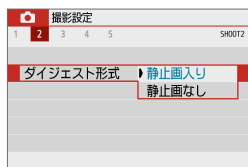
【A】モードで撮影すると、静止画とダイジェスト動画が記録されますが、ダイジェスト動画の中に静止状態の映像を記録するかどうかを設定できます。



1 撮影モードを【A】にする



2 【📷：ダイジェスト形式】を選ぶ



3 内容を設定する

● 【静止画入り】

ダイジェスト動画の中に、静止状態の映像が記録されます。

● 【静止画なし】

ダイジェスト動画の中に、静止状態の映像は記録されません。

リモコン撮影

「ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1」（別売／Bluetooth接続）を使用したりモコン撮影を行うことができます。

ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1

カメラから最大約5m離れてリモコン撮影を行うことができます。
最初にカメラとBR-E1のペアリングを行ってから（[📖 389](#)）、ドライブモードを【[📷🔊](#)】に設定してください（[📖 136](#)）。
操作方法については、BR-E1の使用説明書を参照してください。



- リモコン撮影ができる状態に設定されているときは、オートパワーオフまでの時間が長くなることがあります。
- 動画撮影時にリモコンを使用することもできます（[📖 237](#)）。

静止画撮影全般の注意事項



- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けしないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。

画質について

- 高ISO感度で撮影すると、ノイズ（輝点、縞など）が目立つことがあります。
- 高温下で撮影すると、ノイズや色ムラが発生することがあります。
- 撮影を長時間継続すると、カメラ内部の温度が上昇して、画質が低下することがあります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。
- カメラ内部の温度が上昇した状態で長秒時露光を行うと、画質が低下することがあります。撮影を一旦終了し、数分間経ってから撮影してください。

カメラ内部の温度上昇に伴う、白い【H】と赤い【H】表示について

- 撮影を長時間行ったり、高温下で撮影を行うと、カメラ内部の温度が上昇し、白い【H】または赤い【H】が表示されます。
- 白い【H】は、静止画の画質が低下することを示しています。このため、カメラ内部の温度が下がるまで、撮影を一時休止することをおすすめします。
- 赤い【H】は、もうすぐ撮影が自動的に終了することを示しています。そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで撮影ができなくなるため、撮影を一時休止するか、一旦電源を切ってしばらくカメラを休止してください。
- 高温下で撮影を長時間行くと、白い【H】または赤い【H】が表示されるタイミングが早くなります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。
- 白い【H】が表示されていなくても、カメラ内部の温度が上昇している状態で、高ISO感度撮影、長秒時露光を行うと、画質が低下することがあります。

撮影結果について

- 拡大表示中は、シャッタースピードと絞り数値がオレンジ色で表示されます。拡大表示の状態では撮影すると、意図した露出で撮影されないことがあります。通常表示に戻して撮影してください。
- 拡大表示の状態でも撮影しても、通常表示の範囲が撮影されます。



映像について

- 低輝度、高輝度条件下では、映像が撮影結果に近い明るさで表示されないことがあります。
- ISO感度を低く設定しても、暗い場所では映像にノイズが多く表示されることがありますが、撮影を行うとノイズの少ない画質で撮影されます（映像と撮影した画像の画質は異なります）。
- 表示中に光源（照明光）が変化すると、画面や露出値の表示がちらつくことがあります。そのときは、撮影を一旦終了し、撮影する光源下で撮影を再開してください。
- カメラの向きを変えると、映像が一瞬適切な明るさで表示されないことがあります。適切な明るさに安定するのを待ってから撮影してください。
- 極端に明るい光源が画面内にあると、明るい部分が黒っぽくつぶれたように表示されることがあります。ただし、撮影すると、その部分は明るい状態で正しく記録されます。
- 暗い場所で【**☞：画面の明るさ**】を明るい設定にすると、映像にノイズや色ムラが発生することがあります。ただし、このノイズや色ムラは撮影画像には記録されません。
- 映像を拡大表示すると、シャープネスが実際の設定よりも強くかかって見えることがあります。

レンズについて

- 手ブレ補正機能が搭載されたEF-Mレンズ使用時は、【**📷：手ブレ補正設定**】の【**手ブレ補正**】が【**入**】のとき、シャッターボタンを半押ししなくても、常時手ブレ補正機能が作動します。そのため、バッテリーが消耗して撮影条件により撮影可能枚数が少なくなることがあります。三脚使用時など補正の必要がないときは、【**手ブレ補正**】を【**切**】に設定にすることをおすすめします。
- EFレンズ使用時は、2011年下期以降に発売された、フォーカスプリセット機能を備えた（超）望遠レンズ使用時のみ、撮影時にフォーカスプリセットを行うことができます。



- 市販のHDMI ケーブル（カメラ側の端子はタイプD）を使用すると、映像をテレビに表示することができます（[P.272](#)）。ただし、音声は出力されません。

情報表示について

静止画撮影画面に表示されるアイコン（マーク）については、 503を参照してください。



- **【Exp.SIM】** が白く表示されているときは、実際の撮影結果に近い明るさで映像が表示されています。
- **【Exp.SIM】** が点滅しているときは、低輝度、または高輝度条件下で映像が撮影結果と異なる明るさで表示されていることを示しています。ただし、撮影を行うと露出設定どおりに記録されます。また、実際に撮影される画像よりもノイズが多く見えることがあります。
- 撮影機能の設定条件によっては、露出シミュレーションが行われないことがあります。そのときは **【Exp.SIM】** とヒストグラムが灰色で表示されます。このとき画面に表示される映像は、標準的な明るさで表示されます。また、低輝度、高輝度条件下ではヒストグラムが適切に表示されないことがあります。
- ヒストグラムは、**【📷：露出Simulation】** が **【する】** に設定されているときに ( 148) 表示することができます。

動画撮影



動画撮影を行うときは、撮影モードスイッチを〈〉にします。



- 静止画撮影時に動画撮影ボタンを押すと、動画を撮影することができます。
- 動画の撮影モードは、撮影モードスイッチを〈〉に合わせたあと、**[:撮影モード]** で設定することができます。

メニュー目次:動画撮影

● 撮影設定1

撮影設定						
1	2	3	4	5	6	SHOOT1
撮影モード		映画				200
動画記録画質		FHD 29.97P IPB				207
動画セルフタイマー		切				214
録音		オート				215
レンズ光学補正		-				130
MENU						

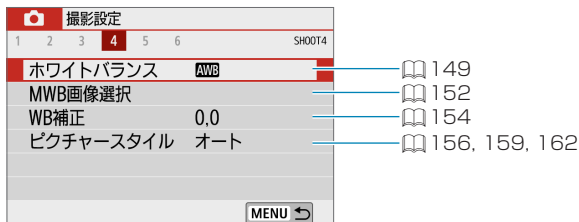
● 撮影設定2

撮影設定						
1	2	3	4	5	6	SHOOT2
リモコン撮影		する				193
タイムラプス動画		しない				217
ビデオスナップ		撮影しない				226
MENU						

● 撮影設定3

撮影設定						
1	2	3	4	5	6	SHOOT3
露出補正		-3..2..1..0..1..2..3				139
ISO感度に関する設定		-				238
オートライティングオブティマイザ						143
高輝度側・階調優先		OFF				144
測光タイマー		8秒				147
MENU						

● 撮影設定5



● 撮影設定5



● 撮影設定6



動画モード

【📹】動画自動露出撮影

明るさに応じて自動露出制御が行われます。



1 撮影モードスイッチを「📹」にする

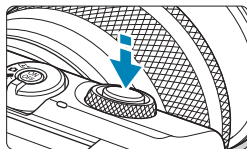


2 撮影モードのマークにタッチする



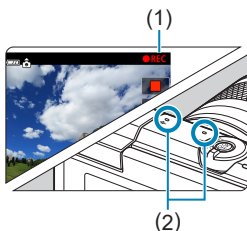
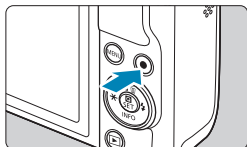
3 撮影モードを「📹」にする

- 「📹（動画自動露出）」を選び、「SET」を押します。



4 ピントを合わせる

- 動画撮影を始める前に、AFまたは手動でピントを合わせます（📖 174～📖 181、📖 187）。
- 初期状態では、【📷：動画サーボAF】が【す】に設定されているため、常時ピント合わせが行われます（📖 233）。
- シャッターボタンを半押しすると、設定されているAF方式でピント合わせが行われます。



5 動画を撮影する

- 動画撮影ボタンを押すと、動画撮影が始まります。
- 動画撮影中は、画面右上に【●REC】(1)が表示されます。
- 図の位置に示すマイク (2) で音声記録されます。
- もう一度動画撮影ボタンを押すと、動画撮影が終了します。



- 〈※〉ボタンを押すと、露出を固定(AEロック)することができます。もう一度〈※〉ボタンを押すと解除されます。(〈※〉ボタンを押すまで保持されます)。
- ±3段までの範囲で露出補正を行うことができます。
- 動画の画像情報(Exif情報)にISO感度、シャッタースピード、絞り数値は記録されません。

【P/A】モード設定時のISO感度

ISO感度は自動設定されます。ISO感度については、 501を参照してください。

[M] 動画マニュアル露出撮影

任意にシャッタースピード、絞り数値、ISO感度を設定して、動画撮影を行うことができます。



1 撮影モードスイッチを「M」にする



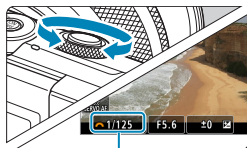
2 撮影モードを「M」にする

- [M] (動画マニュアル露出) を選び、〈SET〉を押します。



3 ISO感度を設定する (204)

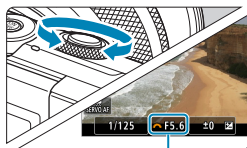
- ISO感度の枠にタッチします。
- ISOオート設定時は、露出補正を行うことができます (113)。



(1)

4 シャッタースピードを設定する

- 〈M/〉 を回して設定します。
- 設定できるシャッタースピードは、1/4000～1/8秒です。



(2)

5 絞り数値を設定する

- 〈▲〉 を押して絞り数値を選び、〈M/〉 を回して設定します。

6 ピントを合わせて撮影する

- 『**[P]** 動画自動露出撮影』(📖200)の手順4、5と同じです。



- 撮影モードスイッチを、**[A+]** または **[A]** から **[P]** に切り換えたときは、動画撮影を行う前にカメラの設定を再確認してください。
- 動画撮影中にシャッタースピードや絞り数値の変更を行うと、露出変化が記録されたり、高ISO感度でノイズが記録されることがあるため、おすすめできません。
- 動きのある被写体を動画撮影するときは、1/25～1/125秒程度のシャッタースピードをおすすめします。シャッタースピードを速くするほど、被写体の動きが滑らかに再現されなくなります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画撮影を行っているときに、シャッタースピードを変更すると、画面のちらつきが記録されることがあります。



- ISOオート設定時に±3段までの範囲で露出補正を行うことができます。
- ISOオート設定時に **[*]** ボタンを押すと、ISO感度を固定（ロック）することができます。もう一度 **[*]** ボタンを押すと解除されます。**[*]** ボタンを押すまで保持されます。
- **[*]** ボタンを押して構図を変えると、**[*]** ボタンを押したときとの露出差を露出レベル表示で確認することができます。
- **[M]** モード時に撮影準備状態で **[INFO]** ボタンを押すと、ヒストグラムを表示することができます。

【動画マニュアル露出】設定時のISO感度

ISO感度を任意に設定したり、[AUTO]（自動設定）を選ぶこともできます。ISO感度については、📖 501を参照してください。

静止画撮影について

動画モードでは、静止画は撮影できません。静止画を撮影するときは、撮影モードスイッチを〈+〉または〈〉に変更してください。

動画撮影時の情報表示について

動画撮影画面に表示されるアイコン（マーク）については、📖 505を参照してください。



動画撮影時共通注意事項

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けしないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- 細かいパターンの被写体を撮影すると、モアレや偽色が発生することがあります。
- **[AWB]** **[AWBw]** の設定で動画撮影中に、ISO感度や絞り数値が変わると、ホワイトバランスが変化することがあります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画を撮影すると、画面にちらつきが発生することがあります。
- USMレンズを使用して暗い場所で動画撮影中にAFを行うと、動画に横縞状のノイズが記録されることがあります。なお、電子式フォーカスリングを備えた一部のレンズでは、手動ピント合わせ（MF）でも同様のノイズが記録されることがあります。
- 動画撮影中にズーム操作を行うときは、テスト撮影をおすすめします。ズーム操作を行うと、露出変化やレンズの作動音が記録されたり、録音される音量が不安定になったり、ピントがズレることがあります。
- 絞り数値が大きいときは、ピントが合うまでに時間がかかったり、適切なピント合わせができないことがあります。
- 動画撮影中にAFを行うと、「一時的にピントが大きくぼける」「動画の明るさが変化して記録される」「動画が一瞬停止して記録される」「レンズの作動音が記録される」などの現象が起こることがあります。
- カメラに内蔵されたマイク（ 201）を指などでふさがないようにしてください。
- 『動画撮影全般の注意事項』は、 242～ 243にまとめて記載しています。
- 必要に応じて 194～ 195の『静止画撮影全般の注意事項』もお読みください。



動画撮影時共通事項

- 1回撮影するたびに、カードに新たな動画ファイルが作成されます。
- 映像の視野率は、4K／フルHD／HD撮影時ともに約100%です。
- 【🔍:動画撮影時シャッターボタンの機能】の【全押し】を【動画撮影の開始/終了】に設定すると、シャッターボタンの全押しで、動画撮影を開始／終了することができます。
- 音声はカメラに内蔵されたマイク（📖201）でステレオ録音されます。
- EFレンズ使用時は、2011年下期以降に発売された、フォーカスプリセット機能を備えた（超）望遠レンズ使用時のみ、撮影時にフォーカスプリセットを行うことができます。
- カラーサンプリングは、4K動画／フルHD動画／HD動画：YCbCr 4:2:0 (8bit)、色空間は、4K動画／フルHD動画／HD動画：Rec.ITU-R BT.709で記録されます。

動画記録画質



【📷：動画記録画質】の【動画記録サイズ】で、画像サイズ、フレームレート、圧縮方式を設定することができます。撮影した動画は、MP4形式で記録されます。

なお、【動画記録サイズ】の画面に表示されるフレームレートは、【📺：ビデオ方式】の設定（📖445）により、自動的に切り換わります。



- 動画をカードに記録するときに必要なカードの書き込み／読み取り速度（要求カード性能）は、動画記録サイズにより異なります。動画撮影を行う前に📖499を参照して、要求カード性能を確認してください。

画像サイズ

● [4k] 3840×2160

4K画質で記録されます。画面の横縦比は16:9です。撮影モードスイッチが〈📷〉以外のときは、選択できません。

● [FHD] 1920×1080

フルハイビジョン（Full HD）画質で記録されます。画面の横縦比は16:9です。

● [HD] 1280×720

ハイビジョン（HD）画質で記録されます。画面の横縦比は16:9です。



- 【📺：ビデオ方式】の設定を変更したときは、【📷：動画記録サイズ】の再設定を行ってください。
- 4K動画、FHD 59.94P / 50.00P で撮影した動画は、再生時のデータ処理の負荷が高いため、他の機器で正常に再生できないことがあります。
- 動画記録サイズの設定や、使用するレンズなどの設定により、解像感やノイズ感は多少異なります。



- VGA画質の動画を撮影することはできません。

4K動画撮影について

- 4K動画を撮影するには高性能なカードが必要です。詳しくは、『動画が記録できるカード』（499）を参照してください。
 - 4K動画撮影時は、1回に撮影できる時間が最長9分59秒になります（213）。
 - 4K動画撮影時は、処理負荷が高いため、通常の動画撮影時に比べカメラ内部の温度が早く上昇したり、より温度が高くなることがあります。
動画撮影時に【弊】や赤い【罨】が表示されたときは、カードが熱くなっていることがあるため、動画撮影を休止して、しばらく経ってからカードを取り出してください（すぐにカードを取り出さないでください）。
 - 4K画質で撮影した動画から任意のフレームを選んで、約830万画素（3840×2160）のJPEG画像（静止画）としてカードに保存することができます（268）。
- 
 - 4K動画撮影時のフォーカス方式は、コントラスト検出方式になります。フルHDやHD動画撮影時に比べ、ピントが合うまでに時間がかかったり、ピントが合いにくいことがあります。

フレームレート (fps : frame per second)

- **[119.9P]** 119.88fps／**[59.94P]** 59.94fps／**[29.97P]** 29.97fps
テレビの映像方式が「NTSC」地域（北米、日本、韓国、メキシコなど）のときに設定します。
- **[100.0P]** 100.00fps／**[50.00P]** 50.00fps／**[25.00P]** 25.00fps
テレビの映像方式が「PAL」地域（ヨーロッパ、ロシア、中国、オーストラリアなど）のときに設定します。
- **[23.98P]** 23.98fps
主に映画関連で使用します。**23.98P** (23.98fps)は、**[📺:ビデオ方式]**を**[NTSC]**に設定したときに選択できます。

圧縮方式

- **[IPB]** IPB（標準）
通常の動画撮影のときは、IPB方式で映像圧縮が行われます。複数のフレーム単位で効率的に圧縮して記録します。
- **[ALL-I]** ALL-I（編集用／I-only）
タイムラプス動画撮影（📖217）のときは、ALL-I方式で映像圧縮が行われます。1フレーム単位で圧縮して記録します。IPB（標準）よりもファイルサイズが大きくなりますが、撮影後の編集作業に適しています。

動画記録形式

- **[MP4]** MP4
このカメラで撮影した動画は、すべてMP4形式の動画ファイルとして記録されます（拡張子：「.MP4」）。

動画が記録できるカードについて

各動画記録サイズで記録できるカードについては、[図499](#)を参照してください。

なお、動画を撮影するときは、書き込み／読み取り速度（要求カード性能）が[図499](#)の表に示す速度、または規格以上で、大容量のカードを使用してください。なお、**事前にテスト撮影を行い、設定した動画記録サイズ（[図207](#)）で正しく記録できることを確認してください。**



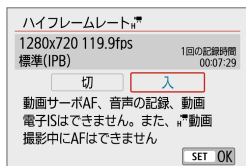
- 4K動画撮影を行うときは、撮影前にカードを初期化してください（[図435](#)）。
- 動画撮影時に書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に記録できないことがあります。また、動画再生時に読み取り速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に再生できないことがあります。
- 動画撮影を行うときは、実際の書き込み速度がビットレートを十分に上回る、高性能なカードを使用してください。
- 正常に動画が記録できないときは、カードを初期化してから使用してください。なお、カードを初期化しても問題が改善しないときは、カードメーカーのホームページなどもあわせて確認してください。



- カードの性能を発揮させるため、動画撮影を行う前にカメラでカードを初期化することをおすすめします（[図435](#)）。
- カードの書き込み／読み取り速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。

ハイレームレート

【:動画記録画質】の【ハイレームレート】を【入】にすると、ハイビジョン（HD）画質で119.88fps/100.00fpsの高フレームレートの動画を撮影することができます。スローモーション再生用の映像素材の撮影に適しています。なお、1回に撮影できる時間は最長7分29秒です。



【HD 119.9P IPB】、または【HD 100.0P IPB】で記録されます。

ハイレームレート動画撮影中は、動画サーボAF、動画電子ISは機能しません。また、AFによるピント合わせはできません。

なお、ハイレームレート動画は、29.97fps/25.00fpsの動画ファイルとして記録されるため、1/4倍速のスローモーションで再生されます。



- 設定を【切】に戻したときは、【動画記録サイズ】の設定を確認してください。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下でハイレームレート動画を撮影すると、画面にちらつきが発生することがあります。
- ハイレーム動画撮影を開始したときや終了したときは、映像が一時的に更新されなくなります（一瞬フレームストップ）。外部記録機器でHDMI出力映像を記録するときは注意してください。
- ハイレームレート動画撮影時に画面に表示される映像のフレームレートは、撮影した動画のフレームレートと異なります。
- 音声は記録されません。

ファイルサイズが4GBを超える動画撮影について

1回の撮影でファイルサイズが4GBを超える場合でも、一時中断することなく、動画撮影を続けることができます。

● このカメラで初期化した「SD/SDHCカード」使用时

SD/SDHCカードをこのカメラで初期化すると、FAT32形式でフォーマットされます。

FAT32形式でフォーマットされたカードを使用したときは、動画撮影を開始してファイルサイズが4GBを超えると、新しい動画ファイルが自動的に作成されます。

なお、再生時は動画ファイルごとの再生になります。動画ファイルを自動で連続再生することはできません。再生が終わったら、続きのファイルを選んで再生してください。

● このカメラで初期化した「SDXCカード」使用时

SDXCカードをこのカメラで初期化すると、exFAT形式でフォーマットされます。

exFAT形式でフォーマットされたカードを使用したときは、1回の撮影でファイルサイズが4GBを超える場合でも、（ファイルが分割されず）1つの動画ファイルに記録されます（4GBを超える動画ファイルが作成されます）。



- 4GBを超える動画ファイルをパソコンに取り込むときは、EOS Utilityを使用するか、カードリーダーを使用してください（P.477）。パソコン（OS）の機能を使って画像の取り込みを行うと、4GBを超える動画ファイルが取り込めないことがあります。

動画の総記録時間と1分間あたりのファイルサイズの目安

各動画記録サイズで動画記録できる時間、およびファイルサイズについては、📖500を参照してください。

撮影時間の制限について

- **4K動画撮影時**

1回に撮影できる時間は最長9分59秒です。9分59秒に達した時点で動画撮影が自動的に終了します。動画撮影ボタンを押すと、動画撮影を再開することができます（新規ファイルとして記録されます）。

- **フルHD／HD動画撮影時**

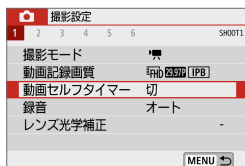
1回に撮影できる時間は最長29分59秒です。29分59秒に達した時点で動画撮影が自動的に終了します。動画撮影ボタンを押すと、動画撮影を再開することができます（新規ファイルとして記録されます）。

- **ハイフレームレート動画撮影時**

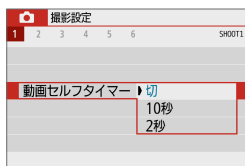
1回に撮影できる時間は最長7分29秒です。7分29秒に達した時点で動画撮影が自動的に終了します。動画撮影ボタンを押すと、ハイフレームレート動画撮影を再開することができます（新規ファイルとして記録されます）。

動画セルフタイマー

セルフタイマーを使って動画撮影を開始することができます。



1 カメラ [動画セルフタイマー] を選ぶ

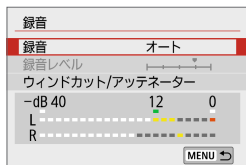


2 項目を選ぶ

3 撮影する

- [●] にタッチするか、動画撮影ボタンを押すと、画面に撮影開始までの秒数が表示され、電子音が鳴ります。

録音



内蔵のステレオマイクを使用して、動画撮影を行うことができます。また、録音レベルを任意に調整することもできます。

【📷：録音】で録音に関する設定を行うことができます。

録音／録音レベル

● オート

録音レベルが自動調整されます。音の大きさに応じて、オートレベルコントロール機能が自動的に働きます。

● マニュアル

録音レベルを任意に調整することができます。【録音レベル】を選び、レベルメーターを見ながら〈◀〉〈▶〉を押すと、録音レベルを調整することができます。音量が大きいときに、レベルメーターの【12】（-12dB）の右側が、時々点灯するように、ピークホールド機能を参考に調整します。【0】を超えると音が割れます。

● しない

録音は行われません。

ウィンドカット

【オート】に設定すると、屋外で撮影する際、風の影響により発生する「ポコポコ」という音を自動的に低減することができます。なお、ウィンドカット機能が働くと、低い音の一部も低減されます。

アッテネーター

音割れを抑制する機能です。[録音] を [オート] または [マニュアル] に設定して撮影しても、大音響の環境では音割れすることがあります。そのときは [入] に設定することをおすすめします。



- マイク使用時にWi-Fi（無線通信）機能を使用すると、ノイズが録音されることがあります。録音中は無線通信機能を使用しないことをおすすめします。
- カメラに内蔵されたマイクにより、撮影中の操作音やカメラの作動音なども一緒に録音されます。



- [A+] モード、[A-] モード、スペシャルシーンモード、クリエイティブフィルターモードのときは [録音]：[する] [しない] になります。なお、[する] に設定したときは、録音レベルが自動調整されます。
- HDMIケーブルでカメラとテレビを接続したときは、音声も出力されます（[録音：しない] 設定時を除く）。
- L/R（左/右）の音量バランスを調整することはできません。
- サンプリング周波数48kHz/16bitで記録されます。

タイムラプス動画

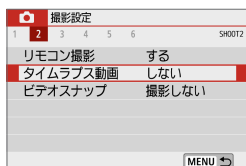
一定間隔で撮影した画像を自動でつなぎ合わせて、4K動画またはフルHD動画にすることができます。この機能を使うと、撮影開始から終了までの被写体の変化を、コマ送りのようにして短時間にまとめることができます。景色の変化、植物の成長、星の動きなどの定点観測に効果的です。

タイムラプス動画は、4K撮影時：**4K 29.97P [ALL-I] (NTSC)** / **4K 25.00P [ALL-I] (PAL)**、フルHD撮影時：**FHD 29.97P [ALL-I] (NTSC)** / **FHD 25.00P [ALL-I] (PAL)**の設定で、ともにMP4形式で記録されます。

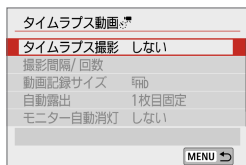
なお、フレームレートは、**[Y:ビデオ方式]**の設定 (P.445) により自動的に切り換わります。

1 撮影モードを選ぶ

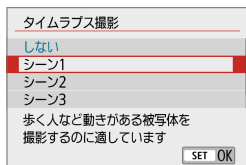
- **[P]** (P.200) または **[M]** (P.202) を選びます。



2 [カメラアイコン]：タイムラプス動画を選ぶ



3 [タイムラプス撮影] を選ぶ



4 シーンを選ぶ

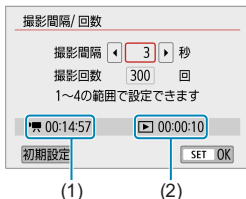
- 撮影シーンに応じて、シーンを選びます。
- 撮影間隔と回数を自由に設定して撮影したいときは**[カスタム]**を選びます。

5 撮影間隔を設定する

- [撮影間隔/回数] を選びます。
- [撮影間隔] (秒) を選びます。〈◀〉〈▶〉で数値を設定します。
- [⏱:撮影所要時間] (1)、[▶:再生時間] (2)を参考にして設定します。

[カスタム] 設定時

- [撮影間隔] (分:秒) を選びます。
- 〈SET〉を押して [⏱] の状態にします。
- 数値を設定し 〈SET〉を押します ([□]の状態に戻ります)。



6 撮影回数を設定する

- [撮影回数] を選びます。〈◀〉〈▶〉で数値を設定し 〈SET〉を押します。
- [⏱:撮影所要時間] [▶:再生時間] を参考にして設定します。

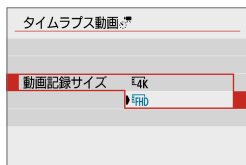
[カスタム] 設定時

- 項目 (桁) を選びます。
- 〈SET〉を押して [⏱] の状態にします。
- 数値を設定し 〈SET〉を押します ([□]の状態に戻ります)。
- [▶:再生時間] がオレンジ色で表示されていないことを確認します。
- [OK] を選ぶと設定されます。



- [シーン**] 設定時は、各シーンに適切な撮影ができるように、設定できる撮影間隔/回数が限定されています。
- 撮影回数を3600回に設定したときは、NTSC設定時：約2分、PAL設定時：約2分24秒のタイムラプス動画になります。

7 動画記録サイズを選ぶ



- **4K (3840×2160)**

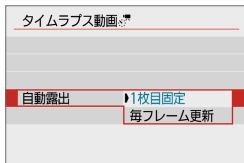
4K画質で記録されます。画面の横縦比は16:9です。なお、フレームレートはNTSC: 29.97fps (**29.97P**) / PAL: 25.00fps (**25.00P**)、圧縮方式はALL-I (**ALL-I**)、動画記録形式はMP4 (**MP4**)で記録されます。

- **FHD (1920×1080)**

フルハイビジョン (Full HD) 画質で記録されます。画面の横縦比は16:9です。なお、フレームレートはNTSC: 29.97fps (**29.97P**) / PAL: 25.00fps (**25.00P**)、圧縮方式はALL-I (**ALL-I**)、動画記録形式はMP4 (**MP4**)で記録されます。



- **4K 29.97P** **4K 25.00P** のビットレートは約300Mbps、**FHD 29.97P** **FHD 25.00P** のビットレートは約90Mbpsになります。読み取り速度が十分に速いカードをお使いください。



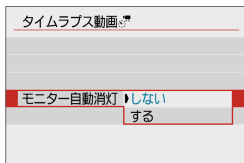
8 [自動露出] を設定する

● 1枚目固定

1枚目を撮影するときには測光が行われ、明るさに応じて露出が自動的に決まります。2枚目以降は1枚目と同じ露出で撮影されます。また、撮影に関する設定も、1枚目と同じ設定で撮影されます。

● 毎フレーム更新

2枚目以降も毎回測光が行われ、そのときの明るさに応じて露出が自動的に決まります。なお、ピクチャースタイル、ホワイトバランスなどの機能が、【オート】に設定されているときは、2枚目以降も1枚毎に自動更新されます。



9 [モニター自動消灯] を設定する

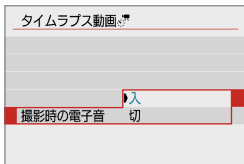
● しない

タイムラプス動画撮影中も、映像が表示されます。撮影開始から約30分経過すると、画面が消灯します。

● する

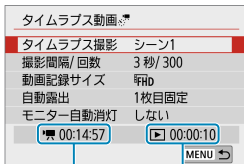
撮影開始から約10秒経過すると、画面が消灯します。

- タイムラプス動画撮影中に〈INFO〉ボタンを押すと、画面を点灯／消灯することができます。



10 電子音を設定する

- [撮影時の電子音] を選びます。
- [切] に設定すると、撮影が行われるときに電子音が鳴らなくなります。



11 設定内容を確認する

(1) 撮影所要時間

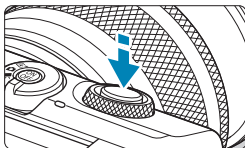
撮影間隔、撮影回数をもとに撮影に必要な時間が表示されます。なお、24時間を超えるときは、「***日」で表示されます。

(2) 再生時間

一定間隔で撮影した静止画から4K動画、またはフルHD動画を生成したときに、動画として記録される時間です (= 動画再生に必要な時間)。

12 メニューを終了する

- 〈MENU〉 ボタンを押してメニュー画面を消します。



13 タイムラプス動画を撮影する

- シャッターボタンを半押ししてピントと露出を確認します。
- 〈●〉 ボタンを押すと、タイムラプス動画撮影が始まります。
- 残り撮影回数（1）が表示されます。
- タイムラプス動画撮影中は、[●REC] が表示されます。
- タイムラプス動画撮影中はAFは行われません。
- 電子シャッターによる撮影のため、タイムラプス動画撮影中は、シャッターの作動音はしません。
- 設定した回数の撮影が終わると、タイムラプス動画の撮影が終了します。
- タイムラプス動画撮影を解除するときは、[タイムラプス撮影] を [しない] に設定します。





- 設定した撮影回数でカードの容量が不足するときは、**【再生時間】**がオレンジ色で表示されます。そのまま撮影することはできませんが、カードの残量がなくなった時点で撮影が終了します。
- 設定した**【撮影回数】**でファイルサイズが4GBを超えると、カードがexFAT形式でフォーマットされていないときは(436)、**【再生時間】**がオレンジ色で表示されます。そのまま撮影を行ったときは、ファイルサイズが4GBに達した時点で、タイムラプス動画撮影が終了します。
- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- インターフェースケーブルでパソコンと接続しているときや、HDMIケーブルを接続しているときは、タイムラプス動画撮影はできません。
- 動画サーボAFは機能しません。
- タイムラプス動画撮影中は、レンズのズーム操作を行わないでください。ピントがぼけたり、露出が変化したり、レンズ光学補正が適切に行われないことがあります。
- フリッカー光源下でタイムラプス動画撮影を行うと、画面に強いちらつきが発生したり、横縞（ノイズ）や露出ムラが記録されることがあります。
- タイムラプス動画撮影時に表示される映像と、実際の撮影結果は異なることがあります（フリッカーによるちらつきや、高ISO感度撮影時のノイズなど）。
- 暗い撮影条件下でタイムラプス動画撮影を行ったときは、撮影中に表示される映像と、実際の撮影結果が異なることがあります。
- タイムラプス動画撮影中にカメラを左右に動かしたり（パンニング）、動きのある被写体を撮影すると、像が強くゆがんで写ることがあります。
- タイムラプス動画撮影中は、オートパワーオフは機能しません。また、撮影機能やメニュー機能の設定、画像再生などの操作はできません。
- タイムラプス動画に音声は記録されません。
- **【撮影間隔】**が3秒以下で、**【自動露出】**が**【毎フレーム更新】**に設定されているときに、1フレーム前と明るさが大きく異なるときは、設定した間隔で撮影が行われないことがあります。

- ❗ ● 次の撮影が行われるタイミングで撮影できないときは、その回の撮影がキャンセルされます。そのため、生成される動画の記録時間が短くなることがあります。
- 撮影機能の設定やカードの性能などにより、カードに記録する時間が撮影間隔よりも長いときは、設定した間隔で撮影できないことがあります。
- 撮影画像は静止画としては記録されません。1枚だけ撮影したあと、撮影を中止しても動画ファイルとして記録されます。
- カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続して、EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使用するときは、[📷:タイムラプス動画]を[しない]に設定してください。[しない]以外を選択しているときは、パソコンと通信できません。
- タイムラプス動画撮影中は、レンズの手ブレ補正機能は作動しません。
- 電源を切ったときは、タイムラプス動画撮影が終了し、設定が[しない]になります。
- ストロボを使用しても発光しません。
- 次の操作を行うと、タイムラプス動画の撮影準備状態が解除され、設定が[しない]になります。
 - [🔧:カメラの初期化]の[基本設定]を選んだとき
 - 撮影モードスイッチを操作したとき
- 白い[📷] (📷 194) が表示されている状態で、タイムラプス動画撮影を開始すると、タイムラプス動画の画質が低下することがあります。白い[📷]が消えてから（カメラ内部の温度が下がってから）撮影開始することをおすすめします。
- [自動露出]を[毎フレーム更新]に設定して撮影したときは、撮影モードにより、タイムラプス動画の画像情報（Exif情報）に、ISO感度、シャッタースピード、絞り数値が記録されないことがあります。



- 三脚の使用をおすすめします。
- 事前にタイムラプス動画自体のテスト撮影をおすすめします。
- 映像の視野率は、4K／フルHDタイムラプス動画撮影時ともに約100%です。
- タイムラプス動画撮影を途中で中止するときは、〈●〉ボタンを押します。そのときは、中止したときまでのタイムラプス動画がカードに記録されます。
- 撮影したタイムラプス動画は、通常の動画と同じようにこのカメラで再生できます。
- 撮影所要時間が24時間超～48時間以下のときは2日と表示されます。3日以上のあるときも同じように、24時間単位の基準で表示されます。
- タイムラプス動画の「再生時間」が1秒未満でも、動画ファイルが生成されます。そのとき【再生時間】は「00'00"」と表示されます。
- 撮影時間が長くなるときは、家庭用電源アクセサリ（別売）の使用をおすすめします。
- カラーサンプリングは、4Kタイムラプス動画／フルHDタイムラプス動画：YCbCr 4:2:0 (8bit)、色空間は、4Kタイムラプス動画／フルHDタイムラプス動画：Rec. ITU-R BT.709で記録されます。
- ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1（別売）を使用して、タイムラプス動画の撮影の開始／終了などを行うことができます。

ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1使用時

- あらかじめ、ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1とペアリングを行ってください（P.389）。
- 【📷：リモコン撮影】が【する】に設定されていることを確認してください。

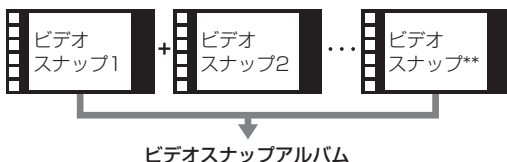
ビデオスナップ

1シーンが数秒間の短い動画「ビデオスナップ」(以下スナップ)を繰り返し撮影して、旅行やイベントなどの思い出を、1つの動画に簡潔にテンポ良くまとめた「ビデオスナップアルバム」(以下アルバム)を作ることができます。

ビデオスナップは、動画記録サイズが「FHD 29.97P 1PB」(NTSC)、「FHD 25.00P 1PB」(PAL)のときに設定できます。

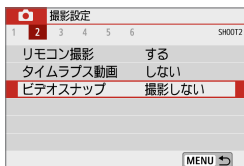
できあがったアルバムは、BGM(音楽)と一緒に再生することもできます(301)。

ビデオスナップアルバムの概念

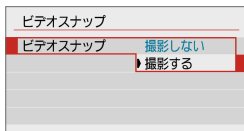


1 撮影モードを選ぶ

- [FHD] (200) または [FHD] (202) を選びます。

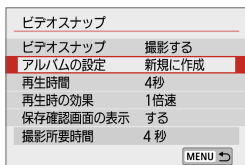


2 [カメラ：ビデオスナップ] を選ぶ



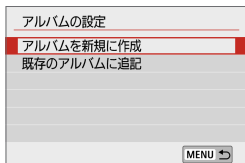
3 [撮影する] を選ぶ

4 [アルバムの設定] を選ぶ



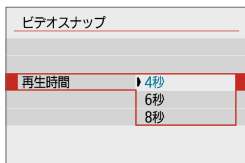
5 [アルバムを新規に作成] を選ぶ

- メッセージを確認して [OK] を選びます。



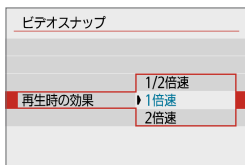
6 再生時間を設定する

- 1スナップの再生にかかる時間です。



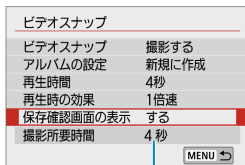
7 再生時の効果を設定する

- アルバムの再生速度です。



8 撮影所要時間を確認する

- 再生時間と再生時の効果をもとに、1スナップの撮影に必要な時間 (1) が表示されます。



(1)



9 メニューを終了する

- 〈MENU〉 ボタンを押してメニューを終了します。
- 画面に撮影時間（2）を示す青いバーが表示されます。



10 最初のスナップを撮影する

- 動画撮影ボタンを押して撮影します。
- 撮影時間を示す青いバーが減っていき、設定時間経過後、自動的に撮影が終了します。
- 確認画面が表示されます（[P.229](#)）。



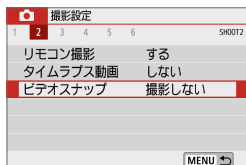
11 アルバムとして保存する

- [OK アルバムとして保存] を選びます。
- アルバムの先頭スナップとして保存されます。



12 続けてスナップを撮影する

- 手順10と同じ操作で、次のスナップを撮影します。
- [OK アルバムに追加する] を選びます。
- 別のアルバムを作るときは、[OK 新しいアルバムとして保存] を選びます。
- 必要に応じて手順12を繰り返します。



13 ビデオスナップ撮影を終了する

- [ビデオスナップ] を [撮影しない] に設定します。通常の動画を撮影するときは、[撮影しない] に設定してください。
- <MENU> ボタンを押してメニューを終了すると、通常の動画撮影に戻ります。

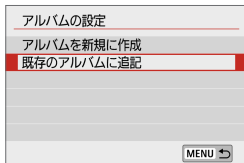
手順11、手順12の画面について

項目	内容
📁 アルバムとして保存 (手順11)	アルバムの最初のスナップとして保存します。
📁 アルバムに追加する (手順12)	いま撮影したスナップを、直前に記録したアルバムに追加します。
📁 新しいアルバムとして保存 (手順12)	新しいアルバムを作成し、最初のスナップとして保存します。直前に記録したアルバムとは別ファイルになります。
🔍 撮影したスナップを再生する (手順11、手順12)	いま撮影したスナップを再生します。
🗑️ アルバムとして保存しない (手順11) 🗑️ アルバムに追加しないで消去 (手順12)	いま撮影したスナップをアルバムに保存しないで消去します。確認画面で【OK】を選びます。



- スナップを撮影したあと、すぐに次のスナップを撮影したいときは、【📷:ビデオスナップ】の【保存確認画面の表示】を【しない】に設定します。この設定にしておくと、撮影直後に確認画面が表示されなくなるため、すぐに次のスナップを撮影することができます。

既存のアルバムに追記する



1 [既存のアルバムに追記] を選ぶ

- ②227の手順5で「既存のアルバムに追記」を選びます。



2 既存のアルバムを選ぶ

- <◀> <▶> で既存のアルバムを選び、<SET>を押します。
- [OK] を選びます。
- 一部の設定が、既存のアルバムの設定に変更されます。

3 メニューを終了する

- <MENU> ボタンを押してメニューを終了します。
- ビデオスナップの撮影画面が表示されます。

4 スナップを撮影する

- 「ビデオスナップ」(②226)の手順10を参照し、スナップを撮影します。



- 他のカメラで撮影したアルバムは選択できません。

ビデオスナップ撮影全般の注意事項

- [再生時の効果] で、[1/2倍速] [2倍速] を選んだときは、音声は記録されません。
- 1スナップの撮影所要時間は目安です。フレームレートとの関係上、再生時に表示される撮影時間と若干ズレが生じる場合があります。

ジオラマ風動画

指定した範囲以外をぼかして撮ることで、ミニチュア模型のような効果をつけて動画を撮影できます。また、「再生時の速さ」を選んで動画を撮影すると、再生時には風景の中の人やものが早送りで動くので、ミニチュア模型のように見えます。なお、音声は録音されません。



1 [AF OFF] を選ぶ

- 〈SET〉ボタンを押して、クイック設定画面で [AF OFF] を選びます。
- 再生速度を [1/5x] [1/10x] [1/20x] から選びます。



2 ジオラマ枠を移動する

- はっきり見せたい部分（ジオラマ枠）を設定します。
- 〈INFO〉ボタンを押すか、画面右下の [十字] にタッチすると、ジオラマ枠がオレンジ色に代わり、移動させることができます。
- 画面左下の [縦横] にタッチすると、ジオラマ枠の縦／横を切り換えることができます。
- ジオラマ枠が横長のときは〈▲〉〈▼〉、ジオラマ枠が縦長のときは〈◀〉〈▶〉を押すと、ジオラマ枠が移動します。
- 画面左下の [戻る] にタッチすると、ジオラマ枠が画面中央に戻ります。
- 〈SET〉を押すと、ジオラマ枠の位置が確定します。続けてAFフレームの設定になります。



3 AFフレームを移動する

- AFフレームがオレンジ色に変わり、移動させることができます。
- 〈◇〉 十字キーを押して、ピントを合わせたい位置にAFフレームを移動します。
- ジオラマ枠とAFフレームの位置を合わせることをおすすめします。
- 画面左下の【MENU】にタッチすると、AFフレームが画面中央に戻ります。
- 〈SET〉を押すと、AFフレームの位置が確定します。

4 撮影する

- 動画撮影ボタンを押します。

動画を1分間撮影したときの倍速と再生時間の目安

倍速	再生時間
5x	約12秒
10x	約6秒
20x	約3秒



- 【5x】 【10x】 【20x】 を選んで動画を撮影すると、再生時には風景の中の人やものが早送りで動きます。そのため、ミニチュア模型のように見えます。
- 音声は録音されません。



- 手順2のときに、ジオラマ枠が横長のときは 〈◀〉 〈▶〉、ジオラマ枠が縦長のときは 〈▲〉 〈▼〉 で、ジオラマ枠の縦／横を切り換えることもできます。

動画サーボAF

動画撮影時に被写体に対して常にピントを合わせ続ける機能です。



1 [📷 : 動画サーボAF] を選ぶ



2 [する] を選ぶ

● [する] 設定時

- シャッターボタンを半押ししなくても、被写体に対して常にピントを合わせ続けます。
- 狙った位置でピントを止めたいときや、レンズの作動音などが記録されるのが気になるときは、画面左下の【SERVO AF】にタッチすると、動画サーボAFを一時的に停止することができます。
- 動画サーボAFが停止しているときに、〈MENU〉ボタンや〈▶〉ボタンを押したり、AF方式を変更するなどの操作を行ったあと、動画撮影に戻ると、動画サーボAFが再開します。

● [しない] 設定時

- シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが行われます。

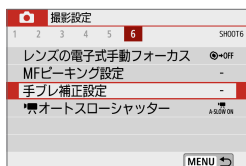


【動画サーボAF：する】設定時の注意事項

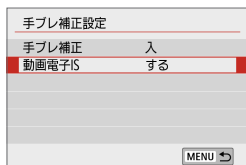
- **ピントが合いにくい撮影条件**
 - 速い速度で近づく、または遠ざかる被写体
 - 近距離で動いている被写体
 - 絞り数値が大きいとき
 - 『ピントが合いにくい撮影条件』（📖 181）も参照してください。
- 常にレンズが作動してバッテリーを消耗するため、動画撮影できる時間（📖 500）が短くなります。
- ズーム操作中や拡大表示を行っているときは、動画サーボAFが一時停止します。
- 動画撮影中に被写体が近づいたり/遠ざかったり、カメラを上下/左右に動かすと（パンニング）、映像が一瞬伸縮（像倍率変化）して記録されることがあります。

動画電子IS

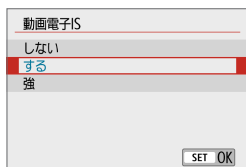
動画撮影時の手ブレを、カメラの電子式手ブレ補正機能で軽減することができます。この機能を「動画電子IS」といいます。レンズに光学式手ブレ補正機能が内蔵されているときは、レンズの手ブレ補正スイッチを〈ON〉にしてください。



1 [📷 : 手ブレ補正設定] を選ぶ



2 [動画電子IS] を選ぶ



3 項目を選ぶ

● しない (📷OFF)

動画電子ISによる手ブレ補正は行われません。

● する (📷ON)

手ブレ補正が行われます。映像がやや拡大されます。

● 強 (📷ON+)

(静止画撮影時は表示されません)

【する】設定時より、大きな手ブレを補正することができます。映像がさらに拡大されます。

コンビネーションIS機能について

「コンビネーションIS」機能に対応したレンズと、動画電子IS機能を併用して動画撮影を行うと、レンズの光学式手ブレ補正機能とカメラの電子式手ブレ補正機能が協調して、より高い補正効果が得られます。



- 手ブレ補正機能が搭載されていないレンズを使用したときや、レンズの手ブレ補正スイッチが〈OFF〉のときは、動画電子ISは機能しません（[する] [強] 設定時は動画電子ISのマークが点滅します）。
- レンズの焦点距離が800mmを超えときは、動画電子ISは機能しません。
- 動画記録サイズの設定により、動画電子ISの手ブレ補正効果が小さくなる場合があります。
- 画角が広い（広角な）ほど手ブレ補正効果は大きくなり、画角が狭い（望遠な）ほど、手ブレ補正効果は小さくなります。
- 三脚使用時は【しない】に設定することをおすすめします。
- 被写体や撮影条件によっては、動画電子ISの効果により、被写体のブレが目立つ（被写体が一瞬ボケたように見える）ことがあります。
- TS-Eレンズや魚眼レンズ使用時、他社製レンズ使用時は、【しない】に設定することをおすすめします。
- 動画電子ISを使用すると、映像が拡大されるため、映像が粗くなります。また、ノイズや輝点などが目立つことがあります。



- コンビネーションIS機能に対応したレンズについては、キヤノンのホームページを参照してください。
- コンビネーションIS機能に対応したレンズを使用したときは、 235に示した動画電子ISのマークに「+」が付加された状態で表示されます。

その他のメニュー機能

[📷1]

- 撮影モード

動画自動露出モード、動画マニュアル露出モードを選ぶことができます。

- レンズ光学補正

動画撮影時は、周辺光量補正、色収差補正を行うことができます。レンズ光学補正については、📖 130を参照してください。

[📷2]

- リモコン撮影

[する] に設定すると、ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1（別売）を使用して、動画撮影の開始／停止を行うことができます。あらかじめ、BR-E1とペアリングを行ってください（📖 389）。

ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1使用時

通常の動画撮影を行うときは、BR-E1の撮影タイミング／動画撮影切り換えスイッチを〈📷〉の位置にして、リリースボタンを押します。タイムラプス動画撮影を行うときは、📖 225を参照してください。

[📷3]

● 露出補正

1/3段ステップ±3段の範囲で露出補正を行うことができます。露出補正については、📖139を参照してください。

● 📷ISO感度に関する設定

● ISO感度

[📷] モードのときに、ISO感度を任意に設定することができます。ISOオートを選ぶこともできます。

● オートの上限

[📷] モード、または [📷] モード+ISOオートの設定でフルHD/HD動画撮影を行ったときに、自動設定されるISO感度の上限を設定することができます。



- フルHD/HD動画撮影時のISO16000/20000/25600は拡張感度です ([H] と表示されます)。

● オートライティングオブティマイザ

明るさとコントラストの自動補正を行うことができます。オートライティングオブティマイザ機能については、📖143を参照してください。

● 高輝度側・階調優先

ハイライト部分の白とびが緩和された動画を撮影することができます。高輝度側・階調優先については、📖144を参照してください。



- 動画撮影時は、[📷：高輝度側・階調優先] 設定時に [強] は選択できません（表示されません）。

● 測光タイマー

測光タイマーについては、📖147を参照してください。

[📷4]

- **ホワイトバランス**

ホワイトバランスについては、📖 149を参照してください。

- **MWB画像選択**

MWB画像選択については、📖 152を参照してください。

- **WB補正**

WB補正については、📖 154を参照してください。

- **ピクチャースタイル**

ピクチャースタイルについては、📖 156を参照してください。

[📷5]

- **AF方式**

AF方式については、📖 172を参照してください。

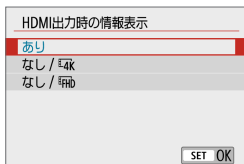
- **瞳AF**

瞳AFについては、📖 182を参照してください。

- **フォーカスモード**

フォーカスモードについては、📖 184を参照してください。

● HDMI出力時の情報表示



HDMIケーブルで映像を出力するときの情報表示を設定することができます。

● あり

HDMI出力先に、映像および撮影情報やAFフレームなどが表示されます。なお、カメラの画面は消灯します。記録した映像はカードに保存されます。

● なし/4k

4K動画の映像のみをHDMI出力します。カメラの画面には撮影情報やAFフレームなども表示されますが、カードに映像は記録されません。また、Wi-Fi通信はできません。

● なし/FHD

フルHD動画の映像のみをHDMI出力します。カメラの画面には撮影情報やAFフレームなども表示されますが、カードに映像は記録されません。また、Wi-Fi通信はできません。

[📷6]

● レンズの電子式手動フォーカス

レンズの電子式手動フォーカスについては、📖 185を参照してください。

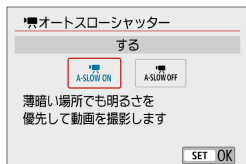
● MFピーキング設定

MFピーキング設定については、📖 189を参照してください。

● 手ブレ補正設定

手ブレ補正については、📖 190を参照してください。

● オートスローシャッター



暗い場所で動画撮影を行ったときに、シャッタースピードを自動的に遅くして、**【しない】** 設定時よりも明るい映像を記録するかどうかを選択することができます。この機能は、動画記録サイズのフレームレートが、**59.94P**、**50.00P** のときに機能します。

● しない

【する】 設定時よりも被写体のブレが少なく、自然でなめらかな動きが撮影できます。ただし、暗い場所では、**【する】** 設定時よりも映像が暗くなることがあります。

● する

暗い場所で動画撮影を行ったときに、シャッタースピードを自動的に1/30秒（NTSC）、または1/25秒（PAL）まで遅くして、**【しない】** 設定時よりも明るい映像を撮影することができます。



- 暗い場所で動きのある被写体を撮影するときや、尾を引いたような残像が出るときは、**【しない】** に設定することをおすすめします。

動画撮影全般の注意事項



カメラ内部の温度上昇に伴う、赤い【H】表示について

- 動画撮影を長時間行ったり、高温下で動画撮影を行うと、カメラ内部の温度が上昇し、赤い【H】が表示されます。
- 赤い【H】は、もうすぐ動画撮影が自動的に終了することを示しています。そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで、撮影ができなくなりますので、一旦電源を切り、しばらく休止してください。
- 高温下で動画撮影を長時間行くと、赤い【H】が表示されるタイミングが早くなります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。

【P】表示について

- 【P】が表示されたときは、P.485を参照してください。

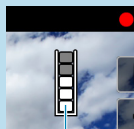
記録と画質について

- 手ブレ補正機能が搭載されたEF-Mレンズ使用時は、【CAMERA : 手ブレ補正設定】の【手ブレ補正】が【入】のとき、EFレンズ/EF-Sレンズ使用時は、手ブレ補正スイッチを〈ON〉にすると、シャッターボタンを半押ししなくても、常時手ブレ補正機能が作動します。そのため、バッテリーが消耗し、撮影条件により動画撮影時間が短くなることがあります。三脚使用時など、補正の必要がないときは、手ブレ補正機能を切ることをおすすめします。
- 自動露出で動画撮影中に明るさが変化すると、その場面の映像が一瞬止まって見えることがあります。このようなときは、マニュアル露出で撮影してください。
- 極端に明るい光源が画面内にあると、明るい部分が黒っぽくつぶれたように表示されることがあります。動画撮影時は、表示された映像とほぼ同じ状態で記録されます。
- 高ISO感度、高温、遅いシャッタースピード、暗い場所などの条件で撮影すると、映像にノイズや色ムラが発生することがあります。動画撮影時は、表示された映像とほぼ同じ状態で記録されます（タイムラプス動画撮影時を除く）。
- 撮影した動画を他の機器などで再生すると、画質や音質が悪くなったり、(MP4形式に対応していない)再生できないことがあります。



記録と画質について

- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影中に画面の右側にインジケータが表示されることがあります。インジケータは、カードにまだ書き込まれていないデータ量（内蔵メモリの空き容量）を表し、遅いカードほど、段階が早く上がっていきます。インジケータ（1）がフルになると、動画撮影が自動的に停止します。
- 書き込み速度が速いカードは、インジケータが表示されないか、表示されても段階はほとんど上がりません。そのため、事前にテスト撮影を行うことで、動画撮影に適したカードかどうかを判断することができます。
- インジケータがフルになって動画撮影が自動的に終了したときは、映像の終端付近の音声は正常に記録されないことがあります。
- カードの（記憶領域の断片化により）書き込み速度が低下してインジケータが表示されるようになったときは、カードの初期化を行うと、書き込み速度が改善することがあります。



(1)

音声の制約について

- （音声記録される）動画撮影時は、以下の制約事項があります。ご了承ください。
 - 最後の約2フレームには、音声は記録されません。
 - Windowsで動画を再生すると、映像と音声若干ズレることがあります。

ストロボ撮影

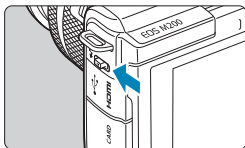
この章では、ストロボを使った撮影について説明しています。



- 動画撮影時はストロボ撮影はできません。

ストロボ撮影

モニターに【】が表示されたときや、日中逆光時、暗い場所などで撮影するときは、ストロボの使用をおすすめします。



1  レバーを操作して、ストロボを上げる

2 シャッターボタンを半押しする

- モニターに【】が表示されていることを確認します。

3 撮影する

- 【ストロボの発光】(📖 251) の設定に従ってストロボが発光します。
- 撮影が終わったら、ストロボを「カチッ」と音がするまで手で押し下げて収納します。

ストロボ撮影できる距離の目安

(最大・約・m)

ISO感度 (📖 140)	EF-M15-45mm F3.5-6.3 IS STM	
	広角側	望遠側
	F3.5	F6.3
400	2.9	1.6
3200	8.1	4.5

* 高ISO感度設定時に撮影距離が遠いとき、被写体条件などによっては、適正な露出が得られないことがあります。

ストロボ撮影時のシャッタースピードと絞り数値

撮影モード	シャッタースピード	絞り数値
P	自動設定 (1/200~30秒) *	自動設定
Tv	手動設定 (1/200~30秒)	自動設定
Av	自動設定 (1/200~30秒) *	手動設定
M	手動設定 (1/200~30秒、BULB)	手動設定

* [📷 : ストロボ制御] の [スローシンクロ] を [1/200-30秒自動] に設定した場合



- ストロボが上がりきっていない状態でストロボ撮影を行わないでください。
- レンズにフードが付いていたり、被写体に近づきすぎると、ストロボの光がさえぎられて、撮影した画像の下側が暗くなることがあります。

[Av] モードでのストロボ撮影

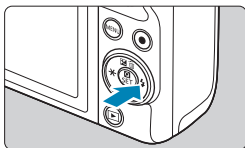
手動設定した絞り数値に対し、適切な露出になるようにストロボの発光量が自動的に調整されます。

暗い場所では、主被写体は自動調光で、背景は低速シャッターの組み合わせにより、ともに標準露出の雰囲気のある写真になります。三脚の使用をおすすめします。

ストロボ調光補正

応用

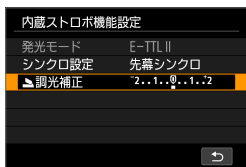
露出補正と同じ感覚で、ストロボの発光量を調整することができます。



1 〈▶〉 を押す



2 〈MENU〉 ボタンを押す



3 [△調光補正] を選ぶ



4 補正量を設定する

- 撮影結果が暗いときは【明るく】（プラス補正）、撮影結果が明るいときは【暗く】（マイナス補正）の方向に補正量を設定します。
- 撮影が終わったら、手順1～3の操作で補正量をゼロに戻します。



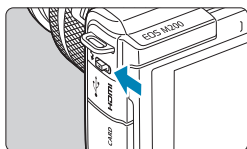
- [⌂ : オートライティングオブティマイザ] (ⓘ 143) が【しない】以外に設定されているときは、マイナス補正を行っても明るく撮影されることがあります。



- 設定した補正量は、電源を切っても記憶されています。
- 手順2の画面で〈☀〉を回して、調光補正量を設定することもできます。
- [⌂ : ストロボ制御] の【内蔵ストロボ機能設定】で調光補正を行うこともできます (ⓘ 254)。

FEロック

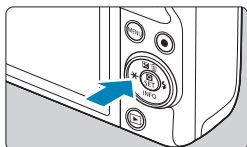
FE (Flash Exposure : フラッシュエクスポージャー) ロック撮影は、被写体の任意の部分に適正調光させるストロボ撮影です。



1 <Fn> レバーを操作して、ストロボを上げる

- シャッターボタンを半押しして、モニターに【Fn】が点灯していることを確認します。

2 ピントを合わせる



3 <Fn> ボタンを押す (※16)

- モニターの中央に被写体を置いて、<Fn> ボタンを押します。
- ストロボがプリ発光し、撮影に必要な発光量が記憶されます。
- 【Fn】 が点灯します。
- <Fn> ボタンを押すたびにプリ発光し、撮影に必要な発光量が記憶されます。



4 撮影する

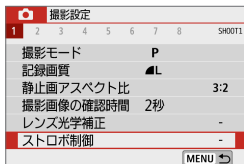
- 構図を決めてシャッターボタンを全押しします。



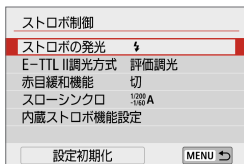
- 被写体までの距離が遠すぎて、撮影結果が暗くなる場合は【Fn】が点滅します。被写体に近づいて、再度手順2～4の操作をしてください。

ストロボ制御

カメラのメニュー画面から、ストロボの機能を設定することができます。



1 [📷:ストロボ制御] を選ぶ



2 項目を選ぶ

ストロボの発光



【A】に設定すると、撮影状況に応じて自動発光します。

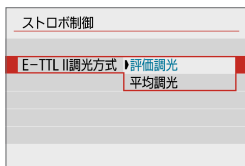
【⚡】に設定すると、撮影時に常時発光します。

【⚡/】は、ストロボの発光を禁止します。



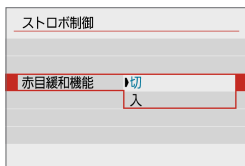
- 撮影モードにより、表示される内容が変わります。
- 撮影モードスイッチが「A+」や「M」のときに、「⚡」ボタンを押して設定することもできます（一部の撮影モードを除く）。

E-TTL II 調光方式応用



通常は、標準的なストロボ露出が得られる【評価調光】に設定します。【平均調光】に設定すると、測光領域全体を平均的に測光します。

赤目緩和機能



【入】に設定すると、ストロボ撮影する前に赤目緩和ランプ（36）を点灯させることで、目が赤く写る現象を緩和することができます。

スローシンクロ 応用

スローシンクロ	
1/200-30秒自動	1/200 A -30"
1/200-1/60秒自動	1/200 A -1/60"
1/200秒固定	1/200
SET OK	

【Av】絞り優先AEモード、または【P】プログラムAEモードでストロボ撮影を行うときのストロボ同調シャッタースピードを設定することができます。

● **[1/200-30" A] 1/200-30秒自動**

明るさに応じてシャッタースピードが1/200～30秒の範囲で自動設定されます。暗い場所では(撮影状況に応じて)自動的にシャッタースピードが遅くなり、スローシンクロ撮影になります。

● **[1/200-1/60" A] 1/200-1/60秒自動**

暗い場所でシャッタースピードが自動的に遅くならないようになります。被写体ブレや手ブレを防止したいときに有効です。ただし、被写体はストロボ光により標準露出になりますが、被写体の背景が暗くなることがあります。

● **[1/200] 1/200秒固定**

シャッタースピードが1/200秒に固定されるため、【1/200-1/60秒自動】よりも被写体ブレや手ブレを抑えることができます。ただし、暗い場所では【1/200-1/60秒自動】よりも被写体の背景が暗くなります。

- **[Av] [P] モードでスローシンクロ撮影を行いたいときは、【1/200-30秒自動】に設定してください。**

内蔵ストロボ機能設定 応用

内蔵ストロボ機能設定	
発光モード	E-TTL II
シンクロ設定	先幕シンクロ
▲調光補正	2...1...0...1...2
MENU →	

● 発光モード

内蔵ストロボ機能設定	
発光モード	▶ E-TTL II
	マニュアル発光

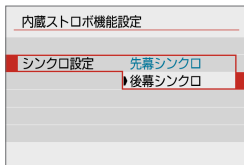
[E-TTL II] に設定すると、カメラまかせの E-TTL II/E-TTL 全自動ストロボ撮影を行うことができます。

内蔵ストロボ機能設定	
▲発光量	大
	中
	▶ 小

[マニュアル発光] に設定すると、[▲発光量] で発光量を [大] [中] [小] から選ぶことができます。

● [Tv] [Av] [M] モードのときに設定できます。

● シンクロ設定



通常は、撮影開始直後にストロボが発光する【先幕シンクロ】に設定します。

【後幕シンクロ】に設定すると、低速シャッター時に車のライトなどの軌跡を自然な感じで撮影できます。

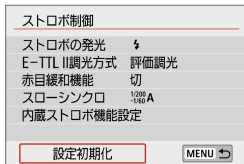
- ❗ ● 後幕シンクロで撮影するときは、シャッタースピードを1/80秒以下の遅い速度に設定してください。1/100秒以上の速い速度のときは、【後幕シンクロ】に設定していても、自動的に先幕シンクロ撮影になります。

● 調光補正



露出補正と同じ感覚で、ストロボの発光量を調整することができます（[P.248](#)）。

内蔵ストロボ設定初期化



1 【設定初期化】を選ぶ

2 【OK】を選ぶ

- 設定が初期化されます。

再生設定

この章では、撮影した画像（静止画／動画）を再生する方法や、メニュー機能の「▶：再生設定タブ」に含まれる項目など、再生に関連する内容について説明しています。



- 他のカメラで撮影した画像や、このカメラで撮影したあと、パソコンなどで画像を加工したり、ファイル名を変更した画像は、カメラで正常に表示／設定できないことがあります。
- 再生に関する一部機能によっては、再生操作を行ったときに使用できない画像が表示されることがあります。

メニュー目次:再生設定タブ

- 再生設定1

● 再生設定2

● 再生設定3

再生設定

1 2 3 4 PLAY3

レーティング 305

スライドショー 308

画像検索の条件設定 310

👉での画像送り 312

MENU

● 再生設定4



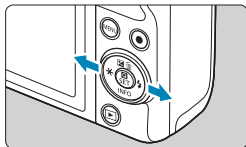
画像の再生

1枚表示



1 画像を再生する

- 〈▶〉 ボタンを押します。



2 画像を選ぶ

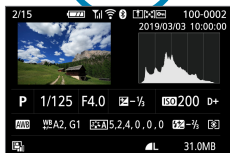
- 〈▶〉 を押すと新しい画像が、〈◀〉 を押すと古い画像が表示されます。
- 〈INFO〉 ボタンを押すたびに、表示形式が切り換わります。



情報表示なし



簡易情報表示



撮影情報表示

3 再生を終了する

- 〈▶〉 ボタンを押すと再生が終了します。

撮影情報表示について

撮影情報表示の画面が表示されている状態で〈INFO〉ボタンを押すと、表示される情報が切り換わります。なお、表示する情報は、[▶:再生情報表示設定]で任意に設定することができます (314)。

タッチ再生について

カメラのモニターは、タッチ機能を備えています。スマートフォンなどと同じように、指で操作することができます。〈▶〉ボタンを押して画像を再生した状態で操作します。

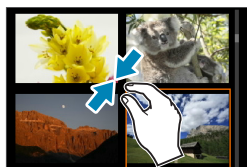
画像送り



ジャンプ表示



インデックス表示



拡大表示



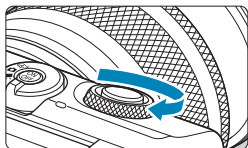
- 画面を指1本で素早く2回触れても（ダブルタップ）拡大表示ができます。

画像の拡大表示

撮影した画像を拡大表示することができます。

1 画像を拡大する

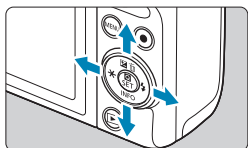
- 画像を再生した状態で、〈〉を右に回します。拡大表示のときは、画面右下に拡大位置 (1) が表示されます。



(1)

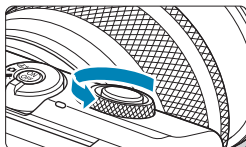
2 表示位置を移動する

- 〈〉十字キーを操作して表示位置を移動します。



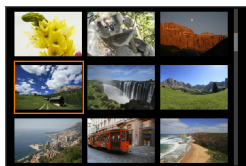
- 画面右上の【】にタッチして、【】が表示された状態で〈〉〈〉を押すと、拡大位置を固定した状態で、画像の切り換えを行うことができます。

インデックス表示(複数画像表示)



1 インデックス表示にする

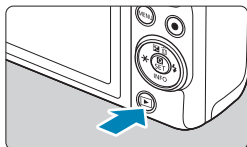
- 画像を再生した状態で、〈〉を左に回します。
- 4枚表示になります。選択されている画像にオレンジ色の枠が付きます。
さらに〈〉を左に回すと、9枚→36枚→100枚表示になります。
反対側に回すと、100枚→36枚→9枚→4枚→1枚表示になります。



2 画像を選ぶ

- 〈〉十字キーを操作して、オレンジ色の枠を移動させ、画像を選びます。
- 〈SET〉を押すと、選んだ画像が1枚表示されます。

動画の再生



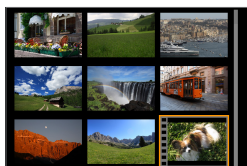
1 画像を再生する

- 〈▶〉 ボタンを押します。



2 動画を選ぶ

- 〈◀〉 〈▶〉 で再生する動画を選びます。
- 1枚表示のときに、画面左上に【SET 画像】が表示されている画像が動画です。
- インデックス表示のときは、画面左側に縦帯の付いた画像が動画です。インデックス表示からは再生できませんので、〈SET〉を押して1枚表示にします。

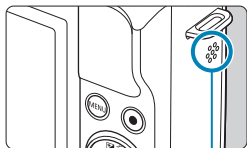
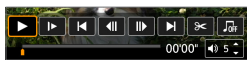


3 1枚表示の状態で〈SET〉を押す



4 〈SET〉を押して動画を再生する

- 動画再生が始まります。
- 再生中に〈SET〉を押すと、再生が一時停止し、動画再生パネルが表示されます。もう一度押すと再開します。
- 〈▲〉 〈▼〉 で、再生中でも音量を調整することができます。



(1)

(1) スピーカー

動画再生パネル

項目	再生内容
▶ 再生	〈SET〉を押すたびに再生／一時停止を繰り返します。
▶ スロー再生	〈◀〉〈▶〉でスロー再生の速さを変えることができます。画面右上に速さの度合いが表示されます。
⏮ 前スキップ	〈SET〉を押すたびに約4秒戻します。
◀ フレーム戻し	〈SET〉を押すたびに1コマ戻します。〈SET〉を押し続けると早戻しします。
▶ フレーム送り	〈SET〉を押すたびに1コマ送ります。〈SET〉を押し続けると早送りします。
⏭ 次スキップ	〈SET〉を押すたびに約4秒送ります。
✂ 編集	編集画面を表示します (📖 266)。
🔍 フレーム切り出し	4K動画／4Kタイムラプス動画再生時に選択することができます。画面に表示しているフレームを切り出して、静止画 (JPEG画像) として保存することができます (📖 268)。
🎵 BGM選択	音楽を選択し、音楽と一緒に動画を再生できます (📖 301)。
	再生位置
mm' ss"	再生時間 (mm' : 分、ss" : 秒)
🔊 音量	〈▲〉〈▼〉でスピーカー (📖 263) の音量を調整することができます。



- 動画を再生中に 〈◀〉〈▶〉を押すと、前後に約4秒スキップします。

動画再生パネル（ビデオスナップアルバム／ダイジェスト動画）

項目	再生内容
▶ 再生	〈SET〉を押すたびに再生／一時停止を繰り返します。
▶ スロー再生	〈◀〉〈▶〉でスロー再生の速さを変えることができます。画面右上に速さの度合いが表示されます。
◀ 前のチャプター	前のスナップ／チャプターの先頭画面を表示します。
◀◀ フレーム戻し	〈SET〉を押すたびに1コマ戻します。〈SET〉を押し続けると早戻しします。
▶▶ フレーム送り	〈SET〉を押すたびに1コマ送ります。〈SET〉を押し続けると早送りします。
▶ 次のチャプター	次のスナップ／チャプターの先頭画面を表示します。
🗑️ チャプター消去	再生中のスナップ／チャプターを削除します。
✂️ 編集	編集画面を表示します（📖266）。
🎵 BGM選択	BGMを選んで音楽と一緒にアルバムを再生できます（📖301）。
	再生位置
mm' ss"	再生時間（mm'：分、ss"：秒）
🔊 音量	〈▲〉〈▼〉でスピーカー（📖263）の音量を調整することができます。



- カメラをテレビに接続して動画を再生するときは（📖272）、テレビ側で音量の調整を行ってください（〈▲〉〈▼〉を操作しても音量は変わりません）。
- カードの読み取り速度が遅いときや、動画ファイル内のフレームが壊れているときは、動画再生が終了することがあります。



- ビデオスナップアルバム、およびダイジェスト動画を再生中に、〈◀〉〈▶〉を押すと、前後のスナップ／チャプターの先頭に送ることができます。
- 動画撮影可能時間については、📖500を参照してください。

動画の前後部分のカット

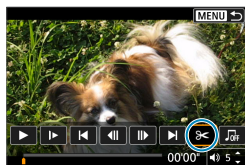
撮影した動画の前後部分を約1秒単位で削除することができます。

1 動画を再生して一時停止させる

- 動画再生パネルが表示されます。

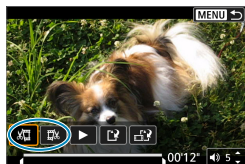


2 動画再生パネルで [⏮] を選ぶ



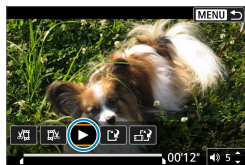
3 削除する範囲を指定する

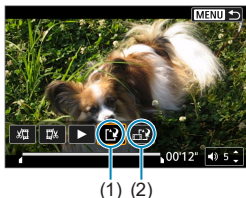
- [⏮] (前部を削除) か、[⏭] (後部を削除) を選びます。
- <⏮> <⏭> を押すと、1フレームずつ送られます。
- 削除する範囲が決まったら、<SET> を押します。画面下部に線で表示された範囲が残ります。



4 編集内容を確認する

- [▶] を選ぶと、編集した動画が再生されます。
- 削除する範囲を変更するときは、手順3の操作を行います。
- 編集を中止するときには、<MENU> ボタンを押します。





5 保存する

- [F10] (1) を選びます。
- 保存画面が表示されます。
- 別のファイルとして保存するときは **【新規保存】**、編集前の動画を残さないときは **【上書き保存】** を選びます。
- [F11] (2) を選ぶと、圧縮して別のファイルで保存されます。4K動画はフルHD動画に変換して圧縮され、別ファイルで保存されます。
- 確認画面で **【OK】** を選ぶと、編集した動画が保存され、再生画面に戻ります。



- 約1秒単位（画面下部に **【X】** が表示される位置）で削除されるため、実際にカットされる位置が指定した位置と異なることがあります。
- 他のカメラで撮影した動画はこのカメラで編集できません。
- カメラとパソコンを接続しているときは編集できません。
- **【圧縮して新規保存】** を行った動画は、**【F11】** は選択できません（再圧縮/保存はできません）。



- ビデオスナップアルバムの編集方法は、『アルバム編集』（P299）を参照してください。

フレームの切り出し

4K動画、4Kタイムラプス動画から任意のフレームを選び、約830万画素(3840×2160)の静止画(JPEG画像)として保存することができます。この機能を「フレーム切り出し(4Kフレームキャプチャー)」と言います。

1 画像を再生する

- 〈▶〉 ボタンを押します。



2 4K動画を選ぶ

- 〈◀〉 〈▶〉 で4K動画、または4Kタイムラプス動画を選びます。
- 撮影情報表示の画面(264)で[4K]と表示されている画像が4K動画/4Kタイムラプス動画です。
- インデックス表示のときは、〈SET〉を押して1枚表示にします。

3 1枚表示の状態で〈SET〉を押す

4 動画を再生して一時停止させる

- 動画再生パネルが表示されます。



5 切り出すフレームを選ぶ

- 動画再生パネルを操作して、静止画として切り出したいフレームを選びます。
- 動画再生パネルの操作方法については、264を参照してください。

6 [4K] を選ぶ

- 〈◀〉 〈▶〉 で[4K]を選びます。





7 保存する

- [OK] を選ぶと、画面に表示されているフレームが静止画（JPEG画像）として保存されます。

8 表示する画像を選ぶ

- 保存先のフォルダと画像番号を確認します。
- [元の動画] または [切り出した静止画] を選びます。



- フルHD動画やフルHDタイムラプス動画、HD動画、他のカメラで撮影した4K動画／4Kタイムラプス動画からは、フレーム切り出しはできません。

ダイジェスト動画の編集

〈A/F〉モードで作成されたチャプターを1つずつ選んで消すことができます。消したチャプターは元に戻すことはできないため、十分に確認してから消してください。

1 画像を再生する

- 〈▶〉 ボタンを押します。



2 ダイジェスト動画を選ぶ

- 〈◀〉 〈▶〉 でダイジェスト動画を選びます。
- 1枚表示のときに、画面左上に【SET 画像】が表示されている画像がダイジェスト動画です。
- インデックス表示のときは、〈SET〉を押して1枚表示にします。

3 1枚表示の状態で〈SET〉を押す



4 [画像] を選ぶ

- ダイジェスト動画の再生が始まります。

5 〈SET〉を押してダイジェスト動画を一時停止させる

- 動画再生パネルが表示されます。

6 チャプターを選ぶ

- [◀]または[▶]でチャプターを選びます。





7 [MENU] を選ぶ



8 [OK] を選ぶ

- チャプターが消去され、上書き保存されます。

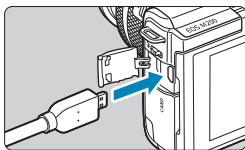


- ビデオスナップアルバムを編集することもできます。ただし、[▶:アルバム編集]で作成されたアルバムは編集できません。
- ダイジェスト動画の動画再生パネルのその他の操作方法については、『動画再生パネル（ビデオスナップアルバム／ダイジェスト動画）』（p.265）を参照してください。

テレビで見る

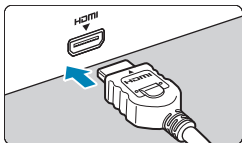
市販のHDMIケーブル（長さ2.5m以下、カメラ側端子はタイプD）でカメラとテレビをつなぐと、撮影した静止画や動画をテレビで見ることができます。

なお、テレビに映像が表示されないときは、[⚙:ビデオ方式] の [NTSC] [PAL] の設定を確認してください（テレビが対応している方式に合わせてください）。



1 HDMIケーブルをカメラに接続する

- ケーブルのプラグを〈HDMI〉端子に差し込みます。

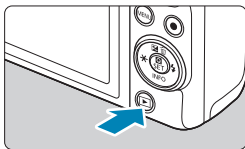


2 テレビにHDMIケーブルを接続する

- HDMIケーブルを、テレビのHDMI入力端子に接続します。

3 テレビの電源を入れ、テレビの入力切り換えで接続した端子を選ぶ

4 カメラの電源を入れる



5 〈▶〉 ボタンを押す

- 画像がテレビに表示されます（カメラのモニターには何も表示されません）。
- 接続したテレビに合わせて、自動的に最適な解像度で画像が表示されます。

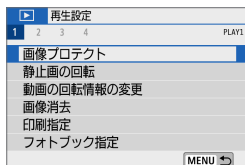


- 動画再生時の音量はテレビ側で調整します。カメラ側から音量の調整はできません。
- ケーブルの取り付け／取り外しを行うときは、カメラとテレビの電源を切った状態で行ってください。
- 使用するテレビにより、表示内容の一部が欠けて表示されることがあります。
- 他の機器からの出力をカメラの〈HDMI〉端子に入力しないでください。故障の原因になります。
- テレビとの相性により、映像が表示されないことがあります。
- 映像が再生されるまでに時間がかかることがあります。この現象が気になるときは、【🔧：HDMI出力解像度】を【1080p】に設定してください(📖 449)。
- カメラとテレビを接続したときは、画面にタッチして操作することはできません。

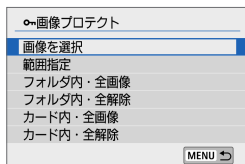
画像プロテクト

大切な画像を誤って消さないように、プロテクト（保護）することができます。

画像を選択して1枚ずつプロテクト



1 [] : 画像プロテクト] を選ぶ



2 [画像を選択] を選ぶ

3 画像を選ぶ

- <◀> <▶> でプロテクトする画像を選びます。

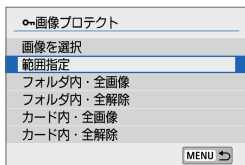
4 プロテクトする

- <SET> を押すと画像がプロテクトされ、画面の上に [] (1) が表示されます。
- もう一度 <SET> を押すと、プロテクトが解除され [] が消えます。
- 他にプロテクトしたい画像があるときは、手順3、4を繰り返します。



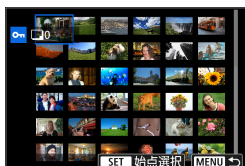
範囲を指定してプロテクト

インデックス表示された画像を見ながら、プロテクトする範囲（始点／終点）を指定して、まとめてプロテクトすることができます。



1 [範囲指定] を選ぶ

- [F10: 画像プロテクト] の [範囲指定] を選びます。

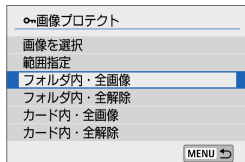


2 範囲を指定する

- 始めの画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。
- 指定した範囲の画像がプロテクトされ、[F10] が表示されます。
- 他にプロテクトしたい画像があるときは、手順2を繰り返します。

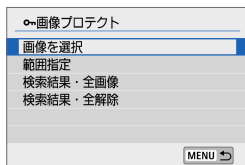
フォルダ内／カード内全画像プロテクト

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめてプロテクトすることができます。



【：画像プロテクト】で【フォルダ内・全画像】または【カード内・全画像】を選ぶと、その中のすべての画像がプロテクトされます。解除するときは【フォルダ内・全解除】または【カード内・全解除】を選びます。

【：画像検索の条件設定】で検索条件が設定されているときは（310）、表示される内容が【検索結果・全画像】【検索結果・全解除】に変わります。



【検索結果・全画像】を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像がプロテクトされます。

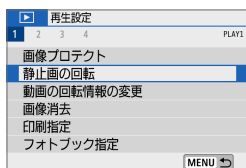
【検索結果・全解除】を選ぶと、絞り込まれた画像のプロテクトがすべて解除されます。

● カードを初期化すると（435）、プロテクトされた画像も消去されます。

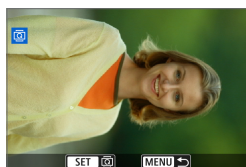
- プロテクトした画像は、カメラの消去機能で消去できません。画像を消去するときは、プロテクトを解除してください。
- 必要な画像をプロテクトしてから全画像消去（282）を行うと、プロテクトした画像以外はすべて消去されます。不要な画像を一度にまとめて消去するときに便利です。

静止画の回転

画像が表示される向きを変えたいときは、この方法で画像を回転させることができます。

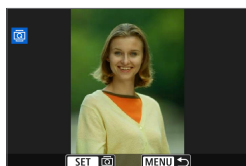


1 [静止画の回転] を選ぶ



2 画像を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉で回転させる画像を選びます。



3 回転させる

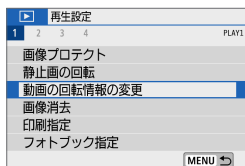
- 〈SET〉を押すたびに、時計方向に回転（90°→270°→0°）します。
- 他に回転したい画像があるときは、手順2、3を繰り返します。



- [縦位置画像回転表示] を [する] (433) に設定して撮影すると、この機能で画像を回転させる必要がなくなります。
- 回転した画像が、再生時に回転した向きで表示されないときは、[縦位置画像回転表示] を [する] に設定します。

動画の回転情報の変更

動画の回転情報（上の向きの情報）を手動で変更することができます。



1 [▶]：動画の回転情報の変更



2 動画を選ぶ

- <◀> <▶> で回転情報を変更する動画を選びます。



3 <SET> を押す

- 画面左上に表示されるカメラと三角のマークを見ながら、<SET> を押して、上の向きを設定します。

- ダイジェスト動画、ビデオスナップアルバムは、回転情報の変更はできません。
- カメラのモニターで動画を再生したときは、[⚙️: 縦位置情報の付加] (P.434) の設定に関わらず、横位置で再生されます。

画像消去

不要な画像を1枚ずつ選んで消去したり、まとめて消去することができます。なお、プロテクト（[274](#)）をかけた画像は消去されません。



- 消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。また、大切な画像は、誤って消去しないようプロテクトをかけてください。

1枚ずつ消去

1 消去する画像を選ぶ

- 〈▶〉 ボタンを押します。
- 〈◀〉 〈▶〉 で消去する画像を選びます。



2 〈⏏〉 ボタンを押す

3 消去する

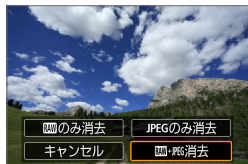
JPEG画像／RAW画像／動画

- [消去] を選びます。



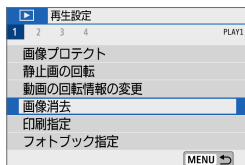
RAW+JPEG画像

- 項目を選びます。

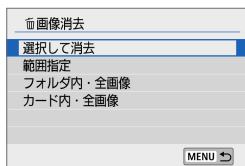


チェック [✓] を付けてまとめて消去

消去したい画像にチェックを付けて、まとめて消去することができます。



1 [▶] : 画像消去] を選ぶ

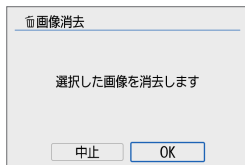


2 [選択して消去] を選ぶ



3 画像を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉で消去する画像を選び、〈SET〉を押します。
- 他に消去したい画像があるときは、手順3を繰り返します。

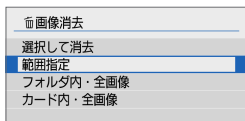


4 消去する

- 〈MENU〉ボタンを押して [OK] を選びます。

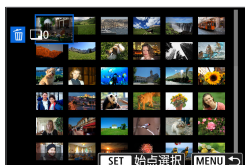
範囲を指定して消去

インデックス表示された画像を見ながら、消去する範囲（始点／終点）を指定して、まとめて消去することができます。



1 [範囲指定] を選ぶ

- [▶: 画像消去] の [範囲指定] を選びます。



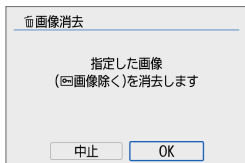
2 範囲を指定する

- 最初の画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。

3 〈MENU〉 ボタンを押す

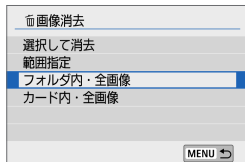
4 消去する

- [OK] を選びます。



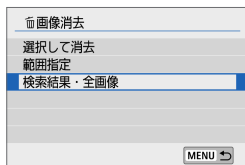
フォルダ内／カード内全画像消去

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめて消去することができます。



【：画像消去】で【フォルダ内・全画像】または【カード内・全画像】を選ぶと、その中のすべての画像が消去されます。

【：画像検索の条件設定】で検索条件が設定されているときは（310）、表示される内容が【検索結果・全画像】に変わります。



【検索結果・全画像】を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像が消去されます。



- プロテクトがかけられた画像を含め、すべての画像を消去したいときは、カード初期化を行います（435）。

印刷の準備をする

ダイレクトプリントの操作は、カメラの液晶モニターに表示される操作画面を見ながら、すべてカメラ側で行います。

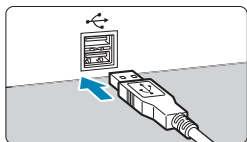
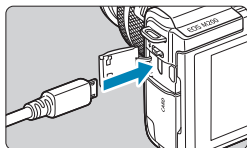
カメラとプリンターを接続する

1 プリンターの準備をする

- 詳しくはプリンターの使用説明書を参照してください。

2 カメラとプリンターを、インターフェースケーブル（別売）で接続する

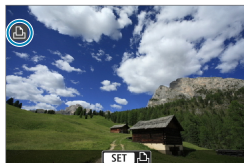
- インターフェースケーブルは、IFC-600PCU（別売）が使用できます。
- カメラのデジタル端子（USB Micro-B）にプラグを差し込みます。
- プリンターのUSB端子にプラグを差し込みます。



3 プリンターの電源を入れる

4 カメラの電源を入れる

- プリンターの機種により、電子音が「ピッ」と鳴ることがあります。
- 画像が表示され、画面左上にプリンターが接続されていることを示すアイコンが表示されます。



- プリンターにPictBridge用の接続端子があることをあらかじめ確認してください。
- 動画は印刷できません。
- 「CPダイレクト」または「Bubble Jetダイレクト」のみに対応したプリンターは使用できません。
- 手順4で電子音が「ピーピーピー」と長く鳴ったときは、プリンターに問題が発生しています。表示されるエラーメッセージに対応した処置を行ってください（[p.368](#)）。

- このカメラで撮影したRAW画像も印刷できます。
- カメラの電源に電池を使用するときは、フル充電してから使用してください。
- ケーブルを取り外すときは、カメラとプリンターの電源を切ってから、プラグの側面を持って引いてください。
- ダイレクトプリントを行うときは、カメラの電源にDC カプラー DR-E12（別売）とコンパクトパワーアダプター CA-PS700（別売）の使用をおすすめします。

印刷する

使用するプリンターによって表示される内容や、設定できる内容が異なります。また、設定そのものがないことがあります。詳しくは、プリンターの使用説明書を参照してください。



(1)

1 印刷する画像を選ぶ

- 液晶モニターの左上にアイコンが表示されていることを確認します。
- 〈◀〉〈▶〉を押して印刷する画像を選びます。

(1) プリンター接続表示

2 〈SET〉を押す

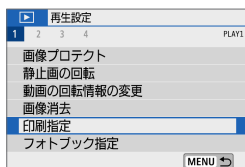
- ➡ 印刷設定画面になります。
- 設定の詳細は、『印刷の設定』(📖 364)を参照してください。

印刷指定

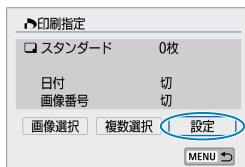
カードに記録されている画像の中から、印刷したい画像と印刷枚数などを指定することができるDPOF（Digital Print Order Format）機能に対応しています。複数の画像を一度に印刷したいときや、写真店に印刷注文する際に使います。

印刷タイプや日付、画像番号の入／切といった印刷内容の設定を行います。この設定は、印刷指定したすべての画像に対して、一律に適用されます（1画像ごとに別々の設定はできません）。

印刷内容を設定する



1 [] : 印刷指定] を選ぶ



2 [設定] を選ぶ

3 項目の内容を設定する

- [印刷タイプ] [日付] [画像番号] の内容を設定します。

印刷タイプ		スタンダード	用紙1枚に1画像を印刷します。
		インデックス	用紙1枚に縮小画像を複数印刷します。
		両方	スタンダードとインデックスの両方を印刷します。
日付	入	[入] にすると、撮影画像に記録されている日付情報を入れて印刷します。	
	切		
画像番号	入	[入] にすると、画像番号を付けて印刷します。	
	切		

印刷指定	
設定	
印刷タイプ	スタンダード
日付	切
画像番号	切
MENU ➡	

4 設定を終了する

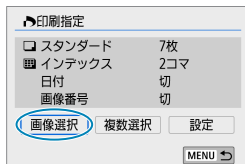
- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 次に印刷指定画面の【画像選択】【複数選択】で、印刷する画像を指定します。



- 画像サイズが大きい画像を【インデックス】【両方】の設定で印刷すると（[286](#)）、プリンターにより、インデックス印刷が行われないことがあります。そのときは、画像をリサイズしてから（[304](#)）インデックス印刷を行ってください。
- 【日付】【画像番号】を【入】にしても、印刷タイプの設定やプリンターにより、印刷されないことがあります。
- 【インデックス】に設定したときは、【日付】と【画像番号】を同時に【入】にできません。
- 印刷するときは、印刷指定を行ったカードを使用してください。画像データだけをカードから抜き出して印刷すると、指定した内容で印刷できません。
- DPOFに対応したプリンターの機種や、写真店の機器により、指定内容が反映されないことがあります。プリンターの場合は、プリンターの使用説明書を参照してください。写真店の場合は、事前にお店に確認してください。
- 他のカメラで印刷指定した画像を、このカメラに入れて再度印刷指定しないでください。印刷指定されている内容が、意図せずすべて書き換えられることがあります。また、画像の種類により、印刷指定できないことがあります。

印刷する画像を指定する

● 画像選択



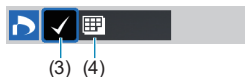
画像を1枚ずつ選んで指定します。
〈MENU〉ボタンを押すと、指定した内容がカードに保存されます。



● スタンダード／両方

〈SET〉を押すと、表示されている画像が1枚印刷指定されます。続けて〈▲〉〈▼〉を押すと、枚数を最大99枚に設定することができます。

- (1) 指定枚数
- (2) 総指定枚数

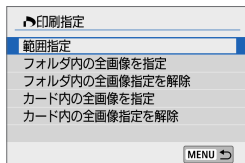


● インデックス

〈SET〉を押して【✓】を付けた画像が、インデックス印刷用の画像として指定されます。

- (3) チェックマーク
- (4) インデックスマーク

● 複数選択



● 範囲指定

【複数選択】の【範囲指定】を選びます。始めの画像（始点）と終わりの画像（終点）を選ぶと、始点から終点までの範囲の画像に【✓】が表示され、1画像1枚で印刷指定されます。

● フォルダ内の全画像

【フォルダ内の全画像を指定】を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内のすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。

【フォルダ内の全画像指定を解除】を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内の印刷指定がすべて解除されます。

● カード内の全画像

【カード内の全画像を指定】を選ぶと、カードに記録されているすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。

【カード内の全画像指定を解除】を選ぶと、カード内の印刷指定がすべて解除されます。

【：画像検索の条件設定】で検索条件が設定されているときは（310）、【複数選択】を選んだときに、表示される内容が【検索結果の全画像を指定】【検索結果の全画像の指定解除】に変わります。

● 検索結果の全画像

【検索結果の全画像を指定】を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。

【検索結果の全画像の指定解除】を選ぶと、絞り込まれた画像の印刷指定がすべて解除されます。

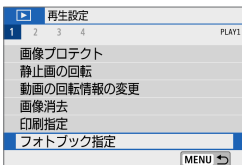


- RAW画像と動画は印刷指定できません。また、【複数選択】でまとめて印刷指定を行っても、RAW画像と動画は指定されません。
- PictBridgeに対応したプリンターで印刷するときは、一度に印刷指定する画像の数を400画像以下にしてください。それ以上指定すると、すべての画像を印刷できないことがあります。

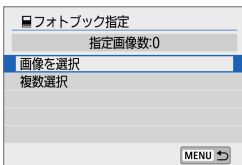
フォトブック指定

フォトブックにする画像を指定（最大998枚）することができます。EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使ってパソコンに取り込むと、フォトブック指定した画像が専用のフォルダにコピーされます。インターネットでフォトブックを注文するときに便利です。

画像を選択して1枚ずつ指定



1 [▶ : フォトブック指定] を選ぶ



2 [画像を選択] を選ぶ

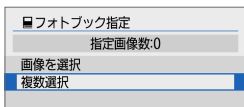


3 指定する画像を選ぶ

- <◀><▶>で指定する画像を選び、<SET>を押します。
- 他にフォトブック指定したい画像があるときは、手順3を繰り返します。

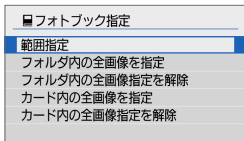
範囲を指定してフォトブック指定

インデックス表示された画像を見ながら、フォトブックにする画像の範囲（始点／終点）を指定して、まとめてフォトブック指定することができます。

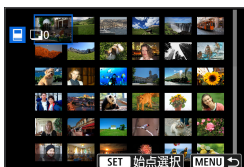


1 [複数選択] を選ぶ

- [▶: フォトブック指定] の [複数選択] を選びます。



2 [範囲指定] を選ぶ

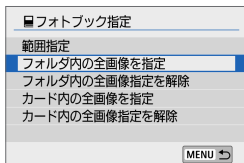


3 範囲を指定する

- 始めの画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。
- 始点から終点までの範囲の画像に [✓] が表示されます。

フォルダ内／カード内全画像指定

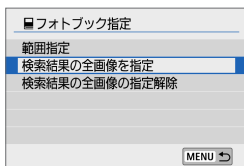
フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめてフォトブック指定することができます。



【**▢**：フォトブック指定】の【複数選択】で【**フォルダ内の全画像を指定**】または【**カード内の全画像を指定**】を選べると、その中のすべての画像がフォトブック指定されます。

解除するときは【**フォルダ内の全画像指定を解除**】または【**カード内の全画像指定を解除**】を選びます。

【**▢**：画像検索の条件設定】で検索条件が設定されているときは（ 310）、【複数選択】を選んだときに、表示される内容が【**検索結果の全画像を指定**】【**検索結果の全画像の指定解除**】に変わります。



【**検索結果の全画像を指定**】を選べると、検索条件で絞り込まれたすべての画像がフォトブック指定されます。

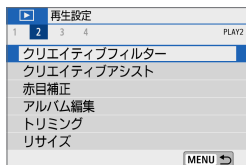
【**検索結果の全画像の指定解除**】を選べると、絞り込まれた画像のフォトブック指定がすべて解除されます。



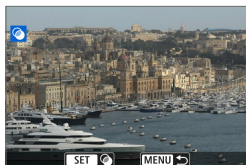
- RAW画像と動画はフォトブック指定できません。また、【複数選択】でまとめてフォトブック指定を行っても、RAW画像と動画は指定されません。
- 他のカメラでフォトブック指定した画像を、このカメラに入れて再度フォトブック指定しないでください。フォトブック指定されている内容が、意図せずすべて書き換えられることがあります。

クリエイティブフィルター

撮影した静止画に、ラフモノクロ／ソフトフォーカス／魚眼風／油彩風／水彩風／トイカメラ風／ジオラマ風のフィルター処理を行い、別画像として保存することができます。



1 [🔍：クリエイティブフィルター] を選ぶ



2 画像を選ぶ

- <◀> <▶> で画像を選び、<SET>を押します。
- <🌞> を左へ回すと、インデックス表示にして選ぶことができます。



3 フィルター効果を選ぶ (📖 294)



4 フィルター効果を調整する

- フィルター効果を調整し、<SET>を押します。
- ジオラマ風は<▲><▼><◀><▶>で、はっきり見せたい部分（白枠）を移動させ、<SET>を押します。



5 保存する

- [OK] を選びます。
- 表示される保存先のフォルダと画像番号を確認して [OK] を選びます。
- 他にフィルター処理を行いたい画像があるときは、手順2～5を繰り返します。



- RAW+JPEGで撮影した画像は、RAW画像を使ってフィルター処理を行い、JPEG画像として保存します。
- アスペクト比を設定して撮影したRAW画像は、フィルター処理を行うと、設定したアスペクト比で保存されます。

各クリエイティブフィルターの特徴

● 📷 ラフモノクロ

ざらついた感じの白黒写真になります。コントラストを調整することで、白黒の感じを変えることができます。

● 👤 ソフトフォーカス

やわらかい感じの写真になります。ぼかし具合を調整することで、やわらかさの感じを変えることができます。

● 🐟 魚眼風

魚眼レンズで撮影したような効果が得られます。タル型にゆがんだ写真になります。

なお、フィルター効果のレベルによって、画像周辺のカットされる領域が変わります。また、フィルター効果により画面中央が拡大されるため、記録画素数によっては、画面中央の解像感が低下することがありますので、手順4でフィルター効果が反映された画像を確認しながら設定してください。

- **油彩風**

油絵のような写真で、被写体の立体感が強調されます。効果を調整することで、コントラストや彩度を変えることができます。なお、空や白壁のようなシーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、ムラやノイズが発生することがあります。

- **水彩風**

水彩画のような写真で、やわらかい感じの色になります。効果を調整することで、色の濃度を変えることができます。なお、夜景や暗い撮影シーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、ムラやノイズが発生することがあります。

- **トイカメラ風**

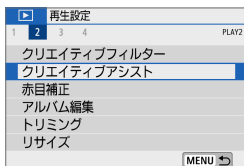
トイカメラ（おもちゃのカメラ）で撮影したような独特の色調で、画面の四隅が暗い写真になります。色調によって、色の感じを変えることができます。

- **ジオラマ風**

ジオラマ（ミニチュア模型）風の写真になります。はっきり見せたい部分を変えることができます。手順4で画面下のにタッチすると、はっきり見せたい部分（白枠）の横／縦を切り換えることができます。

クリエイティブアシスト

RAW画像を現像して、好みの効果をつけたJPEG画像を作成することができます。



1 [] : クリエイティブアシスト] を選ぶ



2 画像を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉で現像する画像を選び、〈SET〉を押します。



3 効果を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉で効果を選びます。



- [プリセット] を選んで 〈SET〉 を押すと、[VIVID] や [SOFT] など、用意された設定から効果を選ぶことができます。なお、[AUTO1] [AUTO2] [AUTO3] は、画像の状態からカメラが判断したおすすめの効果です。



- [明るさ] [コントラスト] などは、〈SET〉を押して〈◀〉〈▶〉で効果を調整します。
- 調整が終了したら 〈SET〉を押します。



- [リセット] にタッチすると、効果がリセットされます。
- 画面右上の【保存】にタッチして、効果を確定します。



4 保存する

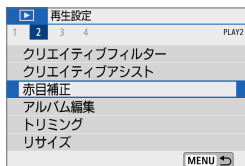
- [OK] を選びます。



- クリエイティブアシストの効果については、 80を参照してください。

赤目補正

ストロボ撮影で目が赤く撮影されてしまった画像の赤目部分を自動的に補正します。



1 [] : 赤目補正] を選ぶ



2 <◀> <▶> で画像を選ぶ

- 画像を選んだら【】にタッチするか、<SET> を押します。
- 補正された部分に白枠が表示されます。



3 保存する

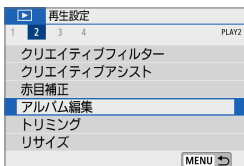
- [OK] を選びます。
- 別画像として保存されます。



- 画像によっては正しく補正されないことがあります。

アルバム編集

ビデオスナップアルバム内のスナップの順序の入れ換え、削除、再生など
ができます。



1 [▶ : アルバム編集] を選ぶ



2 編集するアルバムを選ぶ

- 〈SET〉を押して[✓]を付けます。
- 選び終わったら〈MENU〉ボタンを押します。



3 [OK] を選ぶ



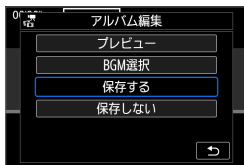
4 編集する項目を選ぶ

項目	内容
ビデオスナップ 並べ換え	〈◀〉〈▶〉で移動したいスナップを選び、〈SET〉を押します。〈◀〉〈▶〉で移動し〈SET〉を押します。
ビデオスナップ 削除	〈◀〉〈▶〉で削除したいスナップを選び、〈SET〉を押します。選択したスナップに、[🗑]が表示されます。もう一度〈SET〉を押すと、選択が解除され[🗑]が消えます。
ビデオスナップ 再生	〈◀〉〈▶〉で再生したいスナップを選び、〈SET〉を押します。〈▲〉〈▼〉で音量が調整できます。



5 編集を終了する

- 〈MENU〉 ボタンを押して編集を終了します。
- [🗑] (編集完了) を選びます。



6 保存する

- 編集結果を確認するときは[プレビュー]を選びます。
- アルバムの再生時にBGMと一緒に再生するときには、[BGM選択] でBGMを選択します (P.301)。
- [保存する] を選ぶと編集したアルバムが新規アルバムとして保存されます。



- 編集後のアルバムを再度編集することはできません。

BGMの選択

EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使用して、BGMをカードにコピーすると、アルバム再生時やスライドショー時にBGMを再生することができます。



1 [BGM選択] を選ぶ

- [BGM選択] で [する] を選びます。

2 音楽を選ぶ

- 〈▲〉 〈▼〉 で音楽を選び、〈SET〉を押します。[スライドショー] では、音楽を複数選ぶことができます。

3 試聴する

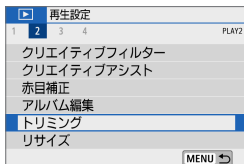
- [▶] にタッチすると、試聴することができます。
- 〈▲〉 〈▼〉 で音量が調整できます。[■] にタッチすると、停止します。
- 音楽を削除するときは、〈▲〉 〈▼〉 で音楽を選び、[削除] にタッチします。



- BGMをカードにコピーする方法については、EOS Utility使用説明書を参照してください。

トリミング

撮影したJPEG画像を部分的に切り抜いて、別画像として保存することができます。トリミングは、JPEGで撮影した画像で行うことができます。RAWで撮影した画像は、トリミングできません。



1 [再生設定] を選ぶ



2 画像を選ぶ

- 〈◀〉 〈▶〉 でトリミングする画像を選びます。



3 トリミング枠の設定を行う

- 〈SET〉 を押すと、トリミング枠が表示されます。
- 枠で囲まれた範囲が切り抜かれます。

● 枠の大きさを変える

2本の指で画面にタッチして指の間隔を狭める／広げると、枠の大きさを調整することができます。枠を小さくするほど拡大してトリミングされます。

● 枠を移動する

〈◇〉 十字キーを操作すると、枠が上下左右に移動します。好みの構図になるように枠を移動します。

● 傾きを補正する

±10°の範囲で傾きを補正することができます。〈〉を回して〔〕を選び、〈SET〉を押します。画面に表示されるグリッドで傾きを確認しながら、〈〉を回す（0.1°単位）、または画面左上に表示された左右の矢印にタッチして（0.5°単位）、傾きを補正します。補正が終わったら〈SET〉を押します。

● 枠のアスペクト比と縦横を変える

〈〉を回して〔〕を選びます。〈SET〉を押すと、枠のアスペクト比が変わります。



4 トリミング範囲を確認する

- 〈〉を回して〔〕を選びます。
- 切り抜かれる範囲が表示されます。



5 保存する

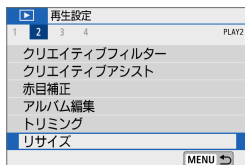
- 〈〉を回して〔〕を選びます。
- [OK] を選ぶと、トリミングされた画像が保存されます。
- 保存先のフォルダと画像番号を確認して [OK] を選びます。
- 他にトリミングしたい画像があるときは、手順2～5を繰り返します。



- 傾き補正の角度によっては、トリミング枠の位置や大きさが変わることがあります。
- トリミング保存した画像を再度トリミングしたり、リサイズすることはできません。
- トリミングを行った画像には、AFフレーム表示用の情報（316）は付加されません。

リサイズ

撮影したJPEG画像の画素数を少なくして、別画像として保存することができます。リサイズは、JPEGの**L/M/S1**で撮影した画像で行うことができます。JPEGの**S2**とRAWで撮影した画像は、リサイズできません。



1 [リサイズ] を選ぶ



2 画像を選ぶ

- 〈◀〉 〈▶〉 でリサイズする画像を選びます。



3 画像サイズを選ぶ

- 〈SET〉 を押すと、画像サイズが表示されます。
- リサイズする画像サイズ（1）を選びます。

(1)



4 保存する

- [OK] を選ぶと、リサイズされた画像が保存されます。
- 保存先のフォルダと画像番号を確認して [OK] を選びます。
- 他にリサイズしたい画像があるときは、手順2～4を繰り返します。

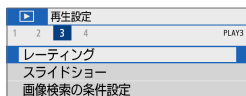
● リサイズした画像の画像サイズについては、502を参照してください。

レーティング

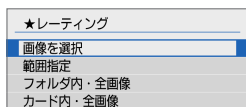
撮影した画像に、5種類のお気に入りマーク（[★]/[☆]/[☆]/[☆☆]/[☆☆]）を付加することができます。この機能を「レーティング」といいます。

* レーティングは「評価」や「等級」などの意味です。

画像を選択して1枚ずつレーティング



1 [▶：レーティング] を選ぶ



2 [画像を選択] を選ぶ



3 レーティングする画像を選ぶ

- 〈◀〉 〈▶〉 でレーティングを行う画像を選びます。

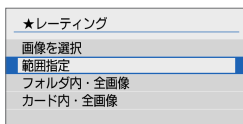


4 レーティングを設定する

- 〈SET〉を押すと、図の位置に青い枠が表示されます。
- 〈▲〉 〈▼〉 でお気に入りマークを選び、〈SET〉を押します。
- お気に入りマークを付けると、そのマークの横にある数値がカウントされます。
- 他にレーティングを行いたい画像があるときは、手順3、4を繰り返します。

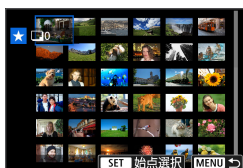
範囲を指定してレーティング

インデックス表示された画像を見ながら、レーティングする範囲（始点／終点）を指定して、まとめてレーティングすることができます。



1 [範囲指定] を選ぶ

- [F4:レーティング] の [範囲指定] を選びます。



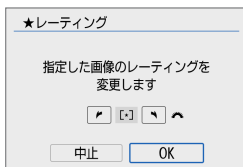
2 範囲を指定する

- 始めの画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。
- 始点から終点までの範囲の画像に [✓] が表示されます。

3 〈MENU〉 ボタンを押す

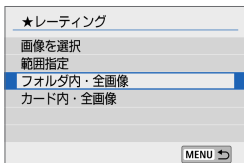
4 レーティングを設定する

- 〈☀〉 を回してお気に入りマークを選び、[OK] を選びます。
- 指定した範囲の画像に対して、まとめて（同一の）レーティングが行われます。

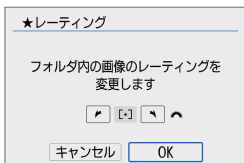


フォルダ内／カード内全画像レーティング

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめてレーティングすることができます。



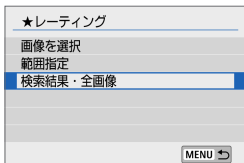
【：レーティング】で【フォルダ内・全画像】または【カード内・全画像】を選ぶと、その中のすべての画像がレーティングされます。



〈〉を回して、レーティングを選び、[OK]を選びます。

レーティングを行わないときや、解除するときは [OFF] を選びます。

【：画像検索の条件設定】で検索条件が設定されているときは (📖310)、表示される内容が【検索結果・全画像】に変わります。



【検索結果・全画像】を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像が、指定した内容でレーティングされます。



- お気に入りマークの横に表示される数値が1000（枚）を超えると [###] と表示されます。
- 【：画像検索の条件設定】【：での画像送り】で、特定のお気に入りマークを付けた画像だけを表示することができます。

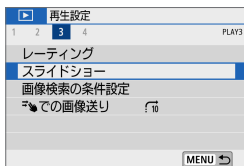
スライドショー

カードに記録されている画像を自動で連続再生することができます。

1 再生する画像を指定する

- カード内の全画像を再生するときは、手順2に進みます。
- スライドショーで再生する画像を指定したいときは、[▶：画像検索の条件設定]で絞り込みます (P310)。

2 [▶：スライドショー] を選ぶ

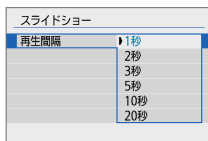


3 再生内容を設定する

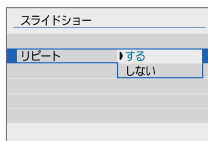
- [設定] を選びます。
- 静止画の[再生間隔]と[リピート]（繰り返し再生）、[切り換え効果]（画像を切り換える際の演出効果）を設定します。
- BGMを流したいときは、[BGM選択]でBGMを選択します (P301)。
- 設定が終わったら、〈MENU〉ボタンを押します。



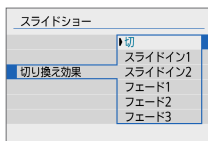
再生間隔



リピート



切り換え効果



BGM選択



4 スライドショーを開始する

- [スタート] を選びます。

[画像読み込み中...] が表示されたあと、スライドショーが始まります。



5 スライドショーを終了する

- 〈MENU〉 ボタンを押すと、スライドショーが終了し、設定画面に戻ります。

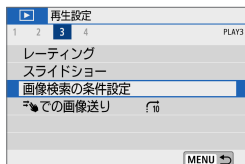


- 一時停止したいときは〈SET〉を押します。一時停止中は画面左上に[III]が表示されます。再度〈SET〉を押すと再開します。
- 動画再生中に〈▲〉〈▼〉を押すと、音量を調整することができます。
- 自動再生中、または一時停止中に〈◀〉〈▶〉を押すと、画像が切り換わります。
- 自動再生中にオートパワーオフは機能しません。
- 画像により表示時間が異なることがあります。

画像検索の条件設定

再生する画像を条件で絞り込むことができます。検索条件を設定して画像を再生すると、条件に該当する画像だけが表示されます。

なお、画像の絞り込みを行った状態で、プロテクト、レーティング、スライドショー、消去などを行うこともできます。



1 [再生設定] を選ぶ

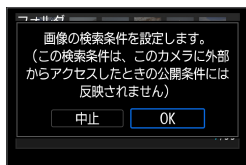


(1)

2 検索条件を設定する

- 〈▲〉 〈▼〉 で項目を選びます。
- 〈◀〉 〈▶〉 で内容を設定します。
項目の左端に【✓】(1) が付きます（検索条件として指定されます）。
- 項目を選び 〈SET〉 を押すと、【✓】 が消えます（指定が解除されます）。
- 設定した内容をすべて解除するときは、【全解除】 にタッチします。

項目	内容
★レーティング	選択した（レーティング）条件の画像を表示します。
☉日付	選択した撮影日の画像を表示します。
■フォルダ	選択したフォルダ内にある画像を表示します。
🔒プロテクト	選択した（プロテクト）条件の画像を表示します。
📁ファイルの種類	選択した種類の画像ファイルを表示します。



3 検索条件を確定する

- 〈MENU〉 ボタンを押して、表示されるメッセージを確認します。
- [OK] を選びます。
- 検索条件が設定されます。



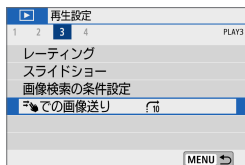
(2)

4 検索した画像を表示する

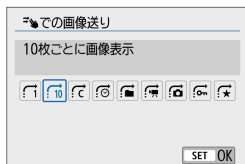
- 〈▶〉 ボタンを押します。
- 検索条件に該当する（絞り込まれた）画像だけが再生されます。
- 絞り込まれた状態で画像が表示されているときは、画面の外側に黄色い枠 (2) が付きます。

2本指ドラッグでの画像送り

1枚表示のときに、2本の指で画面にタッチして左右に画像を送る（ドラッグする）と、指定した方法で前後に画像を飛ばして表示（ジャンプ表示）することができます。



1 【での画像送り】を選ぶ



2 ジャンプ方法を選ぶ



- 【指定した枚数ごとに画像を表示】を選んだときは、〈〉を回してジャンプする枚数を設定します。
- 【指定したレーティングの画像を表示】を選んだときは、〈〉を回してレーティング（ 305）を指定します。★を選んだときは、画像送りを行うと、レーティングが設定されているすべての画像が表示されます。



(1)

(2)

3 画像送りをする

- 〈▶〉 ボタンを押します。
- 1枚表示の状態で、2本の指で左右にドラッグします。
- 設定した方法でジャンプ表示が行われます。

(1) ジャンプ方法

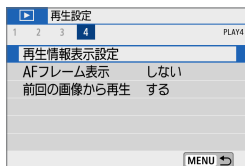
(2) 再生位置



- [📅 : 撮影日] は、撮影した日付で画像を探したいときに選びます。
- [📁 : フォルダ] は、フォルダを指定して画像を探したいときに選びます。
- [🎞️ : 動画] [🖼️ : 静止画] は、カードの中に動画と静止画が混在しているときに、動画、静止画のどちらかだけを表示したいときに選びます。

再生情報表示設定

画像の再生時に表示する画面と、表示する内容（情報）を任意に設定することができます。



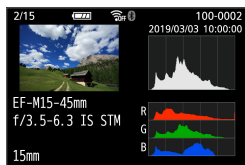
1 [再生] : 再生情報表示設定] を選ぶ



2 表示する画面の番号に【✓】を付ける

- 〈▲〉〈▼〉で番号を選びます。
- 〈SET〉を押すと【✓】が付きます。
- この手順を繰り返して、表示する画面の番号に【✓】を付け、[OK] を選びます。
- 画像を再生して、〈INFO〉ボタンを押したときに、設定した内容が表示されます。

ヒストグラムについて



ヒストグラムには、露出レベルの傾向と全体の階調を確認できる輝度表示と、色の飽和と階調を確認できるRGB表示があります。

● [輝度] 表示

このヒストグラムは、横軸に明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、画像の輝度分布を表しています。画面の中の「暗い成分」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るい成分」ほどグラフの右寄りに積み上げられて表示されます。横軸の左端に積み上げられた成分は黒くつぶれ、右端に積み上げられた成分は白くとびます（ハイライト）。その他の成分は階調が再現されます。再生画像とそのヒストグラムを見ることで、露出レベルの傾向と全体の階調を確認することができます。

ヒストグラム例



暗い成分が多い



普通の明るさ



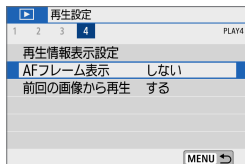
明るい成分が多い

● [RGB] 表示

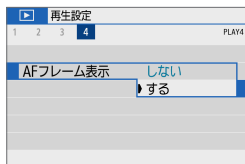
このヒストグラムは、横軸に色の明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に色の明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、R（赤）／G（緑）／B（青）別に色の輝度分布を表しています。画面の中の「暗く薄い色」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るく濃い色」ほどグラフの右寄りに積み上げられます。横軸の左端に積み上げられた成分は色の情報がなく、右端に積み上げられた色は飽和して階調がありません。RGBのヒストグラムを見ることで、色の飽和と階調の状態や、ホワイトバランスの傾向を確認することができます。

AFフレーム表示

再生画面に、ピント合わせを行ったAFフレームを赤い枠で表示することができます。なお、AFフレーム自動選択のときは、AFフレームが複数表示されることがあります。



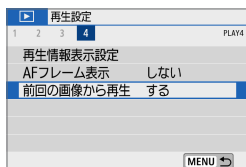
1 [] : AFフレーム表示] を選ぶ



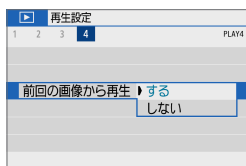
2 [する] を選ぶ

前回の画像から再生

画像の再生を開始したときに、画面に最初に表示する画像を設定することができます。



1 [▶：前回の画像から再生] を選ぶ



2 項目を選ぶ

- 【する】を選んで画像を再生すると、前回再生したときに最後に表示されていた画像が最初に表示されます（撮影を行ったときを除く）。
- 【しない】を選んで電源を入れ直すと、最新の画像が最初に表示されます。

無線通信設定

この章では、Bluetooth[®]機能やWi-Fi[®]機能を使用して、カメラとスマートフォンやWebサービスなどと無線接続して画像を送信する方法や、パソコンやワイヤレスリモコンでカメラを操作する方法などについて説明しています。



必ずお読みください

このカメラを使用するために、誤った無線通信の設定を行った結果生じた損害に対して、弊社では補償できませんので、あらかじめご了承ください。また、このカメラを使用した結果生じた損害に対しても、弊社では補償できませんので、併せてご了承ください。

無線通信機能を使用する際には、お客様の責任と判断で必要なセキュリティを設定してご使用ください。不正侵入等によって生じた損害に対して、弊社では補償できませんので、あらかじめご了承ください。

メニュー目次:無線通信設定タブ

● 無線通信設定1

(P) 無線通信設定	
1 2	NETWORK1
Wi-Fi/Bluetooth接続	321
機内モード	切 403
Wi-Fi設定	使う 395
Bluetooth設定	使う 396
ニックネーム	XXXXX 397
GPSの設定	398
MENU →	

● 無線通信設定2

(P) 無線通信設定	
1 2	NETWORK2
無線通信の設定初期化	404
MENU →	

- ❗
- インターフェースケーブルでカメラとパソコンなどを接続しているときは、無線通信機能を使用することはできません。
 - Wi-Fi接続中は、カメラとパソコンなどを、インターフェースケーブルで接続して使用することはできません。
 - カメラにカードが入っていないときは、Wi-Fi接続できません（[P] は除く）。また、[凸] およびWebサービスでは、カードに画像が記録されていないときも、Wi-Fi接続できません。
 - カメラの電源を切ったときや、カードスロットカバーやバッテリー収納部ふたを開けたときは、Wi-Fi接続が終了します。
 - Wi-Fi接続中は、カメラのオートパワーオフ機能は働きません。

Wi-Fi/Bluetooth接続の選択



1 [(P) : Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ



2 カメラと接続する項目を選ぶ

☐ スマートフォンと通信 (📖 323)

スマートフォンやタブレット（以降は「スマートフォン」と記載）にWi-Fi接続して、専用アプリケーション「Camera Connect（カメラコネクト）」を使ってカメラをリモート操作したり、カメラ内の画像を見ることができます。

☐ EOS用または専用ソフトウェアと連携 (📖 351)

パソコンにWi-Fi接続して、EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使ってカメラをリモート操作することができます。また、専用ソフトウェアのImage Transfer Utility 2を使って、カメラの画像をパソコンに自動送信することができます。

☐ Wi-Fi対応プリンターで印刷 (📖 359)

Wi-Fiで使えるPictBridge（Wireless LAN）に対応したプリンターにWi-Fi接続して、画像を印刷することができます。

Webサービスへ画像を送信 (📖 369)

キヤノンユーザーのためのオンラインフォトサービスCANON iMAGE GATEWAY（登録無料）を通じて、家族や友人との画像共有や、さまざまなWebサービスを利用した画像共有を行うことができます。

ワイヤレスリモコンと接続 (📖 389)

別売のワイヤレスリモートコントローラー BR-E1とBluetooth接続して、リモコン撮影を行うことができます。

スマートフォンと通信

カメラとBluetooth low energy technology（以降は「Bluetooth」と記載）対応スマートフォンをBluetooth接続して、以下のことができます。

- スマートフォンのみの操作によるWi-Fi接続（ 325）
- 電源オフ中のカメラとのWi-Fi接続（ 330）
- スマートフォンで取得した位置情報の画像への付加（ 398）
- スマートフォンをリモコンにしたカメラの操作（ 329）

また、カメラとスマートフォンをWi-Fi接続して、以下のことができます。

- スマートフォンでのカメラ内の画像の閲覧および保存（ 329）
- スマートフォンでのカメラのリモート操作（ 329）
- カメラからスマートフォンへの画像の送信（ 338）

スマートフォンのBluetooth機能とWi-Fi機能をONにする

スマートフォンの設定画面で、Bluetooth機能とWi-Fi機能をONにしておきます。なお、スマートフォンのBluetooth機能設定画面では、カメラとのペアリングはできません。



- アクセスポイントを使用してWi-Fi接続するときは、『アクセスポイントを使用したWi-Fi接続』（ 384）を参照してください。

スマートフォンにCamera Connectをインストールする

AndroidまたはiOSがインストールされたスマートフォンに、専用アプリケーションのCamera Connect（無料）をインストールします。

- スマートフォンのOSは、最新のバージョンをお使いください。
- Camera Connectは、Google PlayまたはApp Storeからインストールすることができます。Google PlayまたはApp Storeは、スマートフォンとのペアリング時やWi-Fi接続時に表示されるQRコードからもアクセスできます。



- Camera Connectが対応しているOSのバージョンについては、Camera Connectのダウンロードサイトでご確認ください。
- カメラのファームウェアアップデートやCamera Connect、Android、iOSなどのバージョンアップにより、本書の記載と実際の画面例などが異なることがあります。

Bluetooth対応スマートフォンとWi-Fi接続する

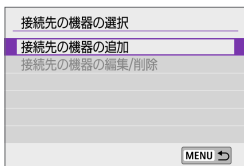
カメラ側の操作-1



1 [(P) : Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ



2 [☐スマートフォンと通信] を選ぶ

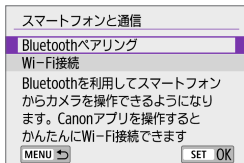


3 [接続先の機器の追加] を選ぶ



4 項目を選ぶ

- Camera Connectをインストール済みのときは【表示しない】を選びます。
- Camera Connectがインストールされていないときは、【Android】または【iOS】を選んで表示されるQRコードをスマートフォンで読み取り、Google PlayまたはApp StoreにアクセスしてCamera Connectをインストールします。



5 [Bluetoothペアリング] を選ぶ

- ペアリングが開始されます。
- 2台目以降のスマートフォンとペアリングするときは、左の画面で [OK] を選びます。

スマートフォン側の操作-1



6 Camera Connectを起動する



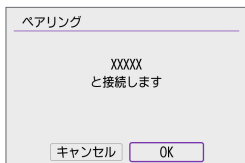
7 ペアリングするカメラにタッチする

- Androidの場合は手順9に進みます。

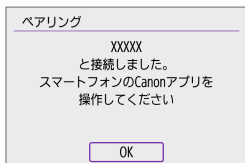


8 [ペアリング] にタッチする (iOSのみ)

カメラ側の操作-2

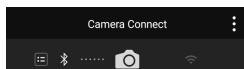


9 [OK] を選ぶ



10 〈SET〉を押す

- ペアリングが完了して、スマートフォンとBluetooth接続されます。Camera Connectのトップ画面にBluetooth接続中の図が表示されます。



- 2台以上のスマートフォンと同時にBluetooth接続することはできません。Bluetooth接続するスマートフォンを切り換えるときは、[図401](#)を参照してください。
- Bluetooth接続中は、カメラのオートパワーオフ中もバッテリーを消耗するため、カメラを使用するときにバッテリーの残量が少なくなっていることがあります。

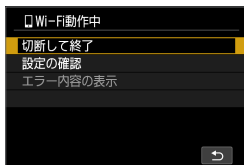
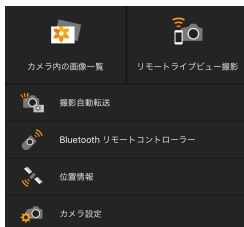
ペアリングできないとき

- スマートフォン側に、前回ペアリングしたときのカメラの登録が残っていると、ペアリングすることができません。スマートフォンのBluetooth設定画面で、前回ペアリングしたカメラの登録を解除してから、ペアリングをやり直してください。



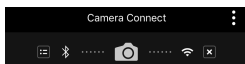
- Bluetooth接続中に、カメラを操作してスマートフォンへ画像を送信できます([図338](#))。

スマートフォン側の操作-2



11 Camera Connectの機能にタッチする

- iOSの場合は、カメラへの接続を確認する画面が表示されたら【接続】にタッチします。
- Camera Connectの機能については 329を参照してください。
- Wi-Fi接続が完了すると、選んだ機能の画面が表示されます。
- カメラのモニターに【Wi-Fi動作中】の画面が表示されます。
- Camera Connectのトップ画面にBluetoothおよびWi-Fi接続中の図が表示されます。



これでBluetooth対応スマートフォンとのWi-Fi接続は完了です。

- Wi-Fi接続を終了する方法は、『Wi-Fi接続の終了』（346）を参照してください。
- Wi-Fi接続を終了するとBluetooth接続に切り換わります。
- 再度Wi-Fi接続するときは、Camera Connectを起動して、使用したい機能にタッチします。

【Wi-Fi動作中】の画面について

切断して終了

- Wi-Fi接続を終了します。

設定の確認

- 設定の内容が確認できます。

エラー内容の表示

- Wi-Fi接続でエラーが発生したときに、エラー内容を確認できます。

Camera Connectの機能

カメラ内の画像一覧

- 画像の閲覧、削除、レーティングを行うことができます。
- スマートフォンに画像を保存することができます。

リモートライブビュー撮影

- スマートフォンでライブビュー映像を見ながらリモート撮影することができます。

撮影自動転送

- 撮影しながらスマートフォンに画像を自動送信するときに（ 337）、カメラやアプリケーションの設定を変更することができます。

Bluetoothリモートコントローラー

- Bluetooth接続中のスマートフォンをリモコンにして、カメラの操作を行うことができます。なお、Wi-Fi接続中は使用できません。
- Bluetoothリモートコントローラーの使用中は、カメラのオートパワーオフ機能は働きません。

位置情報

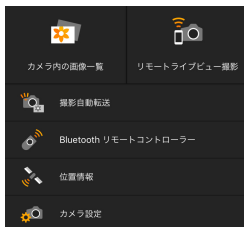
- このカメラでは使用できません。

カメラ設定

- カメラの設定を変更することができます。

電源オフ中のカメラとのWi-Fi接続

カメラとスマートフォンがBluetooth接続中であれば、カメラの電源が切れている状態でも、スマートフォンを操作してWi-Fi接続することができます。



- カメラの電源が切れている状態でも、Camera Connectのメニューの【カメラ内の画像一覧】にタッチすると、Wi-Fi接続が開始されます。
- iOSの場合は、カメラへの接続を確認する画面が表示されたら【接続】にタッチします。
Wi-Fi接続が完了すると、カメラ内の画像の一覧が表示されます。

- Camera Connectを操作して、スマートフォンへの画像の保存、カメラ内の画像の削除を行うことができます。
- Wi-Fi接続を終了するときは、Camera Connectのトップ画面で【×】にタッチします (P.346)。



- 無線通信の設定を初期化したり、スマートフォンの接続情報を消去すると、本機能は使用できなくなります。

ペアリングの解除

スマートフォンとのペアリングを解除するときは、以下の手順で行います。

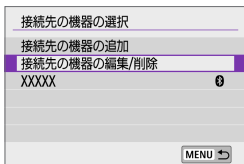


1 [(p) : Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ

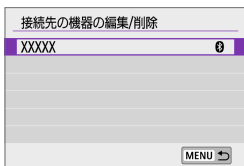


2 [スマートフォンと通信] を選ぶ

- 履歴 (履歴 392) が表示されたときは、
<◀> <▶> で画面を切り換えます。

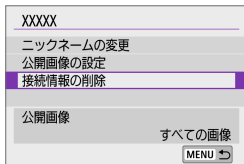


3 [接続先の機器の編集/削除] を選ぶ

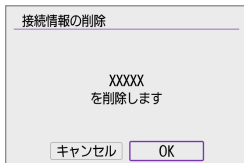


4 ペアリングを解除するスマートフォンを選ぶ

- ペアリング中のスマートフォンは [📶] が表示されます。



5 [接続情報の削除] を選ぶ



6 [OK] を選ぶ

7 スマートフォン側の登録を解除する

- スマートフォンのBluetooth設定画面で、カメラの登録を解除します。

Bluetooth機能を使用せずWi-Fi接続する

カメラ側の操作-1

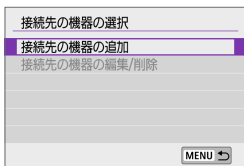


1 [無線通信設定] を選ぶ



2 [スマートフォンと通信] を選ぶ

- 履歴 (履歴 392) が表示されたときは、
〈◀〉 〈▶〉 で画面を切り換えます。



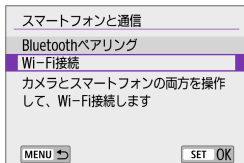
3 [接続先の機器の追加] を選ぶ



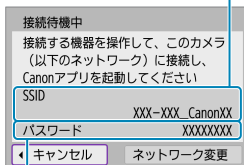
4 項目を選ぶ

- Camera Connectをインストール済みのときは [表示しない] を選びます。

5 [Wi-Fi接続] を選ぶ



(1) 6 SSID (ネットワーク名) とパスワードを確認する



(2)

- カメラのモニターに表示されるSSID (1) とパスワード (2) を確認します。
- [Wi-Fi設定] で [パスワード] を [なし] に設定すると、パスワードは表示されず、入力も不要になります (📖 395)。

📱 ● 手順6で [ネットワーク変更] を選ぶと、アクセスポイント経由でWi-Fi接続することができます (📖 384)。

スマートフォン側の操作

スマートフォンの画面例



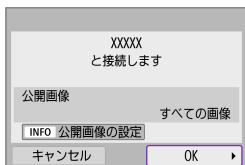
7 スマートフォンを操作してWi-Fi接続する

- スマートフォンのWi-Fi機能をONにして、手順6で確認したSSID（ネットワーク名）にタッチします。
- パスワード欄には、手順6で確認したパスワードを入力します。



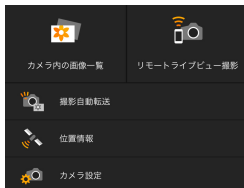
8 Camera Connectを起動してWi-Fi接続するカメラにタッチする

カメラ側の操作-2



9 [OK] を選ぶ

- 公開する画像を設定するときは、〈INFO〉ボタンを押します。📖348の手順5を参照して設定してください。



- スマートフォンに、Camera Connectのメイン画面が表示されます。

これでスマートフォンとのWi-Fi接続は完了です。

- Camera Connectを使用してカメラを操作します (📖 329)。

- Wi-Fi接続を終了する方法は、『Wi-Fi接続の終了』(📖 346)を参照してください。
- 2回目以降のWi-Fi接続については、『2回目以降のWi-Fi接続』(📖 392)を参照してください。



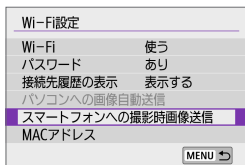
- Wi-Fi接続中に、再生時のクイック設定画面からスマートフォンに画像を送信できます (📖 338)。

撮影画像の自動送信

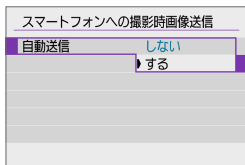
撮影しながらスマートフォンに画像を自動送信することができます。あらかじめ、カメラとスマートフォンをWi-Fi接続しておきます。



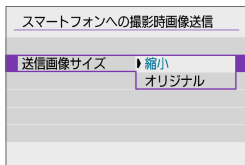
1 [(i) : Wi-Fi設定] を選ぶ



2 [スマートフォンへの撮影時画像送信] を選ぶ



3 [自動送信] で [する] を選ぶ



4 [送信画像サイズ] を設定する

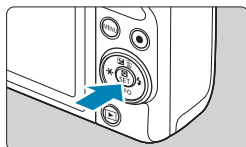
5 撮影する

カメラからスマートフォンへ画像を送信

カメラとスマートフォンがBluetooth接続（Androidのみ）またはWi-Fi接続された状態で、カメラを操作してスマートフォンへ画像を送信することができます。



1 画像を再生する



2 〈Q〉 ボタンを押す



3 [スマートフォンへ画像を送信] を選ぶ

- Bluetooth接続中にこの操作を行ったときは、メッセージが表示され、Wi-Fi接続に切り換わります。

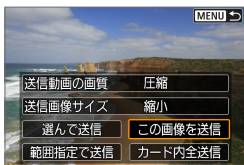
4 送信方法を選んで送信する

(1) 1枚ずつ送信



1 送信する画像を選ぶ

- <◀><▶>で送信する画像を選び、<SET>を押します。
- <☀>を左へ回すと、インデックス表示にして選ぶことができます。



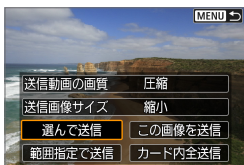
2 [この画像を送信] を選ぶ

- [送信画像サイズ] で送信する画像サイズを選ぶことができます。
- 動画を送信するときは、[送信動画の画質]で、送信する動画の画質を選ぶことができます。

(2) 複数の画像を選んで送信



1 <SET>を押す



2 [選んで送信] を選ぶ



3 送信する画像を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉で送信する画像を選び、〈SET〉を押します。



- 〈☀〉を左へ回すと、インデックス表示にして選ぶことができます。
- 送信する画像の選択が終わったら、〈MENU〉ボタンを押します。

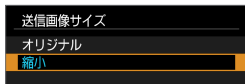
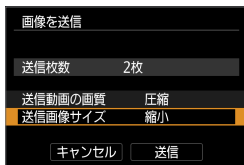
4 画像指定を完了する

- [OK] を選びます。



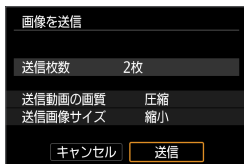
5 [送信画像サイズ] を選ぶ

- 表示される画面で画像サイズを選びます。



- 動画を送信するときは、[送信動画の画質] で画質を選びます。

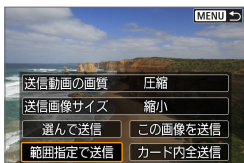
6 [送信] を選ぶ



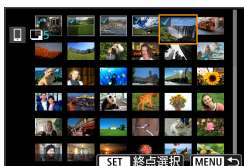
(3) 範囲を指定して送信する場合



1 〈SET〉を押す



2 [範囲指定で送信] を選ぶ



3 画像の範囲を指定する

- 最初の画像（始点）を選びます。
- 最後の画像（終点）を選びます。
- 指定を解除するときは、この操作を繰り返します。
- 〈☀〉を回すと、インデックス表示の枚数を変えることができます。

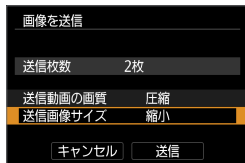
4 範囲を確定する

- 〈SET〉を押します。

5 画像指定を完了する

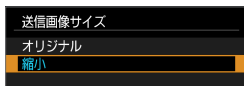
- 〈MENU〉ボタンを押して、[OK] を選びます。



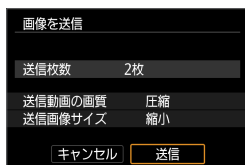


6 [送信画像サイズ] を選ぶ

- 表示される画面で画像サイズを選びます。



- 動画を送信するときは、[送信動画の画質] で画質を選びます。

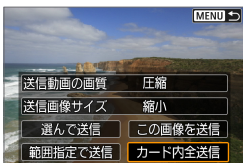


7 [送信] を選ぶ

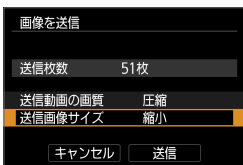
(4) カード内の画像をすべて送信



1 〈SET〉を押す

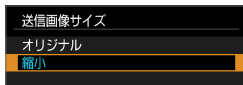


2 [カード内全送信] を選ぶ

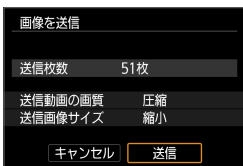


3 [送信画像サイズ] を選ぶ

- 表示される画面で画像サイズを選びます。



- 動画を送信するときは、[送信動画の画質] で画質を選びます。



4 [送信] を選ぶ

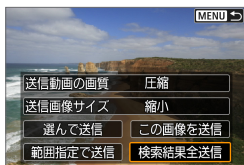
(5) 検索条件が設定された画像を送信

【画像検索の条件設定】で検索条件が設定された画像をまとめて送信します。

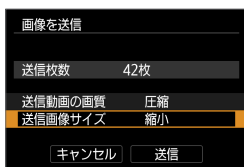
【画像検索の条件設定】については、『画像検索の条件設定』（ 310）を参照してください。



1 〈SET〉を押す

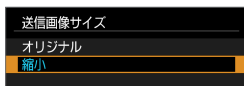


2 【検索結果全送信】を選ぶ

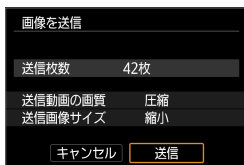


3 【送信画像サイズ】を選ぶ

- 表示される画面で画像サイズを選びます。



- 動画を送信するときには、【送信動画の画質】で画質を選びます。



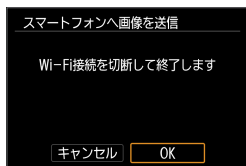
4 【送信】を選ぶ

画像の送信の終了

Bluetooth接続中にカメラを操作して画像を送信した場合（Androidのみ）



- 画像の送信画面で〈MENU〉ボタンを押します。



- 左の画面で【OK】を選ぶと、画像の送信とWi-Fi接続を終了します。

Wi-Fi接続中にカメラを操作して画像を送信した場合



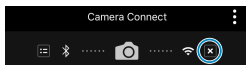
- 画像の送信画面で〈MENU〉ボタンを押します。
- Wi-Fi接続を終了するときは『Wi-Fi接続の終了』（P.346）を参照してください。

- 画像送信の操作中は、カメラのシャッターボタンを押しても撮影できません。

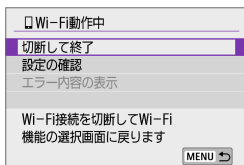
- 画像の送信中に【キャンセル】を選ぶと、送信をキャンセルすることができます。
- 一度に999ファイルまで選択できます。
- Wi-Fi接続中は、スマートフォンの節電機能をオフにしておくことをおすすめします。
- 静止画を縮小するときは、同時に送信する静止画がすべて縮小されます。なお、S2サイズの静止画は縮小されません。
- 動画を圧縮するときは、同時に送信する動画がすべて圧縮されます。
- カメラの電源にバッテリーを使用するときは、フル充電してから使用してください。

Wi-Fi接続の終了

下記のいずれかの操作を行ってください。



Camera Connectの画面で【X】にタッチする



【Wi-Fi動作中】の画面で【切断して終了】を選ぶ

- 【Wi-Fi動作中】の画面が表示されていないときは、【(i) : Wi-Fi/Bluetooth接続】を選びます。
- 【切断して終了】を選び、確認画面で【OK】を選びます。

スマートフォンに公開する画像の設定

Wi-Fi接続を終了してから設定します。

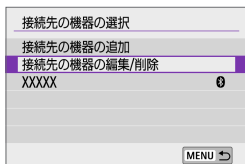


1 [(p) : Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ



2 [スマートフォンと通信] を選ぶ

- 履歴 (履歴 392) が表示されたときは、
〈◀〉 〈▶〉 で画面を切り換えます。

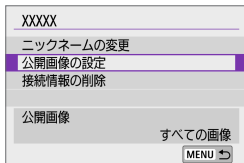


3 [接続先の機器の編集/削除] を選ぶ

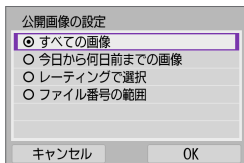


4 スマートフォンを選ぶ

- 画像を公開するスマートフォンの名称
を選びます。



5 【公開画像の設定】を選ぶ



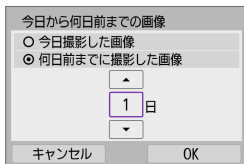
6 項目を選ぶ

- 【OK】を選ぶと、設定画面が表示されます。

【すべての画像】

カード内のすべての画像を公開します。

【今日から何日前までの画像】



撮影日で公開する画像を指定します。最大で9日前までの画像を指定できます。

- 【何日前までに撮影した画像】のときは、今日から何日前までに撮影した画像を公開するかを指定します。〈▲〉〈▼〉で日数を指定し、〈SET〉を押して確定します。
- 【OK】を選ぶと、公開する画像が設定されます。

❗ ● 【公開画像の設定】で【すべての画像】以外を設定しているときは、リモート撮影はできません。

[レーティングで選択]



レーティングを付加した画像（または付加していない画像）やレーティングの種類で公開する画像を指定します。

- レーティングの種類を選ぶと、公開する画像が設定されます。

[ファイル番号の範囲]（範囲で指定）



(1)

(2)

ファイル番号順に並んだ画像の開始と終了の画像を選んで、公開する画像を指定します。

1. 〈SET〉を押して、画像の選択画面を表示します。
〈◀〉〈▶〉で画像を選びます。
〈☀〉を左へ回すと、インデックス表示にして選ぶことができます。
2. 始点（1）の画像を選びます。
3. 〈▶〉で終点（2）の画像を選びます。
4. [OK] を選びます。



- リモート撮影で動画を記録中に、Wi-Fi接続が切断されたときの動作は、以下のようになります。
 - 撮影モードスイッチが〈〉モードのときは、動画撮影が継続します。
- スマートフォンとWi-Fi接続中は、操作できない機能があります。
- リモート撮影では、AF速度が遅くなることがあります。
- 通信状態によっては、映像の表示が遅れたり、レリーズのタイミングが遅れることがあります。
- スマートフォンへの画像保存中は、カメラのシャッターボタンを押しても撮影できません。また、カメラのモニターが消灯することがあります。



- Wi-Fi接続中は、スマートフォンの節電機能をオフにしておくことをおすすめします。

パソコンとWi-Fi接続

ここでは、カメラとパソコンをWi-Fi接続してEOS用または専用ソフトウェアと連携する方法について説明しています。パソコンに最新のソフトウェアをインストールしてからWi-Fi接続の設定を行ってください。

パソコンの操作方法については、パソコンの使用説明書を参照してください。

EOS Utilityでカメラを操作

EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使って、カメラ内の画像の取り込みや、カメラの操作などを行うことができます。

カメラ側の操作-1

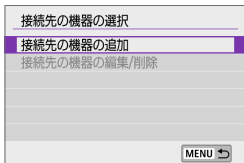


1 [(P) : Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ

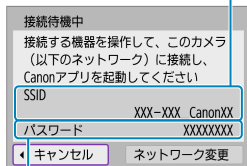


2 [EOS Utilityでリモート操作] を選ぶ

- 履歴 (履歴 392) が表示されたときは、
<◀> <▶> で画面を切り換えます。



3 [接続先の機器の追加] を選ぶ



(2)

(1) 4 SSID（ネットワーク名）とパスワードを確認する

- カメラのモニターに表示されているSSID（1）とパスワード（2）を確認します。
- [Wi-Fi設定] で [パスワード] を [なし] に設定すると、パスワードは表示されず、入力も不要になります。詳しくは、[P.395](#)を参照してください。

パソコン側の操作-1

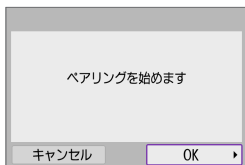
パソコンの画面例



5 SSIDを選んでパスワードを入力する

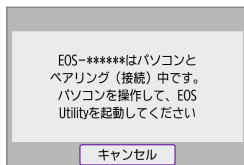
- パソコンのネットワークの設定画面から、手順4で確認したSSIDを選びます。
- パスワード欄には、手順4で確認したパスワードを入力します。

カメラ側の操作-2



6 [OK] を選ぶ

- 下記のメッセージ画面が表示されます。なお、「*****」は、接続しようとしているカメラのMACアドレス下6桁です。



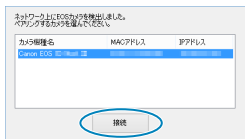
パソコン側の操作-2

7 EOS Utilityを起動する



8 EOS Utilityの [Wi-Fi/LAN接続ペアリング] をクリックする

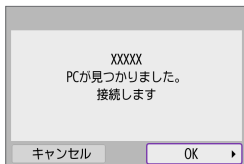
- ファイアウォールに関するメッセージが表示されたときは、[はい] を選びます。



9 [接続] をクリックする

- 接続するカメラを選んで、[接続] をクリックします。

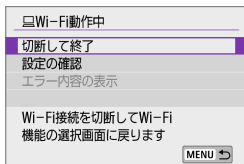
カメラ側の操作-3



10 Wi-Fi接続を確立する

- [OK] を選びます。

[Wi-Fi動作中] の画面について



切断して終了

- Wi-Fi接続を終了します。

設定の確認

- 設定の内容が確認できます。

エラー内容の表示

- Wi-Fi接続でエラーが発生したときに、エラー内容を確認できます。

これでパソコンとのWi-Fi接続は完了です。

- パソコンのEOS Utilityでカメラを操作します。
- 2回目以降のWi-Fi接続については、『2回目以降のWi-Fi接続』(p.392)を参照してください。



- リモート撮影で動画を記録中に、Wi-Fi接続が切断されたときの動作は、以下のようになります。
 - 撮影モードスイッチが〈●●●〉モードのときは、動画撮影が継続します。
 - 撮影モードスイッチが〈●●●〉モード以外のときは、動画撮影が終了します。
- カメラが静止画モードのときに、EOS Utilityの操作で動画モードにしたときは、カメラを操作して撮影することはできません。
- EOS UtilityとWi-Fi接続中は、操作できない機能があります。
- リモート撮影では、AF速度が遅くなることがあります。
- 通信状態によっては、映像の表示が遅れたり、リリースのタイミングが遅れることがあります。
- リモートライブビュー撮影では、インターフェースケーブルでの接続時よりも通信速度が遅くなるため、動きのある被写体を滑らかに表示することはできません。

カメラ内の画像の自動送信

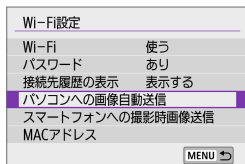
専用ソフトウェアのImage Transfer Utility 2を使って、カメラ内の画像を自動的にパソコンへ送ることができます。

パソコン側の操作-1

1 パソコンとアクセスポイントを接続してImage Transfer Utility 2を起動する

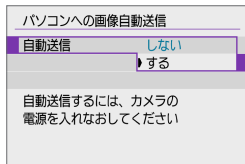
- はじめてImage Transfer Utility 2 を起動したときは、画面の手順にしたがって操作を行うとペアリングを設定する画面が表示されます。

カメラ側の操作-1



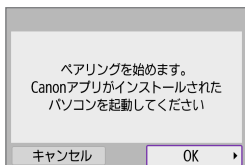
2 [パソコンへの画像自動送信] を選ぶ

- [(⌂) : Wi-Fi設定] を選びます。
- [パソコンへの画像自動送信] を選びます。



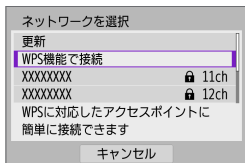
3 [自動送信] で [する] を選ぶ

4 [OK] を選ぶ

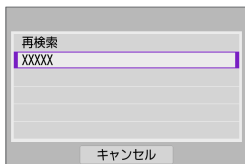


5 アクセスポイントとWi-Fi接続する

- パソコンと接続しているアクセスポイントとカメラをWi-Fi接続します。接続方法は『アクセスポイントを使用したWi-Fi接続』（ 384）を参照してください。



6 カメラとペアリングするパソコンを選ぶ



パソコン側の操作-2

7 カメラとパソコンをペアリングする

- カメラを選んで、[ペアリング] をクリックします。

カメラ側の操作-2

Wi-Fi設定	
Wi-Fi	使う
パスワード	あり
接続先履歴の表示	表示する
パソコンへの画像自動送信	
スマートフォンへの撮影時画像送信	
MACアドレス	
MENU 	

8 [パソコンへの画像自動送信] を選ぶ

- [(i)] : Wi-Fi設定] を選びます。
- [パソコンへの画像自動送信] を選びます。

パソコンへの画像自動送信	
自動送信	する
送信設定	
ペアリング解除	
MENU 	

9 [送信設定] を選ぶ

送信設定	
送信対象範囲	全て
送信対象画像	静止画のみ
送信画像選択	
MENU 	

10 送信する対象を選ぶ

- [送信対象範囲] で [選択画像のみ] を選んだときは [送信画像選択] の画面で送信する画像を設定します。
- 設定が終了したらカメラの電源を切ります。

パソコンが起動した状態で、アクセスポイントの通信範囲内でカメラの電源を入れると、カメラ内の画像がパソコンに自動送信されます。



- 自動送信が始まらないときは、カメラの電源を入れなおしてください。

プリンターとWi-Fi接続

ここでは、カメラとWi-Fiで使えるPictBridge（Wireless LAN）に対応したプリンターを直接Wi-Fi接続して画像を印刷する方法について説明しています。プリンターの操作方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

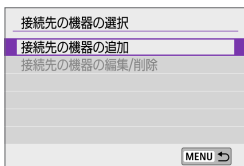


1 [(P)] : Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ

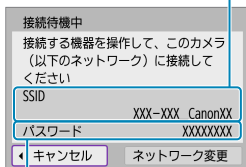


2 [凸 Wi-Fi対応プリンターで印刷] を選ぶ

- 履歴 (履歴 392) が表示されたときは、<◀> <▶> で画面を切り換えます。



3 [接続先の機器の追加] を選ぶ



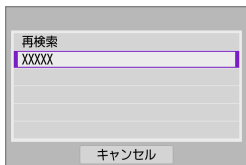
(2)

(1) 4 SSID（ネットワーク名）とパスワードを確認する

- カメラのモニターに表示されているSSID（1）とパスワード（2）を確認します。
- [Wi-Fi設定] で [パスワード] を [なし] に設定すると、パスワードは表示されず、入力も不要になります（[P.395](#)）。

5 プリンターを操作する

- お使いのプリンターのWi-Fiに関する設定メニューから、確認したSSIDを選びます。
- パスワード欄には、手順4で確認したパスワードを入力します。



6 プリンターを選ぶ

- 検出されたプリンターの一覧から、Wi-Fi接続するプリンターを選びます。
- 接続したいプリンターが表示されない場合、[再検索] を選択することで表示されることがあります。



- アクセスポイントを使用してWi-Fi接続するときは、『アクセスポイントを使用したWi-Fi接続』（[P.384](#)）を参照してください。

画像の印刷

1枚ずつ印刷

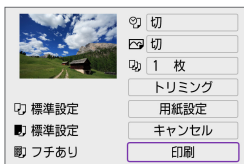


1 印刷する画像を選ぶ

- <◀><▶> で印刷する画像を選び、<SET> を押します。
- <☀> を左へ回すと、インデックス表示にして選ぶことができます。



2 [この画像を印刷] を選ぶ



3 印刷する

- 印刷の設定方法は、[364](#)を参照してください。
- [印刷] を選び、[OK] を選ぶと印刷が始まります。

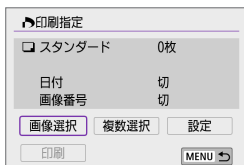
画像を指定して印刷



1 〈SET〉を押す



2 [印刷指定] を選ぶ



3 印刷内容を設定する

- 設定方法は、『印刷指定』（ 286）を参照してください。
- Wi-Fi接続前に印刷指定をしているときは、手順4に進んでください。

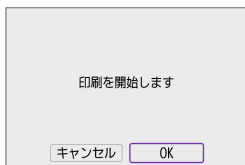
4 [印刷] を選ぶ

- [印刷] は、画像が選択され、印刷できる状態になっていないと選択できません。

5 [用紙設定] の内容を設定する (364)

6 印刷する

- [OK] を選ぶと印刷が始まります。



- プリンターとWi-Fi接続中は撮影できません。
- 動画は印刷できません。
- 印刷するときは、必ず用紙サイズの設定を行ってください。
- プリンターの機種により、画像番号が印刷できないことがあります。
- **【フチあり】** にすると、プリンターの機種により、日付がフチにかかることがあります。
- 日付の背景が明るいときや、日付がフチにかかるときは、プリンターの機種により、日付が薄く印刷されることがあります。
- RAW画像は**【印刷指定】**を選んで印刷することはできません。印刷するときは、**【この画像を印刷】**を選んで印刷してください。

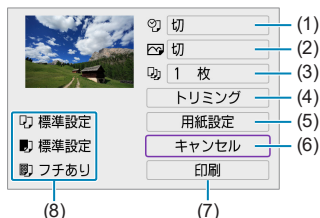


- カメラの電源にバッテリーを使用するときは、フル充電してから使用してください。
- 印刷する画像のファイルサイズや記録画質により、**【印刷】**を選んでから実際に印刷が始まるまで、しばらく時間がかかることがあります。
- 印刷を途中で中止するときは、**【中止】**が表示されている間に**〈SET〉**を押して**【OK】**を選びます。
- **【印刷指定】**で印刷するときに、途中で印刷を中止してから残りの画像を印刷するときは、**【再開】**を選びます。ただし、次のときは印刷の再開はできません。
 - ・再開する前に印刷指定の内容を変更したり、指定した画像を削除したとき
- 印刷中に問題が発生したときは、 368を参照してください。

印刷の設定

使用するプリンターによって表示される内容や、設定できる内容が異なります。また、設定そのものができないことがあります。詳しくは、プリンターの使用説明書を参照してください。

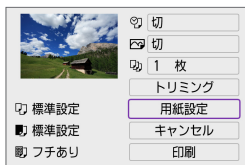
印刷設定画面



- (1) 日付や画像番号の印刷を設定します (📖 366)
- (2) 印刷効果を設定します (📖 366)
- (3) 印刷枚数を設定します (📖 366)
- (4) 印刷範囲を設定します (📖 367)
- (5) 用紙のサイズ、タイプとレイアウトを設定します (📖 365)
- (6) 画像の選択画面に戻ります
- (7) 印刷を開始します
- (8) 設定されている用紙のサイズ、タイプ、レイアウトの情報が表示されます

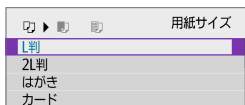
* プリンターの機種により、一部の設定項目が選択できないことがあります。

用紙設定



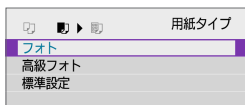
- [用紙設定] を選びます。

[用紙] 用紙サイズの設定



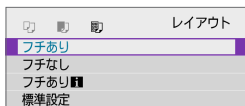
- プリンターにセットされている用紙のサイズを選びます。

[用紙] 用紙タイプの設定



- プリンターにセットされている用紙のタイプを選びます。

[レイアウト] レイアウトの設定



- 印刷レイアウトを選びます。

- 用紙の縦横比と、画像のアスペクト比が異なる条件でフチなし印刷を行うと、大きくトリミングされることがあります。また、解像度が低く印刷されることがあります。

【🖨️】日付／画像番号印刷の設定

画像と一緒に印刷する情報

切

日付

画像番号

両方

標準設定

SET OK

- 【🖨️】を選びます。
- 印刷内容を選びます。

【🖨️】印刷効果（イメージオプティマイズ）の設定

イメージオプティマイズ

標準設定

切

入

SET OK

- 【🖨️】を選びます。
- 印刷効果を選びます。

- ❗
- ISO感度「H」で撮影した画像の撮影情報を印刷すると、ISO感度が適切な値で印刷されないことがあります。
 - 印刷効果などの選択肢にある【標準設定】は、プリンターメーカーが独自に設定する印刷内容のことです。【標準設定】の内容は、プリンターの使用説明書を参照してください。

【🖨️】印刷枚数の設定

印刷枚数

▲

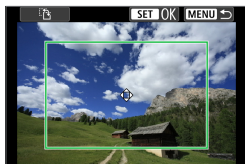
1 枚

▼

SET OK

- 【🖨️】を選びます。
- 印刷枚数を選びます。

トリミング（印刷範囲）の設定



トリミングの設定は、印刷する直前に行ってください。トリミングを行ったあとで印刷設定の内容を変更すると、再設定が必要になることがあります。

1 印刷設定画面で「トリミング」を選ぶ

2 トリミング枠の大きさ、位置、縦横を設定する

- 枠で囲まれた範囲が印刷されます。枠の形状（縦横比）は、**【用紙設定】**の設定で変わります。

枠の大きさを変える

2本の指で画面にタッチして指の間隔を狭める／広げると、枠の大きさを調整することができます。

枠を移動する

〈◇〉十字キーで枠が上下左右に移動します。

枠の縦/横を切り換える

画面の**【田】**にタッチすると、枠が縦長、横長に変わります。

3 〈SET〉を押してトリミングを終了する

- 印刷設定画面の左上で印刷範囲を確認できます。



- プリンターの機種により、枠のとおりに印刷されないことがあります。
- 枠を小さくするほど解像度が低く印刷されます。



プリンターエラー発生時の操作について

- プリンターに関するエラー（インク切れ、用紙切れなど）を解決したあと、[続行]を選んでも印刷が再開されないときは、プリンター側を操作してください。印刷の再開方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

エラーメッセージについて

- 印刷中に問題が発生したときは、カメラのモニターにエラーメッセージが表示されます。問題を解決してから再度印刷してください。プリンターの問題解決方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

用紙エラー

- 用紙が正しくセットされていることを確認してください。

インクエラー

- インク残量や、インク吸収体の状態を確認してください。

ハードウェアエラー

- 用紙、インク以外の問題が発生していないか確認してください。

ファイルエラー

- 選択した画像は印刷できません。別のカメラで撮影した画像や、パソコンに取り込んで加工した画像は、印刷できないことがあります。

Webサービスへ画像を送信

ここでは、Webサービスを利用して画像を送信する方法について説明しています。

Webサービスの情報の登録

パソコンまたはスマートフォンを使って、利用するWebサービスの情報をカメラに登録します。

- CANON iIMAGE GATEWAYをはじめとする各種Webサービスの設定には、インターネットに接続できるパソコンまたはスマートフォンおよびブラウザが必要です。
- CANON iIMAGE GATEWAYに接続する際にお使いいただくブラウザー（Microsoft Internet Explorerなど）のバージョンや設定条件については、CANON iIMAGE GATEWAYのサイトで確認してください。
- CANON iIMAGE GATEWAYのサービスに対応している国／地域の情報は、弊社Webサイト（<http://www.canon.com/cig/>）で確認してください。
- CANON iIMAGE GATEWAYでの操作や設定については、CANON iIMAGE GATEWAYのヘルプをご確認ください。
- CANON iIMAGE GATEWAY以外のWebサービスも利用するときは、そのWebサービスのアカウントが必要です。詳しくは、各WebサービスのWebサイトを確認してください。
- プロバイダーとの接続料金、およびプロバイダーのアクセスポイントへの通信料金は、別途かかります。

CANON iMAGE GATEWAYの登録

CANON iMAGE GATEWAYとカメラを連携できるように、CANON iMAGE GATEWAYをカメラに登録します。

パソコンまたはスマートフォンのメールアドレスが必要です。

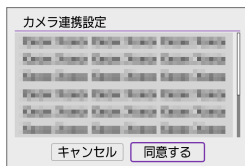
カメラ側の操作-1



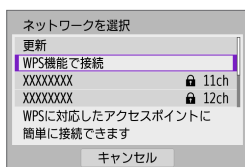
1 [(P) : Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ



2 [☁ Webサービスへ画像を送信] を選ぶ



3 [同意する] を選ぶ



4 Wi-Fi接続する

- アクセスポイントとWi-Fi接続します。
📖 385の手順7に進みます。

カメラ連携設定

メールアドレスを入力してください
(254文字以内)

キャンセル

OK

5 メールアドレスを入力する

- メールアドレスを入力して [OK] を選びます

カメラ連携設定

任意の数字4桁を入力してください
カメラ連携設定時に必要です

キャンセル

OK

6 4桁の数字を入力する

- 任意の4桁の数字を入力し [OK] を選びます。

お知らせ

URLの通知メールを送信しました
メールに記載のURLにアクセスして
カメラ連携設定を行ってください
メールが届かない場合はメールの
設定を確認してやり直してください

OK

7 [OK] を選ぶ

- [☁] が [📷] になります。



パソコンまたはスマートフォン側の操作

8 カメラ連携を設定する

- 受信した通知メールのURLにアクセスします。
- カメラ連携設定ページの案内にしたがって設定します。

カメラ側の操作-2



9 CANON iIMAGE GATEWAYを送信先に追加する

- [📶] を選びます。
CANON iIMAGE GATEWAYが追加されます。



他のWebサービスの登録

パソコンまたはスマートフォン側の操作

1 利用するWebサービスの設定をする

- CANON iMAGE GATEWAYのWebサイトにアクセスして、カメラ連携設定のページを表示します。
- 画面の指示にしたがって、利用するWebサービスの設定をします。

カメラ側の操作



2 設定したWebサービスを送信先に追加する

- [📶] : Wi-Fi/Bluetooth接続] を選びます。
- [☁️] を選びます。

画像の送信

撮影した画像を家族や友人と共有できるよう、登録したWebサービスへカメラ内の画像を送信したり、オンラインアルバムのリンク先を送信できます。

WebサービスとのWi-Fi接続



1 [(P) : Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ



2 Webサービスを選ぶ

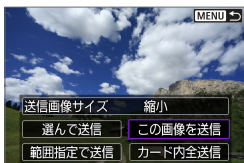
- 履歴 (📖 392) が表示されたときは、<◀> <▶> で画面を切り換えます。
- Webサービスの種類や設定によって、送信先の選択画面が表示されることがあります (📖 387)。

1枚ずつ送信



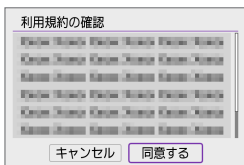
1 送信する画像を選ぶ

- <◀><▶>で送信する画像を選び、<SET>を押します。
- <☀>を左へ回すと、インデックス表示にして選ぶことができます。



2 [この画像を送信] を選ぶ

- [送信画像サイズ] で送信する画像サイズを選ぶことができます。
- 送信の完了画面で【OK】を選ぶと、Wi-Fi接続を終了します。

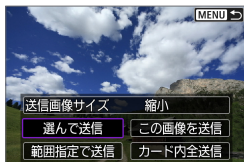


- [利用規約の確認] の画面が表示されたときは、内容をよくお読みのうえ、【同意する】を選びます。
- <▲><▼>で画面をスクロールできます。

複数の画像を選んで送信



1 〈SET〉を押す



2 [選んで送信] を選ぶ



3 送信する画像を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉で送信する画像を選び、〈SET〉を押します。
- 〈☀〉を左へ回すと、3画像表示にして選ぶことができます。1枚表示に戻すときは、〈☀〉を右へ回します。
- 送信する画像の選択が終わったら、〈MENU〉ボタンを押します。

画像を送信	
送信枚数	2枚
送信画像サイズ	縮小
キャンセル	送信

4 [送信画像サイズ] を選ぶ

- 送信先がYouTubeのときは、**【送信画像サイズ】** は表示されません。
- 表示される画面で画像サイズを選びます。

送信画像サイズ

オリジナル

縮小

画像を送信

送信枚数 2枚

送信画像サイズ 縮小

5 [送信] を選ぶ

- 送信の完了画面で **[OK]** を選ぶと、Wi-Fi接続を終了します。

利用規約の確認

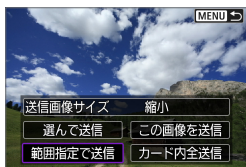
- **【利用規約の確認】**の画面が表示されたときは、内容をよくお読みのうえ、**【同意する】**を選びます。
- **〈▲〉〈▼〉**で画面をスクロールできます。

範囲を指定して送信

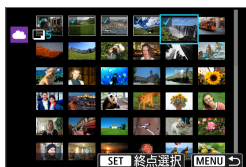
画像の範囲を指定して、まとめて送信します。



1 〈SET〉を押す



2 「範囲指定で送信」を選ぶ



3 画像の範囲を指定する

- 最初の画像（始点）を選びます。
- 最後の画像（終点）を選びます。
画像が選択され、[✓] が表示されます。
- 指定を解除するときには、この操作を繰り返します。
- 〈〉を回すと、インデックス表示の枚数を変えることができます。

4 範囲を確定する

- 〈MENU〉ボタンを押します。

画像を送信	
送信枚数	2枚
送信画像サイズ	縮小
キャンセル	送信

画像を送信

送信枚数 2枚

送信画像サイズ 縮小

利用規約の確認

Yes No Yes No Yes No Yes No
Yes No Yes No Yes No Yes No
Yes No Yes No Yes No Yes No
Yes No Yes No Yes No Yes No
Yes No Yes No Yes No Yes No
Yes No Yes No Yes No Yes No
Yes No Yes No Yes No Yes No
Yes No Yes No Yes No Yes No
Yes No Yes No Yes No Yes No
Yes No Yes No Yes No Yes No

5 [送信画像サイズ] を選ぶ

- 表示される画面で画像サイズを選びます。

送信画像サイズ

オリジナル

縮小

6 [送信] を選ぶ

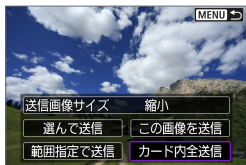
- 送信の完了画面で **[OK]** を選ぶと、Wi-Fi接続を終了します。

- **【利用規約の確認】**の画面が表示されたときは、内容をよくお読みのうえ、**【同意する】**を選びます。
- **〈▲〉〈▼〉**で画面をスクロールできます。

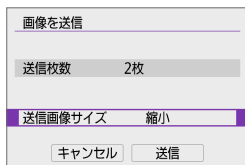
カード内の画像をすべて送信



1 〈SET〉を押す

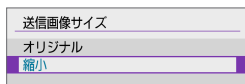


2 [カード内全送信] を選ぶ



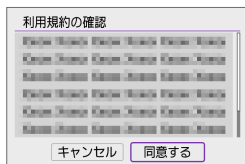
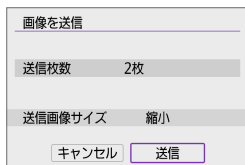
3 [送信画像サイズ] を選ぶ

- 表示される画面で画像サイズを選びます。



4 [送信] を選ぶ

- 送信の完了画面で [OK] を選ぶと、Wi-Fi接続を終了します。



- [利用規約の確認] の画面が表示されたときは、内容をよくお読みのうえ、[同意する] を選びます。
- 〈▲〉〈▼〉で画面をスクロールできます。

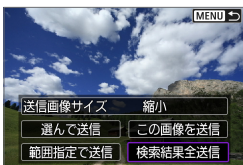
検索条件が設定された画像を送信

【画像検索の条件設定】で検索条件が設定された画像をまとめて送信します。

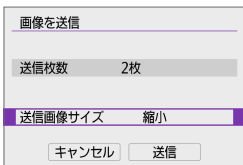
【画像検索の条件設定】については、『画像検索の条件設定』（[310](#)）を参照してください。



1 〈SET〉を押す

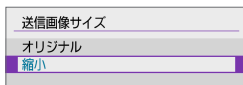


2 【検索結果全送信】を選ぶ



3 【送信画像サイズ】を選ぶ

- 表示される画面で画像サイズを選びます。



画像を送信

送信枚数 2枚

送信画像サイズ 縮小

キャンセル 送信

利用規約の確認

利用規約の確認の画面が表示されたときは、内容をよくお読みのうえ、[同意する]を選びます。

キャンセル 同意する

4 [送信] を選ぶ

- 送信の完了画面で [OK] を選ぶと、Wi-Fi接続を終了します。
- [利用規約の確認] の画面が表示されたときは、内容をよくお読みのうえ、[同意する]を選びます。
- <▲><▼> で画面をスクロールできます。



- WebサービスにWi-Fi接続中は、カメラのシャッターボタンを押しても撮影できません。
- CANON iIMAGE GATEWAY以外のWebサービスへ画像を送信した場合、そのWebサービスへ送信できていないのに、送信エラーが表示されないことがあります。このような場合の送信エラーは、CANON iIMAGE GATEWAYのサイトで確認できますので、エラーの内容をご確認の上、再度送信してください。



- Webサービスによっては送信できる画像の種類や数、動画の時間が制限されます。
- **【範囲指定で送信】**、**【カード内全送信】** または **【検索結果全送信】** で、一部の画像が送信できないことがあります。
- 画像を縮小するときは、同時に送信する画像がすべて縮小されます。なお、動画やS2サイズの静止画は縮小されません。
- **【縮小】** が有効になるのは、このカメラと同じ機種のカメラで撮影された静止画だけです。それ以外のカメラで撮影された静止画は、サイズを縮小せずに送信します。
- CANON iIMAGE GATEWAYにアクセスすると、画像を送信したWebサービスの送信履歴が確認できます。
- カメラの電源にバッテリーを使用するときは、フル充電してから使用してください。

アクセスポイントを使用したWi-Fi接続

ここでは、WPS(PCB方式) に対応したアクセスポイントを利用したWi-Fi接続の方法について説明しています。

あらかじめ、WPS用ボタンの場所と押す時間を確認しておいてください。
Wi-Fi接続の開始から完了まで1分程度かかる場合があります。

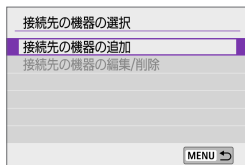


1 [無線通信設定] を選ぶ



2 項目を選ぶ

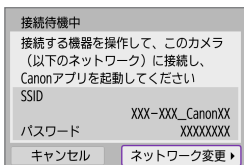
- 履歴 (履歴 392) が表示されたときは、
<◀> <▶> で画面を切り換えます。



3 [接続先の機器の追加] を選ぶ

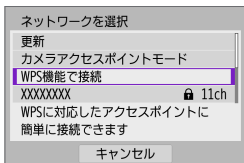


- [スマートフォンと通信] を選んだときは左の画面が表示されます。Camera Connectをインストール済みのときは[表示しない] を選びます。
- 次に表示される[スマートフォンと通信] の画面では[Wi-Fi接続] を選びます。



4 [ネットワーク変更] を選ぶ

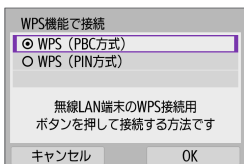
- [□] [≡] [凸] を選んだときに表示されます。



5 [WPS機能で接続] を選ぶ

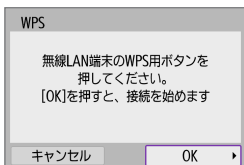


- 手順5の画面で表示される【カメラアクセスポイントモード】については、[387](#)を参照してください。



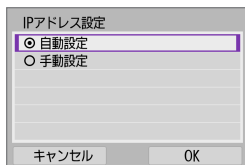
6 [WPS (PBC方式)] を選ぶ

- [OK] を選びます。



7 アクセスポイントにWi-Fi接続する

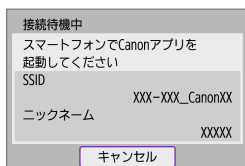
- アクセスポイントのWPS用ボタンを押します。
- [OK] を選びます。



8 [自動設定] を選ぶ

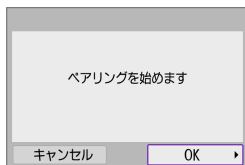
- [OK] を選ぶと、Wi-Fi機能に応じた設定画面が表示されます。
- [自動設定] でエラーが表示されたときは、 387を参照してください。

9 Wi-Fi機能に応じた設定を行う



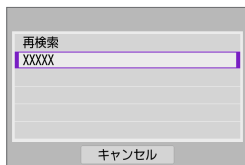
[スマートフォンと通信]

- スマートフォンのWi-Fi機能で、モニターに表示されたSSID（ネットワーク名）にタッチして、接続するアクセスポイントのパスワードを入力します。
 335の手順8に進みます。



[EOS Utilityでリモート操作]

353の手順7または手順8に進みます。



[Wi-Fi対応プリンターで印刷]

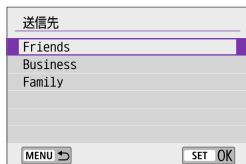
360の手順6に進みます。

CANON i IMAGE GATEWAYを登録する

371の手順5に進みます。

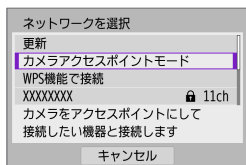
送信先画面

Webサービスによっては、送信先の選択画面が表示されることがあります。送信先の登録や送信時の設定は、パソコンで行います。設定方法については、EOS Utilityの使用説明書を参照してください。



- **【送信先】** の画面が表示されることがあります。
- 登録した送信先の一覧から、送信先を選びます。
- 接続設定や画像の送信方法は、他のWebサービスと同じです。

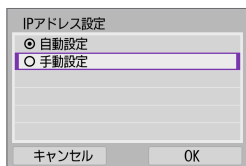
カメラアクセスポイントモード



カメラアクセスポイントモードは、カメラと各機器を直接Wi-Fi接続する方法です。**【Wi-Fi/Bluetooth接続】** で、**【□】** **【□】** **【△】** を選んだときに表示されます。

IPアドレスの手動設定

表示される項目はWi-Fi機能によって異なります。



1 **【手動設定】** を選ぶ

- **【OK】** を選びます。

IPアドレス設定

IPアドレス	192.168.1.2
サブネットマスク	255.255.255.0
ゲートウェイ	使わない

キャンセル OK

2 項目を選ぶ

- 項目を選ぶと、数値の入力画面が表示されます。
- ゲートウェイを使う場合は、**【使う】**を選んでから**【アドレス】**を選びます。

ゲートウェイ

☒ 使う
☐ 使わない

アドレス

0.0.0.0

キャンセル OK

IPアドレス

192.168.1.3

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

MENU × OK キャンセル

3 数値を入力する

- **〈☀〉** で上側の入力場所を選び、**〈◀〉** **〈▶〉** で入力する数値を選びます。**〈SET〉** を押すと選んだ数値が入力されます。
- **〈MENU〉** ボタンを押すと、1字削除されます。

IPアドレス設定

IPアドレス	192.168.1.3
サブネットマスク	255.255.255.0
ゲートウェイ	使わない

キャンセル OK

4 [OK] を選ぶ

- 必要な項目の設定が完了したら **【OK】** を選びます。
- 設定する内容が分からない場合は、『ネットワークの設定を確認する』（[421](#)）を参照するか、ネットワーク管理者、またはネットワークに詳しい方に問い合わせてください。

ワイヤレスリモコンと接続

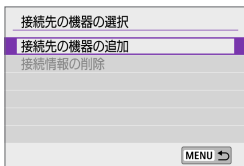
ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1（別売／📖193）と Bluetooth接続して、ワイヤレスでリモコン撮影することができます。



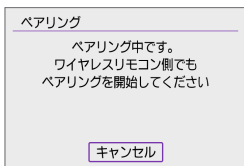
1 [(📶) : Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ



2 [(📶) ワイヤレスリモコンと接続] を選ぶ



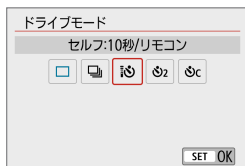
3 [接続先の機器の追加] を選ぶ



4 ペアリングする

- 【ペアリング】の画面が表示されたら、BR-E1の〈W〉ボタンと〈T〉ボタンを同時に3秒以上押します。
- 「****（BR-E1の個別名称）と接続しました」が表示されたら、〈SET〉を押します。

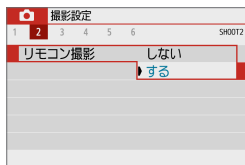
静止画撮影時



5 リモコン撮影できるように設定する

- [📷] タブの [ドライブモード] で [📷] を選びます (📖 137)。

動画撮影時



- [📷] タブの [リモコン撮影] で [する] を選びます。

- このあとの操作は、BR-E1の使用説明書を参照してください。



- カメラがオートパワーオフのときも、Bluetooth接続中はカメラのバッテリーが消耗します。



- Bluetooth機能を使わないときは、手順1で [Bluetooth設定] を [使わない] に設定することをおすすめします。

ペアリング解除

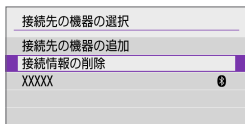
他のBR-E1とペアリングするときは、接続中のリモコンの登録を解除します。



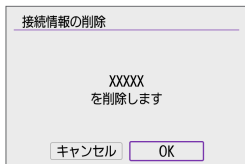
1 [(i) : Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ



2 [(無線リモコン) ワイヤレスリモコンと接続] を選ぶ



3 [接続情報の削除] を選ぶ



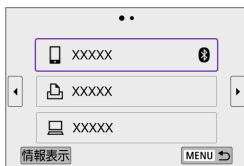
4 [OK] を選ぶ

2回目以降のWi-Fi接続

一度Wi-Fi接続して接続設定が登録された機器やWebサービスに、再度Wi-Fi接続する方法です。



1 [(📶)] : Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ



2 項目を選ぶ

- 表示された履歴から、Wi-Fi接続する項目を選びます。表示されていないときは〈◀〉〈▶〉で画面を切り換えます。
- [接続先履歴の表示] を [表示しない] に設定しているときは履歴は表示されません(📖 395)。

3 接続先の機器を操作する

[📱] スマートフォンの場合

- Camera Connectを起動します。
- スマートフォンの接続先が変更されているときは、カメラ、またはカメラと同じアクセスポイントにWi-Fi接続するように設定し直します。
カメラとスマートフォンを直接Wi-Fi接続するときは、SSIDの末尾に「_Canon0A」と表示されます。

[🖨] パソコンの場合

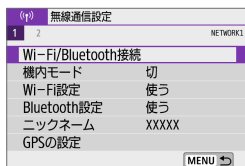
- パソコンでEOS用ソフトウェアを起動します。
- パソコンの接続先が変更されているときは、カメラ、またはカメラと同じアクセスポイントにWi-Fi接続するように設定し直します。
カメラとパソコンを直接Wi-Fi接続するときは、SSIDの末尾に「_Canon0A」と表示されます。

[🖨] プリンターの場合

- プリンターの接続先が変更されているときは、カメラ、またはカメラと同じアクセスポイントにWi-Fi接続するように設定し直します。
カメラとプリンターを直接Wi-Fi接続するときは、SSIDの末尾に「_Canon0A」と表示されます。

複数の接続設定の登録

無線通信機能全体で、接続設定を10個まで登録することができます。



1 [(📶) : Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ



2 項目を選ぶ

- 履歴 (📖 392) が表示されたときは、<◀> <▶> で画面を切り換えます。
- [(📱) スマートフォンと通信] は『スマートフォンと通信』(📖 323) を参照してください。
- [(📷) EOS Utilityでリモート操作] は『パソコンとWi-Fi接続』(📖 351) を参照してください。
- [(🖨️) Wi-Fi対応プリンターで印刷] は『プリンターとWi-Fi接続』(📖 359) を参照してください。
- Webサービスへ画像を送信するときは『Webサービスへ画像を送信』(📖 369) を参照してください。

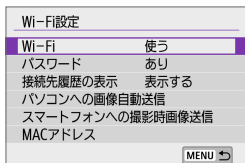


- 接続設定を削除するときは、📖 401を参照してください。

Wi-Fi機能の設定



1 [(p) : Wi-Fi設定] を選ぶ



2 項目を選ぶ

● Wi-Fi

飛行機内や病院内などで、電子機器や無線機器の使用が禁止されているときは、**【使わない】** または **【機内モード】** (403) に設定してください。

● パスワード

【なし】 に設定すると、Wi-Fi接続時のパスワードの入力を省略することができます (アクセスポイントとのWi-Fi接続時を除く)。

● 接続先履歴の表示

Wi-Fi接続した機器の履歴を **【表示する】** / **【表示しない】** が設定できます。

● パソコンへの画像自動送信

専用ソフトウェアのImage Transfer Utility 2を使って、カメラ内の画像を自動的にパソコンへ送ることができます (356)。

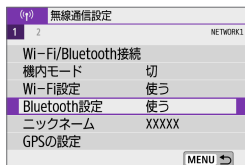
● スマートフォンへの撮影時画像送信

撮影した画像をスマートフォンに自動送信することができます (337)。

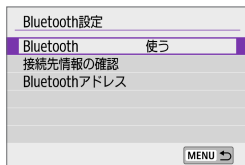
● MACアドレス

カメラのMACアドレスの確認ができます。

Bluetooth機能の設定



1 [Bluetooth設定] を選ぶ



2 項目を選ぶ

● Bluetooth

Bluetooth機能を使わないときは【使わない】を選びます。

● 接続先情報の確認

ペアリングした機器の名前や通信状態を確認できます。

● Bluetoothアドレス

カメラのBluetoothアドレスを確認できます。

ニックネームの変更

スマートフォンやカメラで表示される、このカメラのニックネームを変更することができます。



1 [(p) : ニックネーム] を選ぶ

2 仮想キーボード (📖 406) で文字を入力する

- 入力終了したら〈MENU〉ボタンを押します。

スマートフォンを使用した位置情報の付加

Bluetooth対応スマートフォンを使用して、位置情報を画像に付加することができます。

スマートフォンに専用アプリケーションのCamera Connectをインストール（[📖 324](#)）してから設定を行ってください。

1 スマートフォンの位置情報機能をオンにする

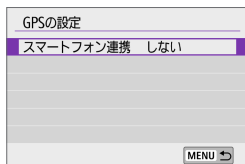
2 Bluetooth接続する

- カメラとスマートフォンをBluetooth接続します（[📖 325](#)）。

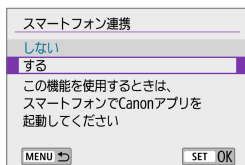
3 [(📶) : GPSの設定] を選ぶ



4 [スマートフォン連携] を選ぶ



5 [する] を選ぶ



6 撮影する

- スマートフォンが取得した位置情報が画像に付加されます。

GPS接続表示

静止画撮影画面（[図503](#)）または動画撮影画面（[図505](#)）の【GPS】表示で、スマートフォンからの位置情報の取得状態を確認することができます。

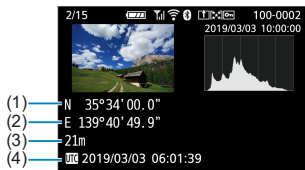
- グレー：位置情報機能がオフの状態
- 点滅：位置情報が取得できない状態
- 点灯：位置情報を取得済

撮影時に位置情報を画像に付加する

【GPS】が点灯中に撮影すると、位置情報が画像に付加されます。

画像に付加される位置情報について

撮影情報表示の画面（[図258](#)、[図314](#)）で、撮影した画像に付加された位置情報を確認することができます。



- (1) 緯度
- (2) 経度
- (3) 標高
- (4) 協定世界時



- スマートフォンによる位置情報の取得は、カメラとスマートフォンがBluetooth接続しているときのみに行われます。
- 方位情報は取得されません。
- 移動条件やスマートフォンの状態によって、取得される位置情報が正確でない場合があります。
- 電源を入れてから、スマートフォンの位置情報を取得するまでに、時間がかかることがあります。
- 以下の操作を行うと、位置情報が取得できなくなります。
 - ワイヤレスリモコンとBluetooth接続する
 - カメラの電源を切る
 - Camera Connectを終了する
 - スマートフォンの位置情報機能をオフにする
- 以下の状態になると、位置情報が取得できなくなります。
 - カメラの電源が切れる
 - Bluetooth接続が終了する
 - スマートフォンのバッテリーの残量が少なくなる



- 協定世界時 (UTC: Coordinated Universal Time) は、グリニッジ標準時とほぼ同じ時刻です。
- 動画撮影のときは、撮影開始時の情報が付加されます。

接続設定の変更／削除

接続設定の変更や削除は、Wi-Fi接続を終了してから行います。

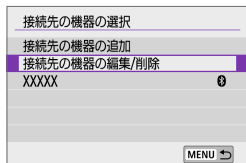


1 [(P) : Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ



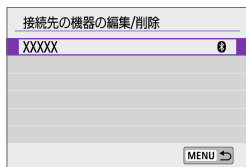
2 項目を選ぶ

- 履歴 (履歴 392) が表示されたときは、
〈◀〉 〈▶〉 で画面を切り換えます。

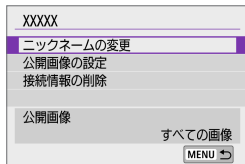


3 [接続先の機器の編集/削除] を選ぶ

- 【Bluetooth】がグレーで表示されたスマートフォンを選ぶと、Bluetooth接続を切り換えることができます。[スマートフォンと通信] の画面が表示されたら [Bluetooth接続] を選び、次の画面で〈SET〉を押します。



4 接続設定の変更や削除を行う機器を選ぶ



5 項目を選ぶ

- 表示される画面で接続設定の変更や削除を行います。

● ニックネームの変更

ニックネームを仮想キーボード (📖 406) で変更できます。

● 公開画像の設定 (📖 347)

【☐スマートフォンと通信】を選んだときに表示されます。設定した内容が画面の下側に表示されます。

● 接続情報の削除

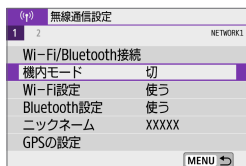
ペアリング中のスマートフォンの接続設定を削除したときは、スマートフォンのカメラの登録も解除してください (📖 331)。



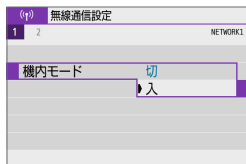
- Webサービスの接続設定は、CANON iIMAGE GATEWAYのWebサイトで削除します。

機内モード

Wi-Fi機能、Bluetooth機能を一時的にオフにすることができます。



1 [(⌂) : 機内モード] を選ぶ

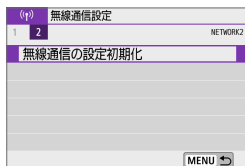


2 [入] に設定する

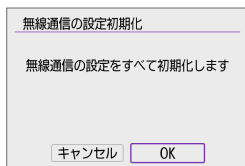
- 画面に [↑] が表示されます。

無線通信の設定初期化

無線通信の設定をすべて削除します。カメラを貸与したり譲渡したときに、無線通信の設定情報が流出することを防ぐことができます。



1 [無線通信の設定初期化] を選ぶ



2 [OK] を選ぶ



- 【カメラの初期化】の【基本設定】を選んでも、無線通信の設定情報は削除されません。
- カメラとスマートフォンをペアリングしていたときは、スマートフォンのBluetooth設定画面で、無線通信の設定を初期化したカメラの登録を解除してください。

情報表示画面

エラーの内容とカメラのMACアドレスを確認することができます。



1 [(P) : Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ



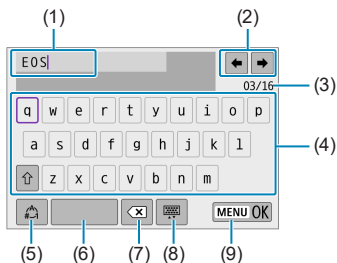
2 [情報表示] にタッチする

- [情報表示] の画面が表示されます。



- エラーが発生しているときに〈SET〉を押すと、エラーの内容が表示されます。

仮想キーボードの操作方法



- (1) 文字を入力するエリア（入力エリア）
- (2) 入力エリアでのカーソルの移動
- (3) 入力した文字数/入力できる文字数
- (4) キーボード
- (5) 入力モードの切り換え

- (6) スペース
- (7) 入力エリアでの文字の削除
- (8) キーボードの種類の変更
- (9) 入力の終了

- (1) は〈〉で入力位置を選びます。
- (2)、(4) ～ (8) は〈〉十字キーで選びます。
- 入力する文字の決定や、入力モードの切り換えなどを行うときは〈SET〉を押します。

エラー表示の対応

エラーが発生したときは、下記のいずれかの方法でエラー内容を表示してください。その後、この章の対応例を参考にしてエラーの原因を取り除いてください。

- [情報表示] の画面で〈SET〉を押す (📖 405)。
- [Wi-Fi動作中] の画面で [エラー内容の表示] を選ぶ。

下記のエラー番号のページをクリックすると該当ページにジャンプします。

11 (📖 408)	12 (📖 408)	21 (📖 409)	22 (📖 410)
23 (📖 411)	61 (📖 412)	63 (📖 413)	64 (📖 413)
65 (📖 414)	66 (📖 414)	67 (📖 414)	68 (📖 415)
69 (📖 415)	91 (📖 415)	121 (📖 415)	125 (📖 416)
126 (📖 416)	127 (📖 416)	141 (📖 416)	142 (📖 416)
151 (📖 417)	152 (📖 417)		



- エラーが発生したときは、[Wi-Fi/Bluetooth接続] の画面の右上に [Err**] と表示されます。カメラの電源を切ると表示されなくなります。

11：接続先が見つかりません

- [□] の場合、Camera Connectは起動していますか？
→ Camera Connectから接続操作を行ってください (📖 335)。
- [📷] の場合、EOS用ソフトウェアは起動していますか？
→ EOS用ソフトウェアを起動して、再度接続操作を行ってください (📖 353)。
- [凸] の場合、プリンターの電源は入っていますか？
→ プリンターの電源を入れてください。
- カメラとアクセスポイントで、同じ認証用のパスワードを設定していますか？
→ 暗号化の認証方式が【オープン】の設定で、パスワードを間違えるとこのエラーになります。
大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用のパスワードをカメラに設定してください (📖 406)。

12：接続先が見つかりません

- 接続先の機器とアクセスポイントの電源は入っていますか？
→ 接続先の機器とアクセスポイントの電源を入れて、しばらくお待ちください。それでも接続できないときは、再度接続操作を行ってください。

21：DHCPサーバーからアドレスが割り当てられていません

カメラの確認内容

- カメラの設定がIPアドレス【自動設定】になっています。この設定で間違いありませんか？
 - ➡ DHCPサーバーを使用していない場合は、カメラをIPアドレス【手動設定】にして設定を行ってください（ 387）。

DHCPサーバーの確認内容

- DHCPサーバーの電源は入っていますか？
 - ➡ DHCPサーバーの電源を入れてください。
- DHCPサーバーから割り当てられるアドレスに余裕はありますか？
 - ➡ DHCPサーバーが割り振るアドレスを増やしてください。
 - ➡ DHCPサーバーからアドレスが割り振られている端末を、ネットワークから外して減らしてください。
- DHCPサーバーは正常に機能していますか？
 - ➡ DHCPサーバーの設定を確認して、DHCPサーバーとして正常に機能しているか確認してください。
 - ➡ ネットワーク管理者がいるときは、DHCPサーバーを使用できる状態にするよう依頼してください。

22：DNSサーバーから応答がありません

カメラの確認内容

- カメラに設定しているDNSサーバーのIPアドレスは合っていますか？
 - ➡ IPアドレス【手動設定】にして、使用するDNSサーバーと同じIPアドレスをカメラに設定してください（📖387、📖421）。

DNSサーバーの確認内容

- DNSサーバーの電源は入っていますか？
 - ➡ DNSサーバーの電源を入れてください。
- DNSサーバーにIPアドレスと、そのアドレスに対応する名前を正しく設定していますか？
 - ➡ DNSサーバーにIPアドレスと、そのアドレスに対応する名前を正しく設定してください。
- DNSサーバーは正常に機能していますか？
 - ➡ DNSサーバーの設定を確認して、DNSサーバーとして正常に機能しているか確認してください。
 - ➡ ネットワーク管理者がいるときは、DNSサーバーを使用できる状態にするよう依頼してください。

ネットワーク全体の確認内容

- Wi-Fi接続しようとしているネットワークに、ゲートウェイ機能を持つルーターなどが使用されていませんか？
 - ➡ ネットワーク管理者がいるときは、ネットワークのゲートウェイアドレスを聞いて、その内容をカメラに設定してください（📖421、📖387）。
 - ➡ カメラを含むネットワーク機器すべてに、ゲートウェイアドレスを正しく設定してください。

23：ネットワーク上に同じIPアドレスの機器が存在します

カメラの確認内容

- カメラと同じネットワークにWi-Fi接続している機器が、カメラと同じIPアドレスを使用していませんか？
 - ➡ カメラのIPアドレスを変更して、同じネットワークに接続している機器とIPアドレスが重複しないようにしてください。または、IPアドレスが重複している他の機器のIPアドレスを変更してください。
 - ➡ DHCPサーバーを使用するネットワーク環境で、カメラがIPアドレス【手動設定】の設定になっているときは、IPアドレス【自動設定】の設定にしてください (📖386)。



エラー 20番台の対応について

- エラー 21 ～ 23が表示された場合は、下記の確認も行ってください。
- カメラとアクセスポイントで、同じ認証用のパスワードを設定していますか？
 - 暗号化の認証方式が【オープン】の設定で、パスワードを間違えるとこのエラーになります。大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用のパスワードをカメラに設定してください (📖406)。

61：同じSSIDの無線LANネットワークが見つかりません

- アクセスポイントのアンテナとカメラの間に、見通しをさえぎる障害物はありませんか？
 - ➡ アクセスポイントのアンテナを、カメラからよく見える場所に移動してください (📖418)。

カメラの確認内容

- カメラにアクセスポイントと同じSSIDを設定していますか？
 - ➡ アクセスポイントのSSIDを確認して、同じSSIDをカメラに設定してください。

アクセスポイントの確認内容

- アクセスポイントの電源は入っていますか？
 - ➡ アクセスポイントの電源を入れてください。
- MACアドレスでフィルタリングしている場合、使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録していますか？
 - ➡ 使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録してください。MACアドレスは【情報表示】の画面 (📖405) で確認できます。

63：無線LANの認証に失敗しました

- カメラとアクセスポイントで、同じ認証方式を設定していますか？
 - ➡ カメラで設定できる認証方式は、【オープン】、【共有キー】、【WPA/WPA2-PSK】です。
- カメラとアクセスポイントで、同じ認証用のパスワードを設定していますか？
 - ➡ 大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用のパスワードをカメラに設定してください。
- MACアドレスでフィルタリングしている場合、使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録していますか？
 - ➡ 使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録してください。MACアドレスは【情報表示】の画面（📖 405）で確認できます。

64：無線LAN端末に接続できません

- カメラとアクセスポイントで、同じ暗号化方式を設定していますか？
 - ➡ カメラで設定できる暗号化方式は、WEP、TKIP、AESです。
- MACアドレスでフィルタリングしている場合、使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録していますか？
 - ➡ 使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録してください。MACアドレスは【情報表示】の画面（📖 405）で確認できます。

65：無線LANの接続が切れました

- アクセスポイントのアンテナとカメラの間に、見通しをさえぎる障害物はありませんか？
 - ➔ アクセスポイントのアンテナを、カメラからよく見える場所に移動させてください（📖418）。
- 何らかの理由で、Wi-Fi接続が切れ、再接続できない状態になっています。
 - ➔ アクセスポイントにほかの機器からのアクセスが集中している場合や、電子レンジなどが近くで使用されている場合（IEEE 802.11b/g/n（2.4GHz帯））、雨天や高湿度などの影響が考えられます（📖418）。

66：無線LANのパスワードが違います

- カメラとアクセスポイントで、同じ認証用のパスワードを設定していますか？
 - ➔ 大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用のパスワードをカメラに設定してください。

67：無線LANの暗号方式が違います

- カメラとアクセスポイントで、同じ暗号化方式を設定していますか？
 - ➔ カメラで設定できる暗号化方式は、WEP、TKIP、AESです。
- MACアドレスでフィルタリングしている場合、使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録していますか？
 - ➔ 使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録してください。MACアドレスは【情報表示】の画面（📖405）で確認できます。

68：無線LAN端末に接続できませんでした。始めからやり直してください。

- アクセスポイントのWPS (Wi-Fi Protected Setup) ボタンは、アクセスポイントで指示されている時間押し続けましたか？
 - ➡ WPSボタンをアクセスポイントの使用説明書で指示されている時間押し続けてください。
- アクセスポイントのすぐ近くで接続操作をしていますか？
 - ➡ 両方の機器にすぐ手が届く距離で接続操作を行ってください。

69：複数の無線LAN端末を検出したため、接続できませんでした。始めからやり直してください。

- ほかのアクセスポイントがWPS (Wi-Fi Protected Setup) のPBC方式（プッシュボタン接続方式）で接続操作を行っています。
 - ➡ しばらく待ってから接続操作を行ってください。

91：その他のエラー

- エラー 11 ～ 69以外の異常が発生しました。
 - ➡ カメラの電源を入れ直してください。

121：サーバーの空き容量が不足しています

- 送信先Webサーバーの空き容量が不足しています。
 - ➡ Webサーバー内の不要な画像を削除し、Webサーバーの空き容量を確認してから再度送信してください。

125：ネットワークの設定を確認してください

- ネットワークが接続されていますか？
➡ ネットワークの接続状態を確認してください。

126：サーバーと接続できませんでした

- CANON iMAGE GATEWAYがメンテナンス中か、一時的に負荷が集中しています。
➡ しばらくしてからWebサービスの接続をやり直してください。

127：エラーが発生しました

- Webサービスの接続中に、エラー 121 ～ 126以外の異常が発生しました。
➡ WebサービスのWi-Fi接続をやり直してください。

141：プリンターは処理中です。もう一度接続してください

- プリンターが印刷中ではありませんか？
➡ 印刷が終わってからWi-Fi接続をやり直してください。
- プリンターにほかのカメラがWi-Fi接続していませんか？
➡ ほかのカメラのWi-Fi接続を終了してから、Wi-Fi接続をやり直してください。

142：プリンター情報の取得に失敗しました。もう一度接続してください

- プリンターの電源は入っていますか？
➡ プリンターの電源を入れてから、Wi-Fi接続をやり直してください。

151：送信を中止しました

- 何らかの理由で、パソコンへの画像の自動送信が中断されました。
 - ➡ カメラの電源を切ってから、再度電源を入れると、自動送信が再開されます。

152：カードのスイッチが書き込み禁止位置になっています

- カードの書き込み禁止スイッチが、書き込み禁止位置になっていませんか？
 - ➡ カードの書き込み禁止スイッチを、書き込み可能位置にしてください。

無線通信機能での注意事項

無線通信機能使用時に「通信速度が遅くなる」、「接続が途切れる」などの現象が起きたときは、下記の例を参考にして対応してみてください。

カメラとスマートフォンとの距離について

カメラとスマートフォンが離れすぎていると、Bluetooth接続は可能でもWi-Fi接続ができないことがあります。その場合は、カメラとスマートフォンを近づけてWi-Fi接続を行ってください。

アクセスポイントのアンテナの設置場所について

- 室内で使用する場合、カメラを使用している部屋に設置してください。
- カメラとの間に、人や遮蔽物が入らない場所に設置してください。

近くにある電子機器について

下記の電子機器の影響でWi-Fiの通信速度が遅くなるときは、電子機器の使用をやめるか、機器から離れた場所で通信を行ってください。

- カメラのIEEE 802.11b/g/nは、2.4GHz帯の電波を使用してWi-Fiの通信を行っています。そのため、同じ周波数帯を使用するBluetooth機器や電子レンジ、コードレス電話機、マイク、スマートフォン、他のカメラなどを使うとWi-Fiの通信速度が遅くなります。

カメラを複数使うときの注意

- 1つのアクセスポイントに複数のカメラをWi-Fi接続するときは、カメラのIPアドレスが重複しないよう注意してください。
- 1つのアクセスポイントに複数のカメラをWi-Fi接続すると、通信速度が遅くなります。
- IEEE 802.11b/g/n (2.4GHz帯) のアクセスポイントが複数あるときは、電波干渉を少なくするために、Wi-Fiのチャンネルを、「1/6/11」、「2/7」、「3/8」というように5チャンネル分、間を開けてください。

ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1の使用について

- カメラとスマートフォンがBluetooth接続されているときは、BR-E1を使用することはできません。【📶：Wi-Fi/Bluetooth接続】の【📶ワイヤレスリモコンと接続】で、カメラの接続先をワイヤレスリモコンに変更してください。

セキュリティについて

セキュリティに関する設定が適切に行われていないときは、次のような問題が発生する恐れがありますので注意してください。

- **通信の傍受**

悪意ある第三者によってWi-Fiの電波を傍受され、通信内容を盗み見られる恐れがあります。

- **ネットワークへの不正アクセス**

悪意ある第三者によって、お使いのネットワークに不正に侵入され、情報の盗難・改ざん・破壊をされるといった被害に遭う恐れがあります。また、別の人物を装ってネットワークに不正な情報を流す「なりすまし」通信がされたり、「踏み台」と呼ばれる別の不正アクセスへの中継地点にされたりする恐れもあります。

こうした問題が発生する可能性を少なくするため、ネットワークのセキュリティを確保するための仕組みや機能を使用することをおすすめします。

ネットワークの設定を確認する

- Windowsの場合

Windowsの【コマンドプロンプト】を開き、ipconfig/allと入力して〈Enter〉キーを押します。

パソコンに割り当てられているIPアドレスのほかに、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNSサーバーの情報が表示されます。

- Mac OSの場合

Mac OS Xの【ターミナル】を開き、ifconfig -aと入力して〈Return〉キーを押します。[en0] 項目 [inet] の ***.***.***.*** がパソコンに割り当てられているIPアドレスです。

* 【ターミナル】については、Mac OS Xのヘルプを参照してください。

なお、📖 387でカメラに割り当てるIPアドレスを設定するときは、パソコンやほかのネットワーク接続機器とIPアドレスが重複しないよう、一番右側の数字を変えて設定します。

例) 192.168.1.10

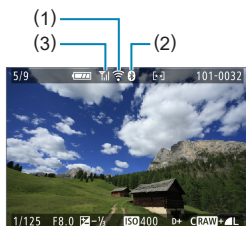
無線通信機能の接続状態

モニターで、無線通信機能の接続状態を確認することができます。

撮影時の情報表示画面



再生時の情報表示画面



(1) Wi-Fi機能

(2) Bluetooth機能

(3) 電波強度

通信状態		モニター	
		Wi-Fi機能	電波強度
未接続	Wi-Fi：使わない		消灯
	Wi-Fi：使う		
接続開始		 (点滅)	
接続中			
送信中		 (動的)	
接続エラー		 (点滅)	

Bluetooth機能の表示

Bluetooth機能	接続状態	モニター
[使う]	Bluetooth接続中	
	Bluetooth未接続	
[使わない]	Bluetooth未接続	非表示



- パソコン、プリンター、WebサービスとのWi-Fi接続時は「Bluetooth未接続」になります。

機能設定

この章では、メニュー機能の「：機能設定タブ」の項目について説明しています。

- ページタイトル右のは、応用撮影モード（**[P]** **[Tv]** **[Av]** **[M]**）および **[Pv]** 動画モード（**[Pv]** **[Mv]**）限定の機能であることを示しています。

メニュー目次:機能設定タブ

● 機能設定1

機能設定		
1	2	3 4 5 SET UP1
フォルダ選択		428
画像番号	通し番号	430
縦位置画像回転表示	する 	433
縦位置情報の付加	する	434
カード初期化		435
MENU 		

● 機能設定2

機能設定		
1	2	3 4 5 SET UP2
エコモード 切		437
節電		438
画面の明るさ		439
日付/時刻/エリア	'19/03/03 10:00	440
言語 	日本語	443
動画撮影時シャッターボタンの機能		444
MENU 		

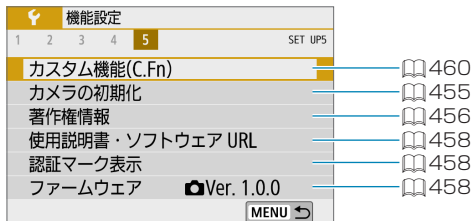
● 機能設定3

機能設定		
1	2	3 4 5 SET UP3
ビデオ方式	NTSC	445
タッチ操作	標準	446
タッチロック設定	OFF	447
電子音	入	448
HDMI出力解像度	自動	449
HDMI HDR出力	切	450
MENU 		

● 機能設定4



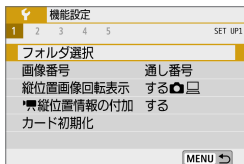
● 機能設定5



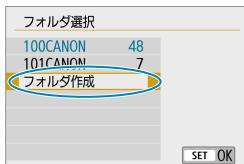
フォルダ選択

画像を保存するフォルダを任意に作成／選択することができます。

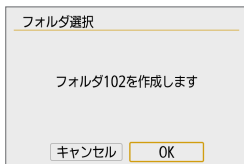
フォルダの作成



1 [F:フォルダ選択] を選ぶ

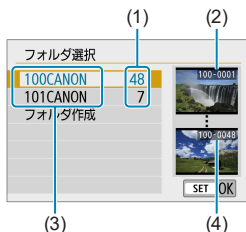


2 [フォルダ作成] を選ぶ



3 [OK] を選ぶ

フォルダの選択



- フォルダ選択画面でフォルダを選びます。
- 撮影画像は選択したフォルダに記録されます。

- (1) フォルダ内画像数
(2) 最小番号画像
(3) フォルダ名
(4) 最大番号画像



フォルダについて

- 1つのフォルダには、画像が最大9999枚保存されます（画像番号0001～9999）。フォルダ内の画像がいっぱいになると、番号が1つ繰り上がったフォルダが自動的に作成されます。また、強制リセット（ 432）を行ったときもフォルダが自動的に作成されます。フォルダは100～999まで作成することができます。

パソコンを使ったフォルダ作成

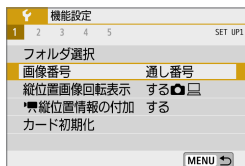
- カードを開いたところに「DCIM」という名前のフォルダを作ります。次にDCIMフォルダを開いたところに、画像を記録するフォルダを必要な数だけ作ります。フォルダ名は、「100ABC_D」のように、必ず100～999までの3桁の番号に続けて、5文字の英数字を付けます。使用できる文字は、半角アルファベットA～Z（大文字、小文字混在可）、半角の「_」（アンダーバー）、および数字です。スペースは使用できません。また、同じフォルダ番号（例：100ABC_D、100W_XYZ）を付けたときは、カメラがフォルダを認識できません。

画像番号

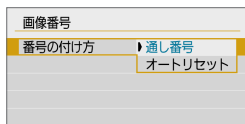
撮影した画像には0001～9999の順で画像番号が付けられ、1つのフォルダに保存されます。画像番号は、用途に応じて付け方を変えることができます。

(例) IMG_0001.JPG

画像番号

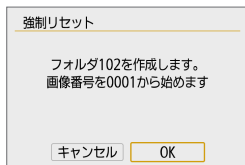
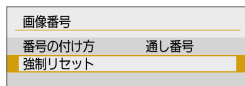


1 [1: 画像番号] を選ぶ



2 項目を設定する

- [番号の付け方] を選びます。
- [通し番号] [オートリセット] のいずれかを選びます。
- 画像番号をリセットしたいときは、[強制リセット] を選びます (432)。
- [OK] を選ぶと、新しいフォルダが作成され、画像番号が0001から始まります。



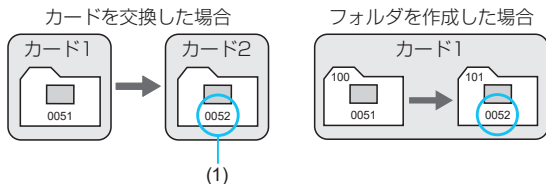
- フォルダ番号999のフォルダに画像番号9999の画像が保存されると、カードに空き容量があっても撮影できなくなります。カードの交換を促すメッセージが表示されますので、新しいカードに交換してください。

通し番号

カード交換やフォルダ作成を行っても連番で保存したいとき

カード交換やフォルダ作成を行っても、画像番号9999の画像ができるまで、連続した番号が付けられ、保存されます。複数のカード、またはフォルダにまたがった0001～9999までの画像を、パソコンで1つのフォルダにまとめて保存したいときなどに有効です。

ただし、交換したカードや、作成したフォルダにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。画像を通し番号で保存したいときは、初期化したカードを使用してください。



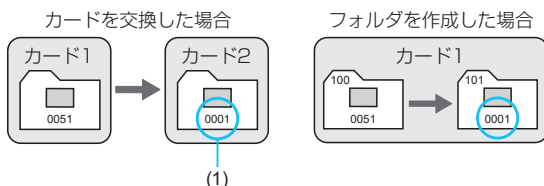
(1) 続きの画像番号

オートリセット

カード交換やフォルダ作成で、画像番号を0001にしたいとき

カード交換やフォルダ作成を行うと、画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。カード単位、またはフォルダ単位で画像を分類したいときなどに有効です。

ただし、交換したカードや、作成したフォルダにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。0001から順に保存したいときは、初期化したカードを使用してください。



(1) 画像番号リセット

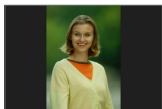
強制リセット

任意に画像番号を0001にしたり、新しいフォルダで画像番号0001から撮影したいとき

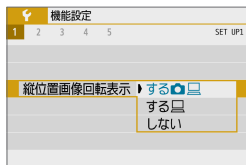
この操作を行うと、自動的に新しいフォルダが作られ、そのフォルダに画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。

前の日に撮影した画像と、今日撮影する画像を別々のフォルダに保存したいときなどに有効です。

縦位置画像回転表示



縦位置で撮影した画像を再生または表示するときの自動回転の設定を変更することができます。



1 [🔧：縦位置画像回転表示] を選ぶ

2 項目を選ぶ

● する 📷 🖨️

カメラでの再生とパソコンでの表示で自動回転表示を行います。

● する 🖨️

パソコンでの表示で自動回転表示を行います。

● しない



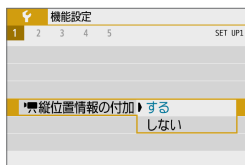
- [しない] で撮影した画像は、[する] に設定して再生しても、自動回転表示は行われません。



- カメラを上や下に向けて撮影すると、自動回転表示が正しく行われないことがあります。
- パソコンの画面で自動回転表示しないときは、EOS用ソフトウェアの使用をおすすめします。

動画縦位置情報の付加

カメラを縦位置にして撮影した動画を、スマートフォンなどで再生したときに、動画が撮影したときと同じ向き（縦位置）で再生されるように、撮影時に回転情報（上の向きの情報）を自動付加するかどうかを設定できます。



1 [カメラ：縦位置情報の付加] を選ぶ

2 項目を選ぶ

● する

スマートフォンなどで動画を再生したときに、撮影したときと同じ向きで再生されます。

● しない

スマートフォンなどで動画を再生したときは、撮影したときの向きに関わらず、横位置で再生されます。



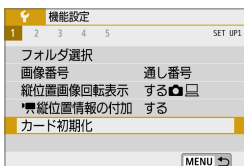
- カメラのモニターで動画を再生したときは、[カメラ：縦位置情報の付加] の設定に関わらず、横位置で再生されます。

カード初期化

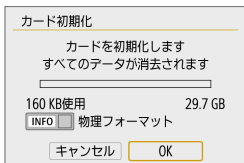
新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）してください。



- カードを初期化すると、カードに記録されている内容は、画像だけでなくすべて消去されます。プロテクトをかけた画像も消去されますので、記録内容を十分に確認してから初期化してください。必要なデータは、初期化する前に必ずパソコンなどに保存してください。

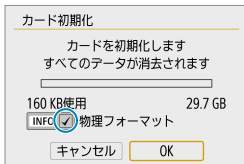


1 [🔑：カード初期化] を選ぶ



2 初期化する

- [OK] を選びます。



- 物理フォーマットを行うときは、〈INFO〉ボタンを押して、[物理フォーマット] の横に〈✓〉が付いた状態で[OK]を選びます。



- カード初期化画面に表示されるカードの総容量は、カードに表記されている容量よりも少なくなることがあります。
- 本機器は、MicrosoftからライセンスされたexFAT技術を搭載しています。



こんなときにカードを初期化します

- 新しく買ってきたカードを使うとき
- 他のカメラやパソコンで初期化したカードを使うとき
- 画像やデータでカードがいっぱいになったとき
- カードに関するエラーが表示されたとき (📖 495)

物理フォーマットについて

- 物理フォーマットは、カードへの書き込み／読み取り速度が遅くなったと感じたときや、データを完全に消去するときなどに行います。
- 物理フォーマットは、カード内の全記憶領域に渡って初期化を行うため、通常のカード初期化よりも時間がかかります。
- 物理フォーマット中に【キャンセル】を選ぶと、初期化を中止することができます。中止した場合でも、通常の初期化は完了しているため、カードはそのまま問題なく使用できます。

カード初期化時のファイルフォーマットについて

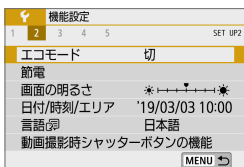
- SD/SDHCカードはFAT32形式、SDXCカードはexFAT形式でフォーマットされます。
- exFAT形式でフォーマットされたカードを使用して動画撮影を行ったときは、1回の撮影でファイルサイズが4GBを超える場合でも、(ファイルが分割されず) 1つの動画ファイルに記録されます(4GBを超える動画ファイルが作成されます)。



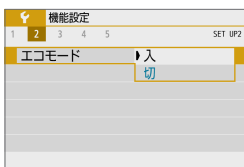
- このカメラで初期化したSDXCカードは、他のカメラでは使用できないことがあります。また、exFAT形式でフォーマットされたカードは、パソコンのOSやカードリーダーによっては、正しく認識されないことがあります。
- カード内のデータは、初期化や削除では完全には消去されません。譲渡・廃棄するときは、注意してください。カードを廃棄するときは、カードを破壊するなどして個人情報の流出を防いでください。

エコモード

撮影画面が表示されているときに、バッテリーの消費を抑える機能です。カメラを操作していないときに画面が暗くなり、消費電力が抑えられます。



1 [F: エコモード] を選ぶ



2 [入] を選ぶ

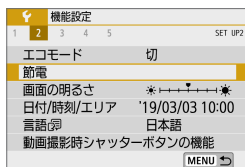
- カメラを操作しないと約2秒後に画面が暗くなり、約10秒後に画面が消えます。



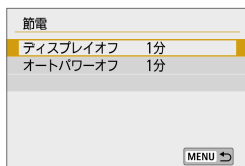
- 画面が消えてから約3分以内にシャッターボタンを半押しすると、再度画面が表示され、撮影することができます。
- 画面が消えてからカメラを操作しないで約3分経過すると、カメラの電源が切れます。

節電

画面が消えるまでの時間（ディスプレイオフ）やカメラの電源が切れるまでの時間（オートパワーオフ）を変えることができます。



1 [2 : 節電] を選ぶ



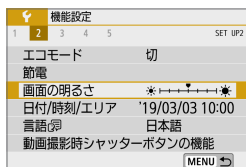
2 項目を選ぶ



- 【オートパワーオフ】を【しない】に設定しても、【ディスプレイオフ】の設定時間後にモニターの表示が消えます。
- エコモードを【入】にしているときは、【ディスプレイオフ】と【オートパワーオフ】の設定は無効になります。

画面の明るさ

モニターの明るさを調整することができます。



1 [F: 画面の明るさ] を選ぶ



2 調整する

- グレーチャートを参考にして、〈◀〉〈▶〉で調整し、〈SET〉を押します。



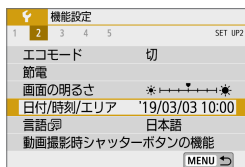
- 撮影した画像の露出を確認するときは、ヒストグラム (P314) で確認することをおすすめします。

日付／時刻／エリア

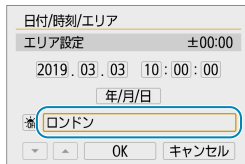
初めて電源を入れたときや、日付/時刻/エリアの設定が解除されているときは、以下の操作手順に従ってエリア（地域）から設定してください。

エリアから設定しておく、エリア設定を変更するだけで、そのエリアの日付/時刻に変更されます。

撮影画像には撮影日時情報が付加されますので、必ず設定してください。

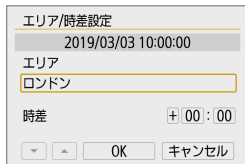


1 [🔧：日付/時刻/エリア] を選ぶ

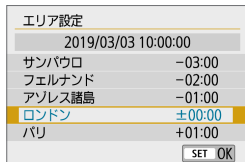


2 エリアを設定する

- <◀> <▶> で【エリア設定】を選びます。



- <SET> を押します。



- <▲> <▼> でエリアを選び、<SET> を押します。
- 該当するエリアがないときは、<MENU> ボタンを押して【時差】（協定世界時との時差）で設定します。

エリア/時差設定

2019/03/03 10:00:00

エリア

時差 + 09 : 15

▼ ▲ OK キャンセル

- 〈◀〉〈▶〉で[時差]の項目(+-/時/分)を選び、〈SET〉を押します。
- 〈▲〉〈▼〉で設定し、〈SET〉を押します。
- エリア/時差の設定が終わったら、〈◀〉〈▶〉で[OK]を選び、〈SET〉を押します。

3 日付/時刻を設定する

日付/時刻/エリア

(2019/03/03)

2019. 03. 03 10 : 00 : 00

年/月/日

☼ ロンドン

▼ ▲ OK キャンセル

- 〈◀〉〈▶〉で項目を選び、〈SET〉を押します。
- 〈▲〉〈▼〉で設定し、〈SET〉を押します。

4 サマータイムを設定する

日付/時刻/エリア

サマータイム:切

2019. 03. 03 10 : 00 : 00

年/月/日

☼ ロンドン

▼ ▲ OK キャンセル

- 必要に応じて設定します。
- 〈◀〉〈▶〉で[☼]を選び、〈SET〉を押します。
- 〈▲〉〈▼〉で[☼]を選び、〈SET〉を押します。
- サマータイムを[☼]にすると、手順3で設定した時刻が1時間進みます。[☼]にするとサマータイムが解除され、1時間戻ります。

5 設定を終了する

日付/時刻/エリア

(2019/03/03)

2019. 03. 03 10 : 00 : 00

年/月/日

☼ ロンドン

▼ ▲ OK キャンセル

- 〈◀〉〈▶〉で[OK]を選びます。

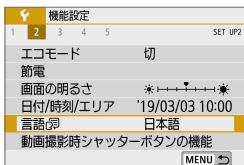


- カメラからバッテリーを取り出して保管したときや、カメラのバッテリー残量がなくなったとき、カメラを氷点下に長時間放置したときは、日付/時刻/エリアの設定が解除されることがあります。そのときは再度設定してください。
- **【エリア/時差設定】** の内容を変更したときは、日付/時刻が正しく設定されているか確認してください。



- **【📅：日付/時刻/エリア】** の画面を表示しているときは、オートパワーオフまでの時間が延長されることがあります。

言語



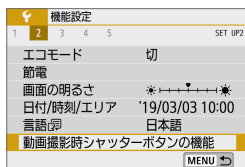
1 [🔧 : 言語 🗨️] を選ぶ



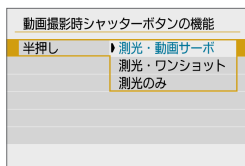
2 言語を設定する

動画撮影時シャッターボタンの機能

動画撮影時にシャッターボタンを半押し／全押ししたときの動作を設定することができます。



1 [2：動画撮影時シャッターボタンの機能] を選ぶ



2 項目を選ぶ

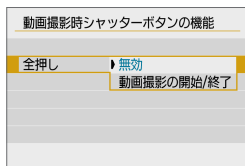
● 半押し

シャッターボタンを半押ししたときの動作を設定することができます。

● 全押し

撮影モードスイッチが〈P〉のときに表示されます。

シャッターボタンを全押ししたときの動作を設定することができます。



なお、[全押し] を [動画撮影の開始/終了] に設定すると、動画撮影ボタン、またはシャッターボタンの全押しで、動画撮影を開始／終了することができます。



- [半押し] で [測光・ワンショット] 設定時に、[動画記録サイズ] を [4k] にすると [測光・動画サーボ] に切り換わります。

ビデオ方式

テレビの映像方式を設定します。この設定に応じて、動画撮影時に選択できるフレームレートが変わります。



1 [F:ビデオ方式] を選ぶ



2 項目を選ぶ

● NTSC

テレビの映像方式が「NTSC」地域（北米、日本、韓国、メキシコなど）のときに設定します。

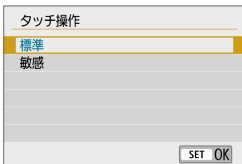
● PAL

テレビの映像方式が「PAL」地域（ヨーロッパ、ロシア、中国、オーストラリアなど）のときに設定します。

タッチ操作



1 [Y:タッチ操作] を選ぶ



2 項目を選ぶ

- 通常は【標準】を選びます。
- 【敏感】に設定すると、【標準】に比べて画面に触れたときの反応がよくなります。

タッチパネル操作時の注意事項

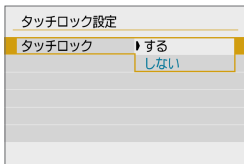
- 爪やボールペンなど、先のとがったもので操作しないでください。
- 濡れた指で操作しないでください。モニターに水滴がついていたり、濡れた指で操作すると、反応しなくなったり、誤動作することがあります。カメラの電源を一旦切ってから、布などでふき取ってください。
- モニターに市販の保護シートやシールを貼ると、タッチの反応が悪くなる場合があります。
- 【敏感】設定時に素早いタッチ操作を行うと、反応しづらいことがあります。

タッチロック設定

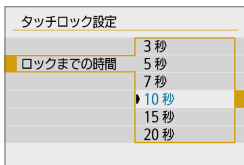
意図しない画面タッチによる誤操作を軽減するため、撮影画面が表示されているときに、一定時間経過後、タッチ操作を受け付けなくようにすることができます。



1 [F: タッチロック設定] を選ぶ



2 [タッチロック] を [する] に設定する



3 [ロックまでの時間] を設定する

- 撮影画面のときに、設定した時間カメラを操作しないと、自動的にタッチロック機能が働きます。
- ボタンを押すとタッチロック機能が解除されます。



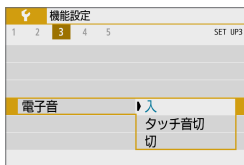
- メニュー画面、再生画面などが表示されているときや、AF作動中／撮影中、モニターが被写体側に向いているときは、タッチロック機能は働きません。

電子音

ピントが合ったときなどに電子音が鳴らないようにすることができます。



1 [🔊：電子音] を選ぶ



2 項目を選ぶ

● タッチ音切

タッチ操作を行ったときだけ、電子音が鳴らないようになります。

● 切

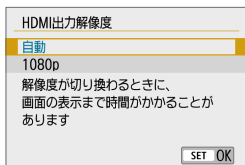
ピントが合ったとき、セルフタイマー撮影時、タッチ操作したときなどに、電子音が鳴らないようになります。

HDMI出力解像度

カメラとテレビや外部記録機器などを、HDMIケーブルで接続して映像を出力するときに、解像度を設定することができます。



1 [F : HDMI出力解像度] を選ぶ



2 項目を選ぶ

- 自動

接続したテレビに合わせて、自動的に最適な解像度で画像が表示されます。

- 1080p

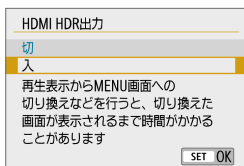
1080pの解像度で出力します。解像度が切り換わる時の表示や時間が気になる時に選びます。

HDMI HDR出力

HDR対応テレビにカメラをつないで、RAW画像をHDR表示で見ることができます。



1 [4 : HDMI HDR出力] を選ぶ



2 [入] を選ぶ



- HDR対応テレビの設定が、HDR入力になっていることを確認してください。お使いになるテレビの入力の切り換え方法は、テレビの使用説明書を参照してください。
- お使いのテレビによっては、思いどおりの効果で表示されないことがあります。
- HDRテレビに表示しているときは、画像の効果や一部の情報が表示されないことがあります。

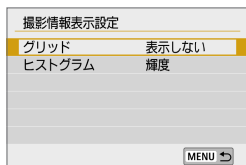
撮影情報表示設定

撮影時にモニターに表示する情報をカスタマイズすることができます。

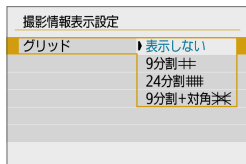


【**F**：撮影情報表示設定】を選ぶ

グリッド



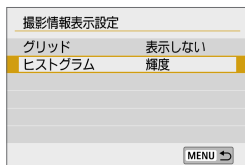
1 【グリッド】を選ぶ



2 項目を選ぶ

ヒストグラム

1 [ヒストグラム] を選ぶ

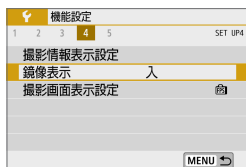


2 項目を選ぶ



鏡像表示

モニターを被写体側（レンズ側）に向けて撮影を行う際に、映像を鏡像表示（左右反転）させることができます。



1 [F: 鏡像表示] を選ぶ

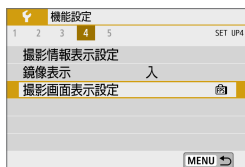


2 [入] を選ぶ

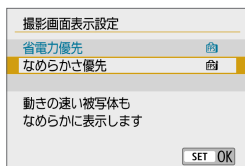
- [切] を選ぶと、モニターをレンズ側に向けても鏡像表示は行われません。

撮影画面表示設定

静止画撮影時にモニターをなめらかに表示するか、消費電力を抑えた表示を行うかを設定することができます。



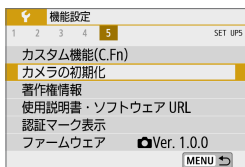
1 [📷：撮影画面表示設定] を選ぶ



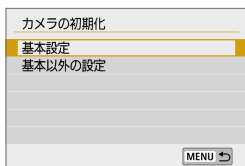
2 項目を選ぶ

カメラの初期化

撮影モードが **[P]** **[Tv]** **[Av]** **[M]** **[P⁺]** **[M⁺]** のときに、カメラの設定を初期状態に戻すことができます。

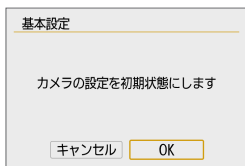


1 [🔧：カメラの初期化] を選ぶ



2 [基本設定] を選ぶ

- 基本以外の設定を初期化するときは、**[基本以外の設定]** を選び、初期化する項目を選びます。



3 [OK] を選ぶ



- **[言語]** や **[日付/時刻/エリア]** などの基本的な設定は初期状態に戻りません。
- 撮像素子が宇宙線などの影響を受けると、撮影画像や撮影画面に「輝点」が生じることがあります。そのときは、**[基本設定]** を選んだ状態で、① **<🔧>** ボタンを押しながら **<MENU>** ボタンを押すか、② **[基本設定]** を選び **<SET>** を押して **[OK]** を選ぶと、輝点の発生が改善することがあります（②のときはカメラの設定が初期状態になります）。

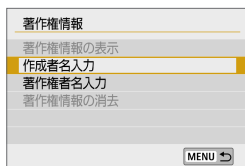
著作権情報

応用

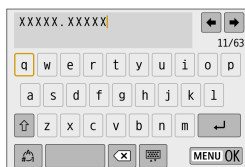
著作権情報の設定を行うと、その内容がExif（イグジフ）情報として画像に記録されます。



1 [5：著作権情報] を選ぶ



2 項目を選ぶ



3 文字を入力する

- 〈◆〉 十字キーで文字を選び、〈SET〉を押すと入力されます。
- [Fn] を選び 〈SET〉を押すと、入力モードが切り換わります。
- [X] を選び 〈SET〉を押すと、1文字消去されます。

4 設定を終了する

- 〈MENU〉 ボタンを押して [OK] を選びます。

著作権情報の確認

著作権情報の表示

作成者
XXXXX.XXXXX

著作権者
Canon Inc.

MENU 

手順2で【著作権情報の表示】を選ぶと、入力した【作成者】【著作権者】の情報を確認することができます。

著作権情報の消去

手順2で【著作権情報の消去】を選ぶと、【作成者】【著作権者】の情報が消去されます。



- 入力した作成者名または著作権者名が長いときは、【著作権情報の表示】を選んだ際に、入力した文字の一部が表示されないことがあります。



- EOS用ソフトウェアのEOS Utilityで、著作権情報を設定・確認することもできます。

使用説明書・ソフトウェアURL

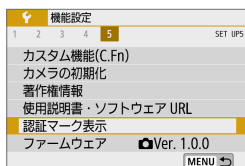


【**5**：使用説明書・ソフトウェアURL】を選んで表示されるQRコードをスマートフォンで読み取り、使用説明書をダウンロードすることができます。

また、表示されるURLのWebサイトにパソコンでアクセスして、ソフトウェアをダウンロードすることができます。

認証マーク表示

応用



【**5**：認証マーク表示】を選ぶと、このカメラが対応している認証マークの一部を確認できます。また、その他の認証マークは、カメラ本体、カメラが入っていた箱にも表記されています。

ファームウェア

応用



【**5**：ファームウェア】を選ぶと、このカメラまたは使用中のレンズのファームウェアをアップデートすることができます。

カスタム機能（C.Fn）

撮影スタイルに応じて、カメラの機能を細かく変更したり、カメラのボタンやダイヤルの機能を変更することができます。

カスタム機能の設定方法

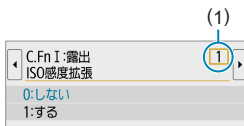
応用



1 [カスタム機能 (C.Fn)] を選ぶ

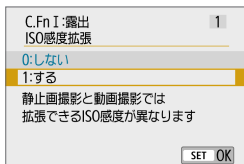
2 カスタム機能番号 (1) を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉を押して設定する機能番号を選び、〈SET〉を押します。



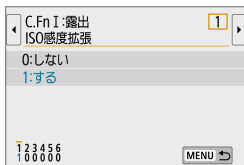
3 設定を変更する

- 〈▲〉〈▼〉を押して設定内容 (番号) を選び、〈SET〉を押します。
- 手順2、3を繰り返して、その他のカスタム機能を設定します。
- 画面の下に並んでいる番号で、設定状態を確認することができます。



4 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押します。



カスタム機能の一括解除

【📌:カメラの初期化】の【基本以外の設定】の【カスタム機能 (C.Fn)】を選ぶと、設定されているカスタム機能がすべて解除されます (📖 455)。

カスタム機能で変更できる内容

カスタム機能は、機能ごとに2つのグループ（「C.Fn I：露出」、「C.Fn II：その他」）に分類されています。

C.Fn I：露出

C.Fn-1 ISO感度拡張

0：しない

1：する

ISO感度を設定するときに、静止画撮影時：「H」（ISO51200相当）、動画撮影時：「H」（ISO25600相当）が選択できるようになります。なお、**【📷：高輝度側・階調優先】**を**【する】****【強】**に設定したときは、「H」は選択できません。



- 4K動画設定時は**【ISO感度拡張】**を**【1：する】**に設定しても、ISO感度の設定はISO100～6400になります。

C.Fn-2 セイフティシフト

0：しない

1：する

【Tv】**【Av】**モードで任意に設定したシャッタースピードや絞り数値で標準露出が得られないときは、カメラが自動的にシャッタースピードや絞り数値を変更して、標準露出で撮影することができます。

C.Fn II：その他

C.Fn-3 シャッターボタン/AEロックボタン

0：AF/AEロック

1：AEロック/AF

ピント合わせと露出決定を別々に行いたいときに有効です。〈✱〉ボタンでAF作動、シャッターボタン半押しでAEロック（露出決定）することができます。

2：AF/AFロック（AEロックなし）

サーボAF中にカメラと主被写体の間を障害物が横切るとき、障害物にピントが合わないよう、〈✱〉ボタンでAFの作動を一時停止することができます。露出は撮影の瞬間に決まります。

3：AE/AF（AEロックなし）

移動／停止を繰り返す被写体を撮影するときに有効です。サーボAF時は、〈✱〉ボタンでサーボAFの作動／停止を繰り返すことができます。露出は撮影の瞬間に決まります。ピントと露出を常に最適な状態にして、シャッターチャンスを待つことができます。



●動画撮影時に1、3に設定したときは、〈✱〉ボタンでワンショットAFが行われます。

C.Fn-4 動画撮影ボタンの機能

静止画撮影時の〈●〉動画撮影ボタンの機能を変更することができます。

0：動画撮影

1：絞り込み

設定されている絞り数値でレンズの絞り込みが行われ、ピントの合う範囲（被写界深度）を確認することができます。

2：無効

〈●〉ボタンを押しても機能しません。

C.Fn-5 レンズなしリリース

カメラにレンズを取り付けていないときに、静止画撮影や動画撮影を許可するかどうかを設定することができます。

0：しない

1：する

C.Fn-6 電源オフ時のレンズ収納

カメラにEFレンズ、またはEF-SレンズでギアタイプのSTMレンズ（例：EF40mm F2.8 STM）を取り付けているときの、レンズ収納に関する設定です。カメラの電源を切ったときに、前方に繰り出しているレンズを自動的に収納するかどうかを設定することができます。

0：する

1：しない



- オートパワーオフのときは、設定に関わらずレンズは収納されません（EF-Mレンズ使用時を除く）。
- レンズが収納されたことを確認してからレンズを取り外してください。



- [0：する] 設定時は、レンズのフォーカスモードスイッチの設定（AF/MF）に関わらず機能します。

マイメニュー

設定変更の頻度が高いメニュー機能とカスタム機能を選んで、マイメニュータブに登録することができます。

- **[⚙️：表示レベル設定]** タブの **[メニュー表示]** が **[やさしい]** に設定されているときは、**[★：マイメニュー]** タブは表示されません。マイメニューの設定を行うときは、**[メニュー表示]** を **[標準]** に変更してください。

メニュー目次:マイメニュータブ

応用

1 MY MENU:Set up	
マイメニュータブの追加	467
マイメニュータブの全削除	470
全項目削除	470
メニュー表示 通常	471

マイメニューの登録

設定変更の頻度が高いメニュー機能とカスタム機能を選んで、マイメニュータブに登録することができます。

マイメニュータブを追加（作成）する



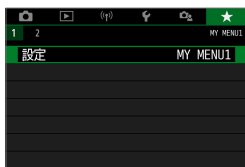
1 [マイメニュータブの追加] を選ぶ



2 [OK] を選ぶ

- 手順1、2を繰り返すと、[MY MENU5] まで作成することができます。

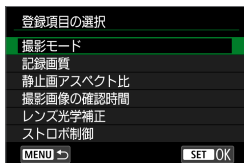
マイメニュータブに項目を登録する



1 [★：設定] を選ぶ



2 [登録項目の選択] を選ぶ



3 項目を登録する

- 項目を選び〈SET〉を押します。
- 確認画面で [OK] を選ぶと登録されます。
- 6項目まで登録できます。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、手順2の画面に戻ります。

マイメニュータブの設定



タブに登録した項目の並び替え、項目またはタブの削除、タブの名称の変更を行うことができます。

● 登録項目の並び替え

登録した項目の並び順を変えることができます。[登録項目の並び替え] を選び、並び順を変える項目を選んで〈SET〉を押します。[◆] が表示された状態で〈▲〉〈▼〉で並び順を変え、〈SET〉を押します。

● 選択して削除／タブ内の全項目削除

登録した項目を削除することができます。[選択して削除] を選ぶと1項目ずつ削除、[タブ内の全項目削除] を選ぶと、タブ内に登録されている項目がすべて削除されます。

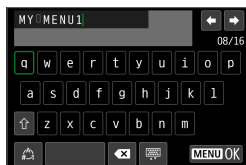
● タブの削除

現在設定しているタブを削除することができます。[タブの削除]を選ばと、[MY MENU*] のタブが削除されます。

● タブ名の変更

タブの名称を [MY MENU*] から任意の名称に変更することができます。

1 [タブ名の変更] を選ぶ



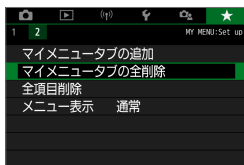
2 文字を入力する

- [X] を選び〈SET〉を押して、不要な文字を消去します。
- 〈十字キー〉で文字を選び、〈SET〉を押すと入力されます。
- [設定] を選び〈SET〉を押すと、入力モードが切り換わります。

3 入力を確定する

- 〈MENU〉ボタンを押して [OK] を選びます。

マイメニュータブの全削除／全項目削除



作成したすべてのタブの削除、作成したすべてのタブに登録されている全項目の削除を行うことができます。

● マイメニュータブの全削除

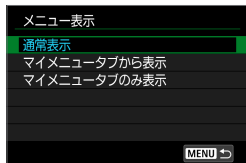
作成したタブをすべて削除することができます。【マイメニュータブの全削除】を選ぶと、【MY MENU1】～【MY MENU5】のタブがすべて削除され、【★】タブが初期状態に戻ります。

● 全項目削除

【MY MENU1】～【MY MENU5】タブに登録されている項目だけを、すべて削除することができます。タブ自体は削除されません。【全項目削除】を選ぶと、作成したすべてのタブに登録されている全項目が削除されます。

- ❗ ● 【タブの削除】【マイメニュータブの全削除】を行うと、【タブ名の変更】で設定した名前も削除されます。

メニュー表示の設定



【メニュー表示】を選ぶと、〈MENU〉ボタンを押したときに表示する画面を設定することができます。

- 通常表示

前回操作を行ったときに、最後に表示していたメニュー画面が表示されます。

- マイメニュータブから表示

【★】タブの画面から表示されます。

- マイメニュータブのみ表示

【★】タブの画面だけが表示されます（〔📷〕〔▶〕〔📞〕〔📧〕〔📺〕タブは表示されません）。

資料

ソフトウェア

EOS用または専用ソフトウェアは、キヤノンのホームページから最新版をダウンロードすることができます。

EOS用または専用ソフトウェアのダウンロード／インストール

ソフトウェアは必ず最新版をインストールしてください。
旧バージョンのソフトウェアがインストールされている場合は、上書きインストールしてください。

- ソフトウェアをインストールする前に、カメラとパソコンを絶対に接続しないでください。ソフトウェアを正しくインストールできません。
- インターネットに接続していない状態では、パソコンにソフトウェアをインストールすることはできません。
- 旧バージョンのソフトウェアでは、このカメラで撮影した画像をパソコンで正しく表示できません。また、このカメラで撮影したRAW画像の処理はできません。

1 ソフトウェアをダウンロードする

- パソコンからインターネットに接続し、キヤノンの下記のWebサイトにアクセスしてください。

canon.jp/eos-sw

- モニター裏面に記載のシリアル番号を入力して、ソフトウェアをダウンロードします。
- パソコン上で解凍します。

● Windows

表示されたインストーラーファイルをクリックすると、インストーラーが起動します。

● Macintosh

dmgファイルが生成/表示されるので、次の手順でインストーラーを起動してください。

(1) dmgファイルをダブルクリックする

➔ デスクトップにドライブアイコンと、インストーラーファイルが表示されます。

インストーラーファイルが表示されないときは、ドライブアイコンをダブルクリックすると、インストーラーファイルが表示されます。

(2) インストーラーファイルをダブルクリックする

➔ インストーラーが起動します。

2 画面の指示に従ってインストールする

ソフトウェア使用説明書のダウンロード

ソフトウェア使用説明書（PDFファイル）は、キヤノンのホームページからパソコンなどにダウンロードすることができます。

● ソフトウェア使用説明書のダウンロードサイト

canon.jp/eos-sw-manual



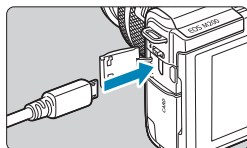
- 使用説明書（PDFファイル）を見るためには、Adobe Acrobat Reader DCなどのAdobe社製PDF閲覧用ソフトウェア（最新版推奨）が必要です。
- Adobe Acrobat Reader DCはインターネット上から無料でダウンロードできます。
- ダウンロードした使用説明書（PDFファイル）をダブルクリックすると、ファイルが開きます。
- PDF 閲覧用ソフトウェアの使い方については、そのソフトウェアのヘルプなどを参照してください。

パソコンへの画像の取り込み

EOS用のソフトウェアを使って、カメラで撮影した画像をパソコンに取り込むことができます。パソコンに取り込む方法は、2通りあります。

パソコンとインターフェースケーブル（別売）で接続

1 ソフトウェアをインストールする (📖474)



2 カメラとパソコンを、インターフェースケーブル（別売）で接続する

- インターフェースケーブルは、IFC-600PCU（別売）が使用できます。
- カメラのデジタル端子（USB Micro-B）にプラグを差し込みます。
- パソコンのUSB端子（USB Type-A）にプラグを差し込みます。

3 EOS Utilityを使って画像を取り込む

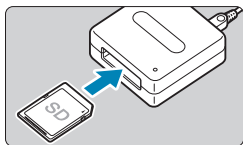
- EOS Utility使用説明書を参照してください。

❗ ● Wi-Fi接続中に、カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続しても、パソコンと通信できません。

カードリーダー

カードリーダーを使って画像をパソコンに取り込むことができます。

1 ソフトウェアをインストールする (📖 474)



2 カードリーダーにカードを差し込む

3 Digital Photo Professionalを使って画像を取り込む

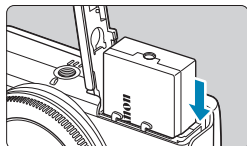
- Digital Photo Professional使用説明書を参照してください。



- EOS用ソフトウェアを使わずに、カードリーダーを使って画像を取り込むときは、カード内の「DCIM」フォルダをパソコンにコピーしてください。

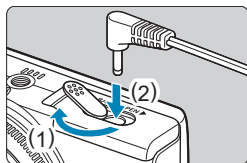
家庭用電源アクセサリー

DC カプラー DR-E12 (別売) とコンパクトパワーアダプター CA-PS700 (別売) を使用すると、家庭用電源をカメラの電源として使うことができます。



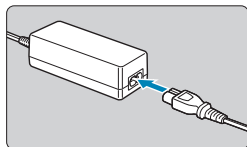
1 カプラーを入れる

- カメラの電源を切ります。
- ふたを開き、カプラーの端子部を図の向きにして、カプラーを入れます。
- ふたを閉めます。



2 プラグをカプラーにつなぐ

- カバーを開き、アダプターのプラグをカプラーの端子にしっかりと差し込みます。



3 電源コードを付ける

- 電源コードをアダプターに差し込み、プラグをコンセントに差し込みます。
- 使い終わったら、カメラの電源を切ってからプラグをコンセントから抜いてください。

- ⚠
- コンパクトパワーアダプター CA-PS700以外は使用しないでください。
 - カメラの電源が入った状態で、プラグや電源コードの抜き差しを行わないでください。
 - 使い終わったら、カメラの電源を切ってから電源プラグをコンセントから抜いてください。

故障かな？と思ったら

「カメラが故障したのかな？」と思ったら、下記の例を参考にしてカメラをチェックしてください。なお、チェックしても状態が改善しないときは、修理受付窓口にご相談ください。

電源関連

充電器で充電できない

- 純正のバッテリーパックLP-E12を使用してください。

充電器のランプが点滅する

- 充電器に異常が発生した場合は、保護回路が働き充電が中止され、オレンジ色の充電ランプが点滅します。そのときは、充電器のプラグをコンセントから抜き、電池の取り外し/取り付けを行い、しばらく経ってからもう一度コンセントに差し込んでください。

電源を入れてもカメラが作動しない

- バッテリーがカメラにきちんと入っているか確認してください（ 46）。
- バッテリー収納部ふたが閉まっているか確認してください（ 46）。
- カードスロットカバーが閉まっているか確認してください（ 48）。
- バッテリーを充電してください（ 44）。

電源を切ってもアクセスランプが点灯する

- カードへの画像記録中はアクセスランプが点灯します。画像記録が終了すると、アクセスランプが消灯し、自動的に電源が切れます。

バッテリーの消耗が早い

- フル充電したバッテリーを使用してください（ 44）。
- バッテリーの性能が劣化している可能性があります。劣化している場合は、新しいバッテリーをお買い求めください。
- 以下の操作を行うと、撮影可能枚数が少なくなります。
 - シャッターボタン半押しの状態を長く続ける
 - AFのみを行って撮影しない操作を頻繁に行う
 - レンズの手ブレ補正機能を使う
 - Wi-Fi/Bluetooth（無線通信）機能を使用する

電源が勝手に切れる

- オートパワーオフ機能が働いています。自動的に電源が切れないようにしたいときは、**【🔋：節電】**の**【オートパワーオフ】**を**【しない】**にしてください（ 438）。
- **【オートパワーオフ】**を**【しない】**に設定していても、**【ディスプレイオフ】**で設定した時間放置すると、モニターの表示が消えます（カメラの電源は切れません）。
- **【🔋：エコモード】**を**【切】**に設定してください。

撮影関連

レンズが装着できない

- EFレンズ／EF-Sレンズを装着するにはマウントアダプターが必要です。なお、RFレンズは使用できません。

撮影・記録ができない

- カードが正しくセットされているか確認してください (📖 48)。
- カードの書き込み禁止スイッチを、書き込み・消去可能な位置にしてください (📖 48)。
- カードの空き容量がない場合は、空き容量のあるカードに交換するか、不要な画像を消去してください (📖 48、📖 279)。
- ピントを合わせたときに、AFフレームがオレンジ色のときは撮影できません。もう一度シャッターボタンを半押ししてピントを合わせなおすか、手動でピントを合わせてください (📖 59、📖 187)。

カードが使えない

- カードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、📖 50、📖 495を参照してください。

カードを他のカメラに入れるとエラーになる

- SDXCカードはexFAT形式でフォーマットされるため、このカメラで初期化したカードを他のカメラに入れると、エラーが表示され使用できないことがあります。

画像がボケている／ブレている

- [📷：フォーカスモード] を [AF] にしてください (📖 184)。
- フォーカスモードスイッチを備えたレンズのときは、スイッチを〈AF〉にしてください (📖 57)。
- 手ブレを起こさないように、シャッターボタンを静かに押してください (📖 59)。
- [📷：手ブレ補正設定] の [手ブレ補正] を [入] にしてください (📖 190)。
- 手ブレ補正スイッチを備えたレンズのときは、スイッチを〈ON〉にしてください (📖 190)。
- 暗い場所では、シャッタースピードが遅くなることがあります。シャッタースピードを速くする (📖 108)、ISO感度を上げる (📖 140)、ストロボを使用する (📖 245)、三脚を使用するなどの方法で撮影してください。
- 📖 77の『ブレの少ない画像を撮影するには』を参照してください。

ピントを固定したまま構図を変えて撮影できない

- AF動作をワンショットAFにしてください。サーボAFのときはフォーカスロック撮影はできません (📖 78、📖 169)。

連続撮影速度が遅い

- 連続撮影時の連続撮影速度は、バッテリー残量、温度、シャッタースピード、絞り数値、被写体条件、明るさ、AF動作、レンズの種類、ストロボ使用、撮影機能の設定などの条件により低下することがあります (📖 136)。

連続撮影可能枚数が少なくなる

- 芝生など細かいパターンの被写体を撮影すると、1枚あたりのファイルサイズが大きくなり、実際に連続撮影できる枚数が、 497に目安として示した連続撮影可能枚数より少なくなることがあります。

カードを変えても連続撮影可能枚数の表示が変わらない

- 別のカードに変えても（例：高速タイプのカードを使用しても）、表示される連続撮影可能枚数は変わりません。また、 497の表に記載している連続撮影可能枚数は、その試験条件のカードで実際に連続撮影できる枚数を示しています（書き込み速度が高速なカードなほど、実際に連続撮影できる枚数が多くなります）。そのため、表示される連続撮影可能枚数と、実際に連続撮影できる枚数は異なることがあります。

露出を暗めに補正したのに明るく撮影される

- ：オートライティングオプティマイザを【しない】に設定してください（ 143）。【弱め】【標準】【強め】に設定されているときは、露出補正、ストロボ調光補正で露出を暗めに補正しても、明るく撮影されることがあります。

ISO100に設定できない／拡張ISO感度が選択できない

- ：高輝度側・階調優先が【する】【強】に設定されているときは、ISO感度の設定がISO200～になります。
- ：高輝度側・階調優先が【する】【強】に設定されているときは、：カスタム機能（C.Fn）の【ISO感度拡張】を【1：する】に設定しても、H（拡張ISO感度）は選択できません。
- ：高輝度側・階調優先を【しない】に設定すると、ISO100/125/160、およびH（拡張ISO感度）が設定できるようになります。

マニュアル露出+ISOオート時に露出補正ができない

- 113を参照して露出補正を行ってください。

レンズ光学補正設定時に一部の項目が表示されない

- [デジタルレンズオブティマイザ] が [する] に設定されているときは、[色収差補正] [回折補正] は表示されませんが、ともに [する] の設定で撮影されます。
- 動画撮影時に [歪曲収差補正] [デジタルレンズオブティマイザ] [回折補正] の項目は表示されません。

ストロボが発光しない

- ストロボを短時間に連続発光させると、発光部を保護するために、しばらくストロボ撮影ができなくなることがあります。

[Av] [P] モードでストロボ撮影するとシャッタースピードが遅くなる

- 夜景などを背景にした暗い場所で撮影すると、主被写体も背景も標準露出になるように、自動的にシャッタースピードが遅くなります（スローシンクロ撮影）。シャッタースピードが遅くならないようにするときは、[📷:ストロボ制御] の [スローシンクロ] を、[1/200-1/60秒自動] または [1/200秒固定] に設定してください（1252）。

ISOオートでストロボ撮影を行ったときに設定した露出が変化する

- ストロボ発光時に、露出オーバーで標準露出が得られないときは、自動的にシャッタースピードやISO感度が変わって白トビの軽減が行われ、標準露出で撮影されます。ストロボ撮影時は、使用するレンズにより、シャッターボタンを半押ししたときに、表示されたシャッタースピード、ISO感度とは異なる設定で撮影されることがあります。このときは、ストロボ光の届かない背景部分の明るさが変化することがあります。
- [P] [Tv] [Av] [M] モードでシャッターボタンを半押ししたときに、表示されたシャッタースピード、ISO感度とは異なる設定で撮影されないようにするときは、ISO感度を手動設定してから撮影してください。

リモコン撮影ができない

- 静止画撮影を行うときは、ドライブモードを【】に設定してください（[137](#)）。動画撮影を行うときは、【：リモコン撮影】を【する】に設定してください（[237](#)）。
- リモコンの撮影タイミング切り換えスイッチの位置を確認してください。
- ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1を使用するときは、[193](#)、[389](#)を参照してください。

静止画撮影時に白いと赤いが表示される

- カメラ内部の温度が上昇していることを示しています。白い【】が表示されたときは、静止画の画質が低下することがあります。赤い【】が表示されたときは、もうすぐ撮影が自動的に終了することを示しています（[194](#)）。

動画撮影時に赤いが表示される

- カメラ内部の温度が上昇していることを示しています。赤い【】が表示されたときは、もうすぐ動画撮影が自動的に終了することを示しています（[242](#)）。

【】が表示される

- 動画を繰り返し撮影したり、撮影待機状態を長時間続けると、【】が表示されることがあります（[FHD 29.97P](#)／[FHD 25.00P](#) 設定時を除く）。【】が表示されたまま撮影を継続すると、約3分後に自動的にカメラの電源が切れます。また、【】が表示されたまま撮影待機状態を続けたときも、自動的にカメラの電源が切れることがあります。【】が表示されたときは、カメラの電源を切って、カメラ内部の温度が下がるのを待ってください。

動画撮影が勝手に終了する

- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影が自動的に終了することがあります。動画が記録できるカードについては、 499を参照してください。なお、書き込み速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。
- 動画撮影を開始してから、4K動画撮影時：9分59秒、またはフルHD／HD動画撮影時：29分59秒経過すると、動画撮影が自動的に終了します。

動画撮影時にISO感度が設定できない

- 撮影モードが  のときは、ISO感度が自動設定されます。 モードのときは、ISO感度を任意に設定することができます ( 501)。

動画撮影時にISO100に設定できない／拡張ISO感度が選択できない

- ：高輝度側・階調優先 が  に設定されているときは、ISO感度の設定がISO200～になります。
- ：高輝度側・階調優先 が  に設定されているときは、：カスタム機能 (C.Fn) の  ISO感度拡張 を  に設定しても、H（拡張ISO感度）は選択できません。
- ：高輝度側・階調優先 を  に設定すると、ISO100/125/160、およびH（拡張ISO感度）が設定できるようになります。
- 4K動画撮影時は、H（拡張ISO感度）は選択できません（表示されません）。

動画撮影時に露出が変化する

- 動画撮影中にシャッタースピードや絞り数値の変更を行うと、露出変化が記録されることがあります。
- 動画撮影中にズーム操作を行うときは、テスト撮影をおすすめします。動画撮影中にズーム操作を行うと、露出変化やレンズの作動音が記録されたり、録音される音量が不安定になったり、ピントがズレることがあります。

動画撮影時に画面がちらつく／横縞が写る

- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画撮影を行うと、画面のちらつきや、横縞（ノイズ）や露出ムラが記録されることがあります。また、露出（明るさ）や色あいの変化が記録されることがあります。[M] モードのときは、シャッタースピードを遅くすると、現象が緩和されることがあります。なお、タイムラプス動画を撮影したときは、現象がより強く発生することがあります。

動画撮影時に被写体がゆがむ

- 動画撮影中にカメラを左右に動かしたり（パンニング）、動きのある被写体を撮影すると、像がゆがんで写ることがあります。なお、タイムラプス動画を撮影したときは、現象がより強く発生することがあります。

動画撮影時に静止画が撮影できない

- 撮影モードスイッチが〈M〉のときは、静止画は撮影できません。静止画を撮影するときは、スイッチを〈S〉にして、静止画の撮影モードを選んでから撮影してください。

無線通信機能関連

スマートフォンとペアリングできない

- Bluetooth Specification Version 4.1以上に対応しているスマートフォンを使用してください。
- スマートフォンの設定画面で、Bluetooth機能をONにしてください。
- スマートフォンのBluetooth機能設定画面では、カメラとのペアリングはできません。スマートフォンに専用アプリケーションのCamera Connect（無料）インストールしてください（[P.324](#)）。
- 一度ペアリングしたスマートフォンと再びペアリングするときに、スマートフォン側に前回ペアリングしたときのカメラの登録が残っていると、ペアリングすることができません。そのときは、スマートフォンのBluetooth設定で残っているカメラの登録を解除してから、ペアリングをやり直してください（[P.331](#)）。

Wi-Fi機能の設定ができない

- カメラとパソコンなどを、インターフェースケーブルで接続しているときは、Wi-Fi機能の設定はできません。インターフェースケーブルを取り外してから、設定を行ってください（[P.320](#)）。

インターフェースケーブルで接続した機器が使えない

- Wi-Fi接続中は、カメラとパソコンなどを、インターフェースケーブルで接続して使用することはできません。Wi-Fi接続を終了してからインターフェースケーブルで接続してください。

撮影や再生などの操作ができない

- Wi-Fi接続中は、撮影や再生などの操作ができないことがあります。Wi-Fi接続を終了してから操作を行ってください。

スマートフォンに再接続できない

- 同じカメラとスマートフォンの組み合わせでも、設定を変更したり、異なる設定を選んでいるときは、同じSSIDを選んでも再接続できなくなることがあります。そのときは、スマートフォンのWi-Fi設定で、カメラとの接続設定を削除してから、接続設定をやり直してください。
- 接続設定をやり直すときに、Camera Connectを起動したままにしていると、接続できないことがあります。そのときは、Camera Connectを一旦終了させてから再起動してください。

操作関連

ボタンやスイッチなどが思ったとおりに動かない

- 動画撮影時は【📷：動画撮影時シャッターボタンの機能】の設定を確認してください（📖444）。
- 【📷：カスタム機能（C.Fn）】の【シャッターボタン/AEロックボタン】、【📹動画撮影ボタンの機能】の設定を確認してください（📖462）。

表示関連

メニュー画面に表示されるタブや項目が少ない

- [A+]モード、[A]モード、スペシャルシーンモード、クリエイティブフィルターモードのときは、一部のタブや項目は表示されません。また、メニュー画面に表示されるタブや項目は、静止画撮影時、動画撮影時で異なります。
- [🔊：表示レベル設定] タブの【メニュー表示】が【やさしい】に設定されているときは、【★：マイメニュー】タブは表示されません。マイメニューの設定を行うときは、【メニュー表示】を【標準】に変更してください。

【★】マイメニュータブから表示される／【★】タブしか表示されない

- 【★】タブの【メニュー表示】が【マイメニュータブから表示】または【マイメニュータブのみ表示】に設定されています。【通常表示】に設定してください(📖471)。

ファイル名の先頭文字がアンダーバー(「_」)になる

- [📷：色空間] を【sRGB】に設定してください。【Adobe RGB】に設定されているときは、先頭文字がアンダーバーになります(📖155)。

ファイル名の先頭文字が「MVI_」になっている

- 動画ファイルです。

画像番号が0001から始まらない

- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が0001から始まらないことがあります(📖430)。

撮影年月日／時刻が正しく表示されない

- 日付/時刻が正しく設定されているか確認してください (P440)。
- エリア、サマータイムの設定を確認してください (P440)。

画像に日付／時刻が写し込まれない

- 撮影した画像に日付/時刻は写し込まれません。画像データに撮影情報として記録されます。写真を印刷するときに、その情報を利用して用紙に日付/時刻を入れることができます (P286)。

【###】が表示される

- カードに記録されている画像数が、カメラで表示できる桁数を超えると【###】と表示されます。

モニターの表示が不鮮明になる

- モニターが汚れているときは、やわらかい布などでふいてください。
- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

再生関連

画像に赤い枠が表示される

- [▶ : AFフレーム表示] が [する] に設定されています (📖 316)。

画像再生時にAFフレームが表示されない

- 以下の画像を再生したときは、AFフレームは表示されません。
 - スペシャルシーンモードの [📷] [📷] で撮影した画像
 - クリエイティブフィルターモードの [📷HDR] [📷HDR] [📷HDR] [📷HDR] で撮影した画像
 - マルチショットノイズ低減機能を使って撮影した画像
 - トリミングを行った画像

画像が消去できない

- プロテクトされている画像は消去できません (📖 274)。

画像（静止画／動画）が再生できない

- 他のカメラで撮影した画像は再生できないことがあります。
- パソコンで編集した動画はカメラで再生できません。

再生できる画像が少ない

- [▶ : 画像検索の条件設定] で再生する画像の絞り込みが行われています (📖 310)。検索条件を解除してください。

動画を再生すると操作音や作動音がする

- 動画撮影中にダイヤル操作やレンズ操作を行うと、その操作音も録音されます。

動画が一瞬止まって見える

- 自動露出撮影時に、大きな露出変化が生じると、明るさが安定するまでの一瞬の間、記録を止める仕様になっています。このようなときは、[📷M] モードで撮影してください (📖 202)。

テレビに映像が表示されない

- [📺:ビデオ方式]の[NTSC][PAL]の設定(📖445)を確認してください(テレビが対応している方式に合わせてください)。
- HDMIケーブルのプラグが根元までしっかりと差し込まれているか確認してください(📖272)。

動画ファイルが複数作成される

- 1回の撮影でファイルサイズが4GBを超えるときは、動画ファイルが複数作成されます(📖212)。ただし、SDXCカードをこのカメラで初期化してから撮影したときは、1回の撮影でファイルサイズが4GBを超えても1つのファイルに記録されます。

カードリーダーでカードを認識できない

- SDXCカードは、お使いのカードリーダーやパソコンのOSにより、カードリーダーに差ししても正しく認識されないことがあります。そのときは、カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続し、EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使って画像を取り込んでください。

画像をリサイズできない

- JPEGのS2とRAW画像は、カメラでリサイズできません(📖304)。

画像をトリミングできない

- RAW画像は、カメラでトリミングできません(📖302)。

パソコン接続関連

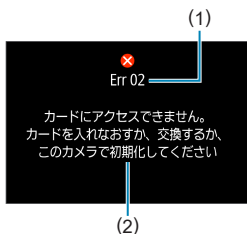
パソコンに画像が取り込めない

- EOS用ソフトウェアのEOS Utilityをパソコンにインストールしてください (📖 474)。
- Wi-Fi接続中は、インターフェースケーブルを使用してパソコンと通信を行うことはできません。

カメラとパソコンを接続しても通信できない

- EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使用するときは、[📷 : タイムラプス動画] を【しない】に設定してください (📖 217)。

エラー表示



カメラに異常が発生すると、エラー画面が表示されます。表示される内容に従って対応してください。問題が解決しないときは、エラー番号（Err xx）を控えて、修理受付窓口へご相談ください。

- (1) エラー番号
- (2) 原因・対処方法

データシート

静止画撮影

● 撮影可能枚数の目安

約315枚（常温+23℃）

- ・モニター、フル充電のバッテリーパック LP-E12使用、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準による

● ISOオートの範囲

撮影モード	ISO感度設定	
	ストロボなし	ストロボあり
P/Tv/Av/M	ISO100～25600*	ISO100～1600*

* [オートの上限] の設定による

- ・ [A+] モード、[S+] モード、スペシャルシーンモード、クリエイティブフィルターモード時のISO感度は自動設定
- ・ バルブ撮影時はISO400に設定されます

● 記録画質を選ぶときの目安

(約)

記録画質	記録画素数	ファイルサイズ (MB)	撮影可能枚数	連続撮影可能枚数
JPEG				
■L	24M	8.4	3600	71
■L		4.5	6610	71
■M	11M	4.6	6480	70
■M		2.6	11400	70
■S1	5.9M	3.1	9690	70
■S1		1.8	16010	70
S2	3.8M	1.8	16340	70
RAW				
RAW	24M	27.2	1120	13
CRAW	24M	15.8	1930	31
RAW+JPEG				
RAW ■L	24M 24M	27.2+8.4	850	12
CRAW ■L	24M 24M	15.8+8.4	1250	22

- 撮影可能枚数、連続撮影可能枚数は、キヤノン試験基準UHS-I対応32GBカード使用時の枚数
- ファイルサイズ、撮影可能枚数、連続撮影可能枚数は、撮影条件（アスペクト比、被写体、メモリーカードの銘柄、ISO感度、ピクチャースタイル、カスタム機能など）により異なる



- 高速タイプのSDカードを使用しても、連続撮影可能枚数の表示は変わりませんが、表に示した枚数の連続撮影ができます。

● 静止画アスペクト比設定時の記録画素数

(約・画素)

記録画質	3:2	4:3
RAW/CRAW	6000×4000 (2400万)	6000×4000 (2400万)
L	6000×4000 (2400万)	5328×4000 (2130万) *
M	3984×2656 (1060万)	3552×2664 (950万)
S1	2976×1984 (590万)	2656×1992 (530万)
S2	2400×1600 (380万)	2112×1600 (340万) *

記録画質	16:9	1:1
RAW/CRAW	6000×4000 (2400万)	6000×4000 (2400万)
L	6000×3368 (2020万) *	4000×4000 (1600万)
M	3984×2240 (890万) *	2656×2656 (710万)
S1	2976×1680 (500万) *	1984×1984 (390万)
S2	2400×1344 (320万) *	1600×1600 (260万)



- 「*」印が付いたアスペクト比の撮影範囲表示は、実際に撮影される範囲とわずかに異なることがあります。撮影結果を確認しながら撮影してください。



- 「*」印の付いた画像は、正確なアスペクト（縦横）比になりません。
- JPEG画像のファイルサイズについては、P.497に記載している値を参考にしてください。[カメラアイコン: 静止画アスペクト比]を設定して同一条件で撮影したときは、[3:2]の設定で撮影したときよりもファイルサイズが小さくなります。

動画撮影

● 動画が記録できるカード

動画記録サイズ			SDカード
4K	23.98P 25.00P	IPB	UHS-I、UHSスピードクラス3以上
FHD	59.94P 50.00P	IPB	SDスピードクラス10以上
	29.97P 25.00P	IPB	SDスピードクラス4以上
HD	119.9P 100.0P	IPB	SDスピードクラス10以上
	59.94P 50.00P	IPB	SDスピードクラス4以上

- ・【動画電子IS】：[しない] 設定時
- ・表の内容は、動画をカードに記録するときに必要なカードの「書き込み／読み取り速度」（要求カード性能）

● 動画の総記録時間と1分間あたりのファイルサイズの目安

(約)

動画記録サイズ			カードごとの総記録可能時間			ファイル サイズ
			8GB	32GB	128GB	
4K	23.98P 25.00P	IPB	8分	35分	2時間21分	860MB/分
FHD	59.94P 60.00P	IPB	17分	1時間10分	4時間43分	431MB/分
	29.97P 25.00P	IPB	35分	2時間20分	9時間23分	216MB/分
HD	119.9P 100.0P	IPB	20分	1時間22分	5時間28分	371MB/分
	59.94P 60.00P	IPB	40分	2時間42分	10時間49分	187MB/分

- [動画電子IS] : [しない] 設定時



- カメラ内部の温度上昇により、表に示した時間よりも早く動画撮影が終了することがあります (P.242)。

● 動画撮影可能時間の目安

約90分 (常温+23℃)

- フル充電のバッテリーパックLP-E12使用時
- [📷 : 動画記録画質] の [動画記録サイズ] : FHD 29.97P IPB (NTSC) / FHD 25.00P IPB (PAL)、
[📷 : 動画サーボAF] : [する] 設定時

動画撮影時のISO感度について

[P] モード時／[M] モード：ISOオート設定時

- フルHD/HD動画撮影時はISO100～12800の範囲、4K動画撮影時はISO100～6400の範囲で自動設定されます。
- フルHD/HD動画撮影時に、[P] カスタム機能 (C.Fn) の [ISO感度拡張] を [1:する] に設定したあと (p.461)、[P] ISO感度に関する設定 の [オートの上限] を [H(25600)] に設定すると (p.238)、自動設定範囲の上限がH (ISO25600相当) まで拡張されます。なお、4K動画撮影時は、[ISO感度拡張] を [1:する] に設定しても、上限感度の拡張はできません ([オートの上限] は設定できません)。
- [P] 高輝度側・階調優先 を [する] に設定したときは (p.144)、自動設定範囲の下限がISO200になります。また、[オートの上限] が [H(25600)] に設定されていても、上限感度の拡張は行われません。

[M] モード：ISO感度手動設定時

- フルHD/HD動画撮影時はISO100～12800の範囲、4K動画撮影時は、ISO100～6400の範囲で手動設定できます。
- フルHD/HD動画撮影時に、[P] カスタム機能 (C.Fn) の [ISO感度拡張] を [1:する] に設定すると、手動設定範囲の上限がH (ISO25600相当) まで拡張されます。なお、4K動画撮影時は、[ISO感度拡張] を [1:する] に設定しても、上限感度の拡張はできません ([H] は表示されません)。
- [P] 高輝度側・階調優先 を [する] に設定したときは (p.144)、手動設定範囲の下限がISO200になります。また、[ISO感度拡張] が [1:する] に設定されていても、上限感度の拡張は行われません。

画像の再生

● 撮影時の記録画質とリサイズできるサイズ

撮影時の記録画質	リサイズできるサイズ		
	M	S1	S2
L	○	○	○
M		○	○
S1			○

● リサイズした画像の画像サイズ

(約・画素)

記録画質	3 : 2	4 : 3
M	3984×2656 (1060万)	3552×2664 (950万)
S1	2976×1984 (590万)	2656×1992 (530万)
S2	2400×1600 (380万)	2112×1600 (340万) *

記録画質	16 : 9	1 : 1
M	3984×2240 (890万) *	2656×2656 (710万)
S1	2976×1680 (500万) *	1984×1984 (390万)
S2	2400×1344 (320万) *	1600×1600 (260万)



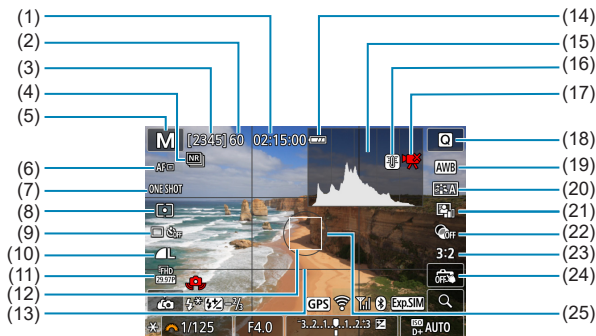
- 「*」印の付いた画像は、正確なアスペクト（縦横）比になりません。
- リサイズ条件により、画像がわずかにトリミングされることがあります。

情報表示

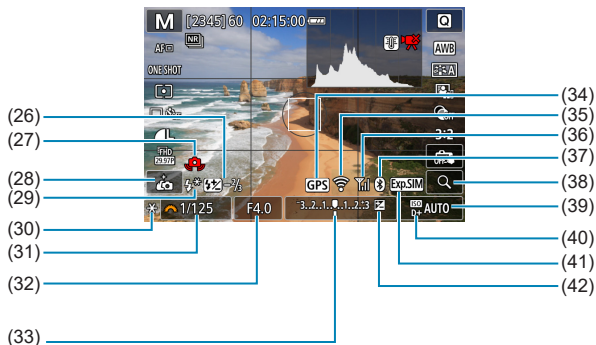
静止画撮影画面

〈INFO〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。

- 設定に応じた部分のみ表示されます。



(1) 動画撮影可能時間	(13) グリッドライン
(2) 連続撮影可能枚数	(14) バッテリー残量
(3) 撮影可能枚数／セルフタイマー撮影秒数	(15) ヒストグラム
(4) マルチショットノイズ低減	(16) 温度上昇警告
(5) 撮影モード／シーン判別アイコン	(17) 動画撮影制限
(6) フォーカス方式	(18) クイック設定
(7) AF動作	(19) ホワイトバランス／ ホワイトバランス補正
(8) 測光モード	(20) ピクチャスタイル
(9) ドライブモード／セルフタイマー	(21) オートライティングオブティマイザ
(10) 記録画質	(22) クリエイティブフィルター
(11) 動画記録サイズ	(23) 静止画アスペクト比
(12) AFフレーム	(24) タッチシャッター
	(25) 測光範囲



(26) ストロボ調光補正／発光量

(27) 手ブレ警告

(28) 自分撮り

(29) ストロボモード／FEロック

(30) AEロック

(31) シャッタースピード

(32) 絞り数値

(33) 露出レベル表示

(34) GPS受信状態

(35) Wi-Fi機能

(36) Wi-Fi電波強度／機内モード

(37) Bluetooth機能

(38) 拡大ボタン

(39) ISO感度

(40) 高輝度側・階調優先

(41) 露出シミュレーション

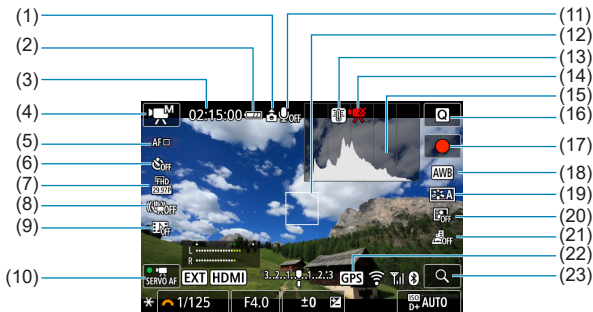
(42) 露出補正

● この他に、設定を変更したときに一時的に表示されるアイコンもあります。

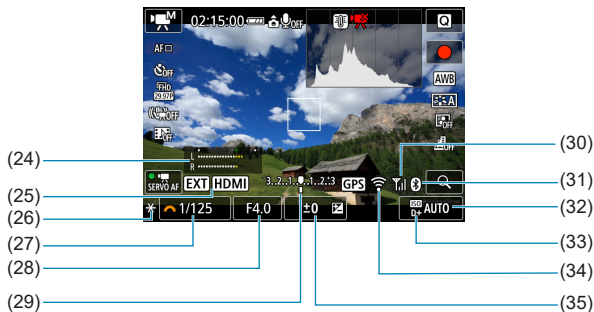
動画撮影画面

〈INFO〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。

- 設定に応じた部分のみ表示されます。



- | | |
|---------------------|------------------------------|
| (1) 動画の回転情報 | (13) 温度上昇警告 |
| (2) バッテリー残量 | (14) 動画撮影制限 |
| (3) 動画撮影可能時間／撮影経過時間 | (15) ヒストグラム（マニュアル露出時） |
| (4) 撮影モード／タイムラプス動画 | (16) クイック設定 |
| (5) フォーカス方式 | (17) 動画撮影開始ボタン |
| (6) 動画セルフタイマー | (18) ホワイトバランス／
ホワイトバランス補正 |
| (7) 動画記録サイズ | (19) ピクチャースタイル |
| (8) 動画電子IS | (20) オートライティングオブティマイザ |
| (9) ビデオスナップ | (21) ジオラマ風動画 |
| (10) 動画サーボAF | (22) GPS受信状態 |
| (11) 録音OFF | (23) 拡大ボタン |
| (12) AFフレーム | |



(24) 録音レベルメーター（マニュアル）

(25) 情報表示なし出力

(26) AEロック

(27) シャッタースピード

(28) 絞り数値

(29) 露出レベル表示

(30) Wi-Fi電波強度／機内モード

(31) Bluetooth機能

(32) ISO感度

(33) 高輝度側・階調優先

(34) Wi-Fi機能

(35) 露出補正

- 動画撮影中にグリッド、ヒストグラムを表示することはできません（表示した状態で動画撮影を開始すると、表示が消えます）。
- 「動画撮影可能時間」は、撮影が始まると「撮影経過時間」に変わります。

- この他に、設定を変更したときに一時的に表示されるアイコンもあります。

シーン判別アイコン一覧

撮影モードが[A+][A+]のときは、カメラがシーンを判別して、シーンに合った全自動撮影が行われます。判別したシーンは、画面の左上に表示されます。

被写体 背景		人物		人物以外の被写体			背景色
			動いて いるとき*1	自然や 屋外シーン	動いて いるとき*1	近いとき*2	
明るい							灰色
	逆光						
青空を含む							水色
	逆光						
夕景		*3				*3	オレンジ色
スポットライト							紺色
暗い							
	三脚使用時*1	*4*5	*3	*4*5	*3		

*1: 動画撮影中は表示されません。

*2: 距離情報を持っているレンズを使用しているときに表示されます。なお、エクステンションチューブやクローズアップレンズ併用時は、実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。

*3: 判別可能なシーンから選ばれたアイコンが、適宜表示されます。

*4: 下記の条件が揃ったときに表示されます。

「撮影シーンが暗いとき」「夜景撮影時」「三脚などでカメラを固定しているとき」

*5: 下記のレンズを使用したときに表示されます。

・ EF300mm F2.8L IS II USM ・ EF400mm F2.8L IS II USM

・ EF500mm F4L IS II USM ・ EF600mm F4L IS II USM

・ 2012年以降に発売された手ブレ補正機能内蔵レンズ

*4+*5: *4と*5の条件がすべて揃ったときは、シャッタースピードが遅くなります。



● シーンや撮影状態によっては、実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。

再生画面

● 静止画の簡易情報表示

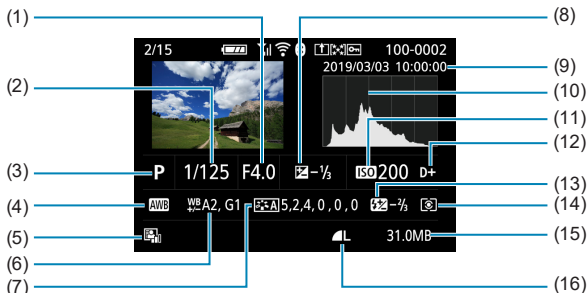


(1)	Wi-Fi機能
(2)	Wi-Fi電波強度／機内モード
(3)	バッテリー残量
(4)	再生番号／総記録画像数／検索結果 画像数
(5)	シャッタースピード
(6)	絞り数値
(7)	露出補正量
(8)	Bluetooth機能

(9)	パソコン／スマートフォンに送付済み
(10)	レーティング
(11)	画像プロテクト
(12)	フォルダ番号－画像番号
(13)	記録画質／画像加工済み／ トリミング
(14)	高輝度側・階調優先
(15)	ISO感度

- 他カメラで撮影した画像は、一部の撮影情報が表示されないことがあります。
- このカメラで撮影した画像は、他カメラで再生できないことがあります。

● 静止画の詳細情報表示



(1) 絞り数値

(2) シャッタースピード

(3) 撮影モード

(4) ホワイトバランス

(5) オートライティング最適化

(6) ホワイトバランス補正量

(7) ピクチャスタイル／設定内容

(8) 露出補正量

(9) 撮影日時

(10) ヒストグラム

(11) ISO感度

(12) 高輝度側・階調優先

(13) ストロボ調光補正量／HDR撮影／
マルチショットノイズ低減

(14) 測光モード

(15) ファイルサイズ

(16) 記録画質／画像加工済み／トリミング

* RAW+JPEGで撮影した画像は、RAW画像のファイルサイズが表示されます。

* RAW、RAW+JPEGの設定で、アスペクト比を設定して撮影した画像は (127)、撮影範囲が線で表示されます。

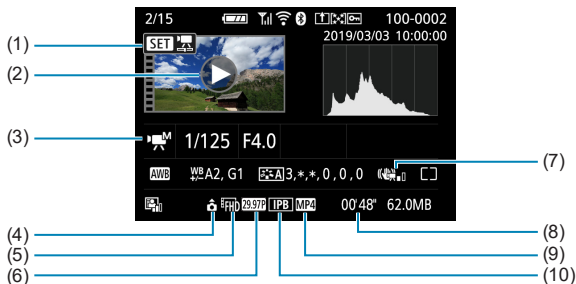
* 調光補正なしでストロボ撮影を行ったときは、[F]が表示されます。

* マルチショットノイズ低減処理が行われた画像は、[N]が表示されます。

* リサイズ、トリミング、クリエイティブアシスト、赤目補正を行って保存した画像は、[C]が表示されます。

* トリミングを行って保存した画像は、[T]が表示されます。

● 動画の詳細情報表示



(1) クイック設定

(2) 動画再生

(3) 撮影モード／タイムラプス動画／ビデオスナップ

(4) 動画の回転情報

(5) 画像サイズ

(6) フレームレート

(7) 動画電子IS

(8) 記録時間

(9) 動画記録形式

(10) 圧縮方式

- 動画再生時、【ピクチャースタイル】の【シャープネス】の【細かさ】【しきい値】は、「*,*」と表示されます。

商標について

- Adobeは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- Microsoft、Windowsは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Macintosh、Mac OSは、米国およびその他の国で登録されているApple Inc.の商標です。
- SDXCロゴは、SD-3C, LLC.の商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。
- DCF*は、（社）電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。
- カメラの設定画面と本書内で使用されている「WPS」は、Wi-Fi Protected Setupを意味しています。
- Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、キヤノン株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。
- その他の社名、商品名などは、各社の商標または登録商標です。

* DCFは、主としてデジタルカメラの画像を関連機器間で簡便に利用しあうことを目的として制定された（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の規格の「Design rule for Camera File System」の略称です。

MPEG-4使用許諾について

"This product is licensed under AT&T patents for the MPEG-4 standard and may be used for encoding MPEG-4 compliant video and/or decoding MPEG-4 compliant video that was encoded only (1) for a personal and non-commercial purpose or (2) by a video provider licensed under the AT&T patents to provide MPEG-4 compliant video. No license is granted or implied for any other use for MPEG-4 standard."

THIS PRODUCT IS LICENSED UNDER THE AVC PATENT PORTFOLIO LICENSE FOR THE PERSONAL USE OF A CONSUMER OR OTHER USES IN WHICH IT DOES NOT RECEIVE REMUNERATION TO (i) ENCODE VIDEO IN COMPLIANCE WITH THE AVC STANDARD ("AVC VIDEO") AND/OR (ii) DECODE AVC VIDEO THAT WAS ENCODED BY A CONSUMER ENGAGED IN A PERSONAL ACTIVITY AND/OR WAS OBTAINED FROM A VIDEO PROVIDER LICENSED TO PROVIDE AVC VIDEO. NO LICENSE IS GRANTED OR SHALL BE IMPLIED FOR ANY OTHER USE. ADDITIONAL INFORMATION MAY BE OBTAINED FROM MPEG LA, L.L.C. SEE [**HTTP://WWW.MPEGLA.COM**](http://www.mpegla.com)

* 規定により英語で表記しています。

アクセサリはキヤノン純正品のご使用をおすすめします

本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリと組み合わせて使用した場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリのご使用をおすすめいたします。

なお、純正品以外のアクセサリの不具合（例えばバッテリーの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。



- バッテリーパック LP-E12は、キヤノン製品専用です。指定外の充電器、および製品と組み合わせて使用した場合の故障、事故に関しては一切保証できません。

修理対応について

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。
2. 本製品の修理対応期間は、製品製造打ち切り後7年間です。なお、弊社の判断により、修理対応として同一機種または同程度の仕様製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことや、対応OSが変更になることがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示の上、十分な梱包でお送りください。

索引

数字

1点AF：172, 177

1枚撮影：135

1枚表示：258

[4K] 3840×2160 (動画)：207

4Kフレームキャプチャー：268

アルファベット

A

Adobe RGB：155

AEロック：191

AF

AF動作：169

AFフレーム選択：177

AF方式：172

AF補助光：171, 186

エリアAFフレーム：88

構図変更：78

コンティニュアスAF：183

手動ピント合わせ：187

電子音：448

瞳AF：182

レンズの電子式手動フォーカス：
185

ALL-I：209

Av (絞り優先AE)：110

〈A+〉(シーンインテリジェントオート)：
74

B

BGM：301

Bluetooth機能：323, 389

アドレス：396

接続：325

BUSY：126

D

DCカプラー：478

DIGITAL端子：476

DPOF：286

E

Err：495

exFAT：212, 436

F

FAT32：212, 436

FEロック：249

Full HD (動画)：207

G

GPS：398

H

[HD] 1280×720 (動画)：207

HDMI：240, 272, 449

HDMI HDR：450

HDMI出力：240

HDR絵画調標準：101

HDR逆光補正：93

HDRグラフィック調：101

HDRピンテージ調：101

HDR油彩調：101

I

ICCプロファイル：155

INFOボタン：61

IPB：209

ISO感度：140, 238

ISOオートの範囲：496

オートの上限：142, 238

感度拡張：461

J

JPEG (ジェイペグ) : 497

M

MF (手動ピント合わせ) : 187

MFピーキング : 189

MP4 : 209

MWB : 152

M (マニュアル露出) : 112

N

NTSC : 209, 445

O

ONE SHOT (ワンショットAF) : 170

P

PAL : 209, 445

P (プログラムAE) : 106

Q

[Q] (クイック設定) : 71

R

RAW+JPEG : 124, 497

RAW (ロウ) : 125

S

SD、SDHC、SDXCカード → カード

SERVO (サーボAF) : 170

sRGB : 155

T

Tv (シャッター優先AE) : 108

U

UHS-I : 11

USB (デジタル) 端子 : 476

UTC : 400

W

WB (ホワイトバランス) : 149

Wi-Fi機能 : 319

Android : 324

Camera Connect : 324, 329

CANON iMAGE GATEWAY : 369

EOS Utility : 351

Image Transfer Utility 2 : 356

iOS : 324

IPアドレス : 387

MACアドレス : 405

PictBridge : 359

SSID : 334, 352, 360

Wi-Fi設定 : 395

WPS (Wi-Fi Protected Setup) : 384

印刷 : 361

印刷設定 : 364

選んで送信 : 339, 376

カード内全画像送信 : 343, 380

画像閲覧 : 329

仮想キーボード : 406

画像検索の条件設定 : 344, 381

カメラアクセスポイントモード : 387

機内モード : 403

公開画像の設定 : 347

再接続 : 392

情報表示画面 : 405

接続先の機器の編集 : 347, 401

接続先履歴 : 392, 395

接続情報の消去 : 402

設定初期化：404

送信画像サイズ：337, 342, 377

注意事項：418

ニックネーム：402

ネットワークの設定：421

ネットワーク変更：385

ネットワーク名：334, 352, 360

パスワード：395

プリンター：359

ペアリング：326

リモート操作：329

かな

あ

赤目緩和：251

アクセスランプ：47, 49

アスペクト比 → 静止画アスペクト比

アッテネーター：216

後幕シンクロ：254

アルバム（ビデオスナップ）：226, 299

安全上のご注意：30

い

位置情報：398

色あい：160

色温度：153

色空間：155

色収差補正：133

色の濃さ：160

印刷

印刷指定：286

フォトブック指定：290

インデックス表示：262

う

ウィンドカット：215

え

エコモード：437

絵文字：9

エラー表示：495

エリアAFフレーム：88

エリア（地域）：440

お

応用撮影モード：105

オートパワーオフ：438

オートフォーカス → AF

オートライティングオブティマイザ：
143

オートリセット：432

お気に入りマーク：305

温度警告：194, 242

音量（動画再生）：264, 265

か

カード：11, 35, 48

書き込み禁止：48

初期化（フォーマット）：435

トラブル：50, 481

物理フォーマット：435

回折補正：133

階調優先：144

回転（画像）：277, 433

回転（動画）：278

顔+追尾優先：172, 175

拡大表示：179, 187, 261

拡張ISO感度：140, 238, 501

拡張子：124, 209

各部名称：36

カスタム機能：459

画像

AFフレーム表示：316

インデックス表示：262

オートリセット	432
拡大表示	261
画像番号	430
強制リセット	432
検索条件	310
再生	255
撮影情報	259, 509
自動回転	433
ジャンプ表示 (画像送り)	312
手動回転	277
消去	279
スライドショー	308
テレビで見る	272
通し番号	431
取り込み (パソコン)	476
ヒストグラム	314
表示時間	129
プロテクト (保護)	274
レーティング	305
画像送り (ジャンプ表示)	312
画像検索	310
画素数	124, 497
傾き補正	303
家庭用電源	478
カメラ	
構え方	58
カメラブレ	115, 138
設定初期化	455
簡易情報表示	508
かんたん撮影モード	73
感度 → ISO感度	

き

機能ガイド	64
強制リセット	432
魚眼風	100, 294
記録画質	124, 497

く

クイック設定	71
クリエイティブアシスト	80, 296
クリエイティブフィルター	293
グリッド	451
クローズアップ	89

け

言語	443
----	-----

こ

高感度撮影時のノイズ低減	165
高輝度側・階調優先	144
故障	479
コントラスト	143, 160
コンビネーションIS	236

さ

サーボAF	
SERVO	170
動画サーボAF	233
再生	255
サイレント	94
先幕シンクロ	254
撮影画角	55
撮影画像の確認時間	129
撮影可能時間 (動画)	500
撮影可能枚数	496
撮影情報表示	451, 503
撮影モード	
Av (絞り優先AE)	110
〈A+〉 (シーンインテリジェントオート)	74
M (マニュアル露出)	112
P (プログラムAE)	106
Tv (シャッター優先AE)	108
クリエイティブフィルター	98

スイッチ：38
スペシャルシーン：82
サマータイム：441

し

シーンインテリジェントオート：74
シーン判別アイコン：79, 507
ジオラマ風：101, 103, 231, 295
自分撮り：84
絞り込み：111
絞り優先AE：110
シャープネス：160
シャッターボタン：59
シャッターボタンの機能：444
シャッター優先AE：108
ジャンプ表示：312
充電：44
周辺光量補正：131
縮小表示：262
手動ピント合わせ：187
消去（画像）：279
初期化（フォーマット）：435
白黒写真：157, 161
シンクロ設定：254

す

水彩風：100, 295
ストラップ：41
ストロボ：246
FEロック：249
赤目緩和：251
撮影できる距離：246
シンクロ（先幕／後幕）：254
ストロボ撮影：246
ストロボ制御（機能設定）：250
スローシンクロ：252
調光補正：254
マニュアル発光：253

スペシャルシーン：82
スポーツ：88
スポット1点AF：172, 177
スポット測光：145
スモール（記録画質）：124
スライドショー：308

せ

静止画アスペクト比：127, 498
セーフティシフト：461
設定初期化：455
カスタム機能：460
ストロボ機能設定：254
マイメニュー：470
無線通信：404
節電：438
セピア調（モノクロ写真）：161
セルフタイマー：137, 214
全押し：59, 444

そ

ゾーンAF：173, 177
測光タイマー：147
測光モード：145
ソフトウェア：474
使用説明書：475
ソフトフォーカス：100, 294

た

タイムラプス動画：217
タッチ音：448
タッチシャッター：167
タッチ操作：70, 260, 446
縦位置画像回転表示：433
縦位置情報の付加：434
ダブルタップ：260

ち

チャージャー：40, 44
 中央部重点平均測光：145
 調色（モノクロ）：161
 調光補正：248, 254
 長時間露光：114
 長秒時露光のノイズ低減：164
 著作権情報：456

て

ディスプレイオフ：438
 デジタル端子：476
 デジタルレンズオプティマイザ：132
 手ブレ：59, 77
 手ブレ補正：190
 手持ち夜景：92
 テレビで見る：272
 電源：52
 オートパワーオフ：438
 家庭用電源：478
 撮影可能枚数：496
 充電：44
 バッテリー残量：53
 電子音：448
 電子ダイヤル：60
 電池 → 電源

と

トイカメラ風：100, 295
 動画：197
 AEロック：201
 HDMI出力：240, 449
 圧縮方式：209
 アッテネーター：216
 ウィンドカット：215
 オートスローシャッター：241
 記録時間：213, 500

グリッド：451
 再生：263
 自動露出撮影：200
 情報表示：505
 前後カット：266
 タイムラプス動画：217
 動画記録サイズ：207
 動画記録できるカード：499
 動画サーボAF：233
 動画電子IS：235
 ビデオスナップ：226
 ファイルサイズ：212, 500
 フレーム切り出し：268
 フレームレート：209
 編集：266, 270
 マニュアル露出撮影：202
 録音／録音レベル：215

通し番号：431
 ドライブモード：135
 ドラッグ：70
 トラブル：479
 トリミング（画像）：302

に

認証マーク：458

の

ノイズ低減
 高感度撮影時：165
 長秒時露光：164
 ノーマル（記録画質）：124

は

バースト枚数：126, 497
 ハイフレームレート：211
 パソコンへの画像取り込み：476
 発光モード：253
 バッテリー（電池） → 電源

バルブ撮影：114

半押し：59, 444

ひ

ピクチャースタイル：156, 159, 162

被写界深度確認：111

ヒストグラム：314, 452

日付／時刻：440

ビデオスナップ：226

ビデオ方式：445

美肌：86

評価測光：145

表示レベル：62

ピント合わせ → AF

ふ

ファームウェア：458

ファイルサイズ：212, 497, 500

ファイン（記録画質）：124

フィルター効果（モノクロ）：161

風景：87

フォーカスモードスイッチ：57

フォーカスロック：78

フォーマット（カード初期化）：435

フォトブック指定：290

フォルダ作成／選択：428

付属品：3

部分測光：145

フレーム切り出し：268

フレームレート：209, 445

プログラムAE：106

プログラムシフト：107

プロテクト（保護）：274

雰囲気優先（AWB）：151

ほ

ポートレート：85

ホワイトバランス：149

色温度指定：153

オート：151

雰囲気優先：151

補正：154

マニュアル：152

ホワイト優先（AWB）：151

ま

マイメニュー：467

マニュアルフォーカス：187

マニュアル露出：112

マルチショットノイズ低減：165

み

ミドル（記録画質）：124

む

無線通信：319

め

メニュー：65

機能設定：426

再生：256

静止画撮影：119

設定操作：66

動画撮影：198

灰色（グレー）表示：69

表示レベル：62

マイメニュー：467

無線通信機能：320

メニュー表示：63

メモリーカード → カード

も

モニター：34, 51

明るさ：439

角度調整：51

モノクロ：157

や

夜景ポートレート：91

ゆ

油彩風：295

よ

要求カード性能：210, 499

ら

ラージ（記録画質）：124

ラフモノクロ：100, 294

り

リサイズ：304

リモートコントローラー：193

料理：90

れ

レーティング：305

レンズ：54, 56

色収差補正：133

回折補正：133

光学補正：130

周辺光量補正：131

デジタルレンズオブティマイザ：
132

フォーカスモードスイッチ：57

ロック解除：55, 57

歪曲収差補正：131

レンズの電子式手動フォーカス：185

連続撮影可能枚数：126, 497

連続撮影（連写）：135

ろ

録音／録音レベル：215

露出シミュレーション：148

露出補正：139

露出補正（M+ISOオート）：113

露出レベル表示：504

わ

歪曲収差補正：131

ワンショットAF：170



本書の記載内容は2019年7月現在のものです。それ以降に発売された製品との組み合わせにつきましては、お客様相談センターにお問い合わせください。なお、最新の使用説明書については、キヤノンのホームページをご覧ください。